enterbrain MOOK

地上波放送決定!『戦極』をシャキーンとド速報!!

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

# kamipro Special



**9.23 DREAM.6**
**9.28 戦 極 -第五陣-**
**徹底詳報**

2008 NOVEMBER
860yen

バカサバイバーよ、"小悪党"を極めろ!
怒り大爆発インタビュー
**青木真也**

オランダの拳豪が
DREAMミドル級GP優勝!!
**ゲガール・ムサシ**

涙の復帰後初勝利!
明日また生きるぞ!!
**船木誠勝**

今年の大晦日はどうなるの?
"60億分の1"を直撃取材!!
**エメリヤーエンコ・ヒョードル**

これぞ"黒"の駆け引きか!?
吉田秀彦戦熱望の真意はなんだ?
**秋山成勲**

"お茶濁し"の魔王に告ぐ!
**何がやりたいんだ、コラッ!!**

米国ストライクフォースで激勝!!
『戦極』、魔王、大晦日を語った!
**三崎和雄**

強くて、気持ち悪くて、おもしろい!!
本誌認定"ミスター戦極"がやってきた!
**北岡悟**

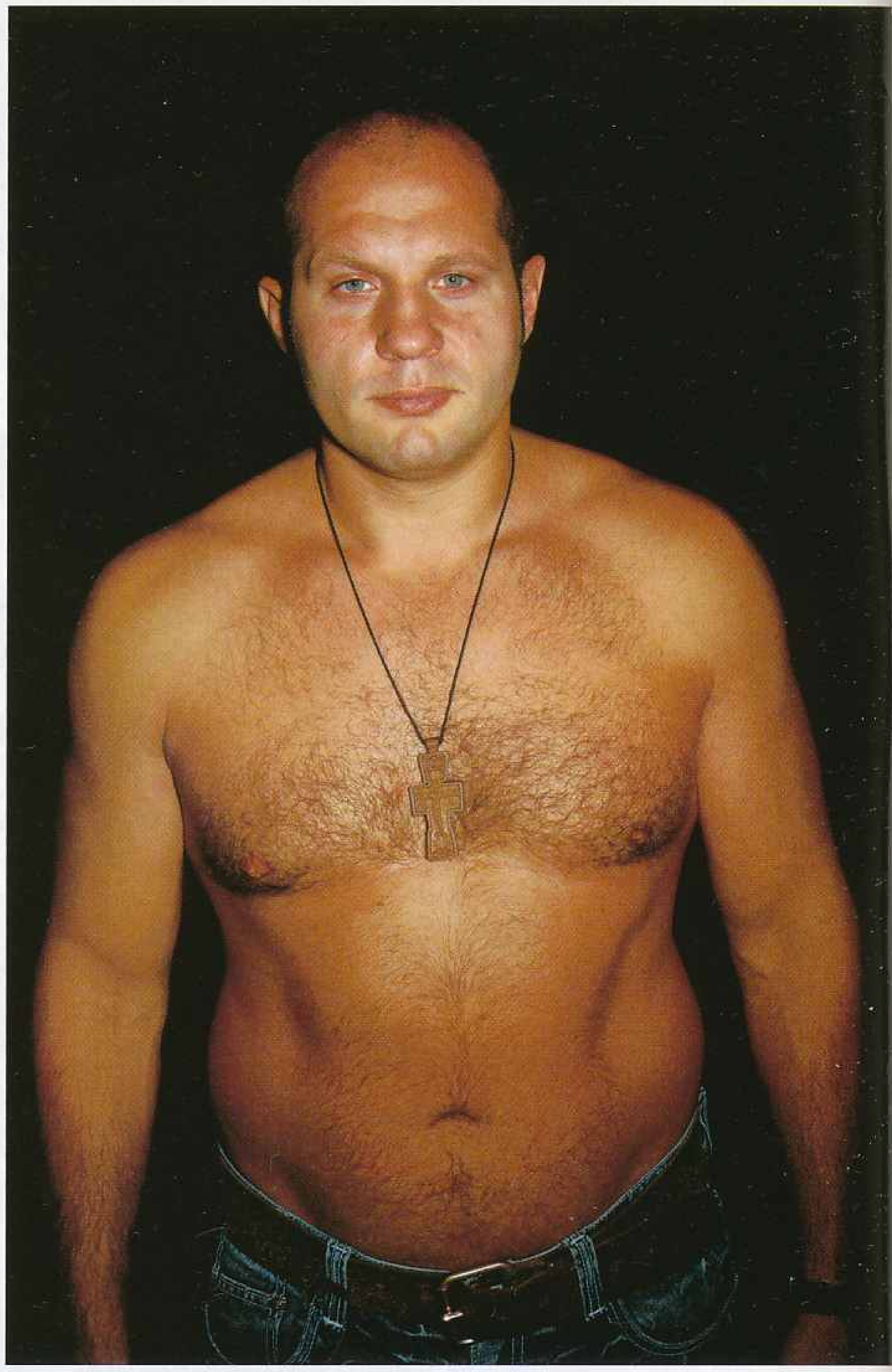
リングス・ロシアよ、永遠なれ――
**追悼パコージンさん**

kamipro 2008 NOVEMBER 何がやりたいんだ、コラッ!!


rvddw / JIU-JITSU / KIMONOS / JAPAN / rvddw
www.rvddw.com
reversal.dogi.design.works
rvddw
reversal
reversal.dogi.design.works
JIU-JITSU / KIMONOS / JAPAN
RVDDW FINEST
REVERSAL KIMONOS
FLASH VALE RVS rvddw
reversal96
rvddw
reversal
reversal.dogi.design.works
FLASH SUPERSONIC
DOPE
TECHNIQUES
rvddw
FLASH VALE RVS
Sound of Wrestring?
Future Equipment Series
rvddw
reversal
reversal.dogi.design.works
rvddw
SWEAT!
STRIKE, POUND, SUBMISSION, and rvddw

CONTENTS

# 夢の顔合わせは土壇場で消滅!!
# 石井慧さん、いずれまた!




MMA

004 正月決戦に向けてシャキーンと爆発!
**9.29『戦極～第五陣～』ド速報**

008 吉田秀彦戦アピールの裏側とは?
**秋山成勲"黒い駆け引き"**

010 バカサバイバー、"魔王退治"に狼煙!
**青木真也**

014 "魔王"と"バカ"、二人のニュータイプを斬る!
**菊地成孔**

018 若き拳豪、ミドル級GP衝撃の優勝!
**ゲガール・ムサシ**

020 皇帝、大晦日に向け(?)電撃来日!
**エメリヤーエンコ・ヒョードル**

022 復帰3戦目にして、涙の復活勝利!!
**船木誠勝**

026 覇王はどうなってしまうのか?
**ミルコ・クロコップ**

028 視聴率、秋山、大晦日問題をどうする!?
**谷川貞治**

049 秋山成勲戦で"死んだ"男のその後――
**柴田勝頼**

054 都内最大級の"KIDジム"に潜入!
**日本にもメガジムがあった!**

065 和術慧舟會とDEEPの不仲説はガチ!?
**特集 久保豊喜 GCM代表**
**vs 佐伯繁 DEEP代表**

074 "危機説"を覆す新しい兆しあり!
**新生パンクラスとは何か?**

082 9.20ストライクフォースで"ヒットマン"快勝!
**三崎和雄**

088 盟友が追いかけた石田光洋とアメリカ
**川尻達也のアメリカ筋肉日記**

090 『戦極』に"クレイジー・キング"が現われた!
**キング・モー**

094 『戦極』ライト級GP勝ち組4人はマイクが熱い!
**衝撃の「S4」劇場!**

096 "マイクの鬼"が『戦極』劇場を斬る!
**郷野聡寛**

098 『戦極』で覚醒したキモ強男!
**北岡 悟**

102 エンターテインメントでドキュメントな地上波放送決定!
**『戦極G』とは何か?**

RUSSIA

033 ロシアン・トップチーム総監督 追悼特集
**さようならパコージンさん**
和田良覚/リングス・ジャパン勢/山口日昇/松林 貴

PRO-WRESTLING

059 ホントに栃木にいけんのか!?
**10.26『ハッスル』栃木大会に大問題発生!**

062 いますぐ地方ファンの開拓に走れ!
**ハッスルよ、ど巡業へ回帰せよ!!**

104 『You Tube』から飛び出した呪いなき路上ファイター
**ケニー・オメガ**


108 新日本が"盟主復活"なんて信じられん!
**新日本プロレス通信・出張版**

Presents

111 kamipro Special PRESENTS



MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE
kamipro Special
表紙写真/乾 晋也
2008 NOVEMBER



大晦日＆正月に向かって動き出すマット界！

# 年末年始決戦で何がやりたいんだ!?

『kamipro』読者の皆さん、こんにちは。この『kamipro Special』は、特集主義に生まれ変わった本誌とは違って、試合速報が中心のいわゆる増刊号ってヤツです。

というわけで……、

なぁ～にが、やりたいんだコラ！

年末年始を使ってコラ!!

――と、長州力調で墓にクソをぶっかける勢いで、最近のマット界は年末年始決戦に向かって走り出している。ハリトーノフだぁ？　吐いた言葉飲み込むなよ、タココラァ！

大晦日にK—1とDREAMの2部構成形式で行なわれる予定の『Dynamite!!』。

お正月の1月4日にニューイヤーイベントを開催することをついにあきらかにした『戦極』。

そして〝イッテンヨン〟といえば、新日本プロレスの東京ドーム大会が恒例だ。また、昨年に続いて『ハッスル』の大晦日地上波放送も内定していると言われ、大会自体は12月30日に都内の大会場で開催されるという。海の向こうのUFCのイヤーエンドイベントを含めれば、都合5つものビッグイベントがマット界を賑わせることになる。

ところで最近の日本MMAシーンは、『DREAM・6』開催前まで業界再編の動きがかなり現実味を帯びてくるような雰囲気すらあった。

しかし、秋山成勲の〝フライング〟によって生じた各方面の反応が、マット界の現状をとてもつまらなくいたずらに表面化するだけの結果になってしまった。要するに、いまのところ「できること」と「できないこと」が、よりによってこんな早い時期からハッキリしてしまったというわけだ。

「どうせ水面下ではいろいろと画策してるんでしょ？」なんて、いぶしかげに眺める人もいるはずだが、吉田秀彦vs秋山成勲をめぐる各々の発言を〝プロレス頭〟を振り絞ってひも解いていけば、そこには――やっぱりいまのところだが――なんの企みがないことがわかる。

いったいこの秋山の発言騒動でマット界は何がやりたかったのか？　吉田vs秋山が観たいか、観たくないかはともかくとして、ファンが夢と幻想を持つ展開が拡げられた気はするが……。

単なる夢なら見たくはない、ただ期待を持たせるだけの幻想なんてはなから願い下げだという人もいるに違いない。しかし、これまで大晦日決戦は、そんな夢であり途方もない幻想があるからこそ大きな渦が発生してきたところがある。

それは「打倒・紅白」という看板であり、大晦日のテレビ事情を一新するエネルギーだった。そして視聴率戦争がそれぞれの魅力を引き立て、PRIDEは〝不滅〟を宣言した大会が最後の大晦日となった。「やれんのか！」のかけ声のもと一時だけマット界は大同団結をはたしたりもした。

きたる年末年始決戦で――マット界はいったい何と闘うのか。

「打倒・紅白」や「対世間」の言葉を吐くことは簡単にできるが、新鮮味に欠けるテーマでもあるため、そこに重さを加えること大変な作業だ。なんとなくの興行戦争という装いもつくろえるが、かつてのPRIDE vs K—1のようなヒリヒリ感を作ることは並大抵のことじゃない。目下のところマット界には拳を振り下ろす相手がいない。そう、立ち向かうべき「仮想敵」が見当たらなくないか。いったい何と闘っているのか。『DREAM・6』に感じてしまったチグハグ感は、その表われだったように思える。

逆に手を取り合うことも歓迎すべきことだが、少なくともあの『やれんのか！』を超えることはできんのか？という話になってしまう。

これから――、年末年始に向けて各団体のアプローチは激しくなっていく。実感を持ってそれぞれの闘う先があきらかになったときに、年末年始決戦の意義が初めて生まれるはずだし、あのとき感じた熱気を取り戻すきっかけになるのだろう。

マット界よ、おまえはなぁ～にと闘うんだ、コラ!?

# ャーイベント開催!
# ラー番組スタート!



## ら何が飛び出すのか
# 末年始を占う

構成／阿修羅チョロ　撮影／乾晋也

9.28
『戦極～第五陣～』
速報

# 1・4ニューイヤー
# 地上波レギュラー

戦極の門から何か

# 戦極の年末



# 1・4ニューイヤーイベントの目玉は北京五輪メダリスト？ それとも!?

**1・4さいたまスーパーアリーナでニューイヤーイベントの開催、さらには10月から地上波レギュラー番組スタートと、ここにきて一気に話題を振りまいているのが『戦極』だ。リング上に目を向ければライト級&ミドル級GPの4強が出揃い、こちらも注目度は上昇中。11・1『戦極～第六陣～』、そして1・4ニューイヤーイベントと、年をまたいで、さいたまスーパーアリーナでビッグマッチ二連戦を行なう『戦極』の年末年始を占う。いざ!?**

9月28日、『戦極』が旗揚げ戦以来となる代々木競技場第一体育館で『第五陣』興行を開催。大会前の9月16日には都内ホテルにてテレビ東京での『戦極』レギュラー番組の放送決定会見を行なった。

それから数日後にはライバル団体となるDREAMが『DREAM・6』をさいたまスーパーアリーナで開催。この大会で、柔道時代の先輩にして、現在は『戦極』を主戦場とする吉田秀彦に突如対戦表明を行なったのが〝魔王〟秋山成勲だった。

「闘えるなら場所はどこでもかまわない」と、翌日会見では『戦極』参戦の可能性も匂わせ、あらためて吉田戦実現に向けアピールした秋山は、DREAM皆勤賞の〝大黒柱〟青木真也をはじめ、多方面から反感を買ってしまう結果に。当然『戦極』サイドの対応にも注目が集まった。

当の吉田本人は一部スポーツ紙で秋山発言に関するコメントを求められると「他団体だから、無理じゃん」と、言葉少なながらも、もっともなリアクション。やはり、柔道時代の後輩で、しかも階級も下の選手と闘うというのは、吉田からすればリスクはあってもメリットはほとんどないわけで、乗り気ではないのも当然の話。

この秋山発言に対し、『戦極』広報の國保尊弘氏は、吉田には対戦オファーが多数あり、その中から実績や知名度などを含め、対戦するにふさわしい選手を選んでいる状態との事情を示したうえで、「秋山選手は昨年大晦日の三崎（和雄）戦はノーコンテストにはなったものの、負けに等しい試合をしている。仮にいま秋山選手がやるのであれば、三崎（和雄）選手（vs吉田）が先なのかなと思います」とコメントし、「たとえばですけど、業界の発展につながり、しかるべき相手や条件を提示していただけるなら吉田が大晦日興行に出る可能性はあると思います。ただし、秋山戦はないでしょう」とキッパリ。

これらを総合して考えると、大晦日興行や1・4のニューイヤーイベントで吉田vs秋山戦が行なわれる可能性は限りなくゼロに近いと言っていいだろう。

秋山問題と同時期には、今回の『第五陣』でトラビス・ビューと対戦予定だったホジャー・グレイシーがケガなどを理由に来日をキャンセルするという問題もボッ発。

さらに、これまで『戦極』でメインイベントを務めてきた吉田や五味隆典、ジョシュ・バーネットといったスター選手が誰一人参戦しないということもあり、大会前の盛り上がりや集客面では若干、不安視されていた今回の代々木大会。しかし、この日開幕のミドル級GPは、『戦極』初の日本人対決が実現。佐々木有生が近藤有己をチョークで絞め落とせば、バハドゥルザダはサイボーグの腕を脱臼させてしまうなど衝撃シーンが続出する波乱の展開に。

ミドル級GP以外でも、ホジャーの代わりに初参戦となったキング・モーの予想を遥かに上回る活躍や、こちらも予想外ともいえる接戦となったメインのシャンジ・ヒベイロと杉浦貴の柔術vsプロレス対決など、厚みも感じられた今大会。終わってみれば、これまでの『戦極』の中でも、かなりの熱が感じられた大会だった。

この日が開幕となった戦極ミドル級GPでは、チームメイトのセコンドというかたちで『DREAM・6』に参戦したホナウド・ジャカレイやアリスター・オーフレイム、さらにはJZカルバンやジェイソン・〝メイヘム〟・ミラーなど豪華なセコンド陣も多数来場。10・11アフリクションの大会延期により試合が流れたジョシュ・バーネットも姿を見せ『第六陣』への参戦をアピールすると、「お正月にセンゴクが観たいか!?」と、かねてから噂されていた1・4ニューイヤーイベント開催のアナウンス役を買って出て、最後はひさびさに戦極ポーズを披露。

ジョシュと同様、年内にもう一試合こなしたいという希望もあり『第六陣』への参戦をアピールしていた五味は、この日会場に姿を見せたものの具体的なリアクションはなし。『第六陣』では、すでにライト&ミドル級GPの準決勝&決勝、さらには両階級のリザーブマッチを含め8試合が決まっているため、ジョシュ、五味の揃い踏みの可能性は低いだろうというのが関係者の見方だ。

ニューイヤーイベントで予定されているのは、いまのところ、五味とライト級GP優勝者、三崎とミドル級GP優勝者によるタイトルマッチの2試合だけだが、どちらの階級も『第六陣』から年をまたいで線でつながるかたちとなり、誰が勝ち上がってきたとしても、大きな盛り上がりを見せるのは間違いない。

また、國保広報はニューイヤーイベントには「北京オリンピックのメダリストをマストで呼びたい」と大会後の会見で語っていたが、柔道界とレスリング界との深いパイプを持つ『戦極』だけに、シャキーンと正月気分を吹っ飛ばすような大物メダリストの参戦に期待したいところだ。

また、杉浦相手にMMAデビュー戦を行なった柔術世界王者のシャンジ・ヒベイロはスタミナに難を見せながらも最後は打撃で杉浦を流血させKO勝利。試合後、シャンジは柔道金メダリスト吉田とMMAルールでの道衣マッチを提案したのも気になるところ。

吉田の次戦は1・4ニューイヤーイベントとなる可能性が高いが、はたしてその相手はシャンジとなるのか？ それとも北京五輪のメダリストか？ ひょっとして、『第五陣』で一躍脚光を浴びたキング・モーとの〝柔道王〟vs〝王様〟対決なんて可能性……はないか？

とにかく、年末年始も『戦極』の動向には目を光らせておいたおいたほうがよさそうです。シャキーン！





○キング・モーvsトラビス・ビュー×

(1R 2分11秒　KO)

ホジャーの代役は、チーム・クエスト所属にして、全米アマレス王者のモー。赤マントに王冠、4人の“モーガールズ”を連れ入場。モーは伸びのあるパンチ一閃! タックルからパウンド連打でデビュー戦を勝利で飾るとセコンドのメイヘムらと喜び大爆発!

○ シャンジ・ヒベイロvs杉浦貴×

(3R 4分18秒　KO)

メインイベントは柔術世界王者シャンジとノアの杉浦を相手にMMAデビュー戦を行なった。高山、ジョシュ、滑川をセコンドにつけた杉浦が善戦し、あわやという場面を作り出したものの、最後はシャンジの打撃で流血KO負けを喫した。もう一丁はあるのか？




# 9.28『戦極～第五陣～』

**東京・国立代々木競技場第一体育館**





［ミドル級グランプリシリーズ2008 1回戦］

○佐々木有生vs近藤有己×

(2R 1分18秒　チョークスリーパー)

有己と有生が激突。試合は2R、佐々木のチョーク狙いがスルリと極まり、脱出不能の近藤が無念のタップ。GRABAKA勢が一気にリングイン、「首を狙われる」三崎まで感涙する完勝劇。

［ミドル級グランプリシリーズ2008 1回戦］

○中村和裕vsポール・カフーン×

(3R終了　判定3-0)

「嫁に子どもができた」カズは、ミドル級に落とし日本で1年10ヵ月ぶりの試合。前に出続けるタフなカフーンに苦戦しつつ、的確な打撃でポイントを稼ぎ、判定勝利をゲット。






［ミドル級グランプリシリーズ2008 1回戦］

○シアー・バハドゥルザダvsエヴァンゲリスタ・サイボーグ ×

(1R 0分22秒　レフェリーストップ)

開始早々、バハドゥルザダがブン投げると、手をつき損ねて腕を異様な角度に曲げたサイボーグが腕を脱臼! 恐怖のリプレイ映像にファンの悲鳴も上がった『戦極』最短試合。

［ミドル級グランプリシリーズ2008 1回戦］

○ジョルジ・サンチアゴvsローガン・クラーク×

(2R 3分35秒　肩固め)

J.Z.カルバンをセコンドに帯同したアメリカン・トップチームのサンチアゴはヒゲモジャ戦士・クラークを寝技で翻弄! 2Rには肩固めで捕獲し、優勝候補本命の実力を証明した。



## ちなければいいんだ

# .6"黒の駆け引き"

## FA宣言

9・23『DREAM・6』は豪華絢爛、人気選手が勢揃いした大会だった。ミドル級GPに加え青木真也、秋山成勲、桜井"マッハ"速人、さらには所英男、船木誠勝vsミノワマン……。しかし裏を返せば苦肉の策、話題性重視の"とっ散らかった"大会だったということでもある。

本来なら、GPが中心であるべきだった。実際、ライト級GPには、新しい大会で新しい序列が生み出されるシビアな闘いというしっかりした幹があった。その上で青木の"大黒柱"としての成長、宇野薫vs石田光洋&川尻達也の因縁、エディ・アルバレスvsヨアキム・ハンセンの珠玉の名勝負といったさまざまなドラマが生まれていったのだ。

しかし桜庭和志が敗れ、田村潔司がリタイアし、そもそも秋山がエントリーさえしていないミドル級GPに、求心力は生まれなかった(ファイナルの3試合はいずれも素晴らしい内容だったのだが)。

人気選手が次々と登場し、それぞれが連鎖しないまま進んでいく。そういう意味では、今大会には『HERO'S』の匂いも感じられた。その中で多くの試合に共通するテーマを見つけ出すとするなら"大晦日への道"だろう。勝って大晦日参戦を表明、あるいは対戦相手を指名して期待感につなげる。それが今大会のキーポイントだった。

だが、ここでの結果次第で実現も不可能ではなかったはずの所vs山本"KID"徳郁、エメリヤーエンコ・ヒョードルvsミルコ・クロコップというビッグカードは頓挫してしまった。

逆にリング上から叫ばれたのは秋山vs吉田秀彦、青木vs秋山という誰一人として想像できなかった対戦要求だ。

まず青木による秋山戦のアピールだが、これは実際に対戦したいというよりも、秋山にひとこと言ってやりたいという気持ちの表われだろう。「何様だよ、殿様かよ!」という名ゼリフの表現を変え、ファンの前であらためて言ったのだ。誰も言わないなら俺が言ってやる。それが青木の"大黒柱"としての、DREAMの背負い方だということだ。

そして秋山vs吉田。秋山の発言からすぐに推測されるのは、DREAMと『戦極』のシェイクハンドだ。何かしらの土台があって、その上で秋山が発言している。でなければ、こんな発言をするはずがない。そう考えるのがマット界の常識である。

だが、この一戦に関して、笹原圭一イベントプロデューサーは前向きなコメントを残していない。「カードを決めるのはファンの声」、「秋山選手絡みでどんな試合が観たいのかアンケートを取ってみたい」と語るにとどまっている。水面下での交渉があるなら、「選手のやりたいことを最優先するのが主催者の役目」くらいは言いそうなものだが。

では『戦極』と秋山とのあいだで移籍の"密約"でもあるのかといえば、それも見えてこない。『戦極』の國保尊弘広報は「やるのであれば三崎選手のほうが先」とコメント。しかしその翌日には「吉田選手の相手として、三崎選手のほうが先、という意味」と発言の内容を修正している。"吉田戦



# オレだけが気持ちよ

# 9.23 DREAM.6

へ向けて三崎vs秋山のリマッチ実現へ〟という流れすらシャットアウトしたいということだろう。

秋山の発言が〝フライング〟だったとして、そこにはどんな意味があるのだろうか。おそらく、これは秋山の〝FA宣言〟のようなものではないか。自分はDREAM所属選手などではない。誰と、どこで闘うのかイニシアチブを握っているのはプロモーターではなく自分自身なのだという意思の表明。つまり今後に向けての、一種の〝黒の駆け引き〟に思えてならないのである。

言うまでもなく、現在の日本総合格闘技界は建て直しの真っ最中だ。PRIDEなきあと、スタッフも選手も自らのリングの地熱を上げるために必死になっている（DREAMにおけるその象徴が青木だ）。そういう時期に〝主導権我にあり〟を声高に叫び、「（吉田と）闘う場所はどこでもかまわない」と秋山は言ってのけた。求められることを無視し、やりたいことばかりを優先させる、このナチュラルなタチの悪さ！　その背景にあるのは、やはりテレビ中継における2試合連続での瞬間最高視聴率獲得だろう。

おそらく秋山は〝DREAMのために何ができるか〟など毛頭考えていない。あるのは自分自身がどうするかのみであって、その舞台はまさに「どこでもかまわない」のだ。その半生を振り返ると、秋山はどこにいようと〝異端〟だった。日本でも韓国でも、柔道界でもプロの世界でも。

かつてどこにも帰属しなかった秋山は、それゆえDREAMへの帰属意識もない。当然ながら、『戦極』に帰属しようなどという気もサラサラないだろう。

秋山はひんぱんに「ブレない」という言葉を使う。誰が相手でも、ブーイングを飛ばされようとも「ブレない」自分を大事にしたい、と。この発言を〝業界をいたずらに混乱させようとも、自分がブレなければいい〟と読み替えるのも不可能ではないはずだ。そして「ブレない」ための軸足を置く強固な足場もある。韓国だ。

韓国における秋山の人気はとどまるところを知らない。格闘技はもちろんそこから派生するビジネスも、ベースは日本ではなく韓国。その傾向は今後ますます強まっていくと思われる。すなわち韓国での絶対的人気という「ブレない」後ろ盾さえあれば、闘う場所などどこでもかまわないのだ。日本では掟破りの発言も、韓国では〝夢の追求〟と受け止められるはず。韓国のファンは吉田戦実現を後押ししてくれるだろうし、それが行なわれるのがDREAMであろうと『戦極』であろうと気にしないだろう。

今後、秋山はどこへ向かうのか。どのリングで闘うのか。

それを決めるのは時代の要請や業界の流れとはまったく無関係に屹立する秋山自身である。秋山が大晦日にさいたまスーパーアリーナのリングにいてもおかしくはないが、1月4日に『戦極』で闘っていても不思議ではない。あるいは、そのどちらでもない大会でも。秋山に必要なのは、それこそマイケル・ジャクソン級に肥大化したエゴを満たすための舞台なのだ。

とてつもない緊張感が支配していた一夜明け会見だった。こんなに殺伐とした会見はひさしぶりだ。対戦相手や目下のライバル相手に火花を散らす光景はままあるし、乱闘に発展したときだってあった。しかし、階級も違えば、おそらく拳を交えるはずのない二人が〝言葉のビーンボール〟を応酬し、その模様はいくつかのニュースで扱われたが、とても紙面からでは伝わりきれない殺気が現場には流れていたのだ。

あらためて簡単に話を整理してみよう。『DREAM・6』のリング上に続いて、一夜明け会見でも青木真也が秋山に対して対戦要求を突きつけると、秋山成勲は無愛想に興味がないと拒否をする。それを受けた青木真也は嫌味タップリに「ボクは真剣に格闘技をやり続ける」と切り返す。そうですか、おまえは格闘技はやってないんだよ、と——。そして秋山成勲が『戦極』への登場も厭わないという発言にも即座に噛みついた。試合直後には「ボクをリスペクトしてくれるのはありがたいですが……」などと青木に能天気なコメントを寄せていた魔王も、ここまで挑発されればさすがに表情を曇らせた。

会見中は不在だったジャニー谷川さんも「なんか青木くんと秋山くんがいろいろやり合ったんだって?」と野次馬的に顔をのぞかせる。なんて素敵な主催者なんだ!

繰り返すが二人がリング上で対峙する可能性は限りなく低い。一番の理由は、秋山サイドになんのメリットもないし、テレビ的にもそんなニーズはないだろう。こうした決着が見えない〝番外戦〟は爽快さ

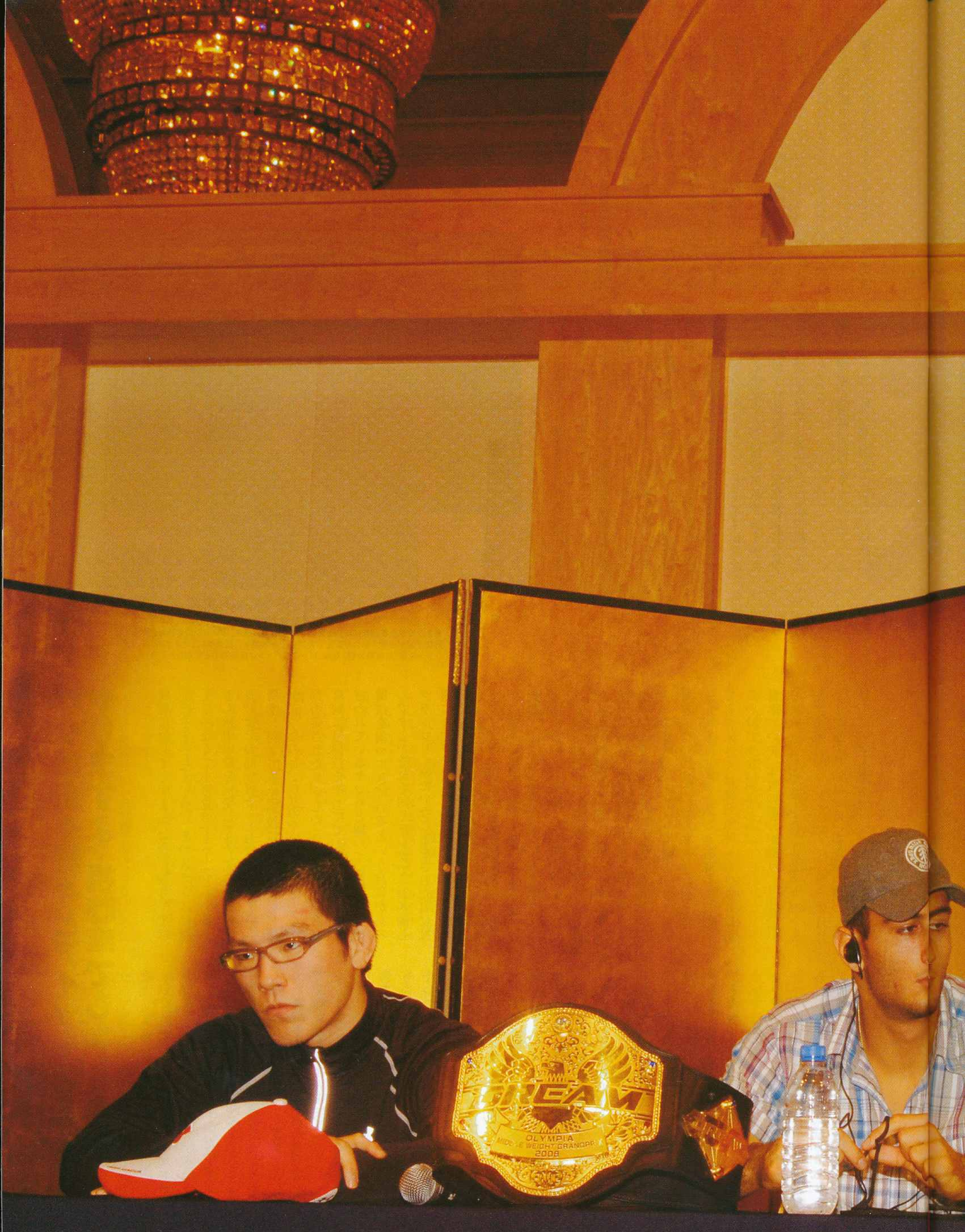
# 青木真也

## 「ボクが秋山成勲と闘わないとDREAMという舞台が誤解される」

本来ならば予定されてなかった青木真也の9.23『DREAM.6』参戦。
「UFC2ヵ月前、DREAM2週間前のオファー!」という名言を残して出場したワオキさんだが、
ここまで半年間で5試合とハイペースだし、ヨアキム・ハンセンで受けたダメージもまだ残っているはず。
出場すること自体がありえないのに、試合のマイクアピールもありえない!!
魔王をさんざんに挑発する青木真也の真意とは何か——?

聞き手/ジャン斉藤　撮影/菊池茂夫　試合写真/乾晋也




DREAM
OLYMPIA
MIDDLE WEIGHT GRANDPRIX
2008

# 青木真也

**を伴なわないものだが、この胸騒ぎはなんだろうか。**
**いわゆるプロファイターという存在は、あらゆる角度からその値打ちを測られるものだ。対戦相手と勝負する。お客さんと勝負する。視聴率と勝負する。主催者と勝負する。見えないライバルと勝負する——。『DREAM・1』からそういった評価の俎上に上げ続けられていたのは青木真也だった。競技者から表現者として脱皮しようとしてモガいている青木が、すでに黒の表現者として一流であり、やりたい放題の秋山に挑むという構図。表現者同士のぶつかり合いがおもしろくないわけがないのだ。**

——青木さん、昨日はおつかれさまでした。

**青木** そんなに疲れてないです!!

——そうですか（笑）。見事な秒殺勝利でしたけど、相手のトッド・ムーアにはどんな印象がありました？

**青木** 正直、そんなに弱くなかったですよ。それより負けられないプレッシャーがありましたね。あそこまで煽りVでも煽られて、お客さんから声援をもらっているのに負けたら、出オチになっちゃいますから（笑）。絶対に勝たないといけないって思いました。

——最後はフェイスロックですか？（公式発表は裸締め）。

**青木** いや、ネックロックです。首の関節です。裸締めとも違うし、フェイスロックとも違う。

——へえ〜。あれって最初から狙っていたんですか？

**青木** はい。最初からもう首を極めてやろうと思ったんですよ。イメージは桜庭（和志）さんがアンドリュース・ナカハラ戦でやった技です。あのとき最後に首を取ったじゃないですか。

——なるほど！ 今回のコスチュームや試合のテーマは桜庭さんを意識したものでしたが、まさかフィニッシュまで狙っていたなんて。

**青木** だけど腹立ったなあ！

——クックックッ。腹が立ったのは秋山



[08.9.23 DREAM.6]
埼玉・さいたまスーパーアリーナ
**○ 青木真也vsトッド・ムーア×**
（1R 1分10秒　裸締め）
まさかの緊急参戦をはたした青木。試合間隔の短さ、ダメージの蓄積などから調整不足が心配されたが安定した寝技で一本勝ち。試合後に「マイケル・ジャクソン先輩」に対戦表明。なお、ロングスパッツは桜庭和志を意識したもの。

## ボクは正々堂々とアイツを超えてやりますよ。視聴率でもなんでも

成勲に対してですよね（笑）。煽りVでは「お茶を濁している」「あのスタンスは魔王じゃなくて小悪党ですよ！」とか、さんざん秋山成勲を挑発してましたけど、地上波ではその部分はカットだったらしくて。

**青木** 何よりも格闘技に対する姿勢に腹が立ったのと、自分のやっていることを全部否定された気がしたんですよ。自分は真剣に格闘技をやってて、世界のトップと言われているヤツらと闘って、新時代の格闘技を創ってきているという自負があるんですよ。それを同じリングで〝お茶濁しグランプリ〟みたいなことをされた日には頭にきて。しかもさっきの一夜明け会見のときには……。

——「吉田先輩と闘えるのならどこのリングでもいい」発言が飛び出しましたね。

**青木** 「オマエに責任感とかないのか⁉」と。あのねえ、正直な話、試合をしたらボクが殺されるかもしれないですよ。けど、そんなの関係ないです。ホンットに腹が立った！ ひさしぶりに腹が立った!!

——いままで選手に対してそんなに腹が立ったことはあったんですか？

**青木** ないっすよ。ファイターに対して。

——でも、JZカルバンや五味さんに対しても青木さんは挑発気味に言うときはあるわけじゃないですか。

**青木** いや、本質の部分が違う。五味隆典、リスペクトしてるもん。JZカルバンも好きだもん。

——でも、秋山は一応、視聴率を獲ってるわけじゃないですか。まあ、最高13パーセントで視聴率王というのも、マット界にとっては情けない話ですけど。

**青木** それがくやしい！ だけどボクは正々堂々とアイツを超えてやりますよ。視聴率でもなんでも、時間はかかるかもしんないけど。自分、さっき笹原さんにも言ったんですよ。「なんであんな発言を許してんのかわからない！」って。

——けど、そういった選手もイベントには必要だって意識はあります？

**青木** ありますよ。いや、芸能人がやるのもいい思いますよ、極端な話。でも、彼のやってることはファッションにしか見えないんですよ。「最強を目指して……」（魔王ボイスで）とか言うだけで、実際には挑んでないじゃないですか。

——出た、魔王モノマネ（笑）。

**青木** マイティ・モーが欠場したら、前々日会見で「一日2試合でハリトーノフと闘ってもいい」（再び魔王ボイスで）とか言うじゃないですか。じゃあ、本当にやってくださいって。

——そういった選手にテレビ的には頼らなきゃならない現状はありますね。

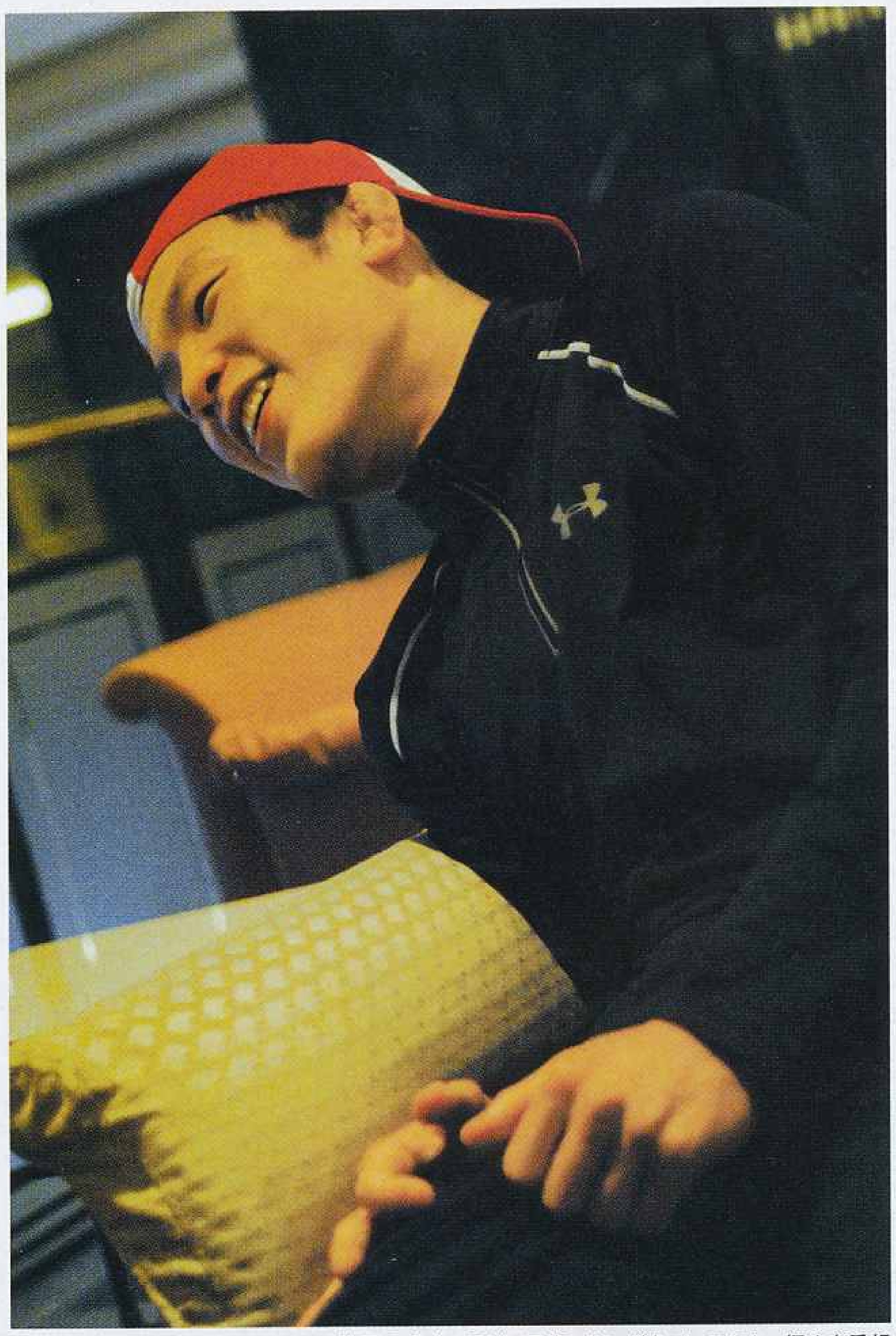
**青木** くやしいっすよ。正直、スゲエくやしいっすよ。ホンットにくやしいっすよ。泣きたいぐらいっすよ。ボクが言ったことありますか、「『戦極』に行きたい」とか。ないでしょ。「UFCに行きたい」とかも言ってないでしょ。世界最強の舞台だから、いつか挑戦したい気持ちはありますよ。彼が「最強のアンデウソン・シウバといつかやりたい」っていうのはわかるんで

# 青木真也

すよ。でも全然違うもん。
――秋山は先輩の吉田秀彦に対戦要求してますね。
**青木**　だったら、後輩のボクの挑戦も受けてくださいよ!!　だから彼がボクの対戦表明に対して「興味がない」って言ったときに「ボクは格闘技を精一杯やりたい」って返したんですよ。裏を返すと、「あなたは格闘技を真剣にやってますか?」ってことです。
――なるほど。実際に闘ったらどういう展開になると思いますか。
**青木**　それはわかんないけど。正直、死ぬかもしんないし、やられるかもしんないけど、青木真也っていうファイターの力はすべて出せると思いますよ。
――格闘家・秋山成勲はどう評価していますか?
**青木**　強いと思いますよ。三崎さんともあれだけの試合をするし、やっぱり凄いと思う。でも凄いと思うけど、やっぱりそんなの関係なくて、オレが〝DREAMの大黒柱〟を自称するなら、勝とうが負けようが彼とやってやんなきゃいけねえなって気はしますよ。そうしないとDREAMという舞台が、どんどんどんどんファンから誤解されてしまう気がします。
――つまり、特定の選手が主催者から必要以上に守られる舞台なんだって。
**青木**　DREAMの舞台で他の団体の選手の名前を出して、ほかの舞台でやってもいいとか言われちゃうのも頭にくるし、ちゃんとチャンピオンになってそれで自分の夢を追うんだったらわかるけど、いつもお茶を濁しているとしか思えない選手にそんなこと堂々と言われて、ホントにくやしいっすよ。どうしたらいいのかわかねえですもん。やってきたことを全部、否定されたような感じですよね。
――青木さんにはライト級で頑張ってほしいというファンの声もありますね。
**青木**　いや、誰と闘おうが青木真也っていう生き方は絶対に変わりませんから。ボクは誰よりも、一生懸命格闘技をやってると思ってますし。昨日、試合する前に中井（祐樹）先生に言ったんですよ。「絶対に日本人の中でオレが一番真剣に格闘技をやってるし、誰よりも団体のことを考え、格闘技のことを考えてるんだから、オレが負けるわけないですよね、先生」って。
――でも、盟友のキモ強戦士の北岡（悟）さんは「いまの青木は演じてる」って言ってたみたいですよ。
**青木**　ウハハハハ！　マジっすか！
――はい。「でも、オレは演じてない」って言ってたみたいです。
**青木**　ププププッ！　あいからわず気持ち悪いなあ〜。ちょっと待って。北岡さんは演じてるとか演じてないとか、そういうレベルじゃないでしょ（笑）。
――ダッハッハッハッ。
**青木**　たぶん北岡さんの言ってる〝ダークな青木真也〟って、〝殺しのある青木真也〟のことですよ。
――まさに秋山を挑発するような。ところで試合前の会見では、バダ・ハリの名前を挙げたというか、こっちは言わされたというか（笑）。
**青木**　だからバダ・ハリがリングに上がったときに青木の名前がアイツの口から出ないかビビリましたよ！「K−1ルールで青木をやりたい」とか言い出したらどうしようって（笑）。バダ・ハリ、ヤバイっすね。やったら間違いなく殺されますね！
――わかりました（笑）。とにかく青木真也は魔王に怒ってる！　ということで。
**青木**　はい。ボクも腹をくくって、相手がカチンと頭にきてもいいと思って言いましたから。
――DREAMのオープニングセレモニーのときはたしか隣同士でしたよね。バックステージではどうしてたんですか？
**青木**　その場はボクが外してましたよ。怖いから（笑）。
――どこが腹をくくってるんだ（笑）。
**青木**　でも、前々日の会見で「オレがハリトーノフとやってもいいですよ？」（魔王ボイスで）って言い始めたときは、隣でオレは「エーッ⁉」って思ってたんですよ。「テメエ、相手を選んどいて、コノヤロー！」と言おうと思ったら、佐伯（繁）さんが必死の形相でボクを睨んでるんですよ（笑）。
［偶然にも佐伯さんが登場］
――佐伯さんはどうですか？　青木vs秋山戦は？
**佐伯**　いやあ、難しいんじゃないの？
**青木**　腹立つ気持ちはわかりますよね？
**佐伯**　わかるよ！　わかる、わかる、わかる。そりゃあ、わかるって。でも実現しないよぉ。
**青木**　まあ、オレはぶっちゃけ楽っすよ。だってピエロだもん（笑）。どうせ受けるわけないし、もしやるんだったら全然やってやりますけどね！　押忍!!

**【08年9月24日／都内・某ホテルにて収録】**

## どうせアッチが受けるわけがないけど やるんだったら全然やってやります



あおき。しんや■1983年5月9日、静岡県出身。柔道、柔術、サンボをベースにし、極めを重視するグラウンドテクニックは世界最高峰の呼び声が高い。また魔王ボイスにかぎらず選手のモノマネもじつにうまい。『kamipro.com』にてレギュラーコラムを執筆中。たまに音声配信もやってます。180cm、70kg。

# 「秋山成勲は、韓国人になりたかった人だと思います」





きくち・なるよし■1963年生まれ。音楽家／文筆家。ジャズ・ミュージシャンとして活動する一方、批評家として音楽、映画、料理、ファッション等の著作多数。格闘技批評『サイコロジカル・ボディ・ブルース解凍』（白夜書房）が文庫化。

## 音楽家であり文筆家

# 菊地成孔

異変勃発！『DREAM.6』で突如、巻き起こった秋山成勲の吉田秀彦への挑戦表明と、青木真也の秋山への挑戦表明。DREAMにおける二人のニュータイプをおなじみ菊地成孔氏が一刀両断！ そこから浮かび上がる“魔王”を突き動かす韓国への想いとは？

聞き手／ジャン斉藤　試合写真／乾晋也　会見撮影／菊地茂夫

――今回は、先日の『DREAM・6』のPVをご覧いただいて、秋山成勲をめぐる環境の急変に関して、うかがいたいな、と。

**菊地** あのう、秋山へのブーイングは何パーセントぐらいがマジなのでしょうか？・

――マジとおもしろ半分なんでしょうけど、比率は難しいですね。

**菊地** 会場に行かないと見当もつかないなあ。第一に、あそこまでしつこく煽りVでヌルヌル事件をリピートされるのは、いろいろな意味で違和感がありますが。

――ほとぼりがさめてもいい頃ですね。

**菊地** あれからヌルヌルしてないわけだし、マイケル発言とか、おもしろいことを含めつつ、ルール的には品行方正にやってるわけじゃないですか。昭和だったら、もうミソギは済んでいると思いますね。

――要所要所で、秋山がそういうムードを引き戻すことをやってはいますけど。

**菊地** まあ、常に神経を逆撫でし続けてはいますよね（笑）。考えようによっては、DREAMがヌルヌルを超えるインパクトに欠けていて、ヌルヌルに依存しているとも言えますが。とにかく秋山のグッジョブは続いてますよね。今回の相手も一瞬、「金魚かな」と思ったけど意外に強く、ねばっこいが後口さわやかないい試合でした。私は青木も好きですけど、試合的には単純に青木よりおもしろかったし、これはほとんどの人がそう思ってると思う。あと、秋山って入場時に曲が終わるまでリングインしないじゃないですか。

――いわゆる鈴木みのる方式ですね。

**菊地** そう（笑）。曲が終わるまで溜めて、エンディングと同時にリングインする。ほとんどの選手がマイペースにリングインして、音効さんがフェードアウトするのが日常的だから目立つんですよね。音楽家からすると。虚空を見つめて、曲を聴いてる秋山がどこかさびしそうで（笑）。

――それでいて、ふてぶてしそうで。

**菊地** で、前回も申し上げたとおり在日4世なのだから、感覚的には完全に日本人だし、ID画面でも「ナショナリティ＝ジャパン」ってハッキリ出てんのに、アナウンサーが「秋山を倒す日本人は出てこないんでしょうか？・」って平然と言うじゃないですか（笑）。「いや、そういう意味じゃなくて」って言われたら、それっきりですが。

――秋山＝韓国人っていう含みが入ってるように感じてしまう、と。

**菊地** ここまで不自然に在日扱いされる人物はやはり珍しいですし、是非の「是」派の人も、強くておもしろいし、反則を続行中でもないから認める、とは言いますが決して「好きだ」とは言わないですね。

――まだ「おもしろい」どまりというか。

**菊地** ワタシは「好き」ですよ（キッパリ）。

――あのヌルヌル事件直後から一貫されてるのは、菊地さんくらいですね（笑）。

**菊地** そうですか（笑）。まあ、日本の総合格闘技の象徴である「桜庭を汚した」ことで「許さん」と。で、「なんか腹立つ」と。そしてここにバイアスがかかってるわけだけど、「韓国人だから」という。

――悪意が増長する感じで。

**菊地** でも、秋山があんなに韓国人扱いされるんなら、在日を明言してる在日3世の前田日明さんは世代的にもっと韓国人扱いされてもおかしくないはずです。でも前田さんへの扱いが特殊なのではない。特殊なのは秋山への扱いです。

――それは秋山を裁く理由が、何かしらほしいのかもしれないですね。

**菊地** 水に流しやすい日本人が秋山だけは水に流しません。「ヌルヌルだから水に流しやすいでしょう」とか「さすが日本、桜を汚すと厳罰なのか」とか、最低最悪のオヤジギャグしか浮かびませんよ。さっきの「秋山を倒す日本人」発言や、三崎（和雄）の「日本人は強い」発言とか、バイアスかかりまくり。しかしそれも、秋山がそれに対してよしとしているという不思議な呼吸とグルーヴしてのことですけどね（笑）。

――結果的に韓国で人気が高まったこともあるから、それはそれでオッケーなんでしょうね。

**菊地** これまた前回申し上げましたが、秋山のバイオグラフィを見ると「韓国人になりたかった人」だということがわかります。韓国人になるべく、韓国の大学に行って努力するけど、韓国籍が取得できなかったから、日本に戻ってくるという、ちょっとニュータイプというか。もうこの段階で、ナショナリズムに敏感な人々の神経逆なでにしてますからね。

――見たことのないニュータイプですね。

**菊地** 我々が漠然と機械的に咀嚼する「在日韓国人」の意味合いと脱臼的に違うのよね。そもそも日本語のほうが達者なはずで、韓国大会での〝同胞への挨拶〟は、憶測になりますが練習したものだと思います、大統領演説みたいに。「本当の、自分自身の言葉で呼びかけた」とかじゃないのよ。新しいかたちを誰も咀嚼できないまま、漠然とした憎悪で、誰も落とし込めない。

――なんかスッキリしないんですね。

**菊地** 好きな人も嫌いな人もスッキリしないままだと思います。僕も「好き」だけど「スッキリ」はしない。「（ブルーザー・）ブロディが好きだ」って言うときは、腹の底からスッキリしてるわけじゃないですか。

――秋山のような前例がないからですか？

**菊地** だから、前例がないってのは、誰も見たことないわけだから、ネガティブだけじゃなく、「ワクワクしてる」とも言えます。「わからない」という現象に対してはイライラする人とワクワクする人に分かれますから。その一方で、青木のスッキリした感じね。好青年で、オヤジもいい人で、曲がったことが嫌いで、入場テーマは『バカサバイバー』で。まさに一点の曇りもないじゃないですか。しかも人気先行型じゃなく、強くてスキルも凄い。「打撃を食らったら、危ないかな」って心配もあるけど、「弱点もある」って部分さえハッキリしてるから、全部が解明的です。逆に言えば、



日本で大ヒール、韓国でマイケル・ジャクソンな秋山を、『NEWS23』ばりの「異論！ 反論! OBJECTION」を展開した煽りV。青木が「格闘技から逃げてる」と言い放てば、船木も「あとでツケが回ってくる」とキラー発言！

## なんでも水に流しやすい日本人がなぜ秋山だけは水に流さないのか？

# 秋山成勲

青木を応援するときは、曇りがなさすぎてスッキリしないとも言えますけど（笑）。

――わかりやすすぎてもスッキリしない。

**菊地**　青木がマイクで「僕が大黒柱です」って言うと、会場は喜ぶけど、外界にまでは爆発的な感じもしないんですよ。会場内での善と悪のシンメトリーはクッキリ、でもズームダウンしたら、なんかスッキリしないな、と。まさに秋山とは真逆の存在ですから、象徴的な二人だと思いますよ。

――ただ、青木って古い格闘技ファンとか古い格闘技マスコミには嫌われているフシがあるんです。発言が軽くて、調子に乗ってるって感じで。

**菊地**　へえ、そうなんですか。でも宇野（薫）を完封したら調子に乗ってもいいんじゃないかと思いますが。

――表現者は調子に乗ってナンボじゃないですか。でも日本人は「黙して語らず」みたいな美学があったり。典型的なのは「俺に挨拶がない」みたいな感情があるみたいだし。目上の人を立てたりする部分はあまりないかもしれない。

**菊地**　でも、旧態依然とした人に睨まれるのは、ニュータイプのいいところですよね。うまくこなしたらイヤミですし。言ってみれば、現代っ子キャラじゃない？　挨拶がないってのは（笑）。例の二人のマイクですが、この先に何が起こるかわからない格闘技界とはいえ、現時点では秋山vs吉田戦と同程度に、あるいは現実性としては低いくらいだと思うんです、青木vs秋山戦は。要するにどっちもどっちじゃない。

――どっちも無理難題ですね（笑）。

**菊地**　でも、青木が言うと「いいこと言った」って印象で。ファンが言ってほしいことを言ってくれたって部分でつかむわけです。でも、秋山は「実現不可能なことを言って逃げてる」とか言われちゃって（笑）。客も本気で「青木が秋山狩りだ！」とは期待してないでしょうけど。

――「青木が俺たちの気持ちを代弁してくれた」っていう感情でしょうね。

**菊地**　でもイージーすぎますよ。いま、秋山を「マイケル・ジャクソン先輩」なんて言えば、全員味方だってことは保証されてるようなモンじゃない。大変残念ですが、心理的にはイジメと紙一重です。元警察官のすることじゃない。いや、元警察官だからするのか？　と言い返したいですね（笑）。

――青木は青木で心の底からバカにしているだけだし、秋山は秋山で心の底から青木にリスペクトされてると勘違いしてたみたいですけど。

**菊地**　それに、青木の煽りVの中で、PRIDEとDREAMは地続きだという構成だったじゃないですか。




青木の煽りVは、対戦相手にはほとんど触れず、PRIDE時代の桜庭と自分を重ね、「あの責任感がDREAMの僕にもある。コレくらい」と控えめながらも大黒柱宣言!!

## 青木の存在は一点の曇りもないけど曇りがなさすぎてもスッキリしない

――PRIDE時の桜庭と、DREAMの青木を重ねる構成でした。

**菊地**　ワタシはDREAMができたとき、問題は「どのくらいPRIDE感を払拭するか、あるいは継承するのか」「歴史をどう編纂するのか」と言ったけど、あの煽りVを観ると、いまや「PRIDEから地続き」ってことが前提になってますね。煽りVを観る限り、DREAMと青木は桜庭を天皇みたいな象徴として捉えることに意識的で、PRIDE全盛時の桜庭の充実ぶりを振り返って、「その役を僕がやる」と。でもそれって、臆面もなく「ほとぼりがさめた」ことを意味してますよね。

――ああ、確かにそうですね。

**菊地**　流れ的に、PRIDEは「ない」ことにして、押さえ込んでしまってもいい。実際しばらくそういう時期もあった。でもあれは、「もう、あのときのゴタゴタは忘れよう」ってフタをする感じに見えました。秋山のヌルヌルはいつまでも何回でも再生され、桜庭が『HERO'S』に登場したときの映像とかは一度もリピートされません。飲み屋でくだ巻いてるオヤジのようですが、「ブラックマンデーがくる」って噂される不安なご時世にフィットしてる感があります。「イヤなことは忘れちゃう」「そのためには敵が必要」といった。

――そこは現代的ですね。ただ、秋山は本質的にヒール扱いしてるのが煽りVぐらいで、普通の格闘技マスコミはスーパースター的な報道を続けてるから、そういうファンのストレスもあるのかなって。

**菊地**　秋山も青木も、マーケットの多層化について現代的なメッセージを投げかけていますね。この周辺（新宿歌舞伎町の韓国人エリア）はワールドカップのときとか、もの凄いことになるから「秋山は、在日3世以降の人にとって、どんなスターバリューなのか」を見定めるために、DREAMの地上波の秋山の試合のときに、「そのへんのスポーツカフェを覗こうかな」って思っていたんですが、はたせませんでした。

――ああ、僕が現地の韓国マスコミと話したら、秋山より「日本憎し」の感情が先に立って、あと日本人は秋山をイジメるから守らなきゃみたいな感じで。〝好き嫌い〟の話にならなかったですけど、純粋にどのくらい好きかは知りたいですね。

**菊地**　前も申し上げたとおり、力道山時代から続いてる日韓問題は、一般人にはタブーのような、単なる無知のような状態でクラッチされたままです。その上で韓流ブームが来ては去ったり、東方神起だけがヒットチャートに定着したり。そもそもプロレスが力道山という「偽の日本人」による「偽のスポーツ」というイメージによって完成された、というのは村松友視の説ですが、秋山はターニングポイントにいると思います。漠然と「憎んでいい人」「嫌ってOKな人」というイメージのまま〝在日韓国人〟と思われてると思うんですよ。

――わからないから、〝在日韓国人〟のワクにハメて、安心する感じはありますね。

# 秋山成勲

## 秋山本人にとって韓国でのブレイクは想像以上に嬉しくて誇らしいこと

**菊地**　チェ・ホンマンの「もともとシルムの大物でオラが国のスターで日本で頑張ってる」とか、金泰泳の「在日、関西、不良、格闘技で更正」といったストレートさと比べると、秋山はもっと全然複雑ですから、客観的かつ大人の態度といえます。そういう背景にも思いを馳せて観る余裕があったら、秋山の出してるコクや、憂いの表情や、奇妙なKYぶりなんかは、「いや〜あれ、いいね」って評価になってもおかしくないです。時が時であれば。

――そこまで内面に踏み込んで、観てる人はいないですよね。

**菊地**　浅くてシンプルな「イヤなヤツだ」って感情が固定されすぎてて。この構図がひっくり返る日がくるか、と思いながら見続けてるんですけど。

――自分たちもそう思って一年以上、追い続けてるんですが、秋山自身が自分でシャッターを押さえてるんですね。ただ、秋山って対戦相手の選び方にしても「長くやるつもりないんじゃないかな」って思っちゃうし、日本でこれだけ嫌われるんなら、「韓国に行こう」と思ってもおかしくないし。

**菊地**　さらに秋山には、従来の在日韓国人が持つ「故国に凱旋する」イメージじゃなく、「あこがれの外国で、やっとスターになった」って意味合いも含まれると思うんです。簡単に「ああ、国に帰りやがったか」というのとは全然違う。秋山の韓国でのブレイクは、〝あこがれ〟であり〝約束の地〟でつかんだことで、我々が想像するより、はるかに嬉しくて誇らしいと思うんです。とはいえ、「ほうら、やっぱり日本が嫌いで韓国が好きなんじゃねぇか」というのとも違うと思います。複雑です。

――吉田戦をブチ上げたのも自分のストーリーを仕上げる意味で、「この一戦を最後に辞めるんじゃないか」って。その上で、「秋山は『戦極』に上がりたいのかな」と。

**菊地**　年末にDREAMと『戦極』でオールスター戦やって、分裂した二つを統一しましょう、って流れとは違う。「イチ抜けた」みたいな部分があった。あの発言のカマし率とガチ率はどの程度なんですか？

――DREAMに対する駆け引きはあるかもしれないですね。ただ、秋山目線で考えると、DREAMにはおいしい相手がいないんですよ。ゲガール・ムサシや、ジェイソン・〝メイヘム〟・ミラーに勝っても、秋山の中では吉田秀彦ほどハクはつかないと読んでるんでしょうね。

**菊地**　ただ、『戦極』に行くとしても、『戦極』とDREAMって、昔のPRIDEと『HERO'S』みたいに、バチバチやってないですよね。

――『戦極』とDREAMの関係ってどう見えますか？

**菊地**　これも新しいですね。新しさって、必ずしもセンセーショナルでヤバい、というわけではありません。気がつかないほど渋かったり地味だったりする中に凄まじい斬新さが存在していることもありますもんね。20世紀は「ドンドン変わるぞ！」っていう過剰な進化の時代だったけど、21世紀は「知らないうちにすっかり新しくなってた」ような地味な進化が多いんじゃないかと思います。だから『戦極』とDREAMは、20世紀なら引き抜きとかバンバンやったろうし、対立したり比べられたりしたと思う。ただ、DREAMは歴史的にPRIDEの直系と言っていいけど、いまの『戦極』ってどっか違う国にあって、そこでやってる団体みたいな感じはありますね。DREAMと同じ舞台で、興行戦争をやってるようなヒリヒリした印象はない。

――独立独歩って感じで。でも、秋山が『戦極』に移籍するなら、そういうヒリヒリ感は戻ってくるかもしれないですね。不可侵条約を結んでいるようにさえ見えるところで、一人だけ本気で動いたら。

**菊地**　秋山が個人的な事情と、誰にも理解できないメンタリティで、トコトコ動いたら、大変なことですね。

――『戦極』とDREAMの選手って、そこは大人で空気を読んで、仁義を欠いてまで移籍なんてしないと思うんですよ。でも秋山はそんなの無視しそうな勢いですから（笑）。

**菊地**　惚れ惚れするようなKYぶりです。DREAMはだいぶつまらなくなっちゃうんじゃないでしょうか。だからこそ、秋山のコクな部分をフォーカスして、「あれはいいよ」と。一方、青木にもファンが「あれじゃあ、単なる現代っ子じゃないか」「コクがないよ」という声が出る、高度成長期のような時代がこないかなあと思っています（笑）。いずれにせよ青木は圧倒的なわかりやすさで、秋山の裏面的に成功した感じですね。

――魔王と青木は表裏一体だ、と。青木は「PRIDEの再開を待ち続けた」というプロレス流の〝溜め〟の論理で成り上がった感じもあって。

**菊地**　日本人が好きな「泣いて笑って」の典型タイプですね。秋山は「怒って笑って」みたいな、でもよく見ると泣ける。深いなぁ、これは。いずれにしても、青木も秋山もニュータイプという意味で似ているということはもっと知らしめるべきでしょう。最後に、昔ながらのファンはイヤがるかもしれないですが、秋山のマイクは、ちょっと全盛期の（アントニオ）猪木さんみたいな「何言ってるんだかわかんない」って感じがありますね（笑）。

――アントン的なカオスまで感じた、と。

**菊地**　「皆さん、ちょっとでいいから力を貸してください」と言ってたんだけれども。「ちょっとでいい」って、どういうことなんだろうか、と（笑）。

――たいして考えてないでしょうけど。

**菊地**　間違いなくそうなんですが（笑）。ひっかかるんですよ。秋山の全存在が、新しくて懐かしいトゲに満ちてますね。

【08年9月25日／都内・菊地成孔氏の事務所にて収録】



『DREAM.6』一夜明け会見、青木の挑戦を愛想なく「興味がないですね」と一蹴する魔王。さらに吉田と闘う舞台は「どこでもかまわない」と唯我独尊ぶりが止まらない！

—このたびはDREAMミドル級GP優勝おめでとうございます！

**ムサシ** ありがとう！ 世界の強敵を相手に勝ち取った栄誉だから、凄くいい気分だよ。

—試合後の会見で「自分の性格的に、優勝はホテルに帰ってベルトを見たときに実感すると思う」と言ってましたね。若いのにずいぶん落ち着いているな〜と思ったんですが？

**ムサシ** （メルヴィン・）マヌーフと比べたらおとなしいかもね（笑）。

—猛獣は入場時からハイテンションですからね（笑）。昨日は祝勝会はしましたか？

**ムサシ** うん、仲間たちとマクドナルドに行ってハンバーガーを食べたよ。

—なんでまた優勝して1000万円ゲットしたのにマックなんですか（笑）。もっといいもの食べましょうよ！

**ムサシ** でもレギュラーサイズじゃなくてビッグマックだったよ？



**ヒョードルのアドバイスが優勝の鍵!?**
**23歳の"若きバカボンド"が頂点へ！**

# 「僕は"二刀流（MMA&K-1）"を武器にベルトをコレクションしていく」

**初代DREAMミドル級王者**
**DREAMミドル級GP2008優勝**

# ゲガール・ムサシ

**田村潔司と船木誠勝のUWF対決、メルヴィン・マヌーフの前に壮絶に散った桜庭和志、そして秋山成勲は別格感を漂わせてトーナメントを回避——。悲喜こもごもなドラマが見られたミドル級GPで、大本命の"ワニ男"ホナウド・ジャカレイを破って優勝したのは、"欧州の剣豪"ゲガール・ムサシ！ 底知れない強さと可能性を見せた若き王者がその喜びを語った！**

聞き手／鈴木佑　撮影／菊池茂夫　試合写真／乾晋也

—いや、大きさの問題ではなく（笑）。マックが好きなんですか？

**ムサシ** うん（満面の笑みで）。減量のために2ヵ月以上マックには行ってなかったから、自分へのご褒美としてひさしぶりに食べたんだよ。

—庶民派なんですね〜。ちなみに賞金のご利用計画は？

**ムサシ** 南の島へバケーションに行きたいね。もちろん僕の愛する家族にも何かプレゼントしないと。あとの残りは投資しようと思ってるよ。

—意外な一面ですね。そういった資産運用にも興味があるんですか？

**ムサシ** 兄のアドバイスで、イランやオランダに土地を買ったりしてるよ。

—それまた本格的な財テクで（笑）。

**ムサシ** 将来を考えて、投資も安全なものを心掛けてるんだ。

—庶民派であり堅実派なんですね。さて、昨日のGPを振り返ってもらいたいんですが、準決勝のマヌーフ戦は見事なまでの完勝でしたね。

**ムサシ** ロープ際でマヌーフにクリンチされたときに、これは自分のほうが強いなとすぐに確信できたよ。三角絞めで捕らえたときもマヌーフは必死に逃げようとしていたけど、仕留めるのは時間の問題だと思ったね。

—ムサシ選手は「オランダで有名なマヌーフを倒して自分の力を証明したい」と言っていましたが、これで一気に名が知れ渡るのでは？

**ムサシ** そうだね。マヌーフに比べて僕のことは誰も注目してくれてなかったんだ。ベルトも獲れたし、これでファイターとして胸を張れるよ。

—なんてったってDREAMの王者ですもんね！ 決勝のジャカレイ戦ですが、フィニッシュの下からの蹴り上げは狙ったものなんですか？

**ムサシ** 柔術の選手は相手が下の体勢になると必ずと言っていいほど覆いかぶさって何かを仕掛けてくる。ジャカレイの場合は今回パウンドを狙ってきた。でも、そのときこそが自分のチャンスだと思っていたんだ。

—そこを狙いすまして攻撃した、と。ジャカレイ選手はゴング直後から飛びつくような低空タックルを仕掛けてきて、かなり積極的でしたね。

**ムサシ** たとえテイクダウンされても自分は逃げられる自信があったよ。安易に逃げようとすると関節技を狙われるから、それも警戒していたし。彼のパウンドもそこまでダメージの残る攻撃じゃなかったから、下の状態でもとにかくリラックスしてたね。

—ムサシ選手とジャカレイ選手はトーナメントを通じて友だちになったそうですが、そのきっかけは？



[08.9.23 DREAM.6]
埼玉・さいたまスーパーアリーナ
DREAMミドル級GP決勝戦
**○ゲガール・ムサシ vs ホナウド・ジャカレイ×**
（1R 2分15秒 KO）

開始早々、ワニが獲物を捕獲するように低空タックルで飛びかかったジャカレイは、ムサシからテイクダウン。さらに勢いよくパウンドを放っていくが、そこにムサシがカウンターで右足の前蹴りをヒット！ ジャカレイは失神、ムサシが鮮烈KOでグランプリを制覇！

# 個人的にアキヤマには人気者でフレンドリーなイメージがあるよ

**ムサシ**　7月のミドル級GP2回戦のとき、計量直前にジャカレイとサウナで一緒になったんだ。で、自分の体重がなかなか落ちないことを話したら、彼が減量用のビニールスーツを貸してくれたんだよ。これから闘うかもしれない相手にそんなことをしてくれるなんて……そのときに友情を感じたね（シミジミと）。

――いい話ですね。敵に塩を送った、と。今回はムサシ選手と親交のある（エメリヤーエンコ・）ヒョードル選手も来場してましたが、何かアドバイスはもらいましたか？

**ムサシ**　ヒョードルは決勝戦前にわざわざ控室まで来てくれたんだ。自分を守るためにはどうしなければならないか、よりシャープな闘い方をしなさいってアドバイスをくれたよ。

――お〜、皇帝から帝王学を授かったわけですね。

**ムサシ**　おかげで勝つことができたわけさ（笑）。ヒョードルは試合後にも控室を訪ねて祝福してくれたんだ。

――〝60億分の1の男〟はアフターフォローもバッチリですね（笑）。さて、ムサシ選手は秋山成勲選手と大晦日にやるのをファンは望んでるんじゃないかと発言してましたが、秋山選手にはどんな印象を持ってますか？

**ムサシ**　技術的にもフィジカル面でも優れたファイターだと思うよ。あれだけの歓声とブーイングをもらうということは、それだけ注目を集める人気者なんだろうし。個人的にはフレンドリーなイメージがあるかな。

――魔王がフレンドリー⁉　それは実際に接してみた感想ですか？

**ムサシ**　いや、話を直接したことはないんだ。彼が他の選手と談笑しているのを見た印象だね。マヌーフのように傲慢には見えないよ（笑）。

――あ、猛獣は傲慢でしたか（笑）。秋山選手自身は大晦日に吉田秀彦選手との一戦を熱望しているので、今年中のムサシ選手との試合実現は難しいかもしれません。笹原圭一イベントプロデューサーは大晦日に向けて「階級を越えたカードを含めてファンにアンケートするかもしれない」とコメントしてましたが、ムサシ選手は秋山選手以外で興味がある選手はいますか？



GEGARD MOUSASI■1985年8月1日、イラン出身。05年12月『DEEP 22 IMPACT』で日本デビュー。同年、PRIDEウェルター級GPに出場するも2回戦敗退。PRIDE消滅後は世界各地で腕に磨きをかけて『DREAMミドル級トーナメント』に出場、並み居る強豪を撃破して見事に優勝! 186cm、83.7kg。レッドデビル・インターナショナル所属。

**ムサシ**　自分としてはK―1ファイターとやるのもおもしろいんじゃないかと思うね。

――昨日も「秋山戦後にはK―1で試合がしたい」と言ってましたね。MMAとK―1の両方で活躍すれば、まさに宮本武蔵のような二刀流ですね！

**ムサシ**　うん、僕にはその「ニトーリュー」（日本語で）ができる力があると思うしね。

――ちなみにバダ・ハリ選手が「抱き合ってるだけで満足している選手たち、本当の真剣勝負をK―1でやろう！」とアピールしていましたが、率直にどう思いました？

**ムサシ**　（顔をしかめて）あいつは馬鹿だね、あんな大口を叩くなんて。MMAが簡単な競技だと思うなら、自分でやってみればいいんだよ！

――冷静なムサシ選手もご立腹のようですね。

**ムサシ**　僕はK―1をリスペクトしている。だけどバダ・ハリからはMMAに対するリスペクトが感じられない。前に一度、彼がMMAでやった試合を見たことがあるけど、30秒足らずでタップしていた。だからあんなことを言う資格は一切ないね（キッパリ）。

――バッサリ斬りましたね！　あと、K―1では武蔵という日本人選手がいるんですけど、夢の〝ムサシ対決〟なんてどうですか？（笑）。

**ムサシ**　もちろんその選手のことは知ってるよ。まずは自分の階級を上げないといけないけど、その準備がしっかり与えられるなら実現の可能性もある思う。どっちの〝ムサシ〟が強いのか、ちょっと気になるし（笑）。

――ではK―1のリングでの実現を期待してます！　以前にムサシ選手はいろいろなベルトをコレクションしたいと発言してましたが、DREAM以外のベルトも視野にありますか？

**ムサシ**　そうだね、ベルトは王者の証だからね。自分の日本デビューのリングだったDEEPのベルトも欲しいと思ってるよ。

――DREAMのチャンピオンになってからだと若干順序が逆な気もしますが（笑）。DEEPには思い入れがあるんですか？

**ムサシ**　もちろん。あのお腹の大きな人（ジェスチャーつき）は最初にチャンスを与えてくれたから好きだよ。

――佐伯（繁）さんのことですね（笑）。

**ムサシ**　自分にとって強さは、お金とかそういうことじゃないんだ。強さを証明するにはベルトを持っているのが一番わかりやすい。だから自分の力を試すためには、常に挑戦する気持ちは忘れないようにしたいね。

――強者を求めて諸国を放浪した宮本武蔵ばりの考え方ですね。他団体という意味では、海外にはUFCや、DREAMとも親交のあるM―1グローバルもありますけど興味は？

**ムサシ**　自分は今回、ジャカレイやマヌーフ、デニス・カーンといった本当に強いとされる選手たちを倒してDREAMの王者になれた。もし、他の団体のチャンピオンと試合をして、誰が真のチャンピオンか決める機会があるのならば、ぜひ自分の力を試してみたいと思ってるよ。

――ムサシ選手は常に刀を抜く準備があるわけですね。今後の活躍も期待してます！

**【08年9月24日／都内・某ホテルにて収録】**

[08.9.23 DREAM.6]
埼玉・さいたまスーパーアリーナ
DREAMミドル級GPリザーブマッチ

**○アンドリュース・ナカハラ vs ユン・ドンシク×**

（2R 0分30秒 TKO）



1R、ナカハラは極真仕込みのキックでユンをけん制。ユンのグラウンドも粘り強くしのぎ、MMAへの順応性を見せる。2R、ナカハラはユンに右フックを叩き込むと、追い打ちをかけるようにパウンドを連打。そのままレフェリーが試合をストップ、ナカハラのTKO勝ち!

[08.9.23 DREAM.6]
埼玉・さいたまスーパーアリーナ
DREAMミドル級GP準決勝

**○ホナウド・ジャカレイvsゼルグ“弁慶”ガレシック×**

（1R 1分27秒 腕ひしぎ逆十字固め）




ジャカレイはジャブで弁慶をけん制しながら、一気に組みついてテイクダウン。そこから弁慶のサイドを取ると、そのままジャカレイはパウンドを落としつつマウントへ移行。弁慶はスイープするが、ジャカレイは下になった瞬間に腕十字。電光石火の早技で完勝!

[08.9.23 DREAM.6]
埼玉・さいたまスーパーアリーナ
DREAMミドル級GP準決勝

**○ゲガール・ムサシ vs ルヴィン・マヌーフ×**

（1R 1分28秒 三角絞め）




ムサシはマヌーフをコーナー際に追いつめると、胴タックルからテイクダウン。マウントを取ったムサシは、マヌーフに前方に落とされるも、慌てず三角絞めで捕獲。マヌーフはハイアングルのバスターで叩きつけるが、ムサシは締めつけをさらに強めて一本勝ち!

## 「そう、私はロシア正教、信仰の中に生きているんです」

エメリヤーエンコ・ヒョードルに取材をするのは、ひさしぶりのことだ。PRIDEをホームリングとしていた時代とは違い、現在のヒョードルが日本を訪れるのはまれなこと。今回は『DREAM・6』観戦、そして柔道の五輪金メダリスト・石井慧との顔合わせのために来日したのだが、諸事情により石井との対面はならなかった。

計画が不首尾に終わったことからか、あるいはハードスケジュール（大会翌日には帰国することになっている）のためか、ヒョードルはあきらかに疲れていた。集中力を欠いていた、といってもいいかもしれない。ソファに深く腰かけ、うつむいているあいだに通訳からの質問を聞き逃してしまう場面さえあった。

「日本はいい国ですね、あいかわらず」

そんな第一声に続いて、彼はこう言う。

「でも、正直なところ早くロシアに戻りたい（苦笑）。このところ、あまり家にいることができていないので」

プロモーションにセミナー、それにもちろん試合。ヒョードルの活動範囲は、いまや地球規模である。今年、訪れたのは5ヵ国（アメリカには複数回）。自分の家にいられる時間は、年の半分ほどらしい。かつて自分に富と名声をもたらした国をひさしぶりに訪れても、必要以上のリップサービスをする余裕などない、というのが実際のところなのだろう。

今年7月、『アフリクション』でティム・シルビアと闘ったヒョードルは、あらためてその強さを見せつけてくれた。〝最強〟の座を、ますます揺るぎないものにする試合だったといっていい。ただし、その一戦が決まるまでには長い時間を要した。M−1グローバルの分裂、アフリクションの旗揚げ。何度も噂に上ったランディ・クートゥアーとの一戦は、最終的にクートゥアーのUFC復帰により実現しなかった。

しかし試合を行なっていないあいだも、ヒョードルの存在が格闘技ファンの意識から消えることはなかった。次にどのリングで、誰と闘うのか。リング上以外でも、常にヒョードルの行動は注目の的であり、大きな話題になっていたのだ。決定した事項だけではなく、UFCとの交渉決裂など、決まらなかったことさえ議論を呼ぶ。UFCのダナ・ホワイトはヒョードルについて質問されると、悪しざまにののしってみせた。高額のファイトマネーが取り沙汰されることも多い。もはやヒョードルは、いちファイターというだけでは収まらないほどの存在になっているのだ。シルビア戦でその強さにあらためて衝撃を受けたのも、それまでのヒョードルが格闘家の本質である強さ以外のところで話題になりすぎた反動だったのかもしれない。

富と名声、巨大化した自己の存在について、ヒョードル自身はどう考えているのだろうか。その答えは、意外すぎるものだった。

「そのへんのことは、あまり気にしてませんね。自分にとって大切なことは、ほかにあるからです。それは信仰。ロシア正教への信仰です」

信仰？　ヒョードルには何度も取材しているが、そんな言葉はこれまで一度も聞いたことがなかった。ロシアでインタビューした際には、地元とあってか日本では見せないようなフランクな態度で、ざっくばらんに話をしてくれたのだが（買ったばかりの携帯を嬉しそうにいじる姿が印象的だった）、それでも信仰の話など出てこなかった。

信仰……。それがいまのヒョードルにとって最重要事なのか。

「そう、私は信仰の中に生きているんです。一生懸命トレーニングすること、そして神の助けを感じること。この二つさえあれば、どんなときでも心が揺らぐことはありません。試合が決まらなくても、どこで、誰と闘うことになってもね」

こちらとしては、気になるのは信仰のことではない。次に試合をするのはいつか。大晦日には日本で試合をするのか。それを聞きたかった。

「もちろん、大晦日には日本で試合をしたいと思っています。ロシアのファンにとっても、大晦日に試合があることは恒例になっていますしね。ただ、最終的にそれを決めるのはマネージャーです。マネージャーとプロモーターの話し合い次第でしょう」

自分自身には試合の選択基準はない、とも彼は言う。

「私は、オファーが来たら受けるだけです。もし選択肢が用意されれば、自分にとっておもしろい相手とやりたい。まず第一に強い選手、それにファイトスタイルに多様性がある選手、それから、まだ闘っていない選手ですね。このタイミングを逃したら、やる機会がなさそうな選手という選び方もある」

じつを言うと、このインタビュー中、ヒョードルが最も饒舌だったのはこのときだった。試合やその相手について自分で決められるのであれば、それは自分の〝範疇〟なのだ。だがそれ以外のことについては、自分では語れない。ビジネスはマネージャーのすることであり、自分はあくまで来たオファーを受けるだけ。きっとリング上で闘うこと以外のすべてが、ヒョードルにとって神のおぼしめしなのだろう。

いまのヒョードルは、自分が強くなること、試合で勝つことだけを考えていればよかった、かつての彼とは違う存在になっている。ヒョードルの試合はビッグビジネスであり、その選択はMMAの業界地図を塗り替える力を持っている。ヒョードルが闘うことで自分の生活が成り立つ。そんなスタッフも少なからず抱えている。そういう状況をできるだけ意識しないために必要だったのが、ロシア正教だったのだろう。

かつてのヒョードルは、彼自身の言葉を借りれば「ロシアの田舎者」だった。柔道選手だったときには、中央の試合に出ると判定で露骨に差別されたという。そんな時代から比べると、いまのヒョードルはあまりに巨大だ。

「そうですね。不公平な判定が下されるような世界から脱して、私は自己実現することができた。でも、その感慨にひたってはいません。それも神のご加護のおかげですから。どんな道を歩むことになるか、どんな結果が出るかは神のおぼしめし。私ができるのは、その過程で最大限の努力をすることだけです」

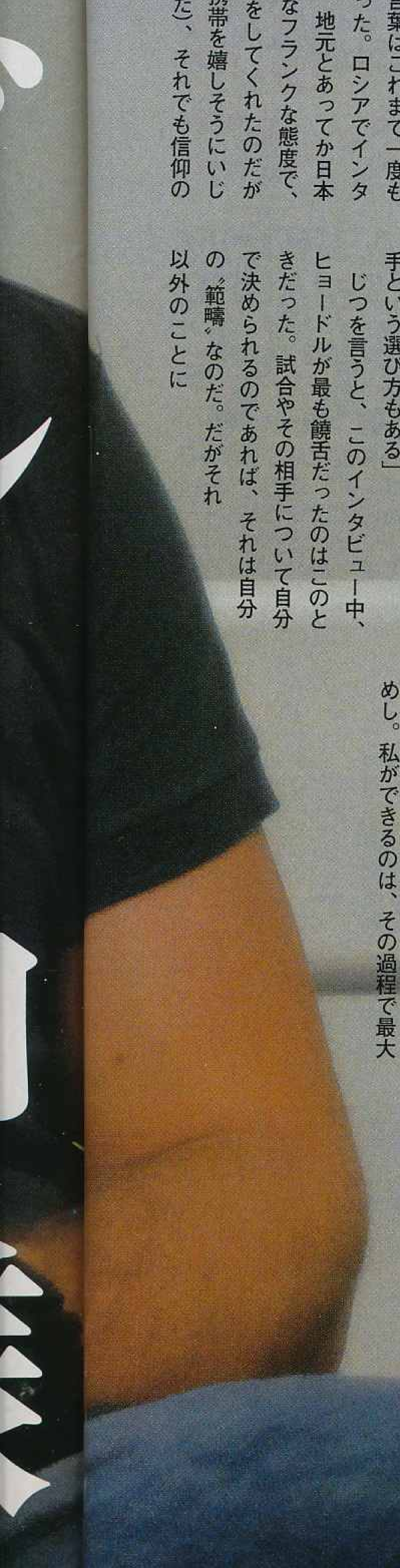
これは思い当たるふしがある、とすぐに感じた。芸能人やスポーツ選手には、新興宗教や占い師、あるいは霊能力者に〝ハマる〟人間が多いのだ。ある宗教団体は女優の信者を多く抱えていることで知られる。奇行に走った芸能人が、じつは〝占い師のお告げどおりに行動していた〟ということもある。

もちろん、歴史あるロシア正教と新興宗教やあやしげな占い師を同列には扱えないだろう。ただ、人は大きすぎるストレスに苛まれたとき、背負いきれないほどの責任を感じたとき、何か人智を超えた力に頼りたくなる傾向があるのは確かだ。きっといまのヒョードルは、以前なら考えることさえなかったほどに巨大化してしまった自分と、必死に〝内なる闘い〟を繰り広げているのだろう。そのために必要なのが、神の助けだった。

写真撮影で両手の手の平を合わせるようなポーズをリクエストすると、彼は「それは信仰に反するので」と言った。上半身裸になっての撮影でも、胸にかけられた八端十字架（十字の上下にキリストの罪状書きと足台が加えられたもの）のペンダントは外そうとしなかった。この春から着け始めたものだという。

インタビューの最後に、誕生日プレゼントでほしいものは何かと聞いてみた。この取材の数日後、9月28日が彼の誕生日なのだ。彼は真剣な表情で、こう答えた。

「皆さんが私のために祈ってくれること。それが一番のプレゼントです」





# ヒョードルと神様

## ヒョードルが電撃来日!! どうなる今年の大晦日!?

“60億分の1”が緊急来日をはたした。
目的は柔道金メダリストの石井慧との顔合わせ
（ド直前で消滅）とともにDREAMの観戦。
そろそろ大晦日決戦の機運が高まりを見せる中、
ひさしぶりの来日となった皇帝の現在を探った――。

文／橋本宗洋　撮影／菊地茂夫

# 船木誠勝

## 秒殺！ 足関！ 涙の復活!! 明日また生きるぞ！



# 「勝つ」ってこんなに嬉しいんだって初めて知りましたね

**昨年大晦日に現役復帰をはたしたものの、桜庭、田村に完敗。崖っぷちに立たされていた船木が、かつての愛弟子ミノワマンから復帰後初勝利！過去をさらけ出し、よみがえった男を試合翌日、直撃した！**

聞き手／堀江ガンツ　撮影／乾晋也

──まずは〝復活〟おめでとうございます！

**船木**　ありがとうございます。昨日は会場に？

──もちろん、行かせていただきました。船木さんの試合のときは、会場の雰囲気がいつものDREAMとちょっと違いましたね。

**船木**　たぶん昔のパンクラスを観てた人とかも来てたのかもしれないですね、相手が美濃輪なんで。

──今回、対戦相手が〝美濃輪育久〟になったのは、船木さんが希望されたんですか？

**船木**　いや、全然してないです。自分も美濃輪も基本的に対戦相手の希望とか言わないと思うんですよ。まあ、自分のカードは二転三転したみたいですけど、最終的に記者会見前日の朝にメールで知らされましたね。

──そうでしたか。記者会見のときは「介錯してくるなら全力で来てほしい」と、「介錯」という言葉を使ってましたけど、やはり今回の一戦は相当期するものがありましたか？

**船木**　そうですね。やっぱり負け続けることがけっこう精神的に響くなって思ったんですよ。連敗っていままでほとんどなかったんで、初めて体験する感覚でしたから。

──もし今回も負けたら、次の試合はないんじゃないかっていう不安感みたいなものはありましたか？

**船木**　組んでもらえなくなったらおしまいだ、というふうには思ってましたね。自分から「引退」を口にすることはもうないですから、組んでもらえなくなったら「廃業」だと思うんで。

──ああ、事実上の廃業だ、と。

**船木**　そうなってしまう方向性もあるんじゃないかとは覚悟してました。ただ、試合前に出番待ちしてて、美濃輪の入場を見てたとき、なんか全部そんなもん吹っ飛んで、「とにかくやるべきことだけをやろう」って、パッと頭の中が晴れた気がして。それでリングに向かっていったんです。



かつて船木から贈られたものと同じ色である、赤のショートタイツでひさびさに登場したミノワマン。思い入れの深さがうかがい知れる。

──試合直前に精神的にふっ切れましたか。

**船木**　吹っ切れたっていうか、パーッと頭の中が晴れて「よし！」って感じでしたね。「これでダメだったら」とかいう気持ちはまったくなくなりました。そういうのも含めて美濃輪っていう選手が相手でよかったなと思いますね。やっぱり自分の後輩には負けたくないですから。

──現役復帰後、連敗したときは「もう勝てないんじゃないか」という不安感にはかられませんでしたか？

**船木**　不安感というか「なんでだろう」って思ってましたね。極め方とか打撃の当て方というのは凄くわかってるんですよ。いままでそれで何人もの人を極めてきたんで。そのかたちにハメれば、絶対にギブアップさせられる自信があるんです。あとは、どうやってそのかたちに持っていくかということだったんですけど、総合の流れが自分がやってた頃とは違うじゃないですか。だから、極めるかたちへの持っていき方を思い出すことプラス、新しく勉強しなきゃならないことに気づかされましたね。

──負けたことで現実に気づかされた、と。

**船木**　だからこの5カ月間、「ここまでやってダメならしょうがない」っていうぐらいの練習はしてきたんですよ。ホントに気持ちは新人のつもりでやってましたね。

──自分よりはるかに若い選手と一緒に、新人に戻って練習することに、当初は抵抗感もあったんじゃないですか？

**船木**　最初はそんなことしなくても、すぐに戻ると思ってましたね（笑）。でも、現実問題やらなきゃどうしようもないんですよ。やっぱり7年のブランクは大きいんで、ヒクソン戦で辞めるべきじゃなかったんですよね。

──いま思えば、やはり後悔があり

# 船木誠勝



[08.9.23 DREAM.6]
埼玉・さいたまスーパーアリーナ
**○船木誠勝 vs ミノワマン×**
（1R 0分52秒 ヒールホールド）
かつての愛弟子相手に背水の陣に臨む船木は、打撃で積極的に攻めるが、ミノワマンはその蹴り足をつかむと、寝技に持ち込み足関節技を仕掛ける。船木もそれに呼応し足関の取り合いとなり、最後は船木がヒールホールドを極めて歓喜の一本勝ち！ 船木誠勝の約9年ぶりの勝利は、かつてのパンクラスを思わせる足関での秒殺だった。

ましたか。

**船木**　あのときは、自分の美意識かなんか知らないですけど、「負けたら辞める」ってことに頑なでしたね。確かに辞めて、一瞬は楽になったんですよ。だけど3年ぐらいすると、なんかこう「格闘家・船木誠勝」っていうものに自分が押し潰されるような、世間の目といまの自分のギャップがどんどん広がっていくのを感じたんです。「俺って格闘技とは違う世界で生きてるのに、世間ではそう見られてないんだな。これってどうなんだろう？」って。

――自分は俳優・船木誠勝のつもりでも、周りからはいつまで経っても格闘家という目で見られていたわけですね。

**船木**　京都とかで撮影のとき、夜中にコンビニに行くと「あれ？ 船木さんですよね。こんなところで何やってるんですか？」って言われるし。世間では、また復帰するんだろうって見られてたんだと思うんですよね。だからこそ、安易に戻ったらダメなんじゃねえかって、辞めてから5年間は、凄く自分でストップをかけてたんです。

――そこも美意識優先だったんですかね。

**船木**　だと思いますね。「安易なものにすぐ手を出しちゃいけない、復帰は絶対しない」って思ってました。

――俳優時代、とくにプロレス界からは何度もラブコールがありましたよね？

**船木**　そういうものもありましたけど、まったく無視でしたね。

――それで収入が途絶えたときは、肉体労働もしていたんですよね。

**船木**　生活のために肉体労働っていうと、凄く悲惨に見えるかもしれないですけど、実際はそこまで悲惨じゃないんですよ。単純にテレビドラマのギャラとかっていうのは、放送が始まって2カ月後とかにならないと入ってこないんですよ。だから、次の月にいくら入るのかがわからない状態なんです。

――なるほど。収入にかなりバラつきがある、と。

**船木**　そうです。150万円収入があったかと思ったら、翌月は5万円だったり。そんな状況でも毎月、必ず必要なお金ってあるじゃないですか。

――家賃や光熱費、食費とかですよね。

**船木**　それだけは最低限、確保しなきゃいけないと思って、収入がないとき、俳優の知り合いに電話して「ちょっと仕事紹介して」って言って、すぐやりましたね。撮影がないときは、毎晩現場に出てました。終電後から始発まで、賞味3時間ぐらいの鉄道工事の仕事なんですけど、けっこういいお金なんですよ。それが半年ぐらい続きましたね。

――深夜の現場作業には抵抗はなかったんですか？

**船木**　全然なかったんです。これはみんなに不思議だと思われるんですけども。

――でも「船木さんですか？」とか言われるんじゃないですか？

**船木**　自分は「船木」って書いてあるヘルメット被ってやってましたからね（笑）。

――バレバレじゃないですか（笑）。

**船木**　でも「こんなところにいるわけない」と思われたのか、話しかけられたりとかは、なかったんですね。ただ、同じ組の仲間はみんな知ってますんで、ちょっと慣れてくると「サインいいですか？」とか（笑）。

――現場の仲間にサインをねだられましたか。

**船木**　みんな凄くよくしてくれましたね。だいたい下っ端だったら「ちょっとあれ持ってこい！」って感じで言われるわけじゃないですか。それが自分は「あれ持ってきてくれますか？」とか、敬語で指示してくれるんで、凄く心地よかったんですよ。仲間も増えたみたいな感じで。自分は15歳でプロレス界に入ってるので、一般のアルバイトとか一切したことないですから、もの凄く新鮮な体験でした。



勝った瞬間、"美濃輪育久"に抱きついた船木。試合時間は短かったが、二人の表情から濃密な時間だったことがうかがえる。そしてマイクを握った船木は、涙で声を詰まらせた。

# 船木誠勝

## もう「明日また生きるぞ！」って言わなくても生きていけます

——初めて労働の喜びを知るみたいな感じですか。

**船木** ホントそうですよ。だから順番間違ってるんですよね。10代でやらなければいけないことを32～33歳でやってた、みたいな。で、たまたまそのときは顔が売れてたっていう。

——なんか天才子役タレントが大人になったみたいな感じですね。

**船木** ああ、そうですね。まさしくそんな感じですよね。ケンちゃん（宮脇康之）みたいな感じ。それは凄く感じます。15歳から『東スポ』とかでも取り上げられてましたんで。

——そして、引退後に「船木誠勝」という名前に苦しんだ部分がありましたか。

**船木** ありましたね。でも、いまはその名前を名乗って生きていきたいと思います。自分と世間のギャップを埋めたいっていうか。もしもリングに上がれるんであれば、少しのあいだでもやりたいっていう気持ちが凄く強くなったんだと思います。

——ただ、復帰してから連敗する中で「総合じゃなくてプロレスのほうがいいんじゃないか？」みたいな声もあったんじゃないですか？

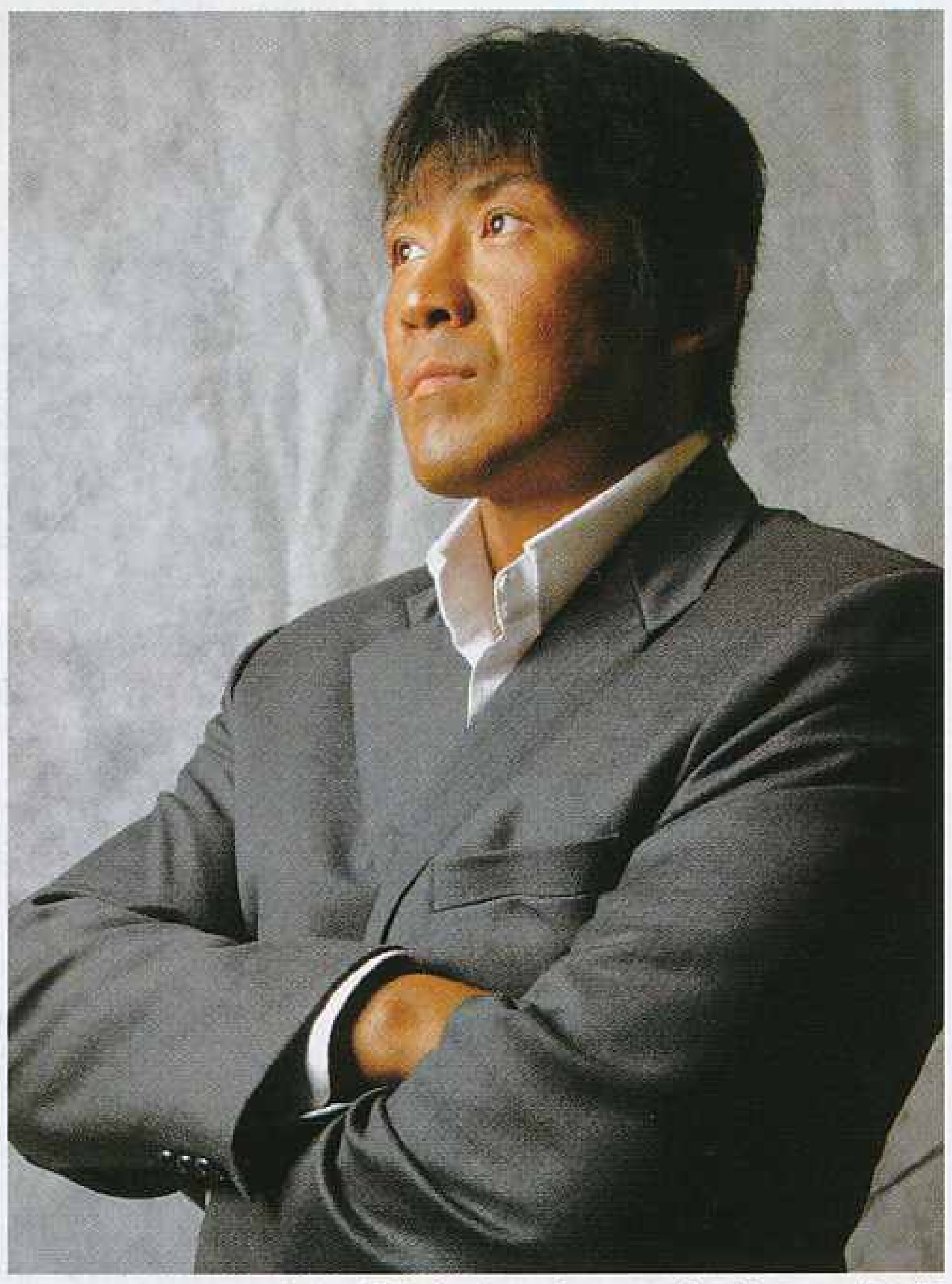
**船木** そういう声は、自分には聞こえてこなかったですね。総合でギリギリまで頑張りたいって気持ちがあるし「ダメだったからプロレス」っていうことだけはしたくないっていうのが、たぶん唯一残ってる美意識だと思います。

——プロレスを〝滑り止め〟にしたくないというか。

**船木** そうなんですよね。滑り止めをつけて生きていきたくないタイプなんで。滑ったら滑ったで、そのとき落ちた場所で一生懸命やりたいなっていうタイプなんで。これはもう性格だから仕方ないですね。だから、連敗しても、とにかく必要とされなくなるまでやりたいと思ってましたから。

——格闘技を全うしたい気持ちがあるわけですか？

**船木** ありますね。やっぱり31歳で退いたっていうことの後悔が、自分の中で強く残ってるんだと思います。納得するまでやらなかったってことが。だから、いまやってる選手たちは、途中でどんなに苦しいことがあっても身体が使えなくなるまでやるべきだと思います。それだけはみんなに言いたいですね。途中でへんに引いてしまうと、そこで負けなんですよね。負けるとやっぱり道がなくなるんですよ。そうじゃなくて、逃げずにやり続ければ、何かしら道は見えてきますから。



ふなき・まさかつ■本名・優治（まさはる）。1969年3月13日、青森県出身。84年に新日本プロレス入門。15歳でデビュー。その後、第二次UWF、藤原組を経て93年にパンクラス旗揚げ。第4代&6代キング・オブ・パンクラシストとなる。00年5月ヒクソンに惜しくも敗れ引退するが、07年大晦日の桜庭和志戦で現役復帰をはたした。182cm、90kg。

——今回、勝てたのも自分が長年磨いてきた技が出たから、ですもんね。

**船木** そうですね。足関節での勝ちっていうのは自分の戦績の中でも一番多いんですよ。それがパッと出たっていうのは、やっと身体が目覚めてくれたのかなって。べつに足関を狙ってたわけじゃなくて、自然に身体が動いて足を取ってましたんで。これだなって思いました。

——やっと身体で覚えていたものがよみがえってきた感じですか。

**船木** はい。試合運びの感覚もなんとなく思い出しましたね。「いまいかなきゃ」っていうときに、いくという。それは昔もそうで、だから秒殺が多かったんで。

——足関で秒殺って、ホント初期のパンクラスですよね。そして、試合後は「明日また生きるぞ！」って感じでしたよ。

**船木** ああ、そういうこともありましたね。そのセリフは忘れてましたよ。でも、あの頃の自分は気持ちが弱かったですね。なんか凄い切羽詰まってて、生きることに対してもの凄く執着がありながら、生きててつらいことが多すぎて、死んでもいいぐらいの、投げやりな部分もどっかあったんですよ。だから「明日また生きるぞ！」っていうのは、自分自身を励ましてたんですよね。

——自分に「生きるぞ」と言い聞かせないと生きていけないような精神状態というか。

**船木** そうなんですよ！ そのぐらい切羽詰まってたんですね、あの頃は。そう考えると危ない状況ですよね。でも、そんな悩みを後輩には言えないし、社員にも弱みは見せられない。しかも、会社の運命が自分の肩にかかってるんであれば、どっかで孤独になっていきますよね。そのあと「日本最後の砦」とか言われて、俺みたいなのが砦でいいのかと思ったり。でも、やらなきゃいけなかったり。

——じゃあ、いまは「生きるぞ」と言い聞かせなくても生きていけるって感じですか？

**船木** はい。いま自分は生きてますし、これからも生きていきますから。「生きるぞ！」みたいな言葉は頭に浮かばなかったですね。とにかく嬉しいって感覚が大きくて。勝つって、こんなにも嬉しいんだって、初めて気づいたような感じですね。

——船木さんほどのベテランが、初めて勝つ喜びを知りましたか。

**船木** 昔は勝っても「ああ、役目をはたせた」っていうだけの感じでしたね。だから今回、「勝った！ 嬉しい！」っていう感覚にビックリもしました。ホントに嬉しかったんですよ。

——試合後、マイクを握ったとき、涙も見せていましたよね。

**船木** あれは周りの雰囲気というか、お客が自分を祝福してくれてるのが凄くわかったんですよ。やっとファンと一体になれたっていうか。俺も嬉しい、お客も嬉しいっていう感覚は、人生で初めてかもしれないですね。

——15歳でデビューしてから、初めてファンと正常な関係になれた感じですか。

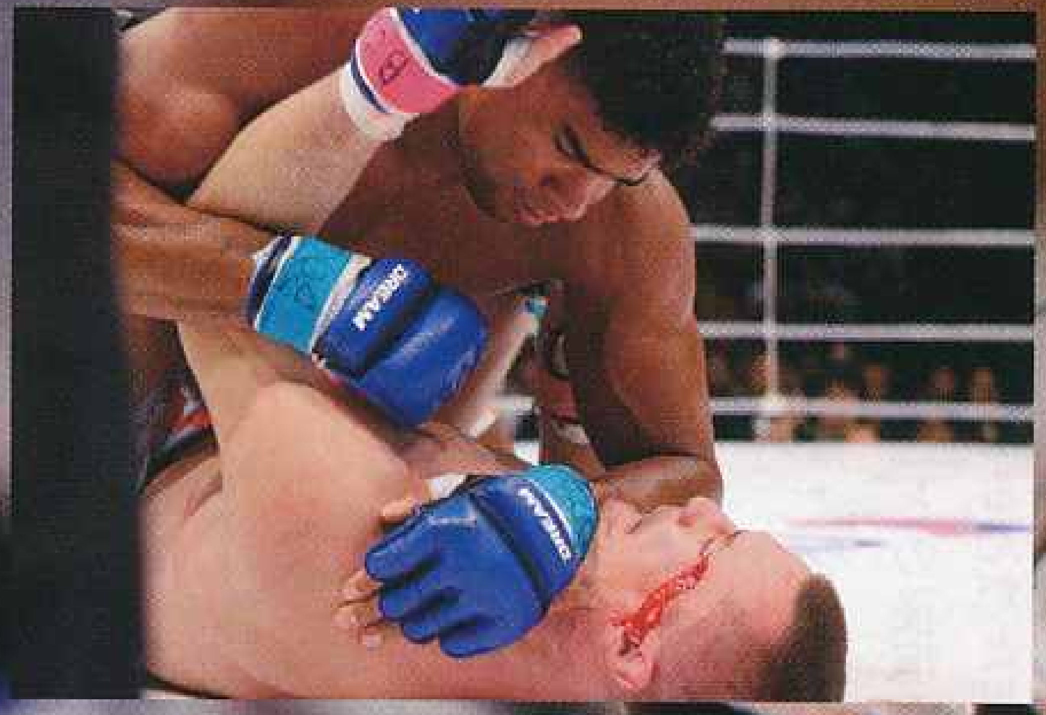
**船木** そうですね。パンクラス末期は応援されても「苦しいのは俺だけなんだよ。おまえたちは知らないでしょ、この苦しさを」みたいな感じでしたから。昔は握手会とかサイン会も凄く嫌いだったんですけど、ファイターはファンに夢を売らなきゃいけないって、やっとわかった気がします。このファンとの関係を崩したくないですね。やっと正常な関係になれたんで、もうこのまま続けていきたいです。俺は必要とされなくなるまで闘い続けるつもりですから。

【08年9月24日／都内・某ホテルにて収録】





試合前、"宿敵"ヒョードルから花束を受け取り、笑顔を見せたミルコ。かつてのミルコなら試合前に笑顔を見せることなど考えられなかったが……。



血を流しながら、アリスターの猛攻をガードポジションで必死に耐える姿は、UFCでのガブリエル・"ナパオン"・ゴンザガ戦をイヤでも思い出させた。



3度の金的蹴りに苦悶の表情を見せるミルコ。"技"で受けたダメージではないが、ミルコのこうした弱々しい姿は、やはりファンにショックを与えた。

## 7月に手術をしたヒザは万全ではなかった

圧倒的現実。

かつてPRIDEでたびたび使われたこのフレーズ。

ファンに巨大な期待を抱かせながら、それを残酷なまでに裏切る現実をありのままに見せる。PRIDEとはそのことで逆に求心力を増していったイベントだ。

そして、その圧倒的な現実を見せつけられ、マットに這いつくばりながら、そのたびに立ち上がり、カリスマ性をえていったのがミルコ・クロコップであることは、数年来のファンならご存知のことだろう。

しかし、今回のミルコは往年の強さを見せるどころか、敗れることで求心力を増す、圧倒的現実すら見せることができなかった。

アリスター・オーフレイムの圧力にスタンドでうしろに下がり、寝技に持ち込まれるとパウンドの雨をクローズドガードで、やっとの思いでしのぐ。そして、苦しげな表情を終始浮かべたまま、金的へヒザ蹴りを計3回もらってしまい、試合続行不可能のノーコンテスト。

そこにあったのは、敗北すらドラマとして自らの糧としたかつてのミルコの姿はなく、あるのは若さの勢いに往年のスター選手が飲み込まれていくような悲しき現実だけだった——。

ミルコにとって今回のアリスター戦は、まさに背水の陣だった。UFCで2連敗を喫し、出直しのため日本マット復帰。流れの速いMMA界では、結果次第では、ミルコですら過去の人になりかねないという現実があった。その一方で、祖国クロアチアはEU加盟を控え、ミルコには大きなビジネスが次々と舞い込んでおり、全権代理人の今井賢一氏からは「満足いく試合ができなかったら、もうやめよう」と、進退の決断も迫られた。

そんな中で復活を期したミルコは、アリスター戦に向けてオランダのボスジムへ出稽古に行き、打撃勘とハングリー精神を取り戻すのに必死になっていた。しかし、残念ながらそれは試合で実を結ぶことはなかった。

その大きな要因の一つは、やはりケガというものがあっただろう。ミルコ自身はケガのことを一切口にしていないが、7月に手術をしたヒザの状態が、まだ万全にはほど遠い状態だった。ミルコが両ヒザに巨大なサポーターをしているのに気づいた人も多いと思うが、これは片方のヒザがサポーターなしでは闘えない状態のミルコが、対戦相手へのカモフラージュのため、両ヒザにサポーターを着けていたのだ。

寝技になったとき、なぜかミルコは蹴り上げてスタンドに戻らず、ずっとクローズドガードのままでいた。ミルコは本来、あのヒョードルのパウンドを防ぐほどガードポジションの攻防には自信を持っている選手だ。それがアリスターにパウンドを打たれるままになってしまったのは、やはりヒザが影響していたのである。

それ以外にもヒザに力が入らない



[08.9.23 DREAM.6]
埼玉・さいたまスーパーアリーナ
**ミルコ・クロコップ vs アリスター・オーフレイム**
（1R 6分9秒　ノーコンテスト）

アリスターによる再三の挑発により実現したこの一戦。体格に勝るアリスターは序盤から積極的に前に出てプレッシャーをかけ、グラウンドで上になり試合を優位に進めていく。しかし、スタンドの差し合いからアリスターのヒザ蹴りがミルコの急所に二度入り中断。そこから再開するも再び急所にヒザが入り、ミルコは試合続行不可能。ノーコンテストとなってしまった。

# よみがえれず 死にきれなかった ミルコ・クロコップ

## 「このままじゃ終われない 大晦日にもう一度やらせてくれ」

**切ない試合だった。UFCでの2連敗後、日本で出直しを図り、再起を期して背水の陣で臨んだアリスター・オーフレイム戦。しかし、結果はミルコがいいところをほとんど見せぬまま、3度にわたるアリスターの金的蹴りにより、ノーコンテストとなってしまった。はたしてミルコはもう終わってしまうのか……。**

文／堀江ガンツ　撮影／乾晋也

ため、スタンドでバランスを崩して転んだり、ハイキックも踏み込めずにキャッチされたりと、信じられないシーンが次々と見られた。

ヒザのケガ以外にも、ミルコはヒジのケガで6月のハレック・グレイシー戦（グラップリングマッチ）をキャンセルしている。ただでさえ、ブランクがあるのに、ミルコは約3カ月間にわたって、満足のいくトレーニングができなかったのだ。

そんな苦しい展開の中、必死のクリンチワークの中でアリスターのヒザ蹴りが都合3回急所に入ってしまう。そのたびに悶絶するミルコ。急所を蹴られたとはいえ、その弱々しい姿は、かつてのミルコを知る者にとっては、観たくないものだった。

そして、3度にわたる金的蹴りのダメージにより、試合続行不可能となり、不完全燃焼のまま試合終了。ミルコが背水の陣で臨んだ一戦は、よみがえることも死ぬこともできない結果に終わってしまった。

試合後、病院に直行したとき、ミルコの睾丸は大腿部の付け根にめり込んでおり、大量の血尿が出たという。とても試合が続けられるような状況ではない。

しかし、観客の目に映ったのは、終始、苦しい展開を強いられたミルコの姿。金的蹴りがあったとはいえ、内容的には完敗。光明が見えないその闘いぶりは、ミルコの終焉をいやがおうにも感じさせるものだった。

そんな中で、一つ光明があるとすれば、それはミルコにまだ負けん気、そして立ち上がろうという気迫が残っているということだ。

思い起こせば、06年のPRIDE無差別級GPに優勝したミルコだったが、その前はどん底だった。己の格闘家人生のすべてを懸けたヒョードル戦に敗れ、マーク・ハントにも判定負けを喫した。

もはやミルコもこれまでか。そう多くの人が思った中で開幕した無差別級GPで決勝戦まで勝ち上がったミルコは、恐ろしいまでの集中力を発揮し、シウバ、ジョシュを連続KOで破り、ついにPRIDEのベルトを腰に巻いたのだ。

はたして地獄からよみがえった鬼神ミルコを我々はもう一度観ることはできるのだろうか。

帰国前のミルコに短いコメントがもらえたので、最後にそれを伝えておこう。

「今回は金的蹴りでノーコンテストになってしまったが、俺ももともとはキックボクサー。金的を蹴られるなんてこと事体が恥ずかしいことだとはわかっている。結果はノーコンテストでも、闘えなくなったのは俺のほうなのだから、ケンカでは俺の負けだ。だからこそ、アリスターにリベンジしたい。もう一度、鍛え直して大晦日に決着をつける。このままじゃ終われない」

この発言を受け、全権代理人の今井氏は、とりあえずこの試合での引退勧告はしないことを決めたという。しかし、ミルコがさらに厳しい状況に立たされたことは間違いない。

今年の大晦日、アリスターとの決着戦は実現するのか。もし実現したら、それはミルコにとって今後の運命を決める一戦になるに違いない。




『DREAM.6』視聴率9パーセント、
秋山vs吉田問題、
大晦日での目玉カードetc……

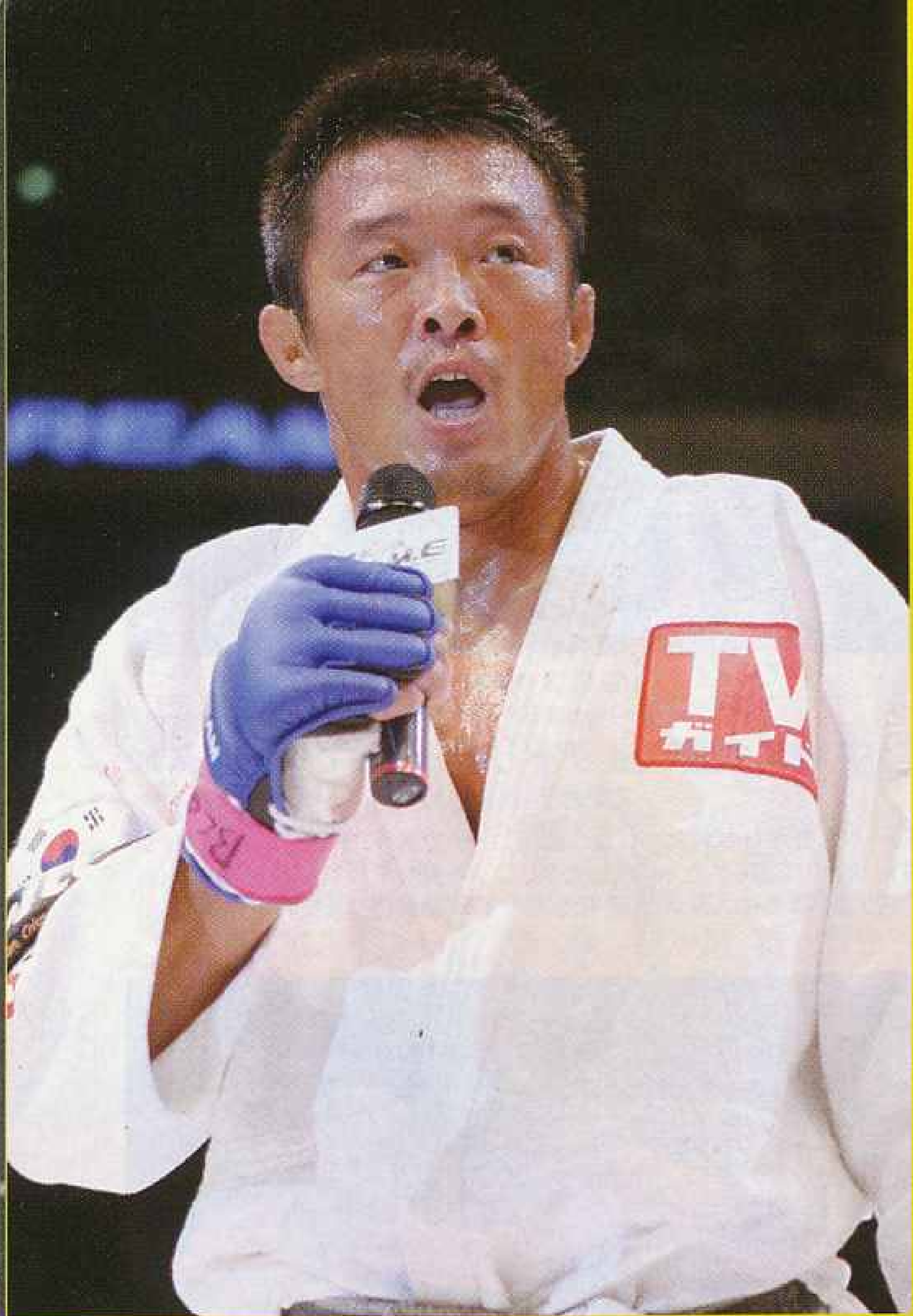
# どうするサダハルンバ

FEG代表

# 谷川貞治

んあ〜。マット界がピンチだよ〜！　などということは、本誌No.127のサダハルンバインタビューで語られているとおりだが、『DREAM.6』の大会を受けて、視聴率、秋山成勲、大晦日に向けての大仕掛けなどなど、またまた問題は山積み状態に。いったいマット界に秘策はあるのか。今回も『DREAM.6』直後にサダハルンバに直撃した！

聞き手／ジャン斉藤 撮影／菊池茂夫 試合写真／乾晋也



「吉田さん、受けてくれますよね」とリング上で大晦日の対戦相手に吉田秀彦を指名した秋山成勲。『戦極』の"象徴"に対戦をアピールしたということの真意はいったいどこにあるのだろうか……!?

―いきなりですけど、昨日の『DREAM.6』の視聴率は出たんでしょうか？（視聴率が発表される会見直前のインタビュー収録）。

**谷川** ……出たよぉ（憂鬱な表情で）。

―イヤな表情ですねぇ。なんだか聞きたくなくなってきた（笑）。

**谷川** コッチだってもう言いたくもないよ！　教えな～い!!（苦虫を噛み潰した表情で）。

―もしかして事前の予想を下回る数字だったんですか？

**谷川** ……大きく下回ったねぇ。いいよ、視聴率の話は！　そもそもDREAMは触ってないし、陰から見守ってるだけだからさあ。

―またまたぁ。

**谷川** ホントだって。そんなことより、ケーキでも食べようよ。もうやけ食いだぁ!!

―佐伯さんじゃないんですから（笑）。じゃあ昨日の感想からおうがいします。

**谷川** 逆にどうだった？

―そうですねぇ。ボクは3つのポイントがあると思うんですよ。まず視聴率はどうだったのかということ。極端なことを言いますと、いまの格闘技をとりまく状況からすれば、数字が高ければべつになんだっていいわけじゃないですか。でも、視聴率の評価は……、ダメだったのかなあと。

**谷川** ああ、ケーキがおいしいなあ（遠い目で）。

―で、もう一つは大晦日に向けてのデモンストレーションとしてはどうだったのか？　と。残りの一つはDREAMとしての世界観はどうだったのか？　でも今回は、これまでのDREAMとまったく違ったイベントに見えてしまったというか。

**谷川** なんでだろうねぇ。

―大晦日を見据えたりして詰め込みすぎたところがあったせいか、やりたいことがちょっとよくわからなかったように見えました。前回まではライト級GPが軸になってたんですけど、それが終わって何が始まるのかといえば、ハッキリしたものは見えづらかったというか。

**谷川** なるほどねぇ。視聴率とDREAMと大晦日がポイントね。

―その3つを一つのイベントの中でまとめ合わせるのも大変な作業なんですが。谷川さんの感想はいかがでしょう？

**谷川** DREAMの感想？

―ほかになんの感想があるんですか！　まさかこのイチゴケーキのお味でも？

**谷川** いやあ、船木（誠勝）選手が勝ってよかったなあって。その一言につきるけどね。

―谷川さんも会場でもうれしそうに拍手されてましたもんね。

**谷川** あとはアンドリュース・ナカハラが凄くよかったこと。ボクが復活させた船木選手と、ボクが連れてきたアンドリュースが大活躍！

―「わしが育てた！」の星野（仙一）監督じゃないんですから。

**谷川** その二点が自分的には凄く大満足だなあ。真面目な話、ホントにそれぞれの試合はそんなに悪くはなかったけどね。中には「この試合ってホントに必要だったのかな？」っていう内容の試合もあったけど。質で言えば、やっぱりリザーバーを含めたミドル級GPはよかったねぇ。あれは笹原くんたちがやってるDREAMの世界なんだなって感じがしました。

―そこに桜庭和志だったり秋山成勲がいれば、興行的にもテレビ的にもさらに一味違ったんでしょうね。

**谷川** そうそうそう。そこがまずトーナメントをやっていく中でどうしようもできないというか、非常に残念というか。そのせいか、お客さんがいつものDREAMに比べて熱がなかったよね。ライト級GP決勝の宇野vs青木や川尻vsアルバレスのときなんて、ファンが祈るように見守る雰囲気もあったじゃない？

―ミドル級の4人もみんな強いし、それぞれ個性もあるんですけど。

**谷川** それと一にも二にも秋山くんの対戦相手の問題でもあると思うけどね。

## 一にも二にも秋山くんの対戦相手の問題でもあると思うけどね

―ああ、もの凄く脱力しましたね、今回のマッチメイクは。

**谷川** それと（マイティ・）モーがケガしちゃったこと。その二つが大会の緊張感をそいじゃった。あとは大晦日の煽りでいうと、笹原くんたちがやるとこうなるんだなって。ボクって黒魔術に見えて、あんまりああいう煽りをしないんだよね。

―今回は「いざ大晦日！」というアピールがところどころで見えました。

**谷川** サクちゃんが田村戦をアピールし、所くんが勝てばKIDに突っかかれる場面がもしかしたらあったかも。それがなくなっちゃった。

―ある意味ハリトーノフもそうですね。モーとやって勝っていたらまた展開は違っていたかもしれないです。

**谷川** そうだね。で、秋山くんが吉田（秀彦）選手とやりたいとマイクで言ったけど、これはDREAMの流れではないよね。秋山くんのスタンドプレー。それから同じスタンドプレーのように見えるけど、青木くんのアピールはおもしろいんじゃないですか？　発言といい姿勢といいDREAMの流れになっている。ボクは観たいですよ、青木vs秋山戦。

―階級は違いますけど、話の筋としてはおもしろがれますね。

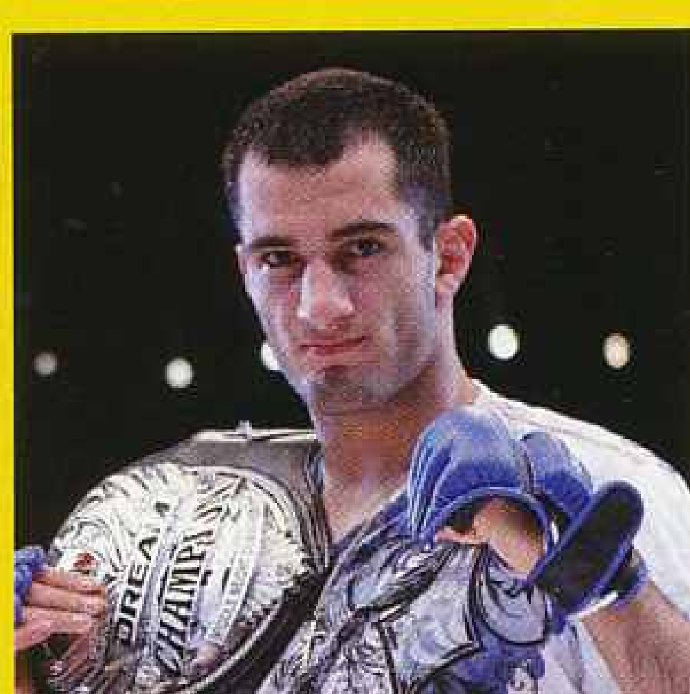
**谷川** バダ・ハリもめちゃくちゃマイクアピールはうまいんだけど、方




突然にも秋山に対戦表明された吉田秀彦。秋山本人の中では、きっと先輩であり金メダリストに挑戦し、栄光を手に入れたいというわかりやすいストーリーができているのであろう。



名実ともにDREAMの柱になろうとしている青木からすると、「日本人がなさけない」などと言ってのける秋山の言動が許せないのは想像に易い。心理戦としても最も気になる対戦だ。



ミドル級GPを欠場した秋山にとって、GP優勝者と対戦することは、もはや"義務"とも言える。『DREAM.6』後の翌日会見では、ムサシ自身もひそかに秋山に対戦を表明している。

向を間違ったね〜。
——一塁への牽制球なのに160キロの豪速球を投げてる感じで（笑）。
**谷川**　要するに「K−1ルールでやろう」ってアピールしたことが失敗だったよね。誰でもかかってこいでいいし、そんなにつまんない試合やりやがってでもいいのに。「だからK−1ルールで闘え！」って言われても、「はあ？」って感じじゃない。そこが彼のもったいないところだった。バダ・ハリといえども空気が読めてなかったね。
——煽り方はよかったんですけど。
**谷川**　そう考えると間違ってなかったのは青木くんだけかなあ。秋山くんはインパクトはあったけど、スタンドプレーだし。大晦日の煽りという意味では、DREAM全体としては突き抜けられなかったよねぇ。
——お客さんの緊張感をそいだというところで秋山選手の話が出ましたけど、いまの秋山選手のマッチメイクの方向性というのは谷川さんとしては本意なんですか？
**谷川**　それは不本意ですよ。うん。
——またまたぁ。谷川さん、正直に生きましょう！
**谷川**　んあ〜！　ホントだって！　やっぱり吉田（秀彦）選手がなぜPRIDEのファンに受け入れられたかというと、やっぱりヴァンダレイ・シウバやミルコ・クロコップとか、危険な相手に突っ込んでいったからでしょう。
——そこには「オレが闘うことで興行が成り立つ！」というプロ意識もあったわけですよね。
**谷川**　そうそう。秋山くんはそういう試合をまだDREAMで一回もやってないから。ボクが知ってる中ではデニス・カーン戦ぐらいだよね。でも、あの試合ですらイベントを背負ってたわけじゃないんですよ。自分しか背負ってない。桜庭戦での騒動があって、どうしようもない状況に追い込まれて、デニスとやらざるをえないところにもってかれたわけだから。
——どちらかというと、みそぎマッチという意味合いはありました。
**谷川**　やっぱり秋山選手の珠玉の試合は、デニス・カーンとメルヴィン・マヌーフの試合でしょ。ああいうヤバイ相手に突っ込んでいったときにベビーターンすると思うんだよ、勝ち負け関係なくね。だから秋山くんは、今回のベスト4ファイター、それとメイヘムなんかと闘うとおもしろくなるだろうね。
——今回はそういうマッチメイクを期待してたんですけどね。
**谷川**　そこに突っ込んでいったときに、ファンは秋山成勲というファイターに乗れると思うよ。そこは吉田選手じゃないとボクは思うんですよ。
——いまの「アイム・アキヤマ！」路線というのは、魔王本人の意向なんですか？
**谷川**　本人の意向でしょ、それは。だって笹原くんたちはそういうカードは組まないもん。
——笹原EPも本意じゃないでしょうね。
**谷川**　笹原くんたちは厳しいからねぇ。ボクからするとね、船木選手の相手がミノワマンだっていうのも厳しいと思うもんね。勝ったからよかったけど、厳しいなあって。ボクだったらプレイボーイ（ユーリー〝プレイボーイ〟キセリオ）とか当てるけどね!!
——胸を張らないでください（笑）。
**谷川**　基本的に笹原くんたちってそういう博打的なカードを組むじゃない。もちろん所くんに対してだって厳しいよね。でも、所くんはそういう路線にちゃんと乗っかって闘ってるからファンの支持を得ていると思うんですよ。逆に秋山くんはそこに乗ろうとしてないもんね。
——今回、秋山選手が吉田選手の名前を出したときに、谷川さんがリングサイドでビックリしてたっていう話を聞いたんですけど。
**谷川**　ボクは吉田選手の名前を言うと思ってなかったから。言うとしても何人かの名前を挙げると思ってた。
——ということは、『戦極』サイドとはそういうお話しはしてなかったということですか？
**谷川**　まったく敵対してるわけじゃないし、いつでも話をできる環境にはあるとは思うんですけど、そういう具体的なことは何も話してないですね。もう秋山vs吉田戦に関しては、一にも二にも吉田選手の意思次第でしょ。それは去年も試みた話なので。
——でも、『戦極』はお正月興行を控えてますから。吉田選手がそれを蹴って大晦日に出るかといえば……。
**谷川**　難しいだろうねぇ。だから秋山くんのスタンドプレーなんですよ。
——あのマイクを聞いてピンときたのは、吉田秀彦との試合ができないんだったら、VIP扱いをしないのなら、『戦極』に行っちゃうよっていう魔王の駆け引きじゃないのかなって。そこはどうですか？
**谷川**　いや、それはないと思うんだけど、それはないというか……どうなんだろ？
——どうなんですか？（笑）。



［08.9.28 DREAM.6］
埼玉・さいたまスーパーアリーナ
**◯中村K太郎 vs アドリアーノ・マルチンス×**
（2R終了 判定2-1）
チョークが売りの中村と、KIDの柔術コーチであるアドリアーノだけに、寝技対決として煽られた一戦だったが、フタを開けてみれば終始驚くぐらいのスタンド勝負に。両者決定打も出せず時間が経つまま判定決着に。



［08.9.28 DREAM.6］
埼玉・さいたまスーパーアリーナ
**◯セルゲイ・ハリトーノフ vs ジミー・アンブリッツ×**
（1R 2分15秒 KO）
マイティ・モーのケガにより、急きょアメフト出身のジミーとの対戦となったハリトーノフ。“殺し”のある一戦に期待が集まったが、試合はハリトーノフがジミーのボディ、顔面へボコボコとパンチを打ち込みほどなくKO決着に。



［08.9.28 DREAM.6］
埼玉・さいたまスーパーアリーナ
**◯山本篤 vs 所英男×**
（2R終了 判定3-0）
KIDの一番弟子として所戦に挑んだ山本篤。序盤の一発で所をダウンさせ、判定勝利を勝ち取った。「Road to KID」の目標を掲げていた所の夢は一旦途絶えたが、続きのストーリーに期待できる一戦となった。



［08.9.28 DREAM.6］
埼玉・さいたまスーパーアリーナ
**◯桜井“マッハ”速人 vs 弘中邦佳×**
（2R終了 判定3-0）
5月修斗でのデビット・バロン戦敗戦以来の復帰戦となったマッハ。弘中にとっては下克上のおいしい一戦だが、終盤はマッハが弘中に強烈なヒザを打ち込むなど暴れてみせ、判定決着に。両者決め手を欠いた試合となった。

## 突き抜けるために何が必要かというと、ありえないけど……

**谷川**　ぶっちゃけ、そういう気があるんだったら、それはあったっていいけどね（このインタビューは秋山から「吉田先輩と闘えるんだったら、どこのリングでもかまわない」という主旨のコメントが発せられた会見直前に収録したもの。この秋山の発言を聞いてサダハルンバがどう思ったかは、ご自由にご想像ください）。確かに選手個人の思いというのは、非常に大切だと思うんですけど、それと同時にジャンルやイベントを背負う意識の高い選手じゃないとファンはつかないですよ。吉田選手と闘いたいから『戦極』に行ったとして、それによって秋山くんの人気が上がったりファンがつくとは思わないけどなあ。

——そうですよね。ところで昨日のDREAMで〝イベントを背負う〟意識があったのは誰ですか？

**谷川**　そうだねぇ。青木くんと所くんくらいじゃない。

——所選手も途中で交通事故に遭いながらも3試合連続でキツイ相手と闘ってるし、青木真也も半年間で6試合目。

**谷川**　やっぱりね、ただ強い、ただ勝っただけじゃダメなんだよ。そこで我々は選手のプロ意識に甘えすぎてもいけないんだけど、そういう姿勢の選手じゃないとファンはつかないし、イベントは盛り上がらない。だから所くんって今回は負けたけど、価値は落ちてないと思うんですよ、全然。

——そうですね。そして、まだまだ本調子じゃないからイベントを背負うところまで戻れてない選手もいるじゃないですか。ミルコとか。

**谷川**　ミルコはどうなるんだろうねぇ。ミルコとかハントは最前線に戻ってくるのにちょっと時間がかかると思う。逆に言うと、イベント側はハントとかミルコに頼っていたらいけないってことだよ。ファンは期待して待っていいと思うんだけど、主催者はへんにアテにすることなくやっていかなきゃいけない。

——いまの秋山成勲というファイターには、いまこそジャンルや団体を背負える力量があると思いませんか？

**谷川**　うん、完全に脂が乗ってるしね。秋山くんはできるし、秋山こそそういう存在になれる一番のタマですからねぇ。サクちゃんがなぜああいう絶大な人気や信頼があったかというと、やっぱりPRIDEを背負って毎回毎回キツイ相手とやってきたからで。秋山くんがもしその感覚がわかったら、日本でも凄い人気者になるんだけどねぇ。

——かといって、あまり口外したくない数字（視聴率）を獲ってしまった中で、数字の要である魔王とミドル級ベスト4の対戦は、格闘技ファンには歓迎されこそ、対世間を考えるとどうなんでしょうか？

**谷川**　いや、そこはわからないですよ。対世間で考えるときに、いまの既存の選手たちの組み合わせでは突き抜けることはちょっと難しいと思います。もちろん吉田選手vs秋山の試合をやればいい数字を獲るし、それなりに反響もあるんだろうけど、それでも突き抜けないでしょ。たぶん。

——世間は突き抜けられない。

**谷川**　いま突き抜けるのはやっぱり亀田とか、朝青龍とか、石井（慧）選手とか、そういう人たちしか突き抜けられないですよ。でも、何かが伝わる試合でいえば、去年の三崎vs秋山みたいな試合だと思う。



［08.9.28 DREAM.6］
埼玉・さいたまスーパーアリーナ
**○秋山成勲 vs 外岡真徳×**
（1R 6分26秒 腕ひしぎ十字固め）

入場時からいつもと同じくブーイングを受けながらリングインした秋山だが、極真の外岡からは華麗な腕十字で一本奪取。しかし、今回の“意表を突かれた”カード発表も手伝ったのか、どこかもの足りなさが感じられる一戦に。

——よくわからないけど、なんだか凄いっていう。あれは伝わりますね。

**谷川**　それに正直言って、いまの世間が、秋山vsジャカレイと、秋山vs吉田選手。どちらでヒリヒリしてくるのかというのはちょっとわからないですね、現段階では。昔だったら圧倒的に秋山vs吉田なんだけど、いまは本当に微妙な時期なんですよ。

——でも、秋山vs吉田のほうが世間はわかりやすいんじゃないかという期待感はありませんか？

**谷川**　それはあるんだけど、いまの世間はどうなんだろう？っていう頭もある。世間も多様になってますから、そこは難しいですよ。だから、突き抜けるためには何が必要かといえば、ありえないけど秋山vs亀田とか秋山vs朝青龍、もしくは去年の三崎vs秋山みたいな試合だろうね。

——いまのお話を聞くと、秋山vs吉田戦というのはFEGとしてはあまり積極的じゃなさそうですね。

**谷川**　いやいや、そんなことはないですよ。ホントに笹原くんの言うとおりだと思うんですけど、あの秋山くんのアピールを聞いたファンが望むんだったらやんなきゃいけないっていうか。

——話は変わりますが、視聴率が不振に終わったことでDREAM危機説というのが再燃しそうです。

**谷川**　だから『kamipro』が悪いんだよ～！　ボクの発言を誤解を招くように載っけるから。

——はっはー。マット界を考えるためなら、誤解と汚名は甘んじて受けさせていただきます（笑）。

**谷川**　まあ、PRIDEがなくなったときから業界的には危機なんですけど、まだそれが続いてるって感じですよね。でもDREAMがなくなるということはない。それは絶対にない。ないよ。

——あ、3回も言いました。確かに聞きました（笑）。

**谷川**　それは誤解を解かないといけないし、誤解されないようにしないといけないけど、（DREAMが）なくなるということは絶対にない。そこは声を大にして言いますよ。ただ、どんな商売でもそうだけど、結果を出していかないとどんどん環境が悪くなっていくよ。だから本当に団体を背負ってバリバリにやってくれるような、かつてのサクちゃんとかグレイシーのような存在が必要ですよね。ボクらも世間と闘いながらファンが望んでるものを見ながらマッチメイクしないといけないんだけど。

——そういう意味で昨日は地に足がついてない感じがしたんですね。

**谷川**　ピリッとしたカードが組めて、大晦日に向けて明るい結果が一つでもあればよかったんだけど。所くんやミルコがしっかりと勝ったりさ。ボクが思うに、オリンピックの影響ってけっこう大きいよね。たとえば昨日のDREAMにしても、オンエア的に見たら悪くないと思うんですよ。所の試合から始まって、ミドル級の準決勝も悪くないし、青木や秋山、船木もわかりやすい試合だった。内容は盛りだくさんだと思うんですけど、たぶん対世間からいうと、何をやってるかわからないと思うんだよね。

——つまり、試合の意味合いを視聴者が見出しづらいということですか？

**谷川**　そうそう。格闘技よりもわかりづらいルールのレスリングとか柔

道の試合であっても、やっぱり金メダル獲得という目標があるから、へんな話、ヤラワちゃんの試合でどう決まったのかわからない僅差の試合でも、燃えてしまうケースってあるじゃない。それがDREAMにはないような気がするね。内容は決して悪くないと思いますよ。でも、勝ったら何があるのかという目線がオリンピックで慣れちゃってるから。世界のトップクラスと愛ちゃん（福原愛）が試合するとこうなるんだとか、凄くわかりやすいじゃない。卓球は中国が強いなあとか。それは弁慶にせよ、ジャカレイにせよ「どこが何が強いんだろう?」っていう話になるし、格闘技ファンでさえ、テーマがわかりにくい試合があったわけだから。

――現在のMMAのレベルからすると、いろいろ言われがちですけど、船木vsミノワマンのほうがテーマはわかりやすいですよね。

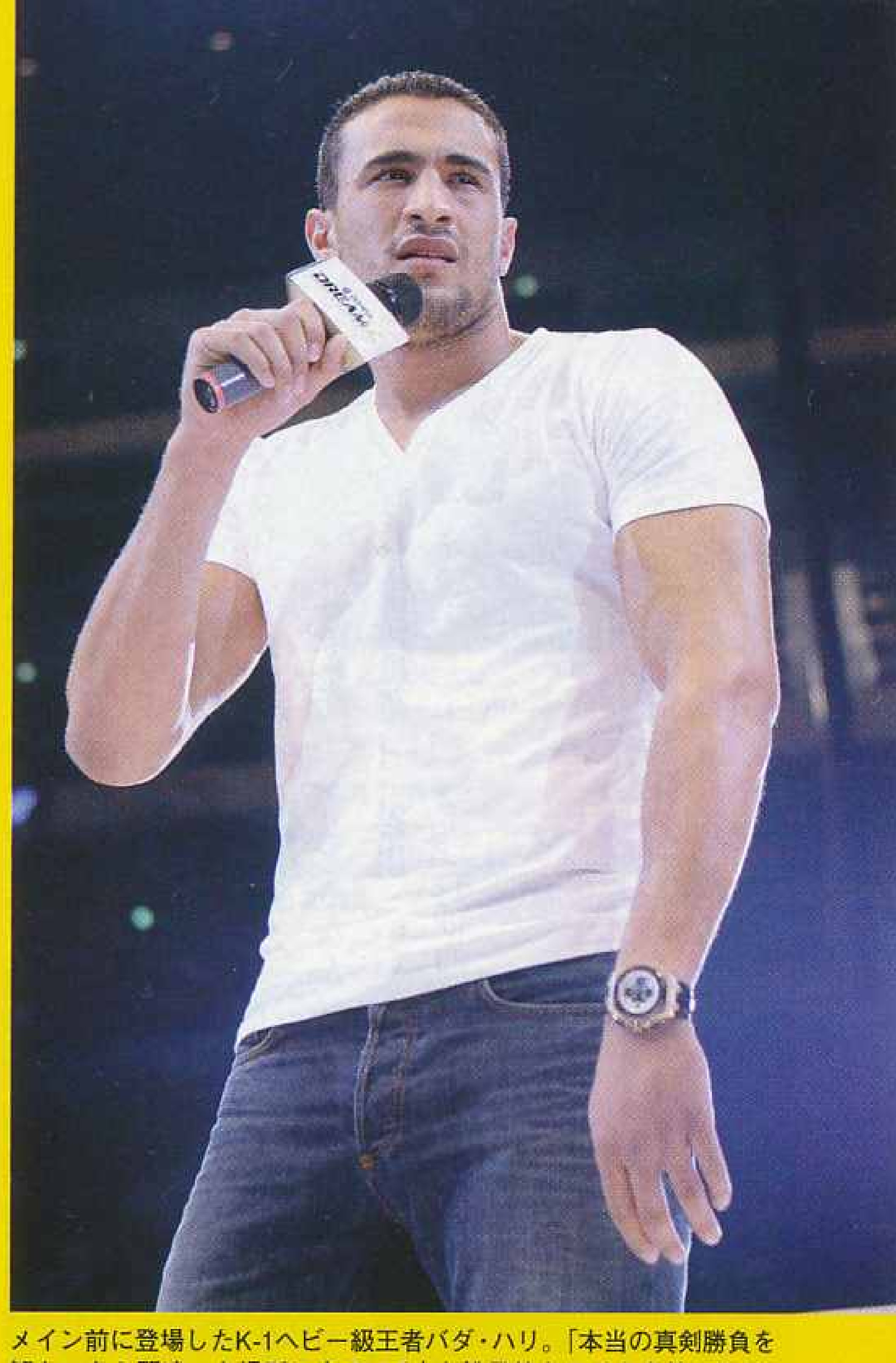
**谷川**　あれがダントツでわかりやすいよね。あとはKID戦が懸かった所vs山本篤。でも、それでさえ世間からすると意味があまりわからないだろうなって。所くんの試合なんて、内容も悪くないんだよ。

――前回の青木vs宇野戦も屈指の名勝負でしたけど、世間には届きづらかったわけですもんね。

**谷川**　だから、つまらない・おもしろいという評価以前の問題なんだよ。いまの格闘技はそこまで到達していない。たとえば今度のK－1MAXなんかはわかりやすい図式ができていて、魔裂斗が初めて日本人に負けそうっていう見方ができるじゃない。

――それにMAXは事実上、1階級しかないからよけいにわかりやすいですね。昨日のDREAMなんて5階級にわたってやってますし。

**谷川**　そうなるとわかりにくいよね。オリンピックみたいなのがあると、本当に世間の人は深く手を伸ばそうとしない。よっぽど奥が深いものじゃないと見えてこない。で、奥が深い格闘技というのは昔に見てるからね、PRIDEという最高のものを。だから来年のDREAMは基本的なベースをちゃんと持たないといけないよね。今回は振り子でいうと、ちょっと中途半端というか、どっちにも振り切れていないところはある。オリンピックみたいにわかりやすい仕組みを作らないとダメなんじゃないかな。



メイン前に登場したK-1ヘビー級王者バダ・ハリ。「本当の真剣勝負を観たいなら間違った場所に来ている」と挑発的なマイクを放ったが、DREAMファンの前にこのコメントでブーイングを浴びてしまった。

## 大晦日はたぶんさいたまでK－1とDREAMの2部構成になる

――その前に大晦日決戦があります。『Dynamite!!』と『やれんのか!』の二元中継ですか?

**谷川**　会場がないからねぇ。

――『やれんのか!』がさいたまで、『Dynamite!!』は有明コロシアムや名古屋レインボーホールという噂は挙がってます。

**谷川**　いや、たぶんさいたまの2部形式に分かれるんじゃないかなぁ。大会の全体名は『Dynamite!!』であるのは間違いないけど、K－1とDREAMの2部制になりそうだね。いずれにせよ、視聴率は驚くような結果を残さないとダメだなって。

――では、そろそろ今回の数字の発表をお願いします（笑）。

**谷川**　視聴率はですね、やっちゃった9パーセントですね。

――なるほど。厳しいですねぇ。

**谷川**　でも、ほかもよくないんだよなあ、『世にも奇妙な物語』で13、『踊る踊る踊る!さんま御殿!!SP』で16、ナイナイが11。

――もうテレビ自体を観てないんですね。

**谷川**　でも、今回のDREAMで一番悔しかったのって前日企画した石井くんとヒョードルの顔合わせですよ。当日の2時間前にキャンセルって、斉藤（仁）監督もOKだったのに。あれがあったら全然違うよ、ムードが。

――あの顔合わせをやるって聞いたときに、きっと谷川さんのことだから、テレビの冒頭から延々と石井とヒョードルの会見模様を流すんだろうなって。

**谷川**　そんなことはないよ！　そこはやっぱり試合優先だからさ。せいぜい流しても30分くらいだよ～。冗談だけど（笑）。

――んあ～！　いや、冗談には聞こえません！

**谷川**　ああ、こういうことを言うから誤解されるんだろうなあ。

**【08年9月24日／都内・某ホテルにて収録】**

今回のインタビューで気になったのは、いまのサダハルンバが注目しているのは、秋山vs吉田という「世間へのわかりやすさ」をもったカードではなく、かつての秋山vs三崎戦のような「世間にはわかりづらいけど、それでも凄さが伝わる」試合だということだ。

わかりやすさだけを追求すれば、そのうちに重さを失なう。重さだけを求めれば、やっぱり暗い世界へと沈んでいってしまう。

いまの秋山成勲には、その「重さ」に耐えられる力を持っているのに。暗い世界に沈むことなく、“闘いの魅力”をわかりやすく伝えられるはずなのに。それこそが秋山が本当に越えなければならない“壁”じゃないのだろうか。んあ～。

**kamiproHandアンケート**

### Q DREAM.6のベストバウトは?

| | |
|---|---|
| 1 | ゲガール・ムサシ vs ホナウド・ジャカレイ |
| 2 | 船木誠勝 vs ミノワマン |
| 3 | 山本篤 vs 所英男 |
| 4 | ゲガール・ムサシ vs メルヴィン・マヌーフ |
| 5 | 青木真也 vs トッド・ムーア |

やはり優勝者は強い! トップ5の中にムサシの試合が2試合ともランクイン。大歓声に包まれた船木の勝利にも酔いしれたファンは多数。また、この結果から見ると、KID戦を見据えた所vs山本というドラマ性のある試合にも乗ったファンが多かったということだろう。DREAM皆勤賞であるワオ木さんのあいかわらずの強さにも大満足な大会であった。

### Q ワーストバウトは?

| | |
|---|---|
| 1 | ミルコ・クロコップ vs アリスター・オーフレイム |
| 2 | 中村K太郎 vs アドリアーノ・マルチンスン |
| 3 | 秋山成勲 vs 外岡真徳 |
| 4 | 船木誠勝 vs ミノワマン |
| 5 | アンドリュース・ナカハラ vs ユン・ドンシク |

『DREAM.1』以来の試合となったミルコだが、ファンの期待が高かっただけに、2度の金的攻撃による試合続行不可能という結果に不満続出!? 初登場となった中村vsアドリアーノの膠着しがちな試合にも手厳しい評価だ。また、秋山vs外岡の一戦は、試合内容というよりも、この対戦カード自体に対するネガティブイメージが得票につながったということか。

### Q 秋山成勲と闘ってほしい相手は?

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 青木真也 | 38.4% |
| 2 | ゲガール・ムサシ | 23.2% |
| 3 | 吉田秀彦 | 11.1% |
| 4 | 桜庭和志 | 6.5% |
| 5 | その他の選手 | 20.8% |

『DREAM.6』の試合前、試合後の会見で秋山に正面から牙をむいた青木が堂々のトップ! このあたりはさすが『kamipro』読者という感じである。2位にはミドル級GP優勝者のムサシがランクイン。やはり“GP欠席者”の秋山にはトップと闘って、その強さを証明してほしいということか。そのほか、秋山自身が闘いたいと対戦表明した吉田は3位に。



ロシアの総合格闘技は
この人から始まった——

# さようなら パコージンさん

## ロシアン・トップチーム総監督　ウラジミール・パコージン 追悼特集



すでにさまざまな媒体で報道されたとおり、元リングス・ロシア代表にしてロシアン・トップチーム総監督であるウラジミール・パコージンさんが、現地時間9月14日未明、ロシア国内の飛行機墜落事故に巻き込まれ、帰らぬ人となった。91年にリングス・ロシア設立以来、数々の名選手を日本に送り込み、日本とロシアの総合格闘技発展に尽力したパコージンさん。本誌にもたびたび登場し、ユーモアあふれるキャラクターで誰からも愛された氏に哀悼の意を捧げるとともに、その功績を振り返らせていただきたい。



## 友情、人情、そして情熱

# パコージンさんとリングス・ロシアの時代

追悼特集
さようなら パコージンさん

**ソ連崩壊直後からリングス・ロシア代表として、ヴォルク・ハン、エメリヤーエンコ・ヒョードル、セルゲイ・ハリトーノフら強豪選手を総合格闘家としてデビューさせ、日本に登場させたパコージンさん。今回、不慮の事故で亡くなるまで20年近くにわたり、日露の総合格闘技発展に尽力したパコージンさんの功績をここでは振り返ってみよう。**

文／堀江ガンツ

パコージンさんは、現地時間14日、ロシア・ウラル地方のペルミで行なわれるサンボ大会に向かうため、アエロフロート航空のボーイング737型旅客機に搭乗したが、同機が着陸時に炎上墜落。乗員乗客88人全員とともに帰らぬ人となってしまった。

パコージンさんが向かったサンボ大会は、バシーリ・シュバイアという数年前に亡くなったサンボの名選手の名を冠したシュバイア記念杯という大会だったが、このシュバイア、じつはリングスに一度参戦したことがある元リングス・ロシアの選手。94年12月24日、リングス新潟大会に一度だけ出場し、成瀬昌由を下したサンビストだった。

そう、パコージンさんは、元リングス・ロシア選手の記念大会に向かう途中で亡くなったのだ。何か因縁を感じずにはいられない。

パコージンさんが日本の格闘技界と初めて接点を持ったのは、91年。世界サンボ連盟理事にして、のちのリングス審議委員である堀米奉文氏を通じて前田日明がソ連スポーツ省を訪ねたときだった。

このときパコージンさんはスポーツ省の格闘技委員会副委員長であり、堀米氏と親交もあったことから、日本への窓口としてリングス・ロシアの代表職に就くこととなった。

当時はソ連が解体される直前の混乱期。国からの支援金が断たれたスポーツ選手が生活に困窮していた時代であり、そういった旧ソ連のスポーツマンたちを救ったのが、当時旗揚げしたばかりのリングス。日本に旧ソ連の選手を送り込むのは、外貨獲得事業だったのだ。

優秀な選手がほしいリングス、働き口がほしい旧ソ連のスポーツ選手たち。前田日明とパコージンさんは、プロモーターとマネージャーという関係である以前に、リングスという新しいスポーツ、新しいビジネスを築きあげる同志だったのだ。

それはいまのMMAのビジネス構造である強い選手、客を呼べる選手は莫大な金額でプロモーションと契約し、その一方で負けが込んできたら選手が使い捨てされるという、ビジネスライクな関係とはまったく違う世界。

リングス・ロシアとはチーム名ではなく、文字どおりリングスのロシア支部であり、その代表であるパコージンさんは自国選手の利益と同時に、リングス自体の発展に力をつくしてきたのだ。

そんなパコージンさんが、リングスのために最大限に力を発揮したのは、前田日明引退試合の相手として、ロシアの英雄アレキサンダー・カレリンを来日させたときだろう。

グレコローマンレスリング130キロ級オリンピック3連覇。人類最強と呼ばれる男であるカレリンは、リングに上げることはおろか、接触することすら困難なスポーツ界のVIP中のVIPだ。

このロシアの国民的英雄をリングに上げるというのは、いくらお金を積んだとしても不可能と思われた。それが可能となったのは、パコージンさんをはじめとした関係者の尽力があったからにほかならない。

とくにパコージンさんは、元ソ連スポーツ省格闘技委員会の副会長を務めており、サンボのみならず、柔道、そしてレスリングなどにも人脈がある。それら、パコージンさんが長年築いた人脈をフルに活用することなくして、リングスはカレリンと交渉すらできなかったはずだ。

前田vsカレリンが実現したとしても、パコージンさん自身の懐が潤うわけではない。それでもカレリン来日のために奔走したのは、ひとえにリングスのため、ロシアのため、そして前田日明との友情のためだった。



前田日明がいまでも誇りとするリングス・ネットワークとは、国境を越えた人と人の絆で成り立っていたのである。そして、そのネットワークの象徴が、パコージンさんが率いたリングス・ロシアだったのだ。

02年2月、リングスは活動を休止。パコージンさんは闘う場を失なったロシアの選手たちを束ねロシアン・トップチームを結成。PRIDEに新たなる闘いの場を求め、セルゲイ・ハリトーノフをはじめ優秀なロシア人選手たちを送り込んでいったが、ロシア本国では引き続きリングス・ロシアとしての活動を続け、ニコライ・ズーエフが建てた多目的スポーツ施設リングス・スポーツ・コンプレックスでは、「リングス」の大会も開催した。

その第1回の記念大会には「私たちに最初のドアを開けてくれた恩人」と称する前田日明をもちろん招待したのだった。

友情を大切にし、人情に厚く、格闘技に対する情熱にあふれていたパコージンさん。

もし彼がいなかったとしても、遅かれ早かれ優秀なロシア人選手が日本に紹介され、実力を発揮することはあっただろう。

しかし、パコージンさんの情熱。友情をもとにした日本格闘技界との取り組みなくして、リングス・ロシア、ロシアン・トップチームの選手たちが、ここまで日本のファンに愛されることはなかったはずだ。

最後に生前のパコージンさんが、乾杯の挨拶で言っていた言葉で締めたい。


「日本とロシアの真の友情に乾杯!」

再録企画

リングス・ロシア代表&ロシアン・トップチーム総監督

# ウラジミール・パコージン

## ラストインタビュー



# ロシア総合格闘技界の 今日まで そして明日から

9月14日、不慮の事故でお亡くなりになったパコージンさん。本誌でもたびたびインタビューをさせてもらったが、しっかりロングインタビューで話が聞けたのは06年2月が最後。そのときの内容は、旧ソ連末期、リングスを通じて初めて日本格闘技界との接点ができたときから、現在までのロシア総合格闘技界の歩みについてだった。まさに、パコージンさんが歩んできた道こそが、ロシア総合格闘技界の歩み。ここでは、故人をしのび、あらためてその歴史をひも解いてみよう。

聞き手／堀江ガンツ　撮影／乾晋也

# モスクワに70人の候補者を集めてマエダがリングスのオーディションを行なったんだ

――今日はリングス・ロシア誕生から現在のロシアン・トップチームになるまでの歴史についてうかがいたいと思います！

**パコージン** おお、いいテーマだ。すべての事象は歴史の上に成り立っているのだからね。

――それからパコージンさんが何者なのかということにも興味があるので、この機会にぜひお話ししてもらいたいなと（笑）。

**パコージン** べつに怪しい者じゃないよ（笑）。では、私自身の経歴からお話ししよう。私自身、じつは若い頃からサンボとレスリングの選手として活躍しており、大学卒業後、23歳の頃から国有鉄道のサンボおよび柔道の主任トレーナーとして6年間働いていたんだ。そのあとモスクワにある当時ソ連中から優秀な選手が集まる格闘技の学校の校長として4年間務めていた。

――パコージンさんは校長先生だったんですか。なんという学校なんですか？

**パコージン** 「ロシア上級スポーツ技術学校」という学校だね。ここは格闘技を始めたばかりの生徒が集まるのではなく、優秀な選手だけが集まる学校で、自分の技術をさらに磨いて完璧なものにするためにある。格闘技のエリートが集まる学校と言っていいでしょう。

――じゃあ、オリンピック代表選手なんかも多数輩出しているわけですか？

**パコージン** もちろん。とくに柔道、レスリング、サンボについて世界チャンピオンクラスの選手を多数輩出しているよ。名前を出しても日本人はわからないかもしれないが、サルマン・ハシミコフもこの学校の卒業生だよ。

――あ、あの新日本プロレスに来ていたハシミコフが！

**パコージン** そのあと、ソ連時代にあったスポーツ省で仕事をするように依頼を受け、スポーツ省格闘技部門の副委員長というポストに就いた。こういった機関では、オリンピックで金メダルを獲るように推奨していたので、レスリング、柔道、ボクシング、重量挙げ、フェンシングなどが我々の計画の下で実行してきた選手たちなのだが、たとえばオリンピックでソ連が50個のメダルを獲ったとしたら、そのうちの半分は我々が管轄する競技が獲っていた。それぐらいの高い確立で選手を育成していたんだよ。

――当時のソ連はスポーツ選手育成に凄く力を注いでいたんですよね？

**パコージン** そのとおり。当時は国からスポーツへの支援金がたくさんあったんだ。だから、優秀なスポーツマンは、それだけで一生安泰だったんだよ。そして私は、スポーツ省の中でサンボ、柔道、ボクシング、この3部門の責任者として仕事をしていたんだよ。

――要は旧ソ連のスポーツ官僚だったってことですよね。昔から偉い人だったんですね（笑）。

**パコージン** そんなに特別偉かったわけではないが、責任を負うような仕事を多く任されていたので、結果的にそうなったという感じかな。そして90年代からはスポーツ省の中でもとくにサンボを専門として働くようになったんだ。

――そんなパコージンさんが、日本のリングスとビジネスをスタートさせるきっかけはなんだったんですか？

**パコージン** 我々が日本の格闘技界との関係をスタートさせるきっかけとなったのは、私の20年来の友人であるトモユキ・ホリマイ（堀米奉文氏）という日本サンボ連盟の理事がいて、この人物の影響が大変大きい。

――リングスで審議委員長を務められていた堀米奉文さんですね。

**パコージン** そう。彼は非常にプロフェッショナルで、かつ心の優しい尊敬すべき人物だ。彼と初めて会ったのは84年ぐらいだったと思う。当時彼は日本サンボ連盟の代表だったので、その関係でソ連にもよく訪れており、私たちと力を合わせてサンボの普及、発展に尽力してきた同志でもある。そのミスター・ホリマイが90年にマエダ（前田日明）を連れてモスクワにやってきて、「我々が行なう新しいビジネスに協力してほしい」と持ちかけてきたんだ。そのときの提案が「リングス」だった。だから、ホリマイは我々をこのプロ格闘技に導いてくれた恩人であり、我々ロシアン・トップチーム全体にとって〝父〟のような存在だと思っているんだよ。

――古くからロシアスポーツ界とつながりが深い堀米氏の紹介があったからこそ、日本のプロスポーツ界との交流が実現した、と。

**パコージン** そして当時の私はスポーツ省格闘技部門の副委員長として、12のスポーツを担当していて、サンボだけでなく、レスリング、柔道など、あらゆるスポーツマンに精通していたので、私がプロへの窓口を受け持つことになったんだよ。

――当時はソ連からロシアに変わる直前でしたから、国家も絡んだ話だったわけ






リングス黎明期からさまざまなかたちで貢献したパコージンさん。01年8月に行なわれたリングス10周年記念大会では、リングス・ネットワーク各国の代表とともに、その功績をたたえリング上で表彰された。前田日明総帥をはじめ、みんないい表情をしている。

ですか?
**パコージン**　もちろん。窓口がスポーツ省なのだからね。だから最初は、モスクワオリンピックのときに作られたオリンピック村に70人ぐらいの候補選手を集めて、ホリマイやマエダが審査員となってオーディションのようなことを行なったんだ。

―堀米さんと前田さんが直々に選考したんですか。そのとき、リングスとはどんなものだと説明したんですか?

**パコージン**　いや、特別にどういったものかという説明はなかったんだ。単純に「あなたたちは日本でプロの試合に参加する可能性がありますよ。参加すればスポーツでお金を稼ぐことができますよ」と説明しただけだった。

―それだけですか（笑）。

**パコージン**　当時、ソ連は体制が変わり、スポーツへの資金援助がほとんどなくなってしまい、スポーツ選手たちが食うに食えないような状態で困っていたんだよ。だから、スポーツでお金を稼げるというこの話に多くのスポーツマンが飛びついたんだ。

―じゃあ、渡りに舟のような話だったわけですね。

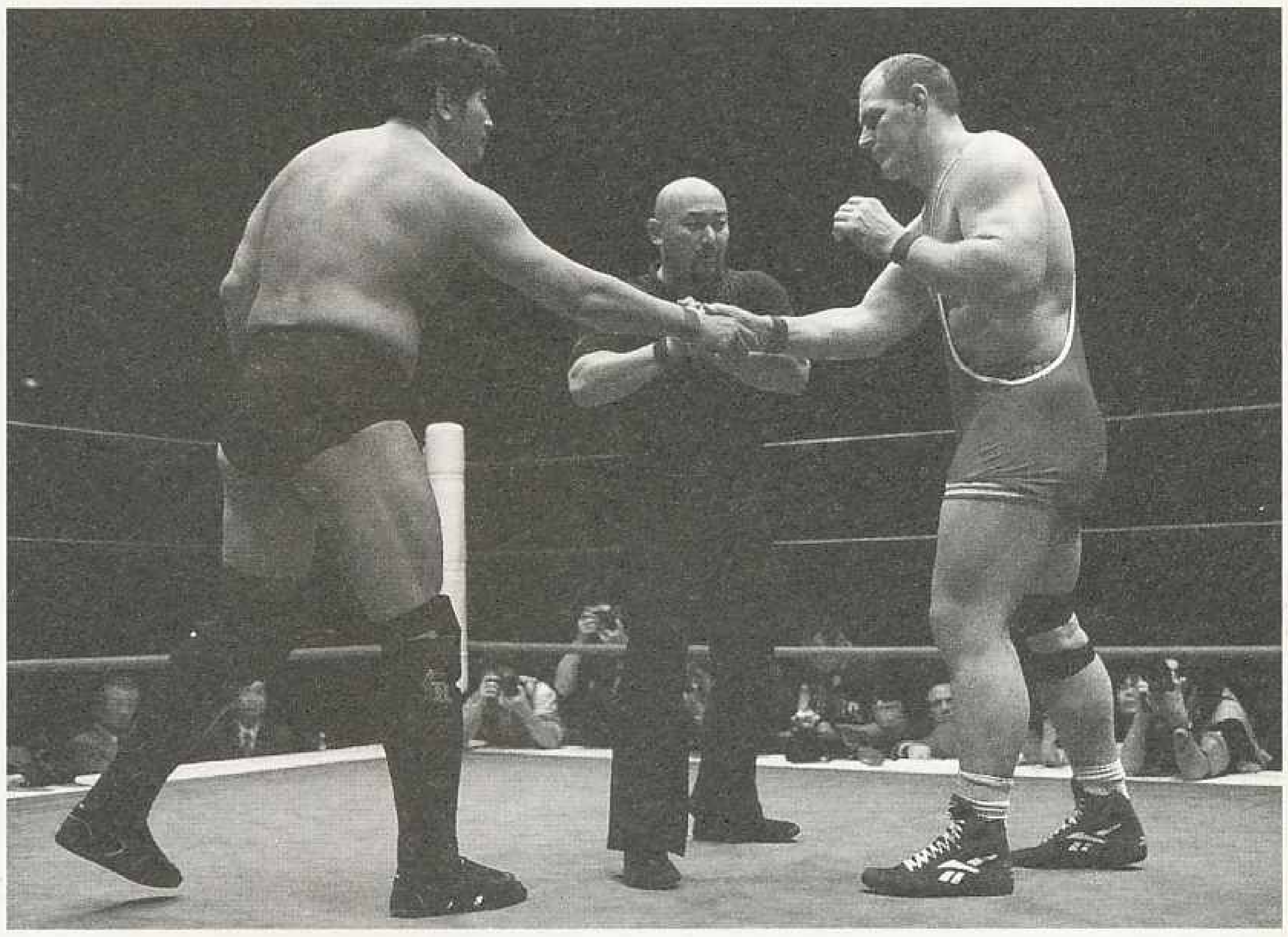
**パコージン**　だから、マエダ自身、「こんなに希望者がいるなんて……」と驚かれたようだ。そして希望者があまりにも多かったので選抜を行なったんだが、多くのスポーツマンが集まった中でも、とくにプロ向きだと選ばれたのが、サンボの選手たちだった。

―確かにリングスとの相性が最もいい格闘技はサンボでしたね。

**パコージン**　そこから、皆さんご存知のヴォルク・ハン、アンドレイ・コピィロフ、ニコライ・ズーエフ、イリューヒン・ミーシャ、アレクサンドル・ヒョードロフといった偉大な選手たちが日本で活躍するようになったんだよ。

―最初にリングスが始まったときは、それこそ柔道、サンボ、レスリングの世界チャンピオンクラスの旧ソ連選手がたくさん集まったと思うんですけど、その中でヴォルク・ハン選手はそれほどアマチュアでの成績は良くなかったと思うんですよ。そのハン選手がなぜ日本のトップである前田さんの最初の相手に選ばれたんですか?

**パコージン**　これは大変おもしろいテーマなので、また別の時間を設けて話したいくらいなのだが、ハンというのはスポーツサンボの選手でもあったが、専門は軍隊で使われていた戦闘用のサンボ、コマンドサンボのほうだったということが大きな理由と言えるでしょう。このコマンドサンボはスポーツ競技とは認められておらず、ソ連の軍内部で秘密裏に行なわれていたものなので、世界的にもまったく知らされておらず、日本の人たちは誰も知らなかったんだ。



99年2月21日、前田日明引退試合として実現した、前田日明vsアレキサンダー・カレリン戦。ロシアでは人間国宝級のカレリンをリングスに引っぱり出すという離れ業を成し遂げることができたのも、パコージンさんの人脈があってこそだったのだ。

―確かに初めて見るコマンドサンボはセンセーショナルでした。

**パコージン**　そしてハンはそのコマンドサンボのスペシャリストであったのだが、スポーツサンボの試合に出ても、彼が本当に得意としている技は禁止されていたため、本当の実力を出す機会がなく、常にフラストレーションが溜まっていたんだ。ところがリングスでは、総合格闘技ということで、ハンがこれまで磨いてきた技をついに出すチャンスが巡ってきたんだ。それでハンはオーディションでコマンドサンボの技を次々と披露したのだが、マエダをはじめとする日本からのスタッフたちが、その初めて見る技術に驚き、ハンを気に入ってくれて、マエダの対戦相手に選ばれたんだよ。

―なるほど。そこで「〜選手権優勝」といった肩書きではなく、未知なるコマンドサンボの達人を選んだことがリングス成功の秘密だったような気がしますね。

**パコージン**　100パーセントそのように言えるだろうね。いまでこそ歳をとってしまったが、90年代前半にハンを超えるプロの選手はいなかっただろう。彼はどんなタイプの格闘家が相手でも自分の

## パコージンさんが日本に呼んだロシアの強者たち



**コーチキン・ユーリー**
極真空手世界大会出場の空手の猛者にして、柔道の欧州王者。ロシアの秘密兵器的存在として、ヒカルド・モラエス相手にバーリ・トゥードでリングスデビューした。



**アレクサンドル・ヒョードロフ**
サンボの試合で相手を壊し続けたために相手がいなくなったという、ロシアのカール・ゴッチ的逸話を持つ幻想あふれる達人。51歳にしてバーリ・トゥードに出陣した。



**イリューヒン・ミーシャ**
ロシア初のバーリ・トゥード大会『アブソリュート大会』で優勝したロシアMMAの先駆者。リングス時代はあのランディ・クートゥアーにも一本勝ちしている。



**ニコライ・ズーエフ**
あのヒョードルが尊敬するサンビストとして名を挙げる実力者。実業家としても成功し、「リングス・スポーツ・コンプレックス」という多目的スポーツ施設も設立した。



**アンドレイ・コピィロフ**
全ソ連諸民族サンボ大会優勝の実績を誇るサンボの超実力者。驚異的な極めの強さを誇り、柔術世界王者カステロ・ブランコ相手にわずか16秒で一本勝ちした。



**ヴォルク・ハン**
リングス・ロシア最大のスター選手。日本初公開となるコマンドサンボの動きはファンの度肝を抜き、晩年は40歳にしてA・ホドリゴ・ノゲイラと名勝負を繰り広げた。

# かつての名選手が若い選手を育てていき世代が受け継がれていくのを願っているよ

実力を出すことができたし、非常に高度な技を持ち、対戦相手や観客を驚かす策略も得意としていた。だからもし10年前にこのPRIDEという舞台があったならば、ハン、コピィロフ、ズーエフは間違いなく世界のトップとして、素晴らしい試合を展開していたことだろうね。

――ロシア第一世代のグラウンドの実力は、あのヒョードルも舌を巻くほどですからね。

**パコージン**　それはそうだろう。たしか99年だったと思う。ヒョードルはヴォルク・ハンとピチコフ、バラチンコフ（ともにコーチ）が発掘した選手だ。当時、我々としてはヒョードルはチームにどうしてもほしい選手ではなかったが、彼がどうしても入りたいということで、ハンのチームに入り訓練を積んでリングスでデビューしたんだ。そのあと、ヒョードルは3年間、我々とともにトレーニングをしてきたが、残念ながらいまは離れてしまった。確かにヒョードルは勤勉で努力家のいい選手だ。ただ、91年のリングス・ロシア誕生、そしてロシア第一世代の活躍がなければ、ロシアン・トップチームは存在しえなかっただろうし、いまのヒョードルやセルゲイ（・ハリトーノフ）もいなかっただろう。

――それはそうでしょうね。あと、前田日明さんの引退試合の相手にリングスがアレキサンダー・カレリンを招聘したときもパコージンさんがかなり尽力されたんですよね？

*Vladimir Pgodin The Last Interview*

**パコージン**　まあ、私の力で実現できたわけではないが、私にできるかぎりの協力はしたつもりだよ。アレキサンダー・カレリンというのは、ロシアの本当の英雄で、コンタクトをとることさえ難しい人物だ。しかし、私は先ほども言ったようにスポーツ省の格闘技部門で副委員長を務めていた関係から、サンボだけでなく、レスリング界にも人脈があった。そういった私の人脈をフルに活用して、なおかついろんな関係者の協力もあって、リングスがカレリンと交渉することができた。私はマエダvsカレリンを実現させることができたのは、やはりリングス・ネットワークの力だと思うよ。

――なるほど。リングスやパコージンさんが築き上げた、人と人のつながりが、あのスーパーファイトを生んだわけですね。

**パコージン**　そういうことだ（ニッコリ）。

――いまパコージンさんは、ロシアではどんなお仕事をされているんですか？

**パコージン**　いまはロシアサンボ連盟の第一次長、国際サンボ連盟の役員として、サンボの発展に力をつくしているよ。

――パコージンさんには、これからも多くの優秀なロシア人選手をPRIDEに送り込んでほしいですね。

**パコージン**　PRIDEに行きたい選手はたくさんいるんだ。ロシアには連盟に登録しているだけで1万4000人のサンビストがいるから、その中にはPRIDEにピッタリの選手もいるだろう。でも、PRIDEに出場したい選手はロシアだけでなく世界中にいて、みんな順番待ちなんだ。だから我々がやるべきことは、いつでもPRIDEのリクエストに応えられるよう、選手を準備しておくということだね。たとえばエカテリンブルグに「リングスセンター」というニコライ・ズーエフ所有のスポーツ施設があるが、我々はその「リングスセンター」という名前が明日にでも「PRIDEセンター」に変わりかねないほど、PRIDEに出場させたい選手を日々、鍛えているからね（笑）。

――そんなに将来のPRIDEファイター候補がいますか（笑）。

**パコージン**　リングス初期と違って、いまはスポーツ選手に対しての資金援助も多いし、ロシアという国自体が裕福になった。だから、どうしてもプロにならなければいけない選手というのは、いまは昔と比べると少なくはなっているんだ。でも、その中でもプロになりたい選手、PRIDE向きの選手というのは必ず存在するから、そういった選手を鍛えて日本に送り込みたいね。ハン、ズーエフ、ミーシャら、かつて日本のファンを喜ばせた選手たちが、これからファンを喜ばせる若い選手を育てていく。そうやって、世代が受け継がれていくことを願ってるよ。

――わかりました。これからのロシア人選手たちの活躍に期待してます！

**パコージン**　では、インタビューはこれぐらいでいいかな？　私たちはこれから、大事な用事があるんだ。

――もしかして、恒例の電気街でお買い物ですか？（笑）。

**パコージン**　アキハーバラでの大事なミーティングだよ（笑）。ハッハッハッハ！

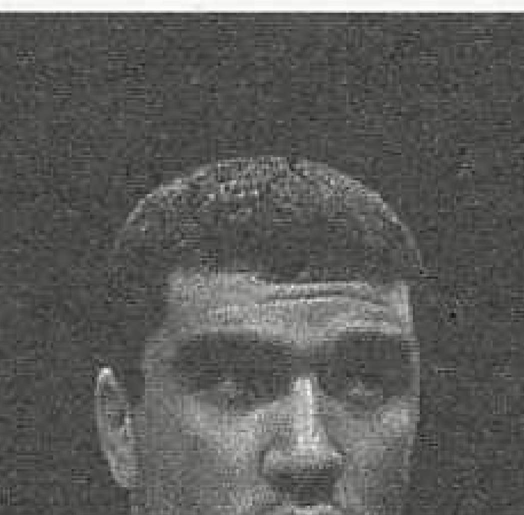
【06年2月25日／都内・某ホテルにて収録】



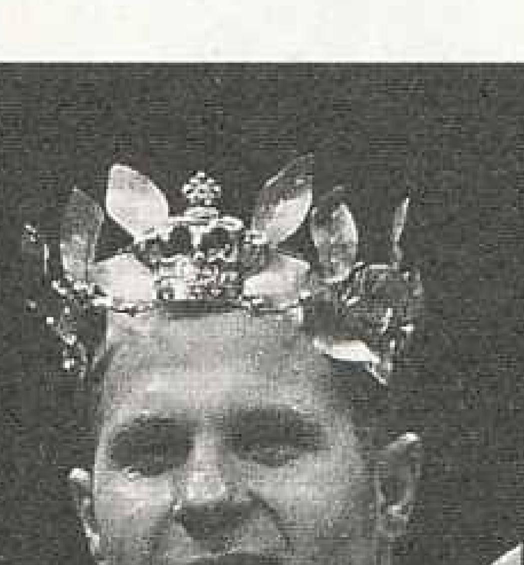
**セルゲイ・ハリトーノフ**
ヒョードル離脱後のRTTのエース。現役軍人という異色の経歴を持ち、サンビストながら軍隊で鍛えたボクシングテクニックは、五輪出場候補になったこともある。



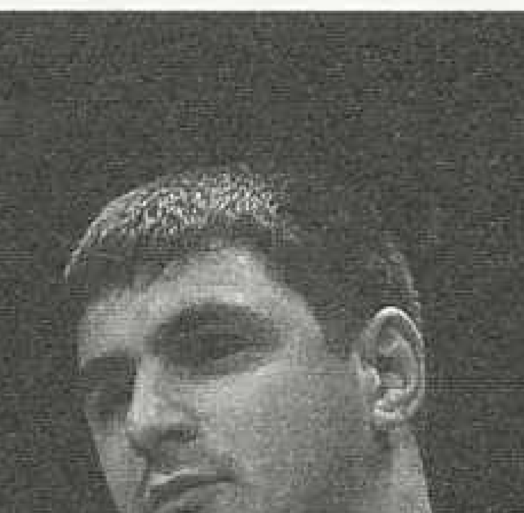
**エメリヤーエンコ・アレキサンダー**
ヒョードルの実弟として、04年に『PRIDE武士道』に初来日。勝ったり負けたりが続いているが、その潜在能力はヒョードル以上という声もあり覚醒が期待される。



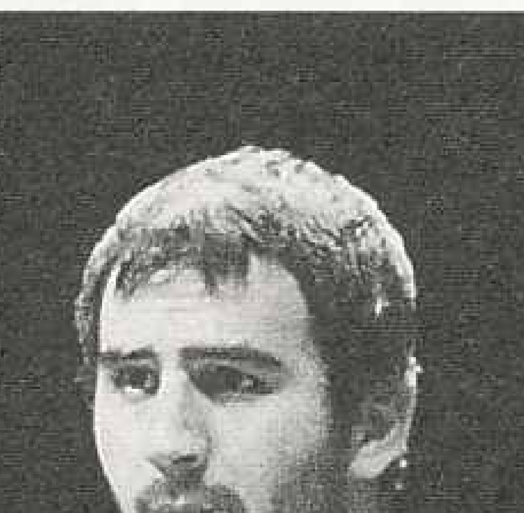
**ヴォルク・アターエフ**
唯一「ヴォルク」の名を受け継ぐことが許されたハン最強の弟子。散打世界王者として相手を破壊するほどの打撃を誇り、K-1でレミー・ボンヤスキーとも好勝負を展開した。



**エメリヤーエンコ・ヒョードル**
ご存知、60億分の1最強の男、"皇帝"ヒョードル。初来日はリングス本戦ではなく、後楽園ホールの『バトルジェネシス』だったが、またたく間に才能が爆発した。



**バラチンスキー・スレン**
第2回『KOK』に参戦した現役のサンボ世界王者。サンボでヒョードルに2戦2勝の戦績を誇る実力者だが、ケガもあり残念ながらPRIDE参戦は実現しなかった。



**ラバザノフ・アフメッド**
ロシア白兵戦大会優勝の実績を誇るコマンドサンビスト。前田日明がその潜在能力に惚れ込み、前田道場に住み込み特訓させたが、ホームシックになってしまった。

追悼特集



さようなら パコージンさん

# ロシア勢こそリングスの象徴

## 「パコージンさんは義理人情に厚い〝頼れる親分〟でした……」

ロシアと日本の格闘技界の懸け橋として長年にわたり尽力してきたパコージンさん。とくにリングス時代には屈強な男揃いのリングス・ロシアを率いて観るものを楽しませてくれた。そんなパコージンさんの横顔を、リングス時代から親交の深かった和田良覚レフェリーが語ってくれた。

聞き手／堀江ガンツ




リングス時代になぜか最もロシアに行った男

# 和田良覚 レフェリー

――今日は亡くなられたパコージンさんの思い出をリングス時代に、何度もロシアに行っている和田さんにお聞きしたいと思います。

**和田** 晴天の霹靂でしたね……。今回の訃報は滑川（康仁）のメールで知ったんですけど、本当にビックリしました。自分の知り合いが墜落事故で亡くなるなんて思いませんし……。僕はロシアに行くたびにパコージンさんにはお世話になったので本当に残念な気持ちでいっぱいです。

――パコージンさんとの親交はリングス時代からですか？

**和田** そうですね。僕の中でリングスっていうとやっぱりリングス・ロシアなんですよ。

――リングスを象徴してるのがロシア勢。

**和田** そう。ボクはリングスには中途で入って、それまではUインターにいたわけですけど、外から見てもリングスは外国人選手が異常に強い団体だなって認識がありました。当時「世界最強の男はリングスが決める」っていうキャッチフレーズがありましたけど、そのとおり最強の男が生まれましたしね。

――（エメリヤーエンコ・）ヒョードルはリングス・ロシア出身ですものね。

**和田** ヒョードル以外にも（セルゲイ・）ハリトーノフ、（ヴォルク・）ハン、（アンドレイ・）コピィロフ、（イリューヒン・）ミーシャ……凄いメンバーですよ。そのリングス・ロシア、そしてロシアン・トップチームを率いていたパコージンさんは、ロシアの格闘技界で紛れもなく重要なポジションにいた方だと思います。

――リングス・ロシアって〝パコージン組〟みたいな感じでしたね。

**和田** そうそう。ロシアの選手って一見冷たいイメージがあるんですけど、個人個人はみんな優しくて温かい。とくにパコージンさんは誰に対しても明るく冗談言ったりして。でも、何かトラブルが遭ったときはいつも先頭に立って対処してくれてたのを思い出しますね。

――あの頃のリングスは外国人選手との関わり方が、いまのMMAイベントよりも親密な感じがしました。

**和田** まさに〝ファミリー〟ですよ。だけど大会になれば国の威信をかけて闘わなきゃいけない。それも試合が終わればノーサイド。打ち上げでもみんな仲よかったですし。パコージンさんは温かいニコニコしたイメージしかないですね、それに義理人情に厚くて。だから、おそらく前田（日明）さんが一番ショックを受けてるんじゃないかな。リングスを立ちあげてから苦労をともにしてきた重要な人ですから。もちろん前田さんの引退試合となった（アレキサンダー・）カレリン戦実現の裏でもパコージンさんは大変なご尽力されましたからね。

――前田日明 vs アレキサンダー・カレリンなんていう、ありえないほどのスーパーファイトが実現したことだけでも、リングス・ロシアの力がわかりますよね。

**和田** ボクもカレリン招聘交渉のときとか、WOWOWのクルーに紛れ込んで行きましたよ（笑）。そうしたら、当時のカレリンのマネージャーがUインターにも来日したレッドブル軍団のウラジミール・ベルコビッチだったんですよ。なんでおまえがいるんだっていう（笑）。

――思いもよらぬ再会が実現した、と。

**和田** カレリンともいろいろトレーニングの話ができて。これもパコージンさんの力がなければありえなかったことですからね。本当にいろんな部分で格闘技界に貢献してくれた人でした。

――屈強な男たちのまとめ役で。

**和田** ガキ大将をそのまま大きくしたような、おふざけが大好きなハンなんかを、パコージンさんは後ろから見守っているような感じでしたね。ああいった選手たちをまとめるのは、相当な人間力がないと無理ですよ。そういった意味でもその存在は大きかったですね。ロシアにおける総合の生き証人というか、パイオニアみたいな人ですから。

――リングスとロシアの結びつきも、最初は国家を代表してパコージンさんが窓口になったわけですもんね。

**和田** まだソ連の時代ですからね。前田さんに当時の話を聞くとずいぶん苦労をなさったみたいです。そういえば、前田さんがロシアで選手の発掘オーディションをやったときに僕も同行したんですけど、そのときオーディションに参加してたのがヒョードルと（スレン・）バラチンスキーなんですよ。あれがなければヒョードルも埋もれたままだったでしょうね。

――そしてオーディション参加メンバーを選出したのが、パコージンさんやズーエフさんだったわけですからね。

**和田** あの人なくして〝60億分の1の男〟なんて誕生しなかったですよ。だから本当にパコージンさんの死は

# 彼がいなければロシアの強さが世界に浸透することはなかった

格闘技界にとっては大きな損失ですよね。みんな悲しいと思うな、つながりが深かったぶんだけ……。

——選手との関わり合いも相当深かったみたいですね。

**和田**　気配りのできる人でしたから、いろんな選手に対してニコっと笑いながらハグして「元気か?」って話しかけて。でも怒るときはちゃんと険しい顔で威厳を見せて。そういうさまざまな面を持っていたという意味でも大将って感じでしたね。小さな身体でみんなをまとめあげてましたよ。いまはロシアと戦争中のグルジアの選手なんかともつながりがあってね。

——旧ソ連はみんな仲間って感じでしたよね。

**和田**　そうでしたね。KoKなんかでも、お互いのセコンドについたりして、やっぱり祖国ソ連の名のもとに、団結していた気がします。僕はそういう場面を見てるから、ロシアとグルジアが戦争勃発ってなったときは心痛かったですよ。

——パコージンさんはリングス・ロシアだけじゃなく、ソ連系の選手全体のボスみたいな感じでしたよね。

**和田**　まさにそのとおりです。あのソ連をまとめてるんだから、おそらく汚い世界もたくさん見てるはずなんですよ。でも、そういうことみじんも見せずに、ただサンボの誇りだとか、純粋に格闘技の強さを追求した人でしたね。

——あのロシア勢の強さっていうのは、近くで見ていていかがでした?

**和田**　もうバケモノでしたよ！ ロシアってレスリングや柔道、サンボに空手と、いろんな格闘技の世界を席巻してるじゃないですか? もうとにかく骨格やら腱やら筋繊維やらすべて身体が違いますもん。なおかつロシア人は心が強い。

——すぐにタップするような選手もいなかったですもんね。

**和田**　いない。組み技に関してプライドを持ってますよね、キックでいうタイ人のような。闘いに対して、自信とプライドがあって、絶対ギブアップしないっていうオーラがありましたよ。ロシア人は接すると普段は温厚なんですけど、試合になると本当に意地の張り合いが凄かった。

——リングスがバーリ・トゥードを導入したときも真っ先に出ていったのはロシアでしたよね。

**和田**　そうなんです。あれもパコージンさんが「よし行け！」ってケツ叩いたんでしょうね。強さをわかってた人だから、仲間に対する信頼も大きかったでしょうし。

——絆の強さはよく伝わってきました。

**和田**　当時、グルジアのグロム・ザザがブラジルのヒカルド・モラエスとやったときに、来日するまで普通のリングスルールだと思っていたのが、来てみたらバーリ・トゥードだったんですよ。でも、そのルールで勝っちゃうし。



リングスのロシア遠征でのひとコマ。トレーニング風景をテレビクルーが撮影している中に、在りし日のパコージンさんと和田レフェリーの姿が。そして左下には大きな身体をかがめる前田日明リングス総帥も。古きよきリングスの風景だ。

——特別な準備もなしに、当時最強説すらあったモラエスになんで勝っちゃうんだよっていう（笑）。

**和田**　異常なフィジカルの強さなんですよ。ソレ用の練習だってしてないはずなのに。

——ポテンシャルがとんでもなく高いんでしょうね。

**和田**　旧ソ連の選手ってそんなのがゴロッゴロいるんだもん。普通じゃあんなこと無理ですよ！ しかし、いい経験させてもらいましたよ。リングスに入ってなかったらああいうバケモノみたいな人たちと会うこともなかったし、本当に自分の中で財産になってますね。

——神話の世界の登場人物みたいですしね。

**和田**　肩組みながら酒を飲んで豪快にゲロ吐いてね（笑）。リングに上がったらとてつもなく強いんだから。そんな男たちを日本に連れてきてくれたパコージンさんにはとても感謝してるし、本当に純粋に悲しいです……。（パロージャ・）クレメンチェフも殺されちゃって悲しかったですし、（アレクサンドル・）ヒョードロフさんも亡くなられて。なんか本当に寂しいですね。パコージンさんのニコニコした顔がいまでも浮かぶんですよね……、でも抗議するときは火がついたように怒って（笑）。小さい身体なのに迫力ありますからね！ いやぁ、でも本当にまさかですよ。

——返す返す惜しい人を亡くした、と。

**和田**　いろんな選手間のトラブルとかも、一手に引き受けてましたからね。みんな頭は上がらないはずです。パコージンさんのもとを離れた選手も何人かいますけど、あの人がいなければいまの自分はないって思ってるんじゃないかな。パコージンさんがいなければ、ロシアの強さがここまで世界に浸透することはありえなかったですからね。

——日本とロシアの懸け橋になった人ですよね。

**和田**　リングス・ロシア大会のリングサイドには胸に勲章だらけの軍隊のお偉いさんとかとも座ってましたけど、パコージンさんはそういう方々ともいろいろ話してましたからね。その光景を見てても凄いと思いましたね。

——普通は会えない人のようなわけですね。

**和田**　そんな方々を紹介されて。……僕、今回のパコージンさんの件はいろいろなところに連絡しましたよ。パコージンさんがみんなの心に残るような付き合い方をされる方でしたから。それは傍らで見ててもわかるし、僕らにもそう接してくれたし。

——分け隔てなく。

**和田**　リングスが活動停止してPRIDEにロシア勢が参戦したときも、舞台裏で僕とバッタリ会うと「元気か！」って話しかけてくれて。向こうも仲間意識を持ってくれてるんですよね。僕はレフェリーだからニュートラルな立場ですけど、やっぱり嬉しかったです。だからまさかなんですよね。こういうことって現実にあるんですね。

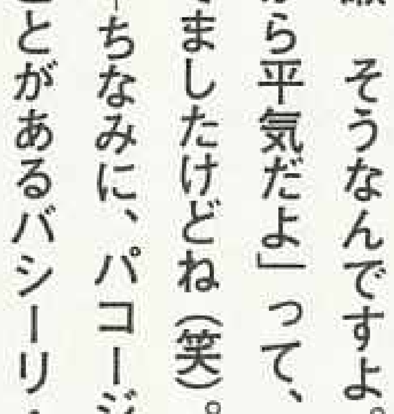
——へんな話、感覚的にはホントの意味でリングスが終わっちゃったみたいな気持ちにもなりますよね。

**和田**　それはありますね。おそらく後釜じゃないけど、パコージンさんの後を継ぐ人っていないと思いますし。本当に頼りになる親分でしたね。謹んでご冥福をお祈りしたいです。

【08年9月18日／都内・ゴールドジム大森にて収録】

## リングス・ジャパン勢が語る

# パコージンさんとの思い出





さようなら パコージンさん

国境を越えて大きなファミリーのようだったリングス・ネットワーク。ここではリングス時代に、ロシア大会などを通じ、パコージンさんと親交があった元リングス・ジャパンの選手に、パコージンさんとの思い出を振り返ってもらった。

構成／堀江ガンツ、松澤チョロ

リングス・ジャパン勢が語る パコージンさんの思い出 ①

## 成瀬昌由



### 「パコージンさんは"ロシアの高田純次"みたいな人だった」

—成瀬さん、おひさしぶりです！

**成瀬**　おひさしぶりです。ひさびさに連絡があったんで、「あれ？　最近、マット界には関わってないけど何かな」って一瞬思ったんですけど、パコージンさんのことですよね？

—はい。今回のパコージンさんの訃報の第一報はどのようなかたちで？

**成瀬**　リングスのトレーナーをやっていた森田さんからメールが届いたんですよ。森田さんは東京の奥沢で治療院を開業してるんですけど、事故の翌日に治療に来られた前田（日明）さんから聞いたみたいで。

—前田さん経由で伝わってきたわけですね。

**成瀬**　そうです。ニュースでその事故を知ったときは事故なのか、それとも、いまロシアはいろいろと揺れてるから「テロなのかな」とか考えちゃいましたけど。まあでも、向こうの飛行機には僕も何回か乗りましたけど、ボロくて怖かったのはいまでもよく覚えてますね。

—すきま風が入ってきたりするという（笑）。

**成瀬**　そうなんですよ。「パイロットの腕は確かだから平気だよ」って、よくパコージンさんは言ってましたけどね（笑）。

—ちなみに、パコージンさんは成瀬さんも闘ったことがあるバシーリ・シュバイアの追悼サンボ大会に行く途中の事故だったみたいなんですよ。

**成瀬**　そうだったんですか!?　シュバイアっていたなぁ。残念ながら顔は思い出せないですけど。

—来日は一度だけでしたからね。ただ、ロシアでは伝説的なサンビストだったみたいです。

**成瀬**　なんとなくは覚えてるんですけど、僕はリングスで75～77試合ぐらいしてるんで、顔や名前とか思い出せないことが多くて。でも、追悼大会ってことはシュバイアも亡くなったってことですよね？

—どうやら数年前、溺れている人を助けようとして命を落としてしまったらしいです。

**成瀬**　そうなんですか。でも、シュバイアもそうですけど、パコージンさんが亡くなったっていうのはちょっとビックリしましたね。ホントに身近な人っていう感じだったので。

—人間的にはどういう方でした？

**成瀬**　いい意味で高田純次みたいな人でしたね（笑）。

—ロシアの高田純次ですか（笑）。

**成瀬**　ホントそんな感じで。そういう意味では、パコージンさんはロシア人のイメージを変えてくれた人というか。（ヴォルク・）ハンとか（アンドレイ・）コピィロフもそうなんですけど、けっこう明るいじゃないですか。でも、『ロッキー3』でドラゴを観てた世代の僕としてはロシア人の印象はああいう感じだったんですよ。

—あ～、クールであまり感情を表わさないような感じですね。それこそヒョードルみたいな。

**成瀬**　そうですね。だけど、パコージンさんたちは素朴なところもあるし、普通に人間くさい人たちで。それこそ、戦国時代の人たちっていう感じでしたね。

—それはどういう意味で？

**成瀬**　常に戦いの場に身を置いてるんだろうけど、明るいときは底抜けに明るいみたいな。

—そういうところも含めて前田さんと気が合ったっていうのもあるんでしょうね。

**成瀬**　それはありますね。パコージンさんの人柄があったからこそ、リングス・ジャパンとロシアの関係ができたと思うし。ある意味、（クリス・）ドールマンのリングス・オランダとはまた別の密着度があったと思いますね。ドールマンはドールマンで親分肌で統括してるんですけど、パコージンは、けっこうアバウトなところはアバウトで、それでいてイヤミもないし、ホントに高田純次みたいな人でしたね（笑）。

—ロシアの高田純次だった、と（笑）。リングスを辞めてからは接点はあったんですか？

**成瀬**　そのあとも『HERO'S』とか格闘技の会場で何回か会ってるんですよ。韓国でも、道を歩いてたら、「向こうからパコージンみたいなヤツが来るなぁ」って思ってたら、ホントにパコージンだったり（笑）。

—なんで、また韓国にいたんですか？

**成瀬**　去年の10月にあった『HERO'S』の韓国大会に山本（宜久）のセコンドで行ったんですけど、そのとき、パコージンも誰か選手を連れてきてたんですよ。その韓国で会ったのが最後でしたね。

—最後に会ったのは韓国の道端でしたか。

**成瀬**　そうですね。でも、パコージンがいなかったらリングス・ジャパンとロシアの関係もなかったと思うし、その後にヒョードルやハリトーノフとかを連れてきたのもパコージンですからね。そういう意味では、ホントに格闘技界にもの凄く功績を残した人だと思いますね。

—それは間違いないですね。

**成瀬**　ちょっと前に（アレクサンドル・）ヒョードロフさんも亡くなられたじゃないですか？　そういう意味では、ヒョードロフさん、そしてパコージンと自分が身近に接したことがある人が二人も亡くなってしまったわけで、凄く寂しいですけど、確実に時代は流れてるんだなって思わされましたね。

—ちなみに、成瀬さんはここ最近、表舞台には登場していないですけど、どういった活動を？

**成瀬**　僕はいま世界を旅してますね。

—あ、そうなんですか。いまはたまたま日本にいると？

**成瀬**　そんな感じですね。まあ、そんなに遠くない将来、またマット界に関わることもあると思うんで、そのときはよろしくお願いします！

# 金原弘光



## 「パコージンさんの人脈あってのリングス・ネットワークだったよ」

──パコージンさんがお亡くなりになったのは、いつ知りましたか？

金原　朝、テレビを観てたらさ、「ロシアで旅客機の墜落事故が起きました」っていうニュース速報が流れたんだよね。それを観て、「リングス・ロシアの誰かが乗ってたりしないだろうな」って、へんな気持ちになったんだよ。そしたら夜、元リングスの広報だった人から電話がかかってきて「パコージンさんが乗ってた」っていうのを聞いて「まさか！」って思ったよね。信じられなかったよ。

──金原さんもロシアには何度か行かれてるから、もちろん交流はあったわけですよね？

金原　うん。俺は2回、ロシアに行ってるけど、凄くお世話になったし、モスクワからエカテリンブルグに行くとき一緒の飛行機だったけど、「腹は減ってないか？」とか常に気にかけてくれてね。そういう面倒見がいいところがあったから、ロシアの選手もパコージンさんのことはホントに信頼してたよね。

──〝パコージン組〟って感じでしたよね。

金原　だから、リングスがたまにチープなホテルを取ったりすると、選手からクレームが来たりしたんだけど、そんなときもパコージンさんが「いまは大変な時期だから、このホテルで我慢しなさい」ってなだめて、その一言で選手が収まるらしいからね。だから会社にとっては、ありがたい人だったんだよね。

──マネージャーとして、プロモーターから金をむしり取ってやろうっていうタイプでは、全然ないですよね。

金原　ホントにリングスのことを考えてた人だったよね。だから前田さんもパコージンさんを凄く信頼してたし、ロシアについてはすべて任せてたからね。カレリンとの試合もパコージンさんの人脈があったからこそ、できたことだと思うし。リングスのネットワークの偉大さというのは、パコージンさんの人脈があってこそのネットワークだったと思うよ。

──パコージンさんあってのリングス・ネットワーク。

金原　そうだと思うよ。ロシアの強い選手、おもしろい選手を見つけてくるのも、それだけのルートを持ってるからこそだよ。

──最後に会ったのはいつになりますか？

金原　3年前のリングス・エカテリンブルグ大会かな。あのとき、ちょうどハリトーノフの誕生会をやることになってさ、選手や関係者が集まって食事会をやったんだよ。それでロシア式に誰かがスピーチするたびに乾杯するんだけど、パコージンさんのスピーチが長くて、しかも何度もやって、そのたびに乾杯するんだよね（笑）。

──ウォッカの一気なんですよね（笑）。

金原　それでまた前田さんもスピーチが長くてさ（笑）。ハリトーノフの誕生会はほとんどパコージンさんと前田さんのスピーチ合戦だったよ。けっこう似た者同士なのかもしれないよね（笑）。

──そうやって人のつながりを大事にする人でしたよね。

金原　うん。パコージンさんに会って、ロシア人って義理人情に厚い人種なんだって思ったよね。パコージンさんたちは、人を絶対に裏切ったりしないし、「リングスのメンバーはみんな、生涯の友人だ」って言ってたもんね。そのパコージンさんが亡くなってしまったのは、マット界にとってリングス・ロシア全体がなくなったのと同じぐらいの大きな損失だよ。心からご冥福をお祈りします。



# 滑川康仁



## 「リングス・ジャパンで一番かわいがってもらいました」

──滑川さんは自身のブログで、亡くなったパコージンさんのことを「ロシア人で一番仲がいい人でした」と書かれていましたよね。

滑川　はい。たぶん、リングス・ジャパンの中で、パコージンさんから見てボクが一番かわいかったんじゃないですかねぇ。

──ゴッチさんが木戸さんのことを「マイ・サン」って呼んでたような感じなんですかね。

滑川　そう……だと思いたいです（苦笑）。ボクはこれまでロシアには4回行ってて、そのうち一回は一人で行ったんですけど、そのときはパコージンさんがずっと一緒についてくれたりして、かなりかわいがってもらったんで。

──パコージンさんがつきっきりで（笑）。

滑川　二人でモスクワ観光をしたり、食事を一緒にしたりしたのも、いまとなってはいい思い出ですね。ちなみにパコージンさんはほとんど英語はわかんないんですけど、なぜかコミュニケーションはとれたんですよね（笑）。

──最初に亡くなったと聞いたときはどう思いました？

滑川　ホント、ビックリしましたよ。最初にケータイのニュースサイトでロシアで飛行機の墜落事故があったっていうのを知ったんですけど、ボクはロシアでちっちゃくてボロい飛行機に何回も乗ってるんで、あの狭い飛行機の中にパコージンさんと和田さんが座ってる場面をニュースを聞いて思い出してたんです。そのときは、まだパコージンさんが乗ってたっていうのは知らなかったですけど。

──最初に飛行機事故のニュースだけ耳に入ってきたんですね。

滑川　そうです。で、ロシアの飛行機に乗ると、いつも着陸のたびに僕と和田さんが怖がってるのを見て、「飛行機はボロボロだけど、ロシアのパイロットは操縦がうまいから大丈夫だ」って、よくパコージンさんが言ってたんです。でも、ニュースで着陸失敗したって聞いて「やっぱり、危なかったんだな」って思いながら、『kamipro Hand』を見てたら、その飛行機にパコージンさんが乗って亡くなったって書いてあって、「まさか！」って絶句しました。

──『kamipro Hand』が第一報でしたか……。人間的にはどういう人でした？

滑川　熱い人でしたね。悪い言い方になるかもしれないですけど、話をしてても、すぐムキになるというか。でも、そういうのがインタビューで出ると読んでておもしろかったですね（笑）。僕と和田（良覚）さんはパコージンさんにはホントによくしてもらったんで。僕はロシアに4回行ったうち、3回が和田さんと一緒で、僕と和田さんはセットでよくしてもらったような記憶がありますね。

──ロシアに行くと、当然のようにウォッカとか飲まされたりするんですよね？

滑川　いや、パコージンさんはボクが飲めないって知ってるんで「おまえは飲まなくていい」っていう感じで、よくかばってくれましたね。ただ、そのぶん和田さんに襟首つかまれて顔にウォッカを押しつけられて「なんで飲まねえんだよ！」ってキレられたりはしましたけど（笑）。

──そんなことがありましたか（笑）。

滑川　あとで謝られましたけどね（笑）。パコージンさんには、リングス・ジャパンがなくなってからも、PRIDEのバックステージとかで会えば、いつも熱く抱擁して再会を喜んでくれたし、いまでも亡くなったのがホントに信じられないし、凄く寂しいです。

## 紹介しよう、"新・ロシア人"エメリヤーエンコ・ヒョードルだ！（パコージン）

⬆旧来のロシア人選手が苦しんだバーリ・トゥードルールをついに克服し、ヒョードルというPRIDEチャンピオンを生み出したロシアン・トップチーム。そのヒョードルがノゲイラを下した夜に、パコージンさんが誇らしげに叫んだのがこの言葉。「紹介しよう」が、じつにいい。

## （雑誌を見て）おお、ちゃんとロシアン・マフィアらしく写ってるじゃないか（ニャリ）（パコージン）

➡じつはブラックジョークも大好きなパコージンさん。しかし、一筋縄ではいかない、ロシアの政財界の裏も表も知っているパコージンさんが言うと、リアリティがあってリアクションとりにくいよ！

## あと2~3発パンチが入っていたら、シュルトは失明していただろう（ハリトーノフ）

⬆いまや語り草となっている、ハリトーノフがマウントパンチでセーム・シュルトを血の海に沈めた一戦。単なるマウントではなく、足でシュルトの腕を使えなくした上で、眼球付近に集中して鉄槌を振り下ろす、その冷酷な闘いぶりがファンに強烈な印象を与えた。

## PRIDE・GPで優勝することは私の"任務"です（ハリトーノフ）

⬆04年、ロシア軍の許可を得て、PRIDE・GPに出場していたハリトーノフ。優勝することが軍の命令って、そんなMMAファイターいないよ！

## 私の関節を極められる人間が存在するなら、一度お会いしてみたいね（コピィロフ）

⬆全ソ連諸民族大会重量級優勝者であるコピィロフおじさん。これはすなわち、化け物みたいな強さを誇るソ連時代のサンビストの中で頂点に立ったということで、その極めの強さは信じられないほど。こんな自信満々すぎる発言もけっしてハッタリではないのだ。

## 戦争なんて言葉を軽々しく使ってほしくないね（ハリトーノフ）

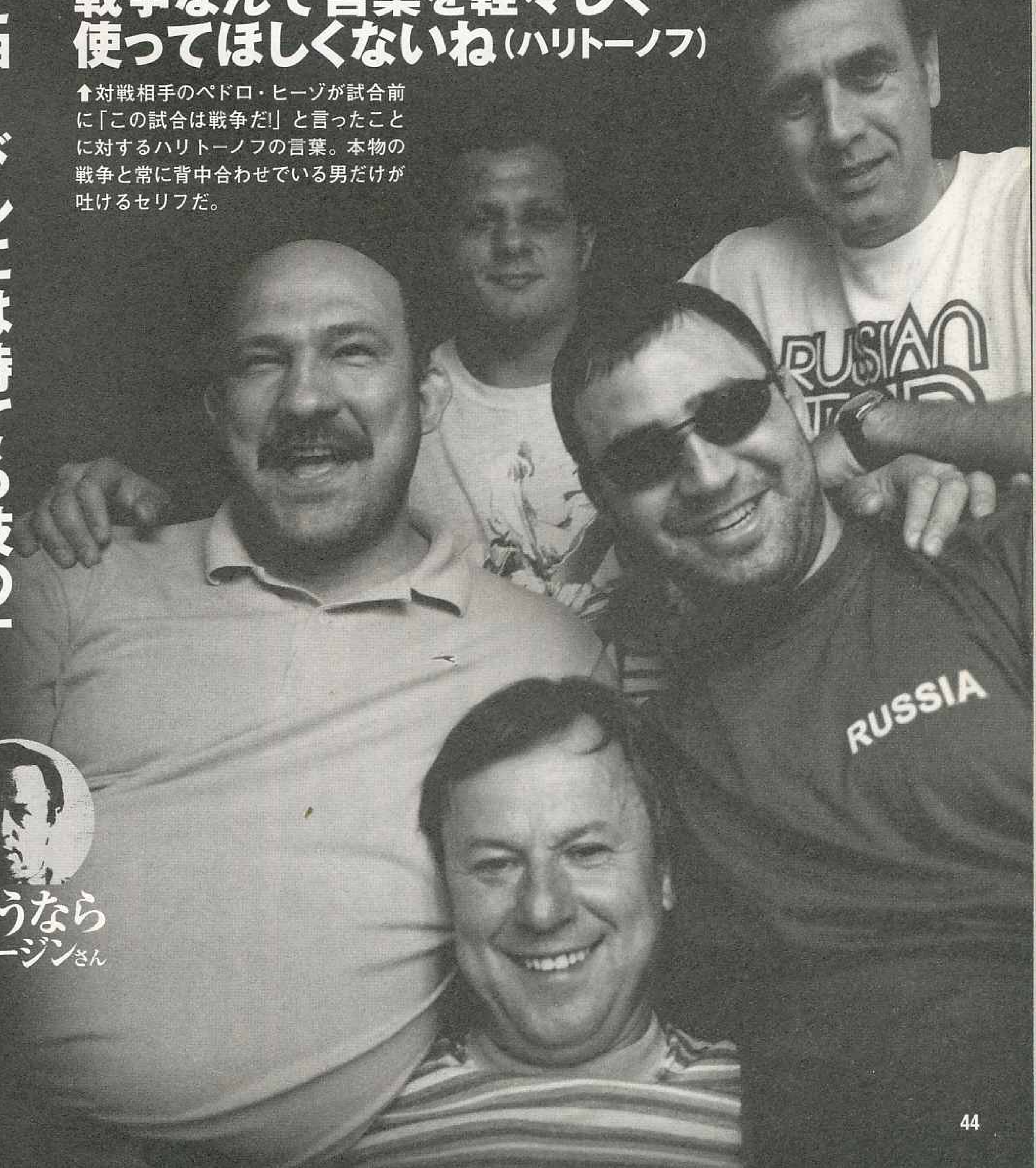
⬆対戦相手のペドロ・ヒーゾが試合前に「この試合は戦争だ!」と言ったことに対するハリトーノフの言葉。本物の戦争と常に背中合わせでいる男だけが吐けるセリフだ。

## ヒョードルには持てる技のすべてを授けたが、一つだけ教えなかった技があるんだ（ハン）

➡出ました！ カマシ大好きな、ヴォルク・ハンの発言。こういった発言をインタビューでしゃべり、そこにリアリティがあるところが、一流のプロレスラーだ。

## ロシア人はロシア人が始末する！（ハン）

⬆ロシアン・トップチームを離脱したヒョードルに対して、かつての師匠ハンが語ったセリフ。「始末する」って言葉が生々しすぎるよ！




# 語録

追悼特集 さようなら パコージンさん

## ラウンドガールを見て、私はPRIDEが大好きになったよ（コピィロフ）

➡ロシア勢の魅力はただ強いだけじゃない。バーリトゥードという極限の闘いをしながら、目はしっかりとラウンドガールの水着姿に釘づけになるという、男らしい姿勢にもやはり憧れてしまうのだ。

## ノゲイラ？ ああ、俺の寝技から逃げたヤツね（コピィロフ）

⬆リングスKOKトーナメントで、ノゲイラと熱戦を繰り広げたコピィロフおじさん。1ラウンドは寝技同士の真っ向勝負だったが、2ラウンド以降、ノゲイラはコピィロフが苦手なスタンド勝負に切り替え、判定勝ち。コピィロフは敗れたものの、あのノゲイラが寝技勝負を避けるほどの強さを見せたのだった。

## ボクが人を殺しそうだって？ 殺したくないよ（ハリトーノフ）

## リング上では

⬆「リング上では」って、じゃあリング以外では……ってこと!?

## 私はマエダの兵隊だ（ハン）

➡ヴォルク・ハンが初めてリアルファイトのKOKに出陣を決意したときの言葉。「私はマエダの兵隊だ。そして〝将軍〟の指令に従うのが兵隊なんだよ」。そんな前田日明への忠誠心にリングスファンは涙したのだった。

## ブラジリアン柔術家と違い、我々ロシアのサンビストは闘いにおいてジェントルマンだ（パコージン）

⬆顔面パンチやグラウンド状態の相手への打撃攻撃など、バーリ・トゥード特有の攻撃に当初は戸惑ったロシア勢。「そんな顔面パンチなんかじゃなく、関節技を極めて勝つ、我々こそがジェントルマン」ということだが、その後、登場したヒョードルは誰よりもパウンドが強烈なのだから、そんな矛盾したところもステキだ。

## ヴォルク・ハンほどの技を持つ人はいないでしょう（ラバザノフ）

## 人を殺せる技を持つ人はいないでしょう

➡リングス・ロシアの英雄、ヴォルク・ハンが初めてKOK（パウンドが禁じられたリングス版MMA）ルールの試合に出る際、弟子のラバザノフ・アフメッドが師匠を称した言葉。強さの基準が「勝てる」じゃなくて「人を殺せる」なのがスゴすぎ！

## ソ連時代に鍛えられたサンビストは、あと10歳若かったらみんなトップに立っていただろう（パコージン）

⬆サンボの現役から10年近く離れていたコピィロフやハンのKOKでの強さを見ると、確かにパコージンさんの言うとおりじゃないかとも思う。

## コマンドサンボの禁じ手は戦場で使う技術。公表できるようなものじゃないよ（ハリトーノフ）

➡コマンドサンボの最も実用性のある技は、相手を組み伏して、ナイフで首をかっ斬る技術。確かにそんな技術、公表するようなもんじゃないよ！

## チェチェン紛争のとき、マシンガンを持って村を守ったんだ（ハン）

⬆近年も紛争、戦争が絶えないロシア。強い男とは、素手で強いだけじゃなく、武器を持っても強くなければならないのだ。それにしてもマシンガン持ってるって、これまたスゴすぎ!

## 我々はこれから大事な用事があるんだ（パコージン）

⬆パコージンさんが、真面目な顔してこういうことを言うときは、たいてい秋葉原でのお買い物に行くとき。ロシア勢はみんな来日のたびに、電気街でいろんな家電を購入するのを楽しみにしているのだ。パコージンさんは、こんなユーモアあふれる発言も大好きなのだ。

## 軍事機密であるコマンドサンボの技術をもし知ってしまったら、あなたは首をはねられることになる（ロシアサンボ連盟会長）

⬆プロのファイターでもなんでもない、ロシアサンボ連盟会長まで、こんなことを言いだしてる。もうロシア幻想は底なしなのだ。

### 偉大なる“カマシ”の親方、パコージンさんに捧ぐ

# ロシア幻想爆発語

パコージンさんといえば、インタビュー等で、幻想あふれる“ハッタリ”をカマすことも魅力の一つ。
そして、そんなパコージンさん率いるロシア勢は、揃いも揃ってパコージンイズムとも言うべき、幻想爆発発言をカマしてくれたものだ。
ここでは、偉大なる“カマシ”の親方パコージンさんに、僕らが愛したロシア勢の語録を捧げよう。

構成／堀江ガンツ　写真／松本崇

# PRIDE時代の盟友、山口日昇が語った



# 最後の“チカラビト”



追悼特集

さようなら パコージンさん

## パコージンと格闘芸術時代の終焉

**じつは、現・ハッスルエンターテインメント代表の山口日昇氏も、パコージンさんの“盟友”だった。PRIDE時代のロシア勢のブッキングに深く関わっていた山口日昇氏がいまこそ明かすロシア幻想を生んだスポークスマン、パコージンとの秘蔵エピソードとは？**

聞き手／ジャン斉藤　ヒョードルTシャツ写真／森鷹博

パコージンの話をする前に、まず自分とロシアン・トップチーム（以下RTT）やPRIDEとの関わりから話さないといけないね。

リングス時代、RTTはリングス・ロシアとして活躍してたわけだけど、2002年にリングスが活動休止となって数カ月してから、ある人から「ロシア勢が日本のリングに上がるとしたらどこのリングがいいか？」と相談を受けた。で、ボクは一も二もなく「PRIDE」と答えた。

ヴォルク・ハンやアンドレイ・コピィロフ。またヒョードルも含むその弟子たち……いわゆる幻想あふれるロシア勢たちが「PRIDEに上がったらどうなるのか？」っていう個人的な興味も大きかったし、コアなファンは絶対に喰いつくとも思ったんだよね。

当時ボクは、『紙プロ』（『紙のプロレスRADICAL』、現『kamiPro』）の編集長だったけど、誌面ではPRIDEの理想像……つまり当時のプロレスの延長線上だったり「プロ格闘技の理想像はこれだ」っていうかたちで発信してた。で、編集者とは違う立場でPRIDEとも仕事をしてた。実際のリング上もその理想像に近づけたいという思いが、PRIDEでも仕事をしていた動機の一つなんだよね。

実際の仕事は、田村潔司とか小川直也とかロシア勢のブッキング。でも、いわゆるブッカー業務ではなく、PRIDEの理念を選手に説明したり、選手の希望をPRIDE側に説明したり、互いの要望を合致させる作業をしてた……って言うと聞こえはいいけど、契約からマッチメイク周辺やら方向性のアイデア出し周辺やら、いろんな仕事をやってたね。

だから、パコージンとは仕事仲間だったと言ったほうがいいかもしれない。ホントにエネルギッシュなオヤジだったよ。

言うこともいちいちおもしろいというか、時代がかってるというか……。たとえば、パコージンはヒョードルのことを〝新・ロシア人〟と表現したことがあった。バーリ・トゥードという競技に取り組むことにロシア側は絶対的な自信を持つ反面、ナーバスな一面もあったから、それまでの選手や取り組み方だけでは通用しないということもうすうすは感じてたんだろうね。ヒョードルを対PRIDEの急先鋒に据える決意表明みたいな意味合いでこんな素敵な言葉を吐いたんだよね。

「我々ロシアには、馬乗りになって相手の顔面を殴りつけたり、四つん這いになった相手の顔を蹴り上げたりする野蛮な〝格闘文化〟はなかった。しかし、ブラジル人が作ったブラジル人のための競技でも、最強になるため、我々は〝新・ロシア人〟を作り上げた。紹介しよう……彼が〝新・ロシア人〟エメリヤーエンコ・ヒョードルだ!!」

まぁ、誌面にするからボクの創作も多少は入ってはいるけど（笑）。そういうドラマチックな言い方をいろんな局面でしてたよね。

〝新・ロシア人〟というのは「新人類」的なことを言いたかったんだと思うけど、そういう幻想やドラマ性に耐えうる強度が、当時のロシア勢には

# 〝新・ロシア人〟って言葉を使ったり彼は優秀なスポークスマンだった

あった。いずれにしても、パコージンは優秀なスポークスマンであり、ロシア勢の幻想を組み立てる上で重要な生きた歴史の証人だったよね。

そもそもパコージンは、ロシアの国技であるサンボ協会の副会長というスポーツ官僚、つまり偉い人だった。でも、ときどき激昂することはあったし、どこか牧歌的だったし、選手のギャラを釣り上げるだけのビジネスライクな交渉術、いわゆるマネージメント業務にはあまり向かない人だったよね。

選手を鍛えること、強いチームを作ること、コマンドサンボを普及させることが彼の使命で、その証拠にヒョードルをはじめ、(セルゲイ・)ハリトーノフや(エメリヤーエンコ・)アレキサンダーのようにパコージンが連れてくる〝新・ロシア人〟はどれも強かった。選手を見る目も確かだったし、格闘技への造詣も一流だったけど、一流のビジネスマンではなかったね。

実際、ボクも交渉の現場に何十回となく立ち会ったけど、瞬間湯沸かし器みたいにすぐ怒るし、身振り手振り交えて大声で叫んだり、酔っぱらうと、「俺があと15歳若かったら、あんなブラジル人たちにいい顔はさせない!」って言ったり、官僚やボスっていうイメージよりも、大昔のチカラビト的なプロレスラーっていうのかな、引退した豪快で繊細なプロレスラー……そんな感じだったよね。

フランク・ゴッチャやジョージ・ハッケンシュミットなんかの近代プロレスリングが発祥するはるか以前の、真剣勝負をベースにしたプロレスラーって、みんなパコージンみたいな人たちだったんじゃないかなぁって気もしたよね。子どもみたいに無邪気な面も併わせ持ってたし。

そういうパコージンにとっても、ヒョードルをはじめとした〝新・ロシア人〟はPRIDE進攻のための切り札だったと思う。

その一方で、RTTにはコピィロフや(イリューヒン・)ミーシャみたいに、リングスルールでは十二分に持ち味を発揮したけども、PRIDEに対応しきれなかった選手もいた。そういう古い選手は、格闘技を〝格闘芸術〟として捉えていた部分もあったと思うけど、「PRIDEでは格闘芸術なんて概念を持ってたら勝てない」と価値観をスイッチングしたのがヒョードルらの新世代。だから、昔気質なパコージンにとって、ビジネス的にもリングの中のことにしても新世代との付き合いは難しかったと思う。



これが、問題の(?)『紙プロ』特製ヒョードルTシャツ! 実際、かなりの売り上げを見せたこのシャツだが、ホントに300万枚も売れてたら、ビルが建ってるって!!

結局、ヒョードルたちはレッドデビルに移籍するわけだけど、ワジム(・フィンケルシュタイン、レッドデビル代表)というヤリ手のビジネスマンがヒョードルたちと合体したのは時代の流れ的に必然だったろうし、ヒョードル以前とヒョードル以降では、同じロシアでもビジネス的にもリングの中の捉え方も全然違うと思う。

極論すると、ヒョードル以降の選手や周辺のビジネスマンたちは、「どんな手を使っても勝つ」思考だけど、パコージンたちは「美しく勝つ」「華麗に勝つ」「ファンを納得させて勝つ」っていう美学がどこかにあった。

それは交渉の場にも表れてたっていうか、ヒョードルの活躍以降は、ロシア勢のギャラも釣り上がっていったけど、パコージンは、こちら側が「いまはこういう事情で、この額しか出せない」と説明すると、一度は選手側に立ってハネ返すんだけど、最終的には理解はしてくれる。でも、たとえばハリトーノフなんかは「俺にもヒョードル並みの価値はある。この額を出さなければ試合には出ない」と簡単に言うんだよね。選手が言うことにも無理難題が多かった。だから、パコージンはプロモーター側と選手のあいだに挟まれて悩んでいたよね。

『紙プロ』でもヒョードルのオリジナルTシャツを作ったことがあったけど、どこでどう勘違いしたのか「Tシャツが300万枚くらい売れてるらしいじゃないか? だからロイヤリティはこれくらい貰えなきゃおかしい」とヒョードルが言ってきたことがあってね。300万枚ってどんな市場だよ! って(笑)。だから数字をパコージンに見せて、「そんなわけがないだろう」と言ったら、パコージンは納得してたけども、ヒョードルは最後まで懐疑的だったよね(笑)。

その頃のヒョードルはまだ朴訥としたイメージがあって、実際いまほどビジネスの構造をわかってなかったから、そういう猜疑心が出てもおかしくないといえばおかしくないし、陰であることないこと吹き込んでたヤツがいたのかもしれない。「ヒョードルはパコージンたちが俺たちの金を搾取してると思ってる」っていう話がチラホラ周辺から聞こえてきたころから、レッドデビルへの移籍が具現化していってたんだろうね。

そういえば、パコージンとは古い付き合いのビクトル古賀さんが「アイツ(パコージン)はKGBだ」って言ってたらしいけど、ロシア社会では裏でも表でも顔が利くっていう噂もあった。でも日本では対等に話ができたし、バカ話も交えて向き合えたよね。「○○○○が女を連れ込んでセックスしてる」って言うから、ロシア勢と部屋の前で聞き耳を立てたり、バカなことをいっぱいしてましたよ(笑)。

で、ボクはパコージンのことを「バロージャ」っていう愛称で呼んでたんだけど、バロージャはなぜか俺を「マフィア」と呼んでた。ボクも交渉の場では引かなかったから冗談でそう言ってたんだけど(笑)。

じつは、RTTがPRIDEに行くときに、PRIDEの足を引っぱろうとしたある人間が、「気をつけろ、PRIDEなんてバックはみんなヤクザだぞ」って言ったら、バロージャは「何を言ってるんだ? ロシアのスポーツ選手はみんなマフィアだよ」って笑顔で言い放ったらしい(笑)。それがホントかどうかは別として、それを笑いながら言えるバロージャには、素敵な幻想が広がるよね(笑)。

ボクがバロージャに最後に会ったのは、『DREAM・2』だった。PRIDEがなくなってから仕事としての付き合いは途絶えてたんだけど、バックステージで会ったら、やっぱり「オ~! マフィア!!」って言って笑顔で抱きついてきたから熱い抱擁を交わしました(笑)。そのときも「ロシアに遊びに来い」って誘われたんだよ。ホントに偶然なんだけど、最近も「近いうちにロシアに遊びに行かなきゃなぁ……」なんて思ってた矢先に今回の事故だったからね。

リングスはボクにとっては、〝強さを追求した最後のプロレス団体〟だったけど、バロージャがいなくなって〝強いプロレスラー〟の時代がまた一つ終わったんだな……って思う。残念すぎるし、寂しすぎますね。(談)




エカテリンブルグ「リングスの森」にて、「サムライ認定」後の松林とパコージンさん。すでに意識メーターはゼロなのに、楽しそうであるのがその表情から感じられる。

# 「日本もこんなに暑いのか？」

## パコージンさんとの最後の会話

### 本誌編集次長・松林貴の「酒とマフィアとパコージン」

「今回、私は真のサムライに会う機会に恵まれました。そのサムライとは……〝この男〟のことです」

06年5月下旬、本誌編集部員の堀江ガンツらとともにロシア取材へ行った4日目の晩のこと。エカテリンブルグ郊外にある、通称「リングスの森」での晩餐時にパコージンさんがスピーチで放った一言である。

そして〝この男〟とは小生のこと。パコージンさんのサムライ観がどのようなものであったかは詳しく聞かなかったが、「こいつはイカれた男だ」と思われたことだけは間違いない。

この取材以前、旧ソ連時代とソ連崩壊後にこの地へ行ったことがあり、過去二度の経験から得た結論は、「この国のメシは殺人的にマズい」であった。3度目ともなれば、食事に関しては行く前からあきらめていた。

ところが……である。「いままでどこに隠してた！」と叫びたくなるほど、パコージンさんと一緒に行くところで食うものは、すべてウマいのである。出されるもの、勧められるものは片っ端からなんでも食べ、道端で売ってた川魚の塩漬けまでむしって食べた。あとから聞いたところ、これは調理して食べるものだったらしい。

ウォッカも同様。日本では見たこともない、いわゆる地酒的なウォッカがどれもこれも美味。はたして酒に意地汚い小生はモスクワ入り直後からとことん飲みまくりの状態に。

取材3日目。リングス・ロシアのニコライ・ズーエフ氏がその年の8月オープンに向けて建設中の「リングス・スポーツ・コンプレックス」を取材するため、モスクワからウラル山脈を越えてエカテリンブルグへ入った。

そしてその夜、ズーエフ氏が開いてくれた夕食会で〝やらかして〟しまったのである。次々とお酌してもらうウォッカをこれまた次々と、まさに「わんこウォッカ」のように飲み干し、当然のごとく轟沈！ 翌朝、気がついたときはホテルのベッドの上。

ホテルへ迎えに来てくれたズーエフ氏に前の晩の非礼を詫びると、「エカテリンブルグで酔い潰れた日本人は、君で二人目だ」と笑いながら言われ、続いてパコージンさんにも謝ると、こんなことを言われたのである。

「おまえはとんでもなく楽しそうに酒を飲むなぁ。おもしろい男だ。男はそうじゃなくちゃいけないぞ。今日の夜も好きなだけ飲め。ガハハハハ！」

そして冒頭の一言につながる。パコージンさんからの〝サムライ〟認定を受けて嬉しくなり、前日の晩の反省もシベリアあたりへ吹き飛び、再び〝深く暗い海の底〟へ沈んだのである。

リングス時代からパコージンさんとは面識があったが、じっくりと話したのはこのロシア取材のときが初めて。口を開くたびにくだらないことばかり言って、我々を笑わせていた。

じつはこの2週間前、小生はかつての仕事仲間をガンで亡くし、精神的にかなり落ち込んでいた時期だった。そのことを話すと一層気遣ってくれて、小生を笑わせてくれた。

これ以降、『ハッスル』の山口代表と同じように、小生はパコージンさんから「マフィア」と呼ばれるようになった。顔を合わせるたびに決まって、「あっ、現われやがったな。このマフィア！」と言われたり、ロシア人選手が一緒にいるときは、「この人が日本の有名なマフィアだ」と紹介されたりした。

そしてそこからの会話は、あいかわらずくだらない内容ばかり。だが、そんなくだらなくて楽しい時間も昨年のPRIDE消滅以降、急激に減ってしまった。

先の7月12日。K－1台北大会の前日、ヴォルク・アターエフのセコンドとして台湾に来ていたパコージンさんに会うと、いつもの「あっ、現われやがったな。このマフィア！」のあと、あまりの湿度と気温の高さで滝のような汗をかいたパコージンさんが言った。

「ここはとんでもない暑さだな。日本もこんなに暑いのか？」


「ここほどじゃないですよ」と答えたが、結果的に最後となってしまったその会話がずっと心に引っかかっていた。パコージンさんが頻繁に来日していた頃に比べて、日本の格闘技界が〝熱く〟なくなってしまったからだ。

「とんでもない熱さだな」と言ってもらえるように、あの頃の〝熱〟を取り戻さなければいけない。

「じつはウォッカよりもこっちのほうが好きなんだ」と言っていたビールを好きなだけ楽しく飲みながら天国で見守っていてもらいたい。——合掌。



松林が撮影した台北でのパコージンさん。まさかこれが本誌最後のコンタクトになるなんて……安らかに!!



# 柴田勝頼

## 秋山成勲戦で〝死んだ〟男のその後——

巨大な覚悟をもって挑んだ秋山成勲戦（7・21『DREAM・5』）で、緊張感あふれる攻防を繰り広げながら、最後は袖車で絞め落とされてしまった柴田勝頼。試合後、「柴田勝頼は死にました」という発言を最後に、公の場から姿を消していたが、あれから柴田はどうしていたのか。一度は死んだ男の地の底からの叫びを聞いた。

聞き手／堀江ガンツ　撮影／乾晋也　試合写真（新日本）／平工幸雄

## 「プロレス復帰」なんて選択肢すら存在しない

―7月21日（大坂城ホール）の秋山成勲戦以来、公の場に出ることがほとんどありませんでしたけど、やはり表に出たくないという気持ちがあったんですか？

**柴田**　まあ、とくに出る用事もなかったんですけど、あまり人前に出たくないっていうのはありましたね。

―試合後はどのようにすごしていたんですか？

**柴田**　負けた自分ができることっていうのは、練習ぐらいなんで、すぐに基礎トレーニングの練習は始めたんですよ。ただ、1カ月間ぐらい調子が悪かったですね。試合が終わって、とくにケガはないと思ってたんですけど、なんか眠れなかったり身体の調子が悪くて病院に行ったら、首の骨がズレてたんですよ。たぶん、最後の袖車だと思うんですけど。

―ああ、あの首をひねり上げられたときですか。

**柴田**　でも、いまは痛みも引いて、もうスパーリングもできるようになったんで、いろいろ練習の中で敗因を分析したりしてますね。

―では、負けて心にポッカリ穴が開いたりとか、そういう感じじゃないんですね。

**柴田**　逆にふっ切れてますね。負けたのは事実じゃないですか。負けて落ち込んでいてもしょうがない。時間を無駄にすごすだけになっちゃいますから。「負けた。じゃあ次、何をしよう？」って、なるべくすぐに頭を切り替えようと思いましたね。

―では、あらためて振り返ってもらいたいんですが、闘ってみて秋山成勲という選手はどうでした？

**柴田**　圧力がありましたね。試合のビデオを観ても自分が下がってたり。でも、あれは自分の中では、距離をとってたんですけどね。向こうが右のストレートを狙ってるのがわかったんで。それだけをしっかり見て集中してっていう感じで距離をとりながらやってたんで。

## KATSUYORI SHIBATA

―逆に「右のパンチをもらったらヤバい」というような恐怖感みたいなものはありませんでしたか？

**柴田**　恐怖感というか、いままでだったら作戦とか何もなくガーッと前に出てたと思うんですよ。でも、そんなんじゃ勝てない相手だっていうのはわかったんで。いろいろ先輩とかにアドバイスいただいて。自分のほうがリーチが長いんで、その特性を活かして、距離をとりながら一瞬の隙を見極めて、いけるときにいこうって考えだったんですけどね。実際は向こうも集中してますし、なかなかいけなかったんですけど。あと、道衣というのも練習しなきゃと思いましたね。

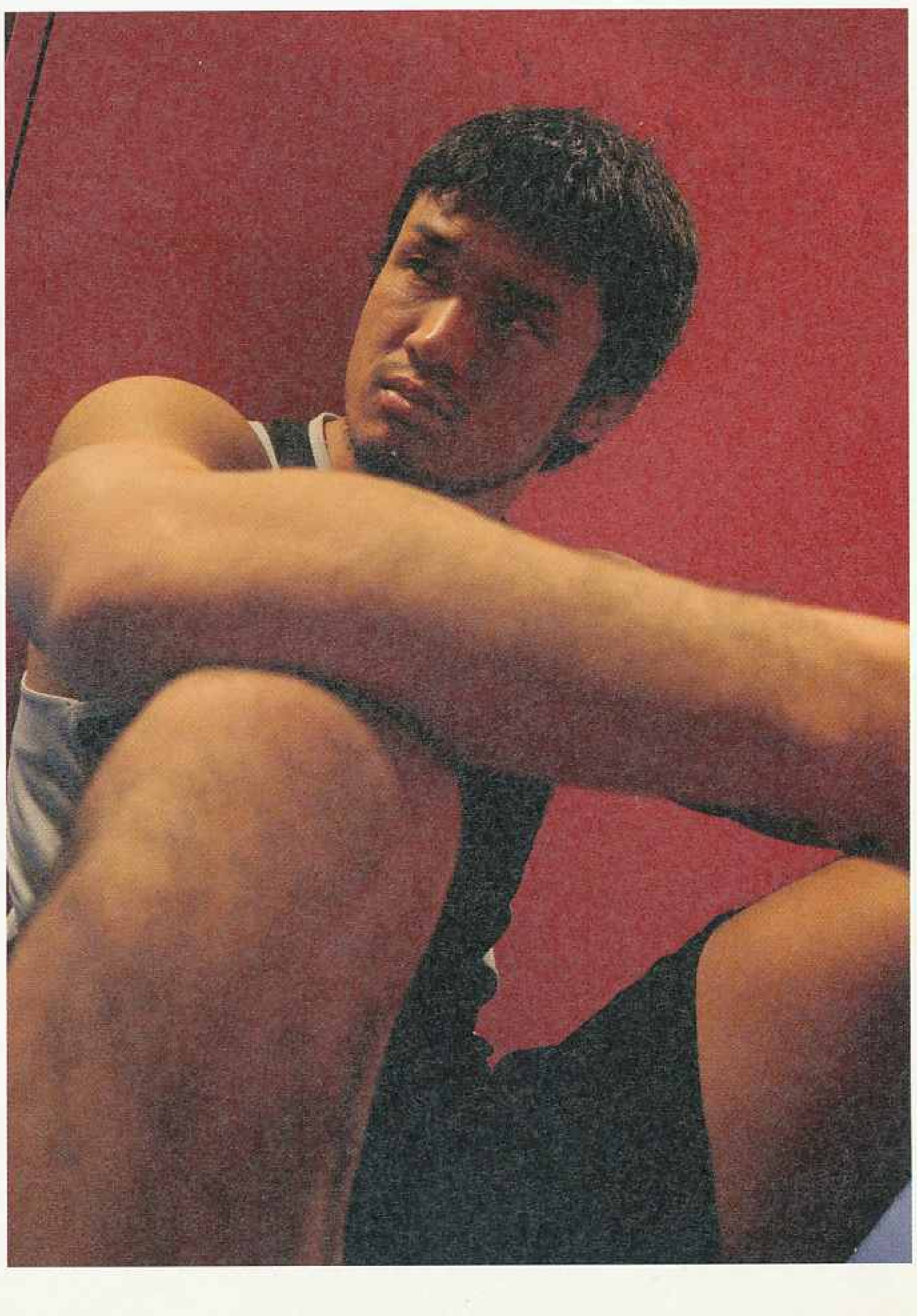
―道衣を着てくると思わなかったんですか？

**柴田**　思わなかったです。それがもう自分の中でも未熟さでしたね。秋山成勲っていう相手と闘うのに、道衣を想定した準備をしてなかったというのが。だから、攻撃の手数というかパターンもちょっと減っちゃったっていうのがありました。やっぱりvs道衣っていうのも総合のルールの中に含まれているので、次につなげるために受け止めてやっていきます。

―今回、試合に向けてはラフター7（桜庭和志のジム）で練習されていたんですよね？

**柴田**　あんまり、どこで練習してたとかは言いたくないんですよ。練習としては、あのセコンドを見てのとおりって感じです。

## DEEPとかの闘いの中に飛び込んでいきたいですね 自分は狙われるだろうけど「上等だ、コラッ!」って



なんか練習場所を明かすことで、秋山を結びつけたくないんですよね。秋山はあくまで自分の敵だし、自分の獲物だと思ってやってたんで。それだけですね。

―秋山戦は試合展開としては少なかったですけど、柴田選手にとって得るものは大きかったですか？

**柴田**　自分にとって凄いデカい1試合でしたね。集中もすっげえできましたし。だから負けたあと「柴田勝頼は死にました」って表現しましたけど、べつにドーッとヘコんでるわけでもないし、それまでの自分をリセットしたかっただけなんですよ。すぐに頭を切り替えて、この経験を活かさないのはバカだなって思うんで。

―負けたからには、カッコつけずに、開き直って前に出ていく、と。

**柴田**　そうですね。もうもうカッコつけ




極限まで自分を追い込んで挑んだ7.21『DREAM.5』での秋山成勲戦で、無惨に絞め落とされた柴田勝頼。試合後、「柴田勝頼は死にました」と発言したが、この"死んだ"経験をこの男がどう活かすのか、これからも注目する必要があるだろう。

ることもないです。カッコつけてたつもりもないですけど、さらに挑戦をしていきたいと思ってますね。それで、挑戦を続けていった先に、もし可能であれば秋山成勲っていう選手ともう一回やりたいって気持ちもありますし。そこに自分の力でたどり着きたいですね。

——ただ、柴田勝頼というプロのファイターを客観的に見てみると、連敗が続いて、しかも秋山成勲戦という特別な試合をやってしまったことで、なかなかDREAMなんかでは、次の試合が組みにくい部分もあると思うんですけど。

**柴田**　そうですね。負け続けてしまってるのは事実なんで……、そんな甘い世界じゃないことはわかってますし。そのへんも考えて行動していきたいと思います。

——たとえばDREAM以外の舞台に上がる気持ちはあったりしますか?

**柴田**　ありますね。DREAM本戦以外の試合にも出たいですね。できれば10月中に1試合したいです。やっぱり自分はまだまだ総合の経験不足というのがあるんで、経験を積むためにも、どんどん出ていきたいですね。やっぱり練習と試合は違いますから。

——いまの柴田選手にとっていいことかもしれないですよね。のし上がりたいと思ってる選手たちとつばぜり合いをするっていうのは。

**柴田**　そうですね。やっぱりそこに飛び込むのもけっこう勇気がいるっていうか。前はへんな緊張感というか、抵抗感みたいなのがあったんですけど、ホントにそれが吹っ切れましたね。いまはもう「やってやる!」って感じですよ。

——へんな話、「柴田はプロレスラーだからDREAMに上がれるだけで、俺たちのほうが強い」って思ってる選手がけっこういると思うんですよ。

**柴田**　ほとんどの選手がそう思ってるんじゃないですか。そういう中に飛び込んでいくわけですから。それもこっちとしては「よろしく」ってわけでもないし。「上等だ、コラ!」って行くわけですから、やりがいありますよね。

——秋山戦とはまた別の燃えるものがあるというか。

**柴田**　燃えますね。へんな言い方ですけど、DEEPとかに行ったら自分は狙われると思うんですよ。昔もそういうのあったんですよね。総合の練習を始めたばかりの頃、出稽古に行くと、やっぱり自分はプロレスラーとして知られてるってことで、練習なのに、いろんな人に狙われて、ボロボロになって帰るっていうのが。

——練習なのに、名前が知られたプロレスラーを食ってやろうっていう気持ちで向かってくるわけですね。

**柴田**　それでも、何回も通ってると、徐々にわかり合えるものがあったりするんで

すけど。そういった舞台に出るっていうのは、それこそ自分を食ってやろうと待ち構えてる中へ飛び込むわけですから、なかなか踏ん切りがつかなかったんですけど、もうホントふっ切れましたね。これが自分にとっての武者修行だと思うんで、そういうところに飛び込んで、さらにバカになろうと思ってます。

――標的にされてるのがわかったうえで、あえてアウェーの舞台に飛び込んでいく、と。

**柴田**　でも、たとえばDREAMだったり『HERO'S』だったり大舞台でやらせてもらった経験っていうのも自分にとって財産ですから。やっぱりそれを活かして、自分の力も証明したいですね。

――逆にDEEPとかの選手に対して「ああいう修羅場、極限の雰囲気の中で試合したヤツってなかなかいねえだろ」っていうような自負もありますか？

**柴田**　いや、どうですかね。逆にそれを言えるのは、たとえばプロレスの試合のほうが言えますよね。プロレスの経験っていうのも、自分にとっては、もちろんすげえデカいことですから。

――そのプロレスでいうと、今夏の『G1クライマックス』のあと、優勝した後藤洋央紀選手が柴田選手の名前を出してましたけど、あの発言についてはどう思いましたか？

**柴田**　自分、そのコメントを出したことは知らなかったんですけど、後藤から電話がかかってきたんですよ。「優勝した！」って、すげえ嬉しそうに言ってましたけどね。ただ、自分は（プロレスを）やってた立場なんで、プロレスに関しては結果だけでは判断したくないんで。その試合を観てないんで、なんとも言えない。「おめでとう」ぐらいしか言えませんでしたね。プロレスは結果以上に内容が重要なものですから。

## KATSUYORI SHIBATA

――あの後藤選手の発言は、ある種、ラブコール的な部分もあったと思うんですけど。

**柴田**　それはあったと思います。じつは、全日本の両国国技館（8・31）で武藤さんと後藤の試合（IWGPヘビー級選手権）があったんでちょっと観に行ったんですけど、途中で帰っちゃいました（笑）。



今年の『G1クライマックス』で初出場で初優勝をした後藤洋央紀。大会後、「（この優勝の喜びを）まずは柴田に一番に伝えたい。彼は昔からのライバルであり恩人。また組みたいし、闘いたい」と、高校の同級生でもある柴田に対してアブコールとも思える発言をした。しかし、柴田の返答は……。

――帰っちゃいましたか。それはどういう理由で？

**柴田**　とりあえず後藤の試合は観たんですけど、だからといって俺がやりたいとかはなかったです。G1で優勝したんだから、もっとおもいきりがいいのかと思ってたんですけど、なんかイマイチ伝わってこないっていうのがあったし。

――響いてくるものがそれほどありませんでしたか。

**柴田**　そうですね。自分は他人のこと言える立場じゃないし、向こうも俺の総合の試合を観ても何も響いてないかもしれないし。これはなんとも言えないですけど。

――いまはプロレスのことまで考えてられないって感じですか？

**柴田**　そうですね。よく言われるんですよ「プロレスに戻ってこないんですか？」とか。もう自分の中には「プロレスに〝戻る〟」っていう選択肢はないですから。

――選択肢にすらないですか。

**柴田**　「戻る」っていうのはないですね。自分がなんで総合やってるかっていうと、やっぱりプロレスが好きで、自分の理想のプロレスを求めた結果、総合をやってるんだと思いますし。この前の後藤の試合を観ても、俺がやってることは間違ってないっていうか、自分がやりたいのはこっち（総合）だなっていうのは確信しましたしね。まあ、先のことはわからないし、俺の人生の進む先にプロレスがあればやるかもしれないですけど、いまはドップリ総合に浸かってます。

――将来的にプロレスをやる可能性はゼロではないけど「戻る」ということはない、と。

**柴田**　ないですね。「じゃあ、なんでやめたの？」ってなっちゃいますから。総合で勝って箔をつけて戻りたいとか、そういうのは一切ないし、戻るために出たわけじゃないですから。

――要はやりたいことを突き詰めてたらいま総合になって、総合をやり続けたら、その次のやりたいことの一つとしてプロレスがもしかしたらあるかもしれない、ということですね。

**柴田**　何がやりたくなるか、何が必要になるか、先のことはわかんないですから。もしかしたら将来は立ち技だけをやってるかもしれないし、ホントに先のことって、自分でも読めないです。ただ、とにかくいまは総合で勝つことしか考えてませんから。勝つために、必要なものは吸収して不要なものは切り捨てるって感覚ですね。じゃないと、総合の流れに置いていかれてしまうんで。

――そして、その先にもう一度、秋山成勲戦があれば、という感じですか？


**柴田**　そうですね。ある意味、それが目標というかモチベーションになりますね。自分が求めるものは、秋山戦だけじゃないですけど、負けたらやり返したいって気持ちになりましたし。あの負けの自分の糧にしたいですね。これまで秋山は〝プロレス界の敵〟みたいな感じだったんですけど、ホントにいまは個人的な敵ではあるなって思って。

――自分にとって特別な存在みたいな感じになりました？

**柴田**　そうですね、あんまりいい言葉を使いたくないですけど、特別といえば特別かもしれないですね。なかなかいないですよ、あんな人は。

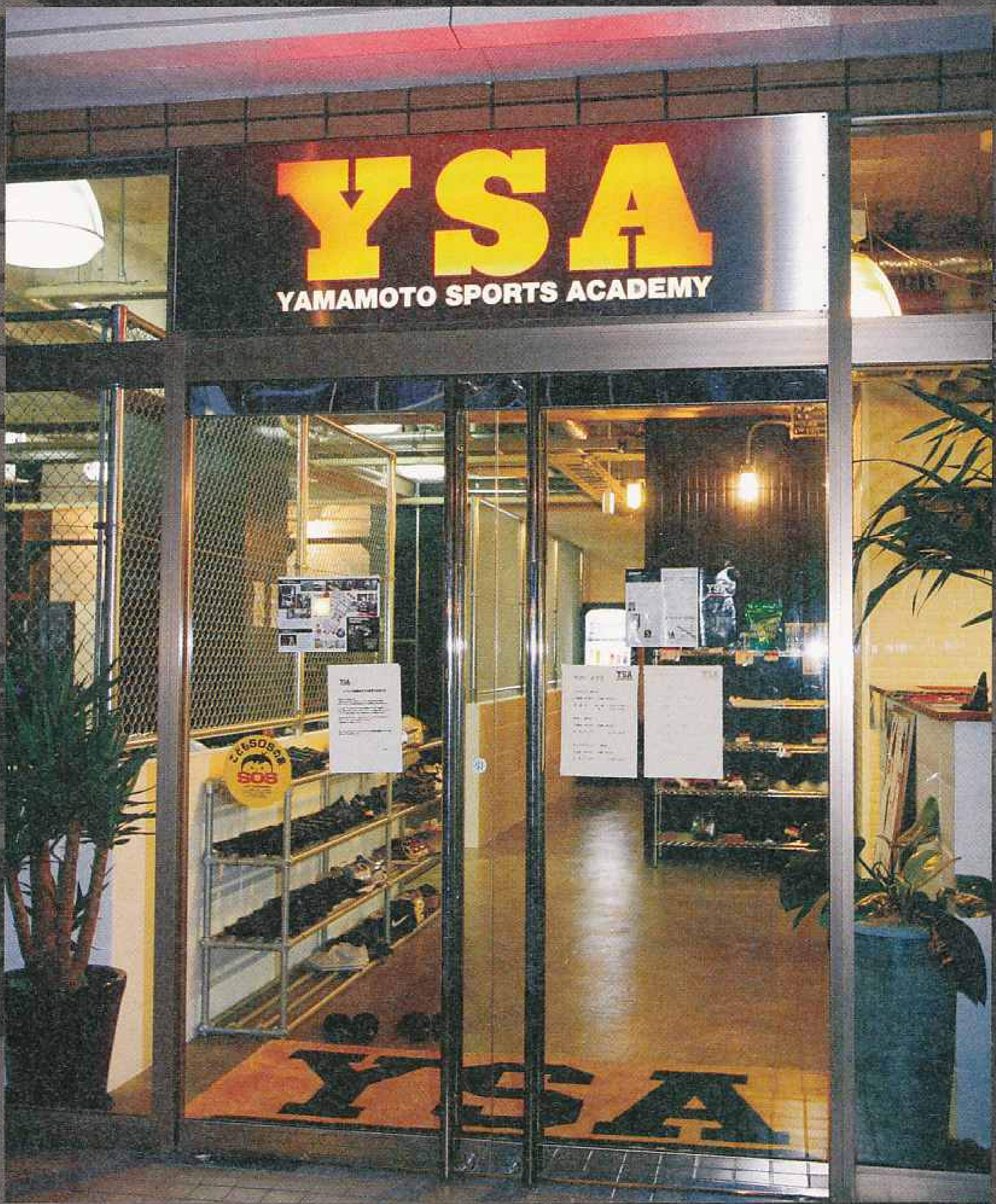
――わかりました。じゃあ、柴田勝頼の次なる挑戦に期待してます！

**【08年9月19日／都内・ゴールドジムノース東京にて収録】**



# 後藤洋央紀と武藤さんの試合を観て
# あらためて自分のやってることは間違いない
# 俺がやりたいのは総合だって確信しました

**Profile**
しばた・かつより■1979年11月17日、三重県桑名市出身。新日本プロレスで活躍したレフェリー・柴田勝久の息子。新日本プロレス、ビッグマウス・ラウドを経て07年3月から『HERO'S』に参戦。元リングスの山本宜久を9秒でKOするが、以後はハレック・グレイシー、桜庭和志、ジェイソン・ミラー、秋山成勲に4連敗。再起を誓う。184cm、84kg。

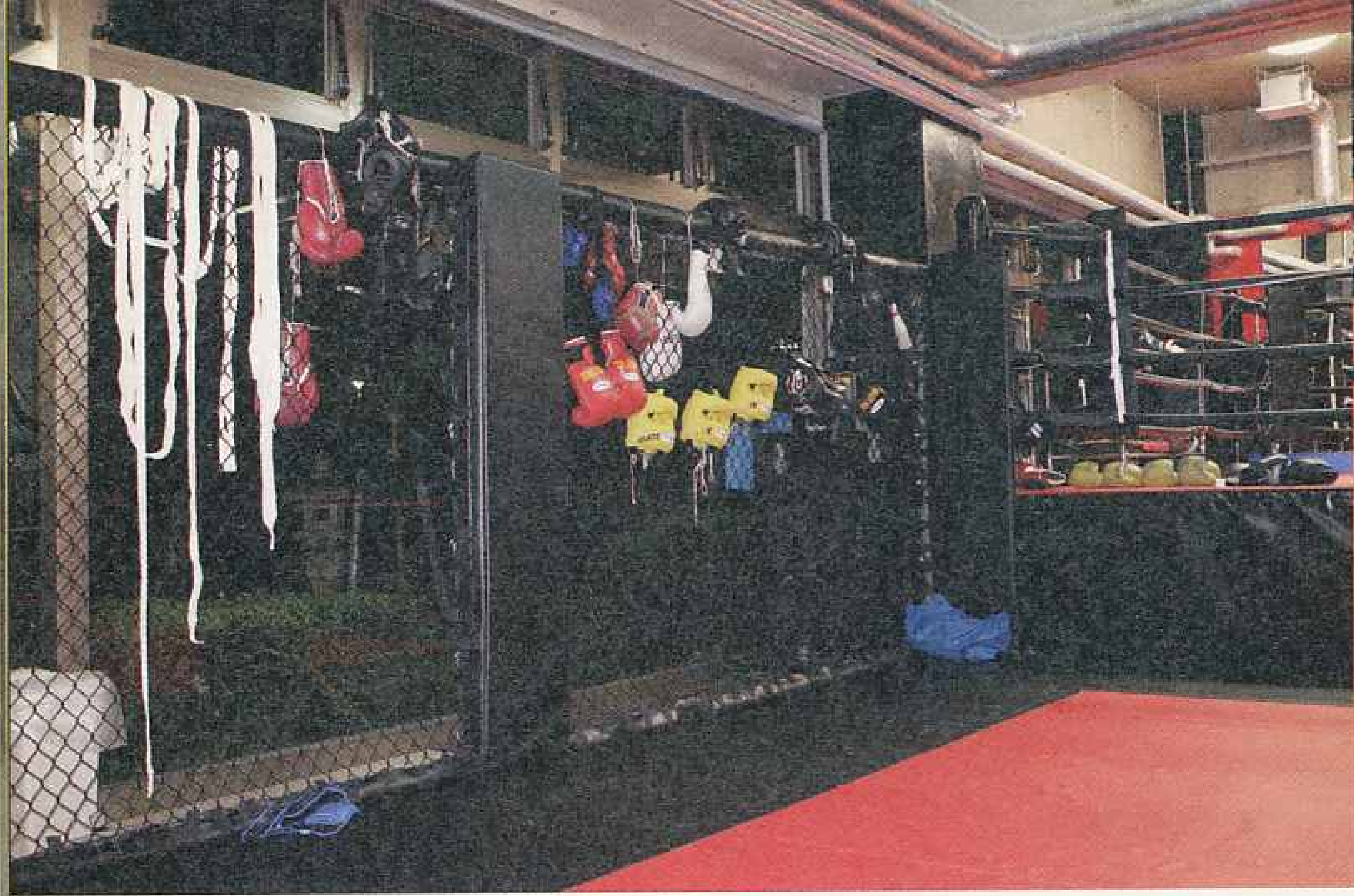



基礎トレ、柔術、ボクシング、レスリング etc.……
国内屈指の本格ジムKRAZY BEEに潜入！

# 日本にも“メガジム”はあった！

メガジムといえば、アメリカに存在するものとして認識していた我々だが、
じつは日本国内にもその概念に限りなく近いジムが存在していた。今回潜入したYSA（ヤマモト・スポーツ・アカデミー）は
まさにそれを代表するジムと言えるだろう。このYSAから、いまなお進化し続ける日本のジムの現在を見よ！

構成　松下ミワ　撮影　乾晋也






# 海の向こうのMMAが劇的に変化した一方で 日本マット界の進化は止まっていなかった

「レベルの高い練習をしたいからアメリカに行くんです！」

長南亮の言葉（『kami:pro』No・127でのインタビューにて）にもあったように、これまで『kami:pro』ではAKA（アメリカン・キックボクシング・アカデミー）、TEAM QUEST、チーム・オーヤマなど、アメリカにあるメガジムをいくつも取材し、そのだだっ広さと、競技・人数ともに選手の豊富さにド肝を抜かれてきた。

この選手の豊富さのどこにキーポイントがあるかといえば、こちらも青木真也の言葉を借りると、日本で練習している選手は柔術、レスリング、キックボクシングなど、総合格闘技を究めるために、それぞれ別の道場で練習するのが普通だというが、アメリカではその手間がいらず、プロ、アマチュア、ついでに子どもたちまで入り混ざって、それぞれが効率的にトレーニングができるということである。6歳からMMAを学べる環境がアメリカにあるんですよ！

アメリカMMAの発展が、まさにジムの環境からも垣間見えるという話はこれまで本誌がお伝えしてきたとおり。取材を敢行するたびに、そんなアメリカの練習環境の凄さに圧倒されてきたわけだが、その一方で、日本国内にも〝出稽古いらず〟の充実した環境が整備された場所を発見したのだ。

そのジムこそ、山本〝KID〟徳郁主宰のKRAZY BEE勢が練習を行なっているYSA（ヤマモト・スポーツ・アカデミー）である。

YSAといえば、今年4月に都内にジムをオープンさせたが、その設備といえば、リングあり、ケージあり、レスリングや柔術などリングとは別に寝技の練習ができるスペースがあり、さらにはフィットネス専門のジムにも引けを取らないくらいのトレーニングマシンが充実している。

トレーニングマシンに関していえば、もちろんこれは総合格闘技だけでなく、一般コースも考慮したうえでの設備になっている。しかし、どのマシンを投入すべきかということは、ほぼKID自身が自分のフィジカルトレーニングに必要な器具を揃えたというから、発端はやはり総合格闘家としての観点で選ばれているのだ。

また、競技的なことを考えると、このKRAZY BEEが開設された時期から間を置かずに、KIDはブラジルからベッチーニョ・ヴィタウとアドリアーノ・マルチンス（『DREAM・6』で中村K太郎と対戦）の二人の柔術コーチ、タイからキックボクシングのコーチ、イー先生（シリチャイ・クレイジービー）を招き入れている。YSAのすぐ近くに住んでるというからこれまたビックリ。正直、アメリカ級のだだっ広さを日本のジムに求めることは難しいが、KIDはまさに〝メガジム〟級の環境を自ら作り出したという感じだ。

YSAを管理する竹内博之氏の話では、「KIDさんもジムに関しては現状が完成形だとは思ってないでしょう」とのこと。海の向こうのMMAが劇的に巨大化してきた一方で、練習環境という一場面を切り取ってみても、いずれは逆襲の狼煙を上げるために日本マット界の進化は止まっていないのだ。

というわけで、次ページからはその設備をのぞいてみたいと思う。









『DREAM・6』で中村K太郎と闘ったアドリアーノ・マルチンスも練習に参加。試合前の調整として、ジム生と汗を流した。



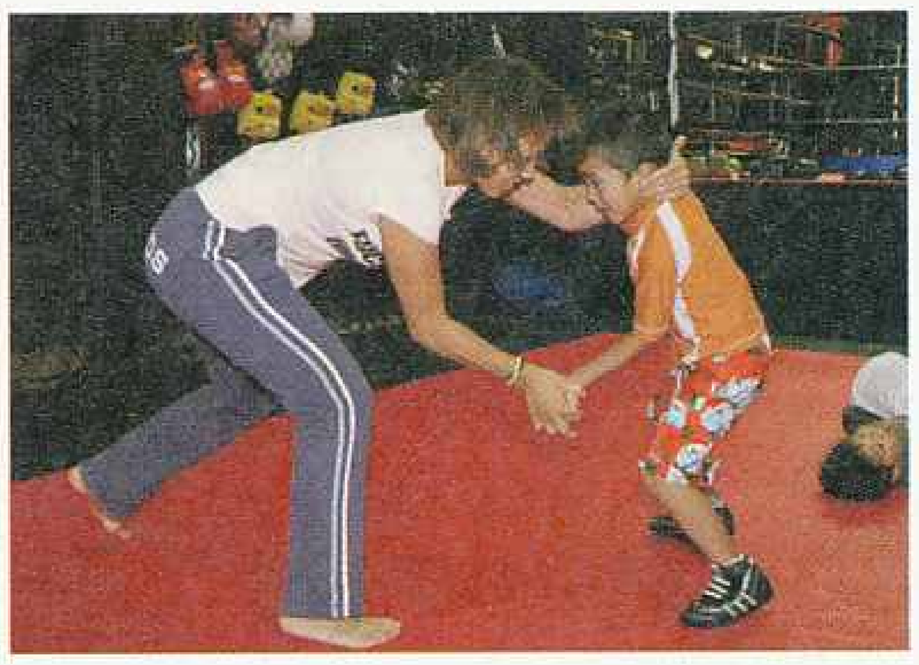
この日のアマチュアクラスではKIDによるレスリング中心の練習が行なわれた。タックルの入り方などをKIDは一人一人、綿密に指導。




キッズクラス担当
**山本聖子さん**

キッズクラスは曜日ごとに姉の美憂と父と私とで交代で教えてます。いま、だいたい10人ぐらいがいつも来るメンバーですね。キッズといっても小学校6年生までひとまとめに教えてるので、私たちだけじゃなくて、小学校高学年の子が低学年の子に教えたりもしてますし、そこはさまざまというか。みんながレスリングできるようになってくれば、そういうふうに面倒を見れる子が増えて、上と下が関係ないとか堅苦しくない感じで練習できればいいなと思います。子どもたちがレスリングを始めるきっかけですか？　まあ、子どもたち本人というよりも、子どものお父さんなんかがノリ（KID）みたいに強くしたいということでレスリングを習わせるパターンもあるみたいですけど。よく練習見に来たりしてますから。本当にこのジムができて初めてレスリングをやった子たちばっかりなので、ジムができたときは前転もできない子ばっかりだったんですけど、そう考えると成長してますね。ちょっとレスリングっぽくなってきたかなと思います。

▶これまで総合格闘技といえば、テレビなどのメディアを通じて興味を持ち、競技者になる選手が大半だったようだが、このYSAではKIDをはじめプロ格闘家の練習を目の当たりにすることになるのだから、キッズクラスでレスリングを覚えながらいずれは総合格闘家へと成長していくケースも出てくるだろう。つまりは未来のKIDが続々とYSAで育っているかもしれないのである。恐るべし!

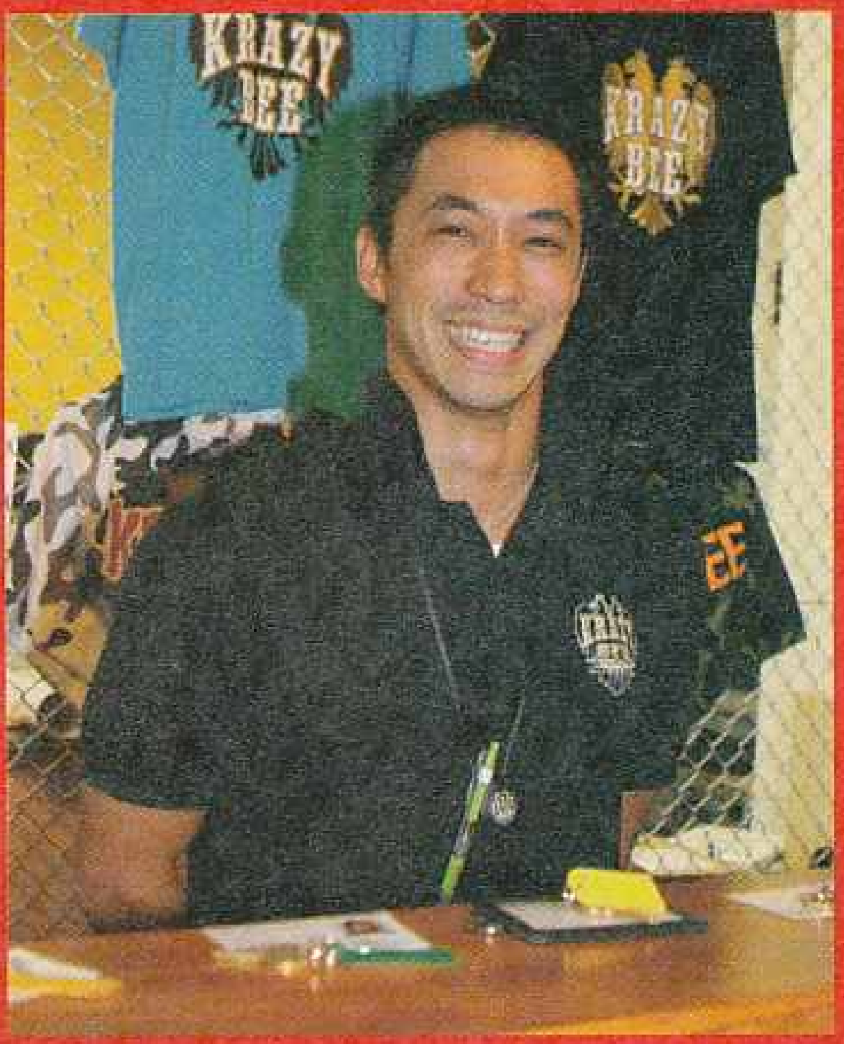


キッズクラスは山本美憂＆聖子姉妹が担当。この歳から世界レベルの実力者に指導してもらえるとは、ここの生徒はじつに末恐ろしい。



下は3歳から、上は12歳までがキッズコースの対象年齢。ケージの向こう側には、キッズの練習を見守るお母さま方の姿も。

## 専門コーチについてはすべてKIDさんがプロデュースしてます




YSAマネージャー
**竹内博之さん**

——このジムに関わったきっかけは？

**竹内**　今年の4月からKIDさんのフィジカルトレーナーとして金子憲一さんという方が就かれたんですが、金子さんの下でトレーナーをやってた関係で、こちらのYSAを紹介していただいたんです。

——竹内さん自身もインストラクターなんですね。

**竹内**　はい。もちろん一般の会員さんもいらっしゃいますけど、やっぱりいまは基本的には総合格闘技のジムで、常時30名くらいはいつも練習に来てますね。会員は100名ぐらい。

——そんなにいるんですね。でも、格闘技ジムで考えると、これだけの機材や設備が揃ってるところというのは……。

**竹内**　（さえぎって）ここだけでしょうね。それに、設備だけでなく、格闘技ジムだけを見ても、KIDさんがレスリングを教えてらっしゃいますし、5月からは柔術の先生としてブラジルからアドリアーノとペッチーニョが来てます。キックボクシングの先生もタイから来てますしね。フィジカルトレーニングというと、KIDさんのトレーナーである金子さんがいますから。強くならないわけがないと思いますよ（笑）。

——ほかのジムの選手なんかは、よく出稽古というか、いろんなジムを点々としている選手も多いと聞きますが、KRAZY BEEは、YSA一つでいろんな技術が吸収できるということですか。

**竹内**　ええ。柔術やキックボクシングの先生なんかが来る前は、自分たちで独自に練習するという感じでしたけど、アドリアーノやペッチーニョが来てからはいろいろなものを吸収できてるということなので、以前とは練習への取り組み方が全然違ってると思います。

——そこはどなたがプロデュースしてるんですか？

**竹内**　そこは全部KIDさんですね。

——そういった環境がある一方で、KRAZY BEEの選手が出稽古するようなこともあるんですか？

**竹内**　中にはしてる選手もいます。たとえば今回『DREAM・6』に参戦した山本篤選手なんかは、都内のボクシングジムに行ってさらにパンチの練習をしてたりしますから。

——それはキックボクシングとは別に？

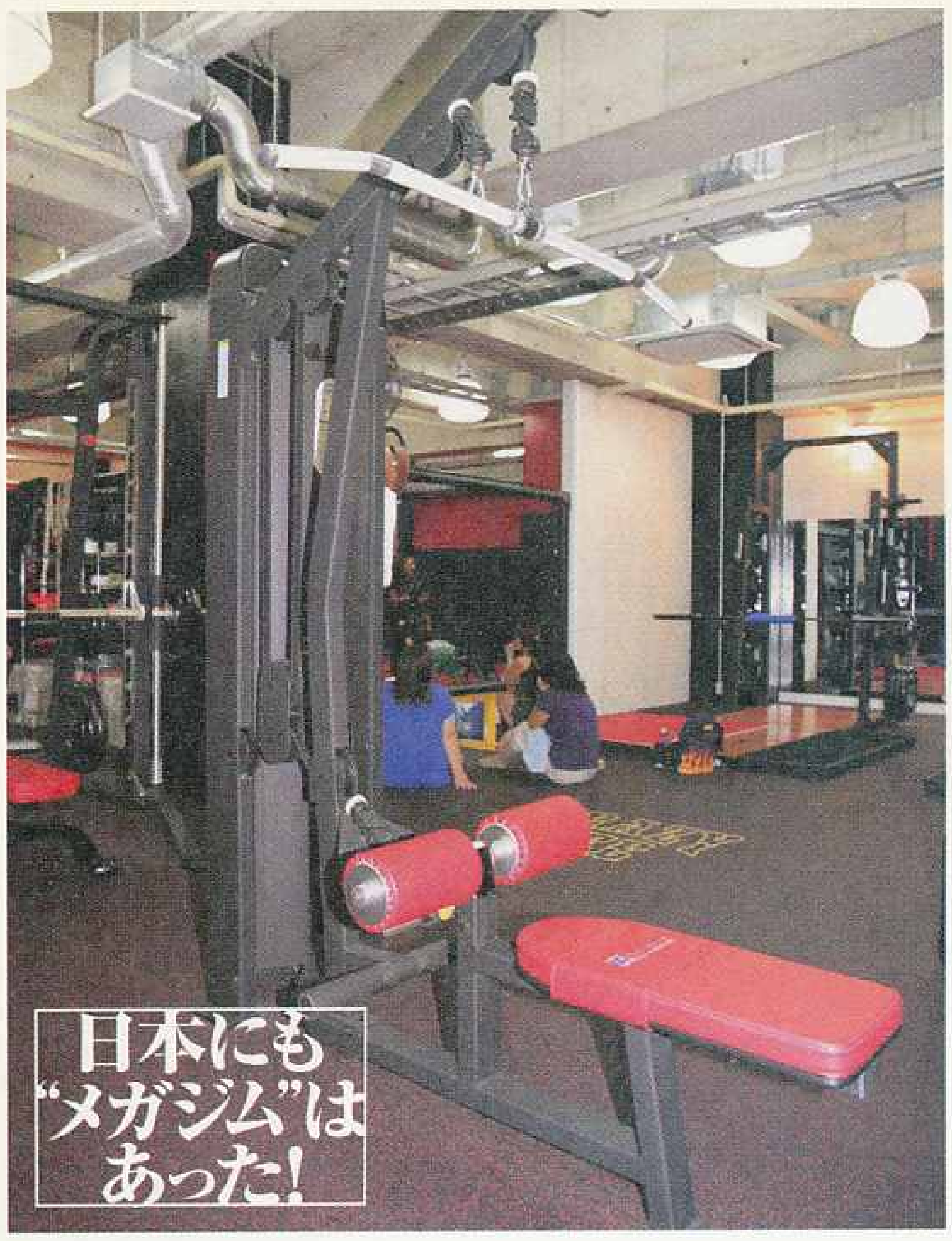
**竹内**　そうですね。けっこうここの選手は貪欲なので、ここにないものを外で吸収しようという動きは当然あります。

——逆に出稽古を受け入れるということもあるんですよね。

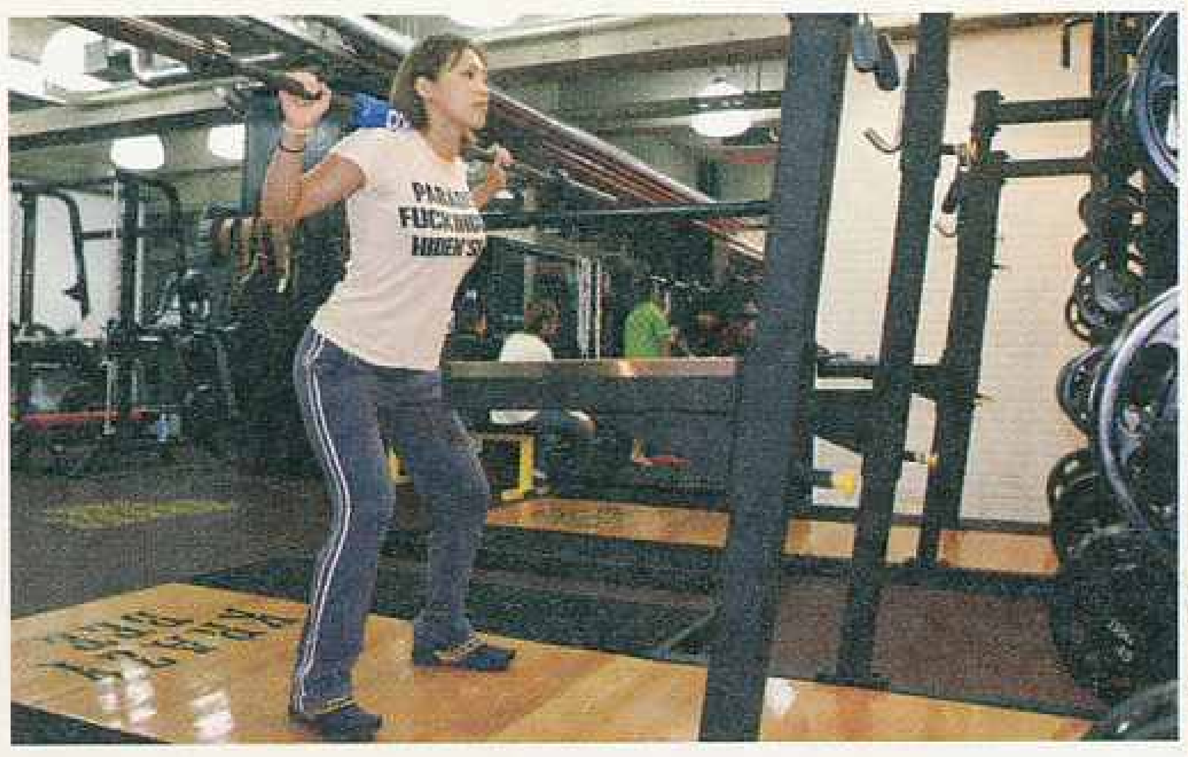
**竹内**　はい。そこはもうKIDさんが門戸を開いているというか、「アイツが強いから呼ぼうぜ！」ということではなくて、本当に人とのつながりというか。KIDさんをはじめ、山本篤選手も朴光哲選手もいいファイターなので、「今度、一緒に練習しよう！」ということになったら、もうそこは受け入れてますよ。

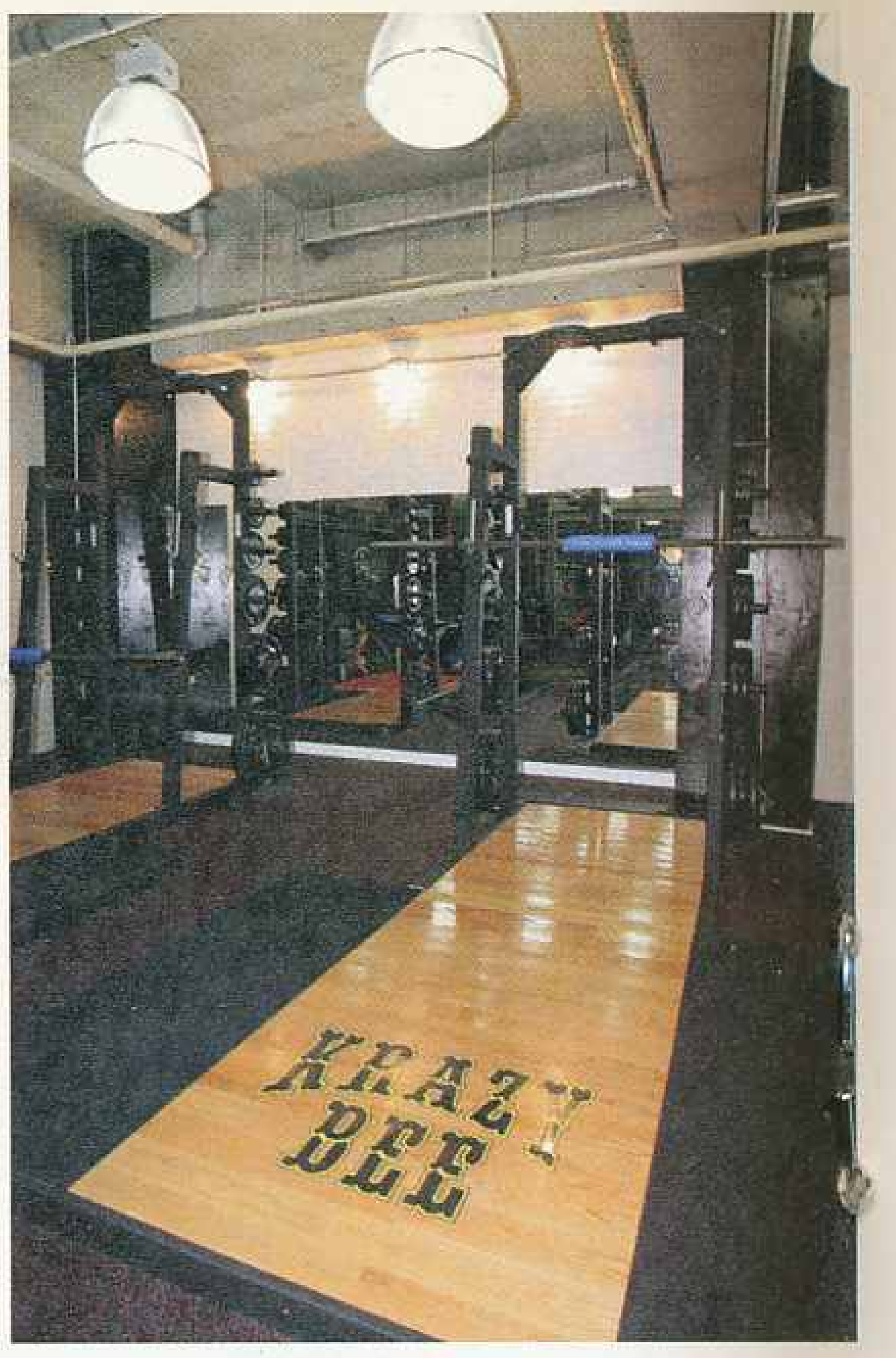
▼メガジムといえば、昨年6月頃にKIDや山本篤らKRAZY BEEの選手が何名かAKAへと海外修行に旅立っている。この修行のあとにYSAが設立されたことを考えると、自らの練習環境を作る上でAKAでのトレーニングが一つのヒントになったことは充分に考えられるだろう。ジムの先頭に立つKID自らが、あらゆるものを貪欲に吸収しようという姿勢なのだから、そして先を見据えた改良が日本国内に伝播されていくことはおおいに期待できる。このジムに限らず、より強くなるための

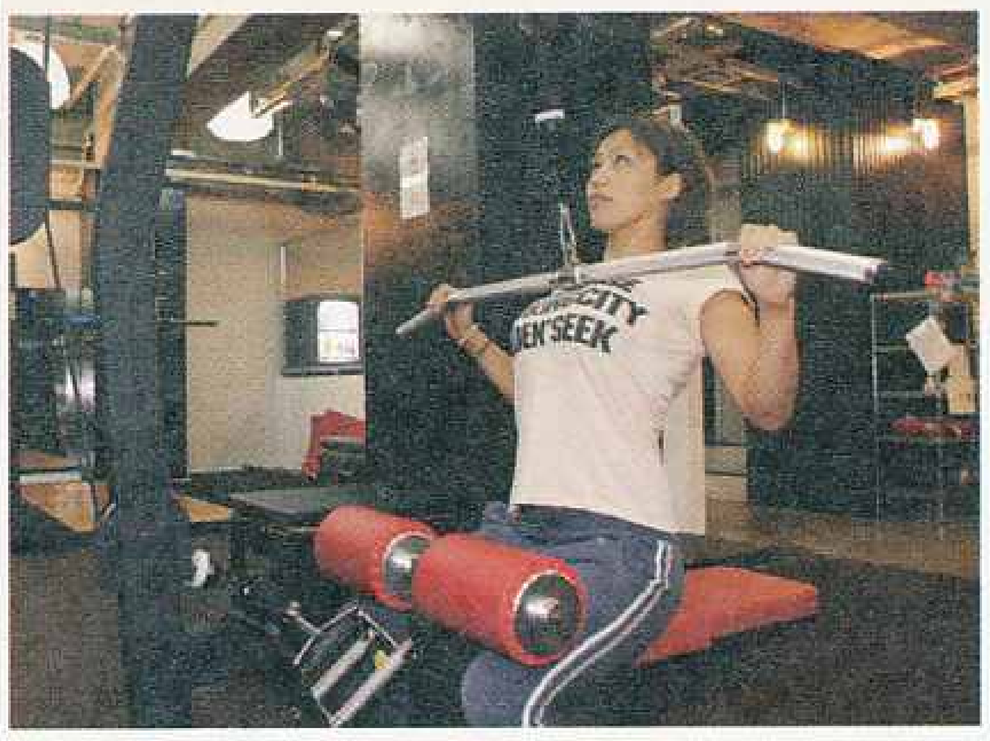
# 日本にも“メガジム”はあった!



トレーニングマシンはほとんどがKIDのフィジカル強化を見据えて選ばれたもの。もちろん日本体育大学のスポーツトレーナー研究会顧問であるKIDパパ・郁榮氏のアドバイスも手伝っている。





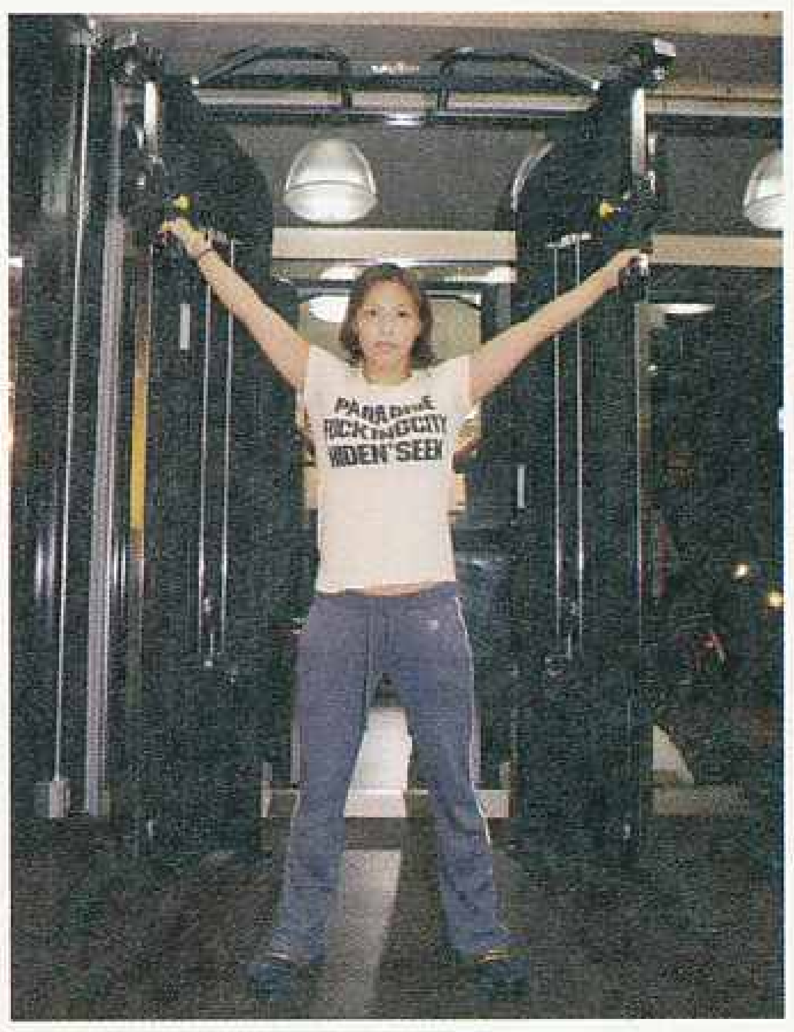



トレーニングマシンはもちろん一般会員にも開放されており、ジムのマネジメントを務める竹内氏もトレーナーとしてトレーニングメニューを組み立ててくれるのだ。

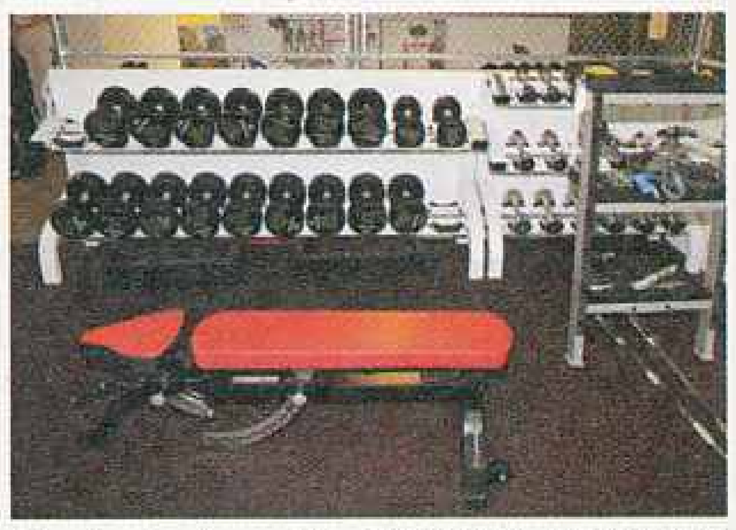




なんと、酸素カプセルまで発見! その脇には身体の燃焼をうながすマシンまで設置されている。一般会員にはまだ公開されていないが、KIDらはすでに使用しているとのこと。まさに最先端!







ルームランナー、ダンベルなどは、もちろん写真のような感じでとり揃えられている。これだけあれば、もうお腹いっぱいである。



柔術コーチ
**ベッチーニョ・ヴィタウ**

——ベッチーニョさんがKRAZY BEEに来られたきっかけは?

**ベッチーニョ** ブラジル人の知り合いが日本にいるんだけど、1年前、サブミッションの大会が開催されるときにその知り合いを通してボクが呼ばれたんだ。その大会をKIDが観に来てたんだよね。

——それでスカウトを?

**ベッチーニョ** それから、ケージフォースを観に行ったときにもKIDと会ったんだ。ちょうどそのとき、KIDがビビアーノ(・フェルナンデス)と試合する前だったから、ビビアーノ対策としてボクが柔術を教えることになったんだ。

——ではもう1年以上もの付き合いなんですね。ちなみに日本に来てみてどうですか?

**ベッチーニョ** 来た当初はブラジルに比べてちょっと寒いと思ったよ。5月ぐらいだったけど、それに比べるとブラジルは暑いからね。でも、けっこうすぐ慣れたよ。いまは日本のほうが普通に感じる。

——KRAZY BEEに来て柔術を教え始めて、どんな印象がありました?

**ベッチーニョ** KIDを教える名目で来たけど、ボクもKIDから学ぶことがたくさんあって楽しいよ。お互いに教え合ってるという感じかな。それに、指導するということが自分の仕事になってる感じがして、けっこうやりがいを感じてるよ。KIDにこんな役割を与えてもらって凄く嬉しいし。

——もう一人、柔術の先生であるアドリアーノはベッチーニョさんが呼んだんですよね?

**ベッチーニョ** そう。アドリアーノとは子どもの頃からずっと一緒に柔術をやってきた仲間だから、もう彼のことは手に取るようにわかるんだ。アドリアーノはパワーとスタミナでは誰にも負けないファイターだからね。きっとこのジムでも一緒にいい練習ができると思ったし、日本のリングでもビックリするくらい活躍できるんじゃないかな!

——おお! それは楽しみです。ちなみに、お二人はずっと日本にいらっしゃるんですか?

**ベッチーニョ** とりあえずはね。いろいろ学べることがあるし、何より楽しいから。まあ、先のことはこれから考えるよ。時間あればブラジルに帰国して家族に会うことも簡単にできるし。それより、いまは日本で有名になりたいな。

——そんな野望が!?

**ベッチーニョ** じつは今年、右肩を手術したんだけど、それも完璧に治ったし、コンディション的にはもう万全なんだ。だから、9月28日のDEEPの次は絶対にDREAMに出るよ! 日本のファンにも楽しみに待っててほしいな。



ムエタイコーチ
**イー先生**
(シリチャイ・クレイジービー)



柔術コーチ
**アドリアーノ・マルテンス**

## KRAZY BEE

■プロフェッショナルコース
月～土 10:00～23:00
※月・水・金は柔術、火・木は打撃とグラップリング、土は打撃・グラップリング・レスリング
入会金/一般=21,000円
学生=15,750円
月会費/一般=12,600円
学生=9,450円
その他、キッズコース、フィットネスコースあり!

所在地=東京都大田区中馬込2-8-1 日経エスプラナード1F
電話=03-5742-2906
営業時間=10:00～23:00
休館日=不定期・月2回、年末年始
詳細は http://krazybee.jp/gym.htmlへ!

**高田延彦大ピンチ!!**

# いま子どもにもっとも見せたいプロレス

**2008.9.14『ダイヤモンド・キッズ・カレッジ』@ナショナルトレーニングセンター**




**もちろん大人が観ても大満足!! 高田延彦が鬼蜘蛛に襲われた!!**

文／坂井ノブ　撮影／山口日佐夫

　髙田延彦&向井亜紀夫妻が、いま最も力を注いでいるイベント『ダイヤモンド・キッズ・カレッジ』（以下『DKC』）。4歳から小学6年生までを対象とするこのイベントは、子どもたちに格闘技の楽しさを体感してもらうために無料で開催されている。そこで毎回お昼休みに開催されている『ハッスル』のエキジビション・マッチが、じつにすばらしいプロレスなので紹介してみたい。

①髙田延彦が登場して参加者を紹介して楽しいおしゃべり
②髙田モンスター軍のモンスターが乱入して髙田延彦が襲われる
③参加者が協力して髙田を救出、モンスターを退治！
④めでたし、めでたし（毎回同じ）

　ちなみに髙田が襲われる姿をMCの向井が実況するというオマケもついてくる。いまじゃどこを探しても見当たらないほどのコテコテな勧善懲悪だ。モンスターの迫力はけっこうなもので、彼らが客席の中に突っ込んでいくと子どもたちは泣き叫んでおびえている。おそらく彼らは、向井の「お父さんやお母さんの言うことを聞かない子は、鬼蜘蛛に襲われちゃいますよ～」という言葉を信じていることだろう。

　髙田がモンスターに襲われる一方で、北京五輪のアマチュアレスリングで金メダルを獲得した吉田沙保里や伊調馨、銀メダルの伊調千春が登場して挨拶するという嬉しいサプライズもあった。子どもたちに悪夢を見せると同時に現実世界の頂点という夢を見せられるのだから、こんな舞台はほかにないだろう。イベント終了後には子どもたちはサインをもらったりして、メダリストたちと触れ合っていた。

　参加したスター選手たちはサインや記念撮影にも気さくに応じている。こうした体験が将来、子どもたちの未来に大きな影響を及ぼすに違いない。

　アマレスを体験し、アスリートの頂点と触れ合い、そして将来はプロレスや総合格闘技を背負って立つ人材が飛び出してくるかもしれない。いま、子どもに体験させるべきは、この『DKC』だろう。




ナショナル・トレーニング・センターで合宿中の女子レスリング代表チームから吉田沙保里、伊調姉妹が登場。子どもたちを前に挨拶をした。

## 次回DKCは福岡上陸！

| | |
|---|---|
| 日　時 | 2008年10月19日(日)<br>▼午前の部(レスリング)<br>11:00～12:30<br>▼選手エキシビジョン<br>13:30～13:50<br>▼午後の部(ボクシング)<br>14:00～15:30<br>※当日の受付は各クラス30分前から |
| 会　場 | 福岡大学レスリング場<br>福岡市城南区七隈8-19-1 |
| 参加対象 | 4歳～小学校6年生の男女<br>参加費無料<br>見学のみの申込も受け付けております |

問い合わせ　ダイヤモンドキッズカレッジ事務局 TEL 0120-79-0655




# 浮かれ気分の“モンスターK”に試練到来!?




## 10.26『ハッスル』栃木大会に大問題発生!
## 宇都宮市清原体育館はJR宇都宮駅から徒歩118分!!
## 大会終了後はバスもない!?
# みんなホントにいけんのか!

自称・栃木県親善大使、“モンスターK”川田利明の願いがかない、10月26日についに実現する『ハッスル』栃木大会。しかも、『ハッスルGP』の決勝戦という下半期最大規模のビッグイベントになるということで、いまからモンスターKのボルテージは上がる一方だ。しかし、ここで問題発生! 会場となる宇都宮市清原体育館はとにかく遠くて、交通の便もきわめて悪いことが判明したのだ。全国のハッスルファンはホントに観戦にいけんのか!? 本誌が現地へ事前取材を試みた。

文&取材／堀江ガンツ　合写真／山口比佐夫、平工幸雄

祝『ハッスル』栃木大会開催！ 栃木をこよなく愛する男、〝モンスターK〟川田利明の願いが、なぜか『ハッスルGP』に優勝する前にかなって、ついに正式決定した10・26『ハッスル』栃木大会。

しかも、単なる地方興行ではなく、なんとなんと『ハッスルGP』の決勝というビッグマッチが行なわれるということで、栃木県出身であるボクもモンスターK同様、嬉しいかぎり。〝日本一影が薄い県〟と言われたわが故郷、栃木県についに光が当たる日が来たのだ！

……と、喜んだのもつかの間、『ハッスル』栃木大会の会場名を聞いて、心に暗雲がたちこめてきた。

なんで清原体育館なの⁉

そう、記念すべき『ハッスル』初の栃木大会の会場である宇都宮市清原体育館は、とにかく遠くて有名なのだ。

遠いだけではない。自動車や自転車が使える地元民以外は、もちろん公共の交通機関を使って行かなければならないのだが、バスは一日にたったの数本！

そのため、清原体育館の隣にある清原球場で高校野球や社会人野球の大会があったときなど、たびたび帰りのバスがなくなってしまい、帰れない人が大勢発生するという事態に陥ることがあり、地元ではこれを〝清原難民〟と呼んでいたりするほどなのである。

ちなみに、「ちょっとぐらいの距離なら休日だし、歩いて行っちゃおう」という元気な若者もいるかもしれないが、覚悟しておいたほうがいい。JR宇都宮駅から清原体育館までの所要時間を調べてみたところ、なんと徒歩118分！ 道に迷ったら最後、取り返しのつかない距離といえる。もちろんタクシーを使ってもかなりの金額が必要となるだろう。

ハッキリ言って、興行を打つにはかなり厳しい会場、それが清原体育館なのである。

ボクもまだ宇都宮に住んでいた高校時代、一度だけ清原体育館にプロレスを観に行ったことがある。電流爆破マッチで大仁田人気が爆発していた当時のFMWだったのだが、観客は6割という寂しい入り。これはべつに宇都宮にプロレス熱がないわけではない。かつて宇都宮には地方都市ながらプロレスショップが存在するなど、どちらかと言えばプロレス人気が高い土地だ。それが不入りだったのは、ひとえに会場が遠いということだったのだろう。

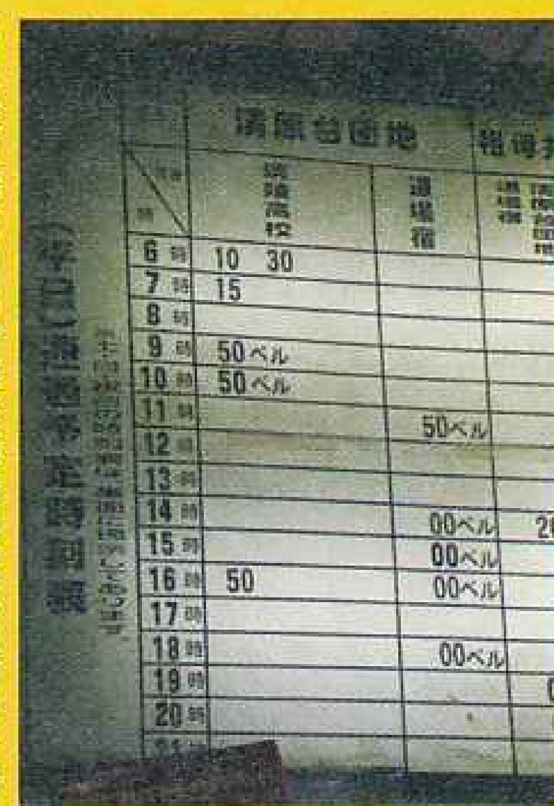
ちなみに宇都宮には、清原体育館以外にも栃木県体育館、宇都宮市体育館というプロレス興行向きの大きな体育館が二つあり、どちらも交通の便がいい。なぜこっちじゃないのか？ とも思うが、きっとスポーツの秋。10月の土日はどちらも学生のスポーツ大会で埋まっていたのだろう。それなら、10月は外せばいいんじゃないかとも思うが……。

とにかく、このままでは『ハッスル』栃木大会が危ない。

地元民はマイカーやバイク、自転車で行けばいいが（土地はあるので駐車場はバッチリ広いのだ）、今大会



JR宇都宮駅東口には宇都宮のシンボル（？）である『餃子像』がある。女神が餃子の皮に包まれた、このシュールすぎる餃子像。『ハッスル』栃木大会観戦ついでに記念撮影にどうぞ。




バス乗り場はJR宇都宮駅西口にある。そこで時刻表を見てビックリ。午後、清原体育館方面に行くバスはたった一本！ しかも16時50分発で、これに乗っても『ハッスル』に間に合わないよ！



バスに40分揺られて、清原体育館最寄りのバス停である「清原球場」で降りてビックリ。ご覧のように、な～～～んにもないのだ。ここで帰りの足がなくなって“清原難民”になったら、ヤバい！



これが『ハッスル』栃木大会の会場である清原体育館。円形のモダンな建物で、広さも充分。ビッグマッチにも対応できそうだが、いかんせん交通手段が脆弱なのが玉にきずなのだ。

# 迷わず行けよ、行けばわかるさ！
## （帰れなくなるかもしれないけど）

# 10.26『ハッスル』栃木大会前に 清原体育館へ行ってきました！

栃木県出身 堀江ガンツが

は『ハッスルGP』決勝である。きっと東京方面から駆けつけるハッスルファンもたくさんいることだろう。彼らを〝清原難民〟にしてはならない！　そんな思いから、帰省ついでに、実際にバスを使って清原体育館まで行き、実態調査をしてきたので、ここで皆さんに報告しよう。

東京駅から新幹線で50分、あっという間に宇都宮に到着。別枠にも掲載してあるが、東京から宇都宮までのアクセスは非常に良好。日曜日に小旅行を兼ねた日帰り観戦にはピッタリの場所だとも言える。しかし、問題はここからだ。

清原体育館へはJR宇都宮駅西口バスターミナルの3番乗り場から、JRバス「清原台団地」行きに乗って、「清原球場前」下車。その時刻表を見て驚いた。午前中こそ、それなりの本数があるが、午後はなんとたったの一本！　16時50分発のバスしかないのだ。10・26『ハッスル』栃木大会は17時スタート。バスの所要時間は約40分だから、まったくもって間に合わない。ダメじゃん！

清原体育館方面に行くバスは、もう一本、東野交通という会社の「清原球場」行きのバスで、宇都宮駅を13時24分発というのがある。これなら14時ぐらいに清原体育館に到着するので、ちょっと早いがこちらがオススメ。ちなみに、東野交通の「清原球場」行きはこのバスが最終だ。13時24分に最終バス。いやはや凄い。

ボクが宇都宮に着いたのが15時だったので、16時50分のバスで清原球場へと向かう。40分後、「清原球場前」でバスを降りてまたビックリ。あたりには、だ～～れも人が歩いてないのだ。車もほとんど通っておらず、あるのは工場と清原球場とその周辺の公園のみ。昔の有明コロシアム周辺みたいな感じだ。もちろんコンビニなんてないので、『ハッスル』へ行く人は飲み物と食べ物は事前に用意していったほうがいい。

清原体育館の建物自体はサブアリーナもあるじつに立派な体育館だった。これなら『ハッスル』のビッグマッチで使用しても問題ないだろう。しかし、問題はそっちではなく、帰りの足だ。バス停で帰りの時刻表を見てみると、「宇都宮駅」行きの最終バスは18時55分発。『ハッスル』開演時刻は17時ちょうどで、ビッグマッチなので、2時間半はやるだろう。となると……やっぱり間に合わないじゃん！

というわけで、現地調査の結果、このままだと〝清原難民〟が大量発生する危険性があることが判明した。この件について、主催するハッスルエンターテインメントに問い合わせてみたところ、「現在、臨時バスを出してもらえるよう、バス会社にかけ合っているところ」とのこと。

はたして臨時バスは実現するか？　っていうか、こういうのってあらかじめ用意してあるもんじゃないの!?

この清原体育館へのきわめて厳しい交通事情を先日、モンスターKに話したところ「これでもし不入りだったら、また俺が髙田総統にダメ出しされるじゃん！　誰が会場押さえたんだよ～」と、ぶっちゃけトークでボヤいていたことも付け加えておきたい。

なんとか臨時バスが出てほしいが、とりあえず、車が用意できそうな県外のファンの方は、マイカーかレンタカーで友だちと乗り合いしたりして、ドライブがてら出かけるのがベターなようだ。

『ハッスル』栃木大会の成功とともに、〝密航者〟たちの健闘を祈る！

なお、バスの時刻は10月1日にダイヤ改正があるとのことなので、各自再調査でお願いします。



## みんなで歌おう！

沢田研二『TOKIO』の替え歌

### TOCHIGI

宇都宮　大田原　足利　日光　佐野　小山
那須塩原　真岡　矢板
スーパーシティが燃え上がる
TOCHIGI　住みたくない県第3位
TOCHIGI　アイラブ栃木県
どこにあるのか　わからないと
おまえは言ってたね
教えてやろう　北関東の
群馬　茨城　挟まれてるのさ
TOCHIGI　影の薄さは日本一
TOCHIGI　アイラブ栃木県

いろは坂　猿軍団　世界遺産の東照宮
とちおとめ　とちぎ和牛
ぎょうざ　かんぴょう　佐野ラ～メン
TOCHIGI　日本一の観光地
TOCHIGI　アイラブ栃木県

TOCHIGI　川田とガッツの生まれ故郷
TOCHIGI　アイラブ栃木県～

## 『ハッスル・ツアー2008 ～10.26 in TOCHIGI』

栃木・宇都宮市清原体育館
10月26日（日）開始17:00

**チケット料金**

ハッスルVIP10,000円／RRS　7,000円
S 5,000円／A 3,000円／こどもA 1,500円
※全席指定・消費税込み
※1歳以上のお子様も入場券が必要です
※こどもAについては一部扱ってない店舗もあります。

**お問い合わせ**

ハッスルエンターテインメント TEL.03-3221-2431

## アクセス情報

意外と近いぞ宇都宮！

**東京駅→宇都宮駅**
東北新幹線（50分）
運賃1,890円　特急料金2,010円

**上野駅→宇都宮駅**
JR宇都宮線快速（1時間30分）
運賃1,890円

**新宿駅→宇都宮駅**
JR湘南新宿ライン快速（1時間40分）
運賃1,890円

**新宿駅南口→宇都宮駅**
高速バス「マロニエ号新宿」（2時間32分）
運賃2,000円

## これを食べなきゃ始まらない！宇都宮餃子

せっかく宇都宮に行くなら、やっぱり名物の餃子を食べたいところ。しかし、どこで食べたらいいのかわからない、という人もきっといるだろう。そんなあなたは、まず駅で「餃子マップ」をもらおう。市内の名店がたくさん載っているので、気に入ったところで食べてみよう。そのほか、遠出しなくてもJR宇都宮駅の駅ビルには「餃子小町」という餃子専門店街があるし、駅周辺には、それこそ無数に餃子専門店があるので、問題なし。駅周辺で一番人気は駅ビル1階にある『みんみん』。いつも行列しているが、食べてみる価値はある！




## みんなで覚えよう！ 栃木県版ハッスルポーズ

もはや「ハッスル」ですらない「トッチギ」ポーズ。日光東照宮名物「見猿、言わ猿、聞か猿」に合わせて、目、口、耳をふさいだあと、両手で「T」の字を作って「トッチギ、トッチギ！」。恥ずかしがってないでやっぺよ！

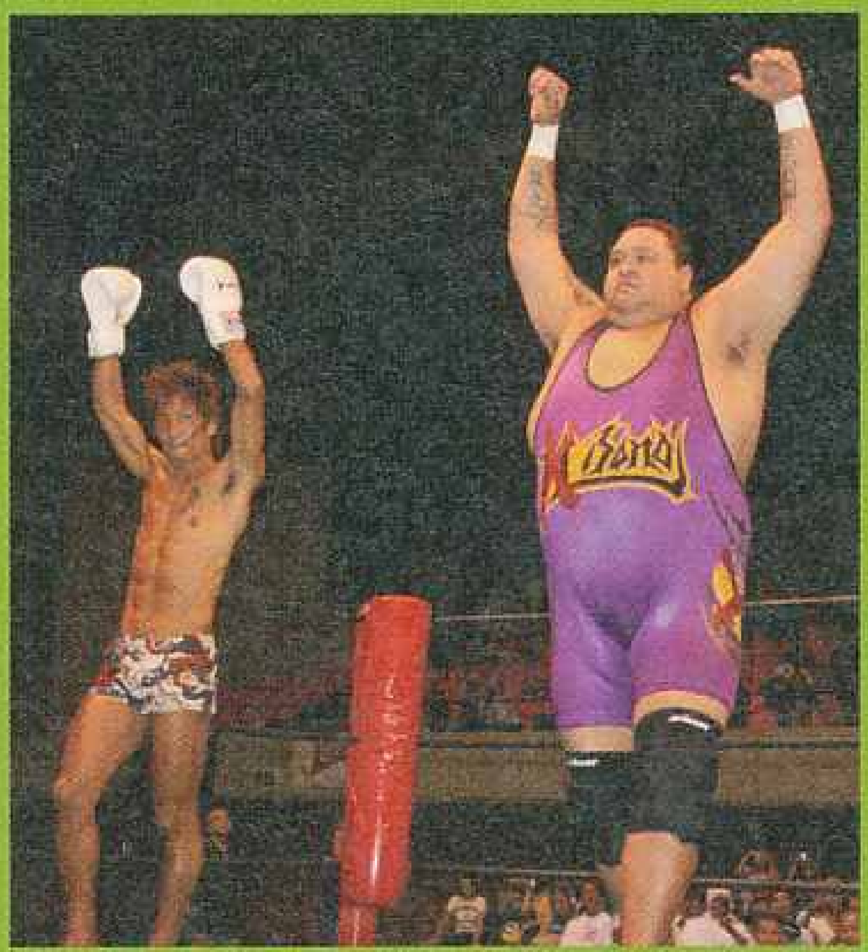





# ハッスルよど巡業へ回帰せよ!!

## 2008.9.15 ハッスル×ドージョー☆シャカリキ コラボ検証レポート

文／坂井ノブ



新田明臣とタッグを組んだボノちゃんがこの日の一番人気。やはり横綱のネームバリューはどこに行っても通用する凄い威力だ。

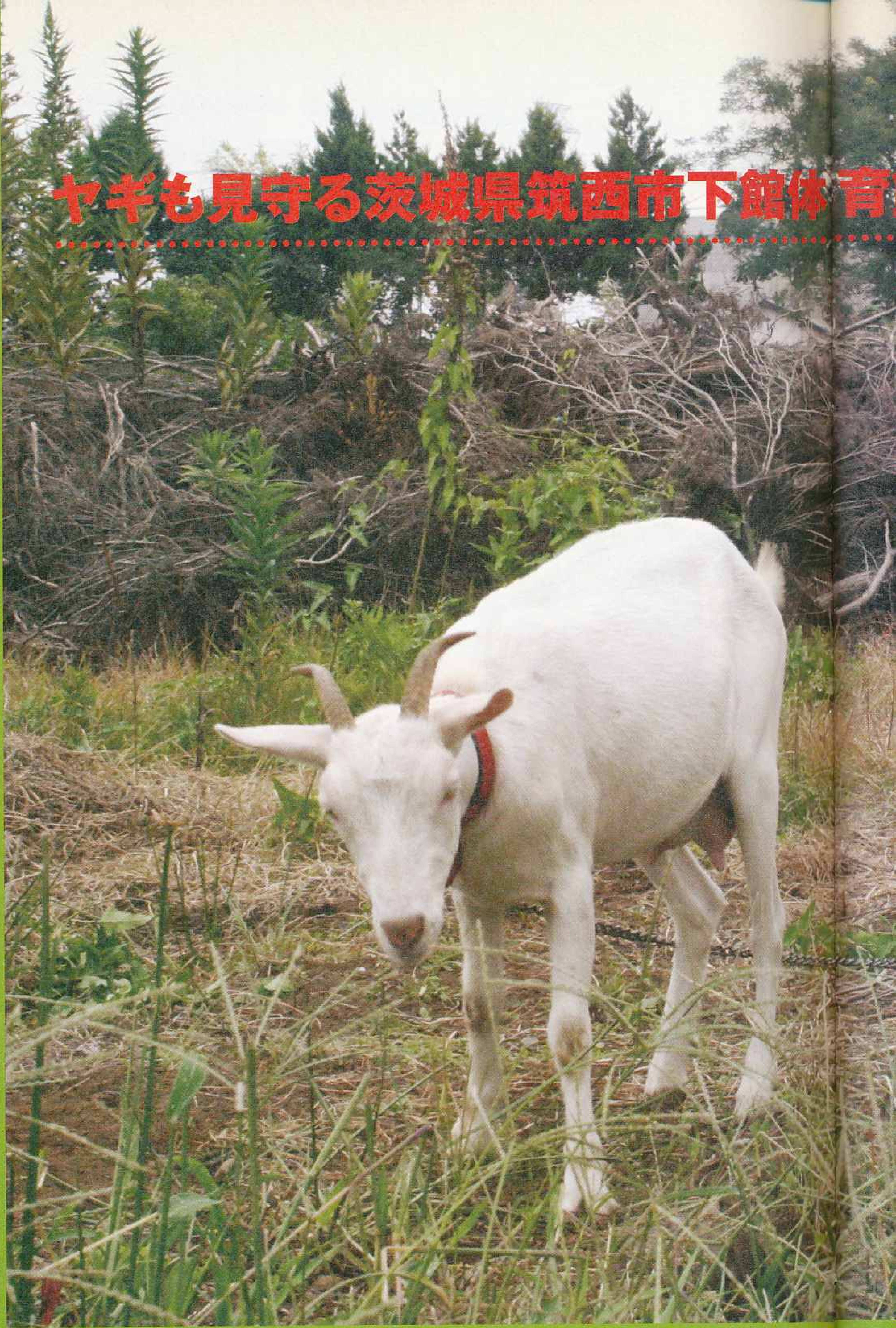


この大会はキックボクシングジム「ドージョー☆シャカリキ」とのコラボ・イベントだったのだが、会場には約2,000人（主催者発表）の観衆が集まった。



谷和原ICから筑西市までは国道294号線を走っていくが、ひたすら田んぼが広がるのどかな光景だ。筑西市の先には10月に大会が開催される栃木県がある。

# ヤギも見守る茨城県筑西市下館体育



都内から車で二時間、常磐自動車道・谷和原インターを降りてから約40キロ北上した田んぼの真ん中に筑西市下館体育館は建っている。ご覧のようにヤギも見守るのどかな風景だ。

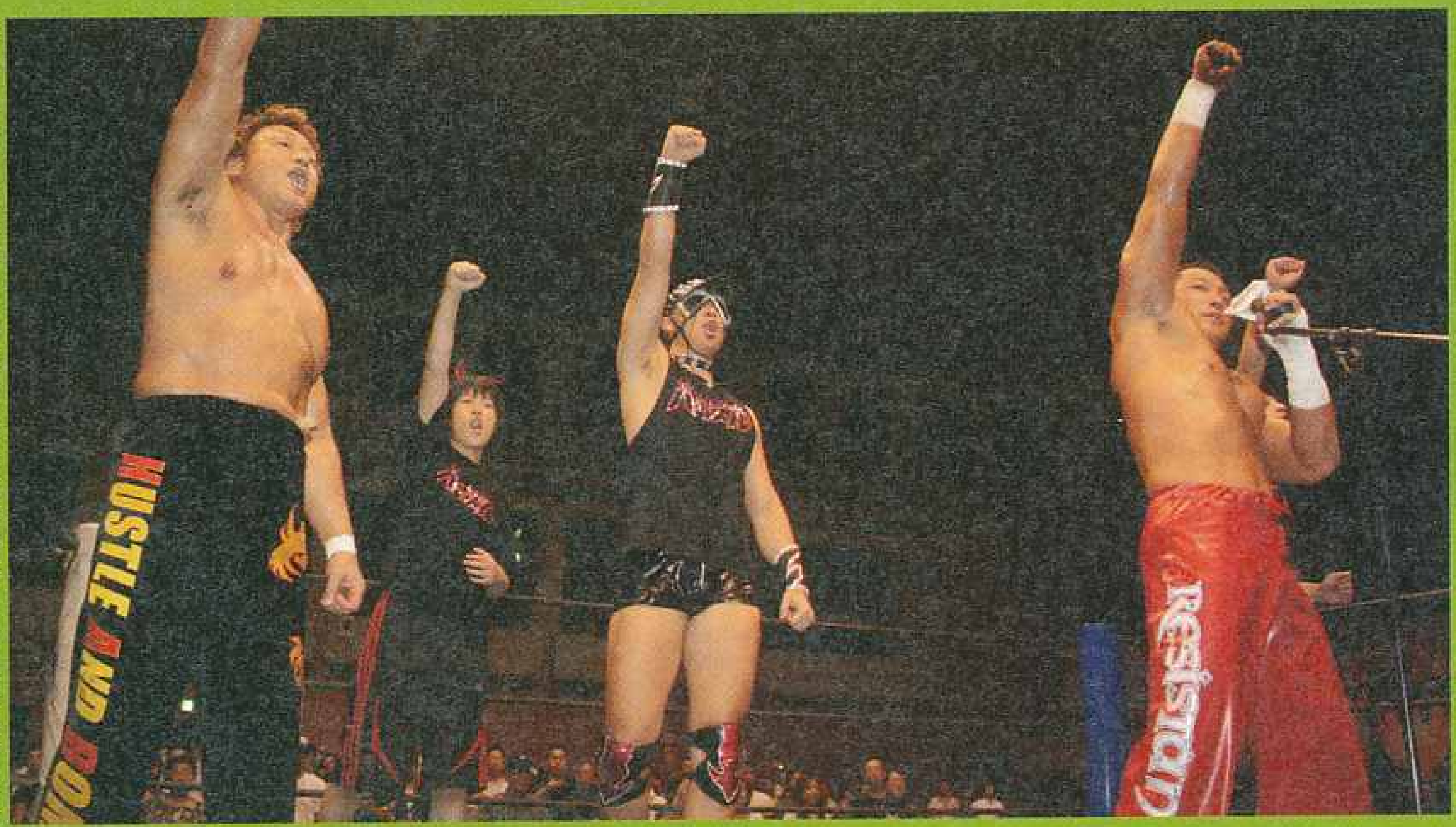
大都市でビッグマッチを開催する『ハッスル』が、こういったど田舎にやってくるのは珍しい。いわゆるプロレス団体の巡業のような世界からは、これまで意図的に遠ざかってきたのだが、いざど田舎に行ってみると相性はバッチリだった。

具体的な例を挙げてみよう。都内の会場、とくに後楽園ホールではHGをしのぐ大人気のザ・モンスター℃も、茨城県のど田舎ではまったく認知がされていなかった。一方、HGは「フォ〜!」のギャグはビンビンにウケまくり、都内とは対照的な光景が繰り広げられた。小難しいことをやっても、茨城のお客さんには通用しない。テレビで観たことがあるスターの登場に素直に歓声を送る。

ちなみに、この大会の2日後の後楽園ホール大会では℃に大歓声が飛び、HGの「フォ〜!」は観客が誰もやらないという光景が繰り広げられた。あのマギー司郎ではないが「茨城ではウケたんだけどね」という光景が目の前で繰り広げられたのだ!

HGと同様に茨城で観客の大歓声を集めたのは元横綱の曙……というかボノちゃんであり、天龍源一郎や川田利明といった一時代を築いた大物プロレスラーだった。大都市では高田総統の存在がないと大会が締まらないが、こういった地方巡業では総統の存在がなくても大会は盛り上がる。将来的に、このメンバーに高田総統が加わればさらに盛り上がることだろう。彼らのネームバリューやブランド力を利用して、ハッスルはいまこそ巡業に出るべきだ。

全国には、まだ日本にはハッスルを知らない地方がたくさんある。坂田がリング上で思わず告白したように大都市での観客動員が厳しいのならば、「日本全国をハッスルさせる」という野望があるのならば、いますぐ巡業に出て地方のファンを開拓するべきだろう。厳しい時代を生き抜くためのヒントは、案外ヤギがいるような体育館に埋もれているのかもしれない。




坂田亘がマイク&ハッスルポーズで大会を締めくくった。最初は様子をうかがっているといった感じでおとなしかった観客も、最後には大盛り上がりだった。天龍もHGも大人気で観客もいい笑顔を浮かべていた。

# kamipro SHOPPING
# 通販カタログ



Kamiproマスクシャツ[☆]
[S·M·L·XL ホワイト×レッド]¥3,990(税込)


マッスル スターウォーズ Tシャツ[☆]
[S·M·L·XL イエロー]¥3,150(税込)


青木フンドシ Tシャツ[☆]
[M·L·XL ブラック]¥3,990(税込)


一、十、百、戦極!! 戦極!! Tシャツ[☆]
[M·L·XL ブラック]¥3,990(税込)



マサ斎藤Tシャツ[☆]
[M·L·XL ブラック]¥3,150(税込)



I編集長"殺し"Tシャツ[☆]
[M·L·XL ブルー]¥3,990(税込)



インリン様女神「LOVE」Tシャツ[☆]
[M·L·XL ホワイト]¥3,990(税込)


インリン様女神「LOVE」Tシャツ[☆]
[Lady's M ホワイト]¥3,990(税込)



100号記念特製
巨大バスタオル
[タテ132cmヨコ68cm ブルー×オレンジ]
¥3,150(税込)


"殺し"キャップ
[フリー ネイビー×ホワイト]
¥3,150(税込)



インリン様女神「FIGHT」Tシャツ[☆]
[M·L·XL グレー]¥3,990(税込)



インリン様女神「FIGHT」Tシャツ[☆]
[Lady's M ホワイト×ブラック]¥3,990(税込)



ボノちゃん どすこいTシャツ
[100·120·140 グリーン]価格未定
[XS·M·L·XL グリーン]¥3,990(税込)



坂田亘 LOVE & HUSTLE Tシャツ
[100·120·140 レッド]¥3,150(税込)
[XS·M·L·XL レッド]¥3,990(税込)



MONSTER K "ON STAGE"Tシャツ
[100·120·140 ブラック]¥3,150(税込)
[XS·M·L·XL ブラック]¥3,990(税込)

### 『kamipro』通販方法

- 通販はすべて代引きです。お支払いは、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。
- 全国どこでも送料一律500円です。
(何枚でも可。離島・山岳部の方はお問い合わせください)
- 代引き手数料は315円です。
(代引き金額によって異なります)

[ご注文の方法]
詳しくは「kamipro Hand」の通販コーナーをご覧ください。
ご注文後、確認メールを送りますので注意してご覧ください。

[問い合わせ]
(株)ダブルクロス TEL.03-5368-1797
(平日13:00〜19:00)

[kamiproオリジナルTシャツ サイズ表]
☆マークのものがKamiproオリジナルTシャツです
(単位はcmです)

| サイズ | S | M | L | XL |
|---|---|---|---|---|
| 身丈 | 66 | 70 | 74 | 78 |
| 身巾 | 49 | 52 | 55 | 58 |
| 袖丈 | 19 | 20 | 22 | 24 |




※価格はすべて税込みです


## kamiproHandでカンタン注文!!

[販売元]ダブルクロス

ケータイサイトでセール実施中!
いますぐアクセス!!
★非会員でもショッピング可能!!

アクセス方法
DoCoMo iMenu ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技/大相撲 ▶
※もしくは「kamipro」で一発検索
au トップメニュー ▶ カテゴリで探す ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶
SoftBank メインメニュー ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶
WILLCOM 趣味&スポーツ ▶ スポーツ ▶ 総合 ▶
エンターテイメント ▶ TV·メディア·本 ▶ 本 ▶

kamipro Hand
[QRコード]



# 慧舟會 久保社長 vs DEEP 佐伯代表
# 悪口、言っちゃうぞ バカヤロー!!

阿修羅チョロプロデュース企画

## DEEPと慧舟會の不仲はガチ!

8月下旬、ボクの携帯にある人物から電話があった。「俺は佐伯にだまされた。『kamipro』さんでアイツの悪口を言わせてくれ」と、なかなか刺激的なネタを売り込んできたのは和術慧舟會を率いる久保豊喜社長だ。数年前から犬猿の仲と言われる両団体のあいだにはたして何が? なんだか、おもしろそうなので、互いの言い分を聞いてきましたYO!

聞き手／阿修羅チョロ　試合撮影／乾晋也、堀江ガンツ



DEEPと慧舟會の不仲はガチ！

慧舟會サイドの言い分

# 「俺は佐伯にだまされた！」

GCMコミュニケーション代表

## 久保豊喜

まず先に訪れたのは、この企画の言い出しっぺでもある慧舟會の久保社長のもとだ。9月16日、宇野薫ら多くの慧舟會所属選手が練習中の都内RJW道場で「だまされた」発言の真意を直撃すると、出るわ出るわ、佐伯さんの悪口のオンパレード。とりあえず、久保社長の言い分をどうぞ！

――今回、久保社長のほうから「佐伯の悪口を言わせてくれ」という非常にストレートな売り込みがあったので話を聞きに来ました。いったい何があったんでしょうか？

**久保**　まあ、ひと言で言えば、プーちゃんにだまされた。

――一応、確認しておきますが〝プーちゃん〟というのは佐伯さんのことでよろしいでしょうか？

**久保**　そうだよ。ほかにどこに〝プーちゃん〟がいるの？

――え～～と、目の前には……いないですね（笑）。

**久保**　（無視して）今回のインタビューのタイトルは「だましやがったな、佐伯プー！」にしてよ。

――は、はあ。具体的には何をだまされたんですか？

**久保**　このあいだプーちゃんのところの後楽園大会があったでしょ。

――メインで今成正和選手が初代フェザー級王者になった8・17後楽園大会ですね。

**久保**　そこで「3対3で慧舟會とDEEPの対抗戦をやりましょう」ってプーちゃんに言われたから、こっちも「いいですよ」って返事をしたの。

――大会前に会見をやって発表してましたよね。その会見のときも慧舟會とDEEPは犬猿の仲ってことで、さんざん煽ってましたけど、久保社長は出席されませんでした。

**久保**　べつに出る必要はないでしょ。並びたくもないし（笑）。

――じゃあ、しょうがないですね。

**久保**　まあでも、3対3の対抗戦っていうのは僕としても了承したの。それで「じゃあ、誰を選ぶか」ってことで、こっちは尾崎（広紀）、九十九（優作）、三浦（忍）の3人を選びました。で、相手も説明されて、それも了承した。それで、プーちゃんから「当日は観に来てください」って言われたんで後楽園に行ったわけですよ。

――関係者席で長尾メモ8さんと仲よく並んで観戦してましたね。

**久保**　そうそう。ただ、僕はその日の全カードは知らなかったわけ。

――あ、そうなんですか。

**久保**　大会が始まって、対抗戦の1試合目の三浦はドローで、2試合目の九十九は勝ちました。で、「対抗戦第3試合」ってリングアナがコールしたんだけど、尾崎が出てこないで、ウチの井上誠午が出てきたんだよ。

――井上誠午選手は、たしか慧舟會の選手ですよね？

**久保**　一応、慧舟會GODS所属。一応ってこともないけど（笑）。

――井上選手が試合に出るっていうのを当日知ったってことですか？

**久保**　いや、試合に出るのは知ってたよ。でも、対抗戦に出るなんて聞かされてないから、隣にいた長尾先生に「なんで井上誠午が対抗戦に入ってるの？」って聞いたのよ。

――で、長尾先生はなんと？

**久保**　「いや、慧舟會だからですよ」

# 3対3の対抗戦が会場に行ったら4対4になってた。ふざけんな!

って。井上誠午って子はDEEPのアマチュアの大会とかフューチャーなんとかってあるでしょ?

―フューチャーなんとかトーナメントで優勝して、本戦に上がってきた選手なんですよね。

**久保** そうそう。でも彼が「対抗戦の第3試合です」って言われて出てきて驚いたわけ。関係ない人にとっては「どうでもいいじゃん」って思うかもしれないけど、僕は看板を背負って対抗戦という申し入れを受けて、対抗戦のつもりの精神状態で会場に行った。そうしたら井上が入ってて、「聞いてないよ」ってね。

―井上選手は対抗戦のメンバーとして認められない?

**久保** まあ、井上がプロ練習にあまり来ないから、「アイツはダメ男です」なんて言うつもりもないし、プロ練習に来なくたって自分なりに実力をつけて試合に出るのは全然オッケーなんだよ。ただ、彼の練習を見て「いいものを持ってるけど、まだまだだね」ってよく言ってた。それに、その子自身が聞いてもいないのに、なんで対抗戦に入ってるの? おかしいでしょ? だから、「だまされた」って言ってんの。

―井上選手本人も対抗戦とは聞いてなかったんですか?

**久保** そう言ってた。

―DEEPの公式発表では、結局、井上選手の試合を含めた4試合が対抗戦となって、結果的にはDEEP側の2勝1敗1分けとアナウンスされたわけですけど。

**久保** だから、それは認めれない。最初から3対3のつもりでいたし、僕の中では確実に1勝1敗1引き分けになってるんでね。対抗戦の片側が何も聞いておらず、また出場する選手さえ聞いてないのに対抗戦とは片腹痛い。

―負けた覚えはない、と?

**久保** 勝ち負けの問題じゃないでしょ! それをプーちゃんは「一応、勝たせてもらいましたけど」なんてコメントしてたけど、ふざけんなって! あんまりムカついたんで、プーちゃんに直接クレームつけたんだよ。

―それは大会直後とかですか?

**久保** 直後だったか覚えてないけど「井上の試合が対抗戦に入ってるのはおかしいだろ?」って言ったら、プーちゃんはなんて言ったと思う?

―まったく想像つきません。

**久保** 「そうですよねぇ。まあ、井上はウチの子みたいなもんですから」って。「それどういうこと?」って耳を疑ったよ。プーちゃんの考えだと、自分のところの大会に上がると、その選手はそこの選手になるの?

―何回か続けて上がっていれば心情的にそういう気持ちも出てくるかもしれないですけど。

**久保** そうなの? 僕はそのときに話したのは「たとえば、所（英男）君や中村（大介）君はデビュー直後からウチの大会に何回も出てるけど、じゃあ二人はウチの選手なの?」って。プーちゃんの言い方で言えば、所君や中村君はウチの選手で、それをほかのプロモーションにずっと貸し続けてるってことになるの?




7月25日、DEEPジムで、8.17『DEEP』後楽園大会で和術慧舟會とDEEPの3対3対抗戦が実施されることが発表された。この会見には久保社長は出席せず、代わってGCMの伊東氏が出席。会見では佐伯代表が「まだ和解したわけじゃない」と慧舟會との不仲を鼻息荒くアピール。しかし、大会当日、対抗戦は4試合に!

―それは違いますよね。

**久保** 所君はZSTの選手だし、中村君はU-FILE CAMPの選手でしょ。だいたい「あの選手は俺のもんだ」っていう感覚はおかしいもん。あんまり、そういうことばっかりやってると業界は荒れるよね。

―慧舟會とDEEPの不仲の歴史はけっこう長いみたいですけど、きっかけとしては何が直接の原因になるんですか?

**久保** まあ、ぶっちゃけ言えば、プーちゃんはDEEPを立ち上げたときは「PRIDEをブッ潰す!」ぐらいのことを言ってたの。それが5年前ぐらいに手元のお金もなくなって、自分でやってた本の会社もやめさせられたわけでしょ?

―やめさせられたのかどうかは知りませんけど（笑）。

**久保** いろいろあって、困った結果、PRIDEの傘下に入って、PRIDE広報だとか、『武士道』の担当者っていう肩書きをもらって活動し始めたわけでしょ。

―そうですね。

**久保** そのときに、ウチは『HERO'S』に協力していて、PRIDEとは相反してたから、プーちゃんと距離はできていくしかなかったね。

―立場的なものもあるでしょうし。

**久保** うん。だから、そこからは、お互いに連絡をとることもほとんどなくなったしね。たまに、どっかでばったり会っても「その太り方は死んじゃうぞ」とか「糖尿になるぞ!」とか、僕はだましたりはせずに、ホントのことしか言わなかったから。そこには心配という優しさもあってね。

―実際にいまは糖尿病で苦しんでるみたいですからね。

**久保** そうみたいだね。で、話は戻るけど、DEEPがPRIDEの傘下に入ることによって何が起こるかというと、PRIDEの意思決定という部分は、代表者の榊原（信行）氏の判断だけでは決まらないことが多かった。そのへんはキミなんかもよくわかってると思うけど（笑）。

―まあ、なんとなくは。

**久保** それこそ、カード一つを決めるのでも、いろんな横やりが入ったりするわけ。それこそ亡くなった百瀬（博教）さんだったり、雑誌では書けないような人がいたり、いろいろと難しいところがあったから、僕としても「傘下に入るのはやめたほうがいいんじゃない?」ってアドバイスした。

―そんなことがあったんですか。

**久保** ちょうど、その頃、僕が身体を壊して入院してるときだったんだけど、病院でそんな話をしてたの。そこには○○さんもいてね。

―病院内で久保社長、○○さん、佐伯さんの3ショットっていうのも凄い絵ですね（笑）。

**久保** そしたら、その場でプーちゃんが「僕はPRIDEの傘下に入ることになったんです」って言ったもんだから、○○さんは怒ったの。それまでプーちゃんは「PRIDEを潰したいから協力してください」って言ってたから、ウチなんかも「こういうふうにだったらしてあげられる」って話をしてたわけ。それにもかかわらず、いきなり「PRIDEの傘下に入る」って言い出したから、○○さんが怒るのは当然だよ。でも、僕はそのときは怒らなかった。

―それはなぜなんですか? まあ、入院中っていうのもあったのかもしれないですけど（笑）。

**久保** 決めたんだったらしょうがないと思って、○○さんにも言ったよ。「この人が自分でそう決めたんだから、もうそれでいいじゃないですか」って。で、最後には「なんかあったら

ウチも相談に乗るし、「頑張るんだよ」って話をしたの。そのあとも、いろいろと書けない話があったんだけど、まだいまは言えないか（笑）。
――そうなんですか（笑）。
**久保**　そんなことがあったんだけど、彼は病院を出てから、その足で榊原氏のところに行ったらしい。
――へぇ〜。
**久保**　そのときは、僕らに断りを伝えて戻ってくるって話だったらしいんだけど、プーちゃんは、僕らに言われたことを、そこで全部しゃべった。まあ、僕は言われて困ることは一切言ってるつもりはなかったから、なんとも思わなかったけど。
――過去にもいろいろとあったんですねぇ。
**久保**　○○さんは、そのあとも「なんで裏切るんだ」みたいなことを言って怒ってたけど、僕は「しょうがねえなぁ」ぐらいにしか思わなかった。昔からプーちゃんのそういうところも見てきてるから「この人は本気で心配してあげても、結局なんにも理解してくれない人なんだな」って思ったよ。……そういう人だとは知ってはいたけど、また、今回だまされるとは思わなかった（苦笑）。
――なんか、佐伯さんとの確執は根が深そうな感じですけど。
**久保**　根は深くはないよ。単純な話、大会前に電話一本入れて「4対4にしていいですか?」って断ってくれればよかったんだよ。だったら、僕も「ダメだよ。3対3じゃん」って言ってたと思う。彼はそんなこともせずに、また選手本人にも承諾を得ずに勝手に4対4にして、おまけに試

# 舟會VSDEEPの対抗戦だ!!



対抗戦第2試合は和術慧舟會TIGER PLACEの九十九優作と禅道会の北崎鎮の一戦。試合はタックルでテイクダウンに成功した九十九のスリーパーで北崎がタップ。慧舟會が1勝をゲットし、対抗戦は慧舟會の1勝1分けに。



対抗戦の第1試合として行なわれたのが和術慧舟會TIGER PLACE所属の三浦忍と禅道会所属のLUIZの一戦。判定にもつれ込んだ対抗戦初戦は両者ともに決め手に欠き、LUIZが1ポイント獲得するもドローという結果に。

## DEEPの道場には他人んちから持ってきたモノしか入ってない

合後は「勝たせていただきました」なんて言ってる。正直言ってまともに相手できない……っていうか、プーちゃんは感覚がおかしいんだよ。
――どういったところがですか?
**久保**　DEEPっていうのはウチみたいに道場があった上で、大会をやってるところではないでしょ。
――DEEPにも道場はありますよ。慧舟會よりは数は少ないですけど。
**久保**　だって、よ〜く覗いてみると、DEEPの道場には他人んちから持ってきたモノしか入ってないでしょ（笑）。たとえば、あそこの道場で練習してる今成（正和）君は（Team ROKENの選手だし、青木（真也）君は……。
――パラエストラ東京ですよね。
**久保**　その前は鬼木（貴典）君のところにいたでしょ。長谷川（秀彦）君だってSKアブソリュートだよね。そういうふうに、ある程度名前があって、実力がある子が集まってきてるだけでしょ、あの道場は。それで、青木君たちは、なんとかって名前をつけてるんでしょ?
――ニホン・トップチーム。略してNTTですね。
**久保**　へぇ〜、凄い名前をつけてるんだねぇ。
――そのへんは佐伯さんは自由にやらせてるだけだと思うんですけど。
**久保**　あ、関係ないんだ。でも、実際の話、他人んちのもんばっかりじゃん。その点、ウチの道場は畑だから。だから、選手は畑で実った果実だったり、野菜だったりするわけだけど、プーちゃんのところはタネをまいてないから、自分の畑では果実や野菜は育ってないでしょ。
――DEEPジムでもアマチュア大会に出る選手も何人か出てきてるみたいですけどね。
**久保**　そうなんだ。ただね、僕からすれば"道場"っていうのは、"道"を教える"場"だと思ってるし、金銭面とか含めてリスクを背負ってやらないとできないことだと思ってるから。それこそ、DEEPに協力してる禅道会さんなんかは「全国に道場がたくさんある」なんて言われてるけど、ほとんどが体育館とかを借りてるサークルみたいなもんでしょ。僕はそれは道場とは言えないと思う。
――久保社長の道場の定義としては、体育館を借りてやっているようなところは道場とは認められないと?
**久保**　そうだね。やっぱり、ある程度のお金を出して場所を借りて、道場のていを作り、そこで道場生を募集して、なおかつ人が育って初めて道場なんだよ。そんな簡単なもんじゃないからね。もちろん、立場だったり、やり方だったりが違うのは承知してるんだけど、プーちゃんっていうのは道場で何をしようとしてるのかがよく見えない。なんかインチキ臭いんだよなぁ。

――インチキ臭い（笑）。先ほど、5年前に病院でだまされたって話をしてましたけど、それ以来はとくに接点はなかったんですか？

久保　接点はほとんどなかったけど、そのあいだにも、ウチに上がってたガイジン選手を取られたりとかもあったんで、ハッキリ言って、人としてもあまり信頼してないし、大会としてもチャランポランだと思うしね。

――ひどいこと言いますねぇ（笑）。

久保　残念だけど、DEEPって、いい選手と悪い選手がごちゃ混ぜになってると思うんだよ。いい選手がかわいそうな扱いだと感じるときがある。あと、あまり好きじゃないのは、お笑いの人とかタレントがしょっちゅう試合に出てるじゃない？

――電撃ネットワークの南部虎弾さんがプロデュースをしている『DEEP GLOVE』とかにはよく出ていますね。

久保　お笑いの人が試合に出ちゃいけないとは言わないよ。お笑いの人でも試合に出られるレベルになったらいいと思う。でも、そうじゃない人が多いでしょ。このあいだ井上誠午とやった選手（松本晃市郎）なんかは、もともとお笑いの人みたいだけど、彼なんかは格闘技の選手として合格ですよ。だけど、なんだっけ？　『失恋レストラン』を歌ってた人。

――清水健太郎さんですね。

久保　彼なんかも前にDEEPで試合するって話があったけど、それはオッケーなの？　なんなの、その話題の作り方。その感覚が僕にはわからない。

――でも、久保さんも関わっていた『HERO'S』にもタレントは出場したことがあったじゃないですか？

久保　僕はそういうところには絡まなかった。シリアスな部分にしか僕は絡まないから。

## 佐伯とはどこまでいっても合わない。で、最終的に俺が出した結論は……

――シリアス担当でしたか（笑）。

久保　そう（笑）。それにプーちゃんは女子の選手は「ブスはいらない」みたいなことよく言ってるでしょ。

――それはよく言ってます（笑）。

久保　よくそんなことが言えるなってあきれちゃうけどね。

――そういえば、久保社長もスマックガールに関わっていた長尾先生と新たな女子総合の大会を考えてるみたいですね。

久保　考えてはいるよ。まあ、理由はいろいろあると思うけど、ハッキリ言うと、女子の総合は篠（泰樹）が甘やかしたからダメになったと思う。で、いまは「かわいいから使う」とか言って佐伯がさらに甘やかしてる。佐伯っていう男は、僕が持ってるものさしとは尺度が違ってるから、どこまでいっても合わないんだよ。このあと、プーちゃんの話も聞くの？

――当然聞きます。佐伯さんも言い分があるでしょうし。

久保　あ、そう。じゃあ、プーちゃんに伝えてよ。最終的に俺が出した結論を。

――なんですか、結論って。もしかして、絶縁とか？

久保　そんなのしない。「だまされて気に入らないから、アイツらとはお付き合いしません」って言って逃げるような真似はしたくない。

――では、どういった結論を？

久保　結論としては……、同じメンバーでもう一回闘わせろ！

――それはDEEPでですか？　それとも……。

久保　（さえぎって）向こうで！　申し訳ないけど、ウチのケージフォースはなんとかとかなんとかの対抗戦みたいなのはお断り！

――そういったコンセプトの試合は組むつもりはない、と？

久保　ウチはトーナメントをしっかりやってるし、ほかにもいろいろやらなきゃいけないことがあるから大変。敵は日本だけじゃないしね。だから、ウチでやるつもりはないし、DEEPでやったことはDEEPでケツ拭け！　まあ、相手は誰でも文句は言わないよ。こっちは三浦と九十九と尾崎の3人を出すから、決着つけようぜ、決着を！

――……とか言いながら、すでに水面下で対抗戦は決まってる、なんてことはないですよね？

久保　ない！（笑）。せっかく誌面を割いてもらったんだから、こっちが挑発して、それでも逃げるっていうんだったら、プーちゃんもそれだけの男だってことじゃん。おもしろいじゃない？（ニヤリ）。

――は、はぁ。

久保　まともな3対3で勝って「ざまあみろ！」って言ってやりたいっていうのが僕の本音。それに、このまま終わったらプーちゃんに「ウチの勝ちなのに」とか、いつまでも言われそうじゃない（笑）。それは許し難いんでね。「やらせろ、ブタ！」って言っといてよ。

――わかりました。プーちゃんの言い分もしっかりと聞いてきます！

【08年9月16日／都内・RJW道場にて収録】

# これが問題の慧舟會



対抗戦の最終試合は慧舟會東京本部の尾崎広紀とGRABAKAの福田力が激突。判定で福田が勝利し、対抗戦はDEEP側の勝ち越しとアナウンスされた。



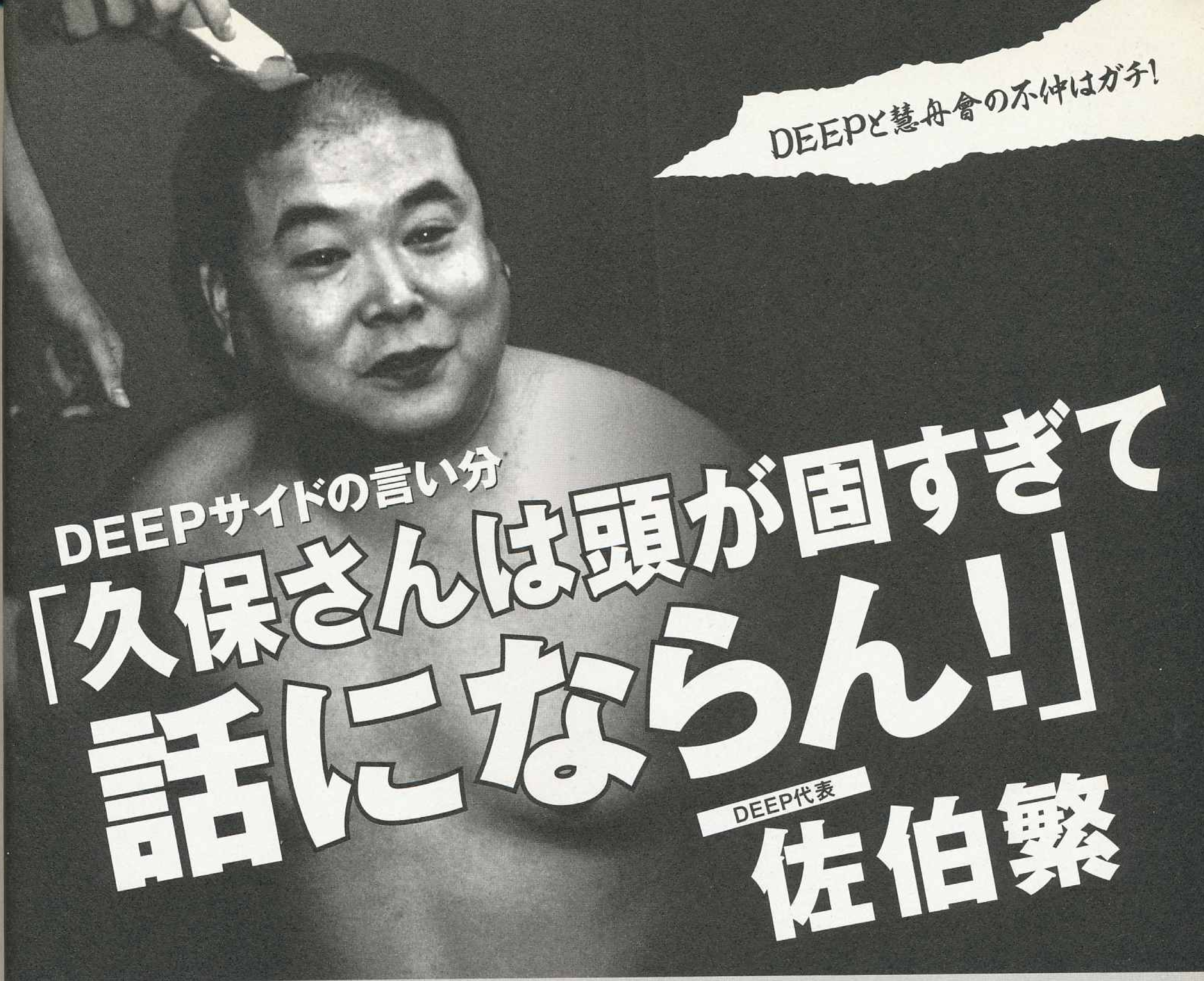

対抗戦第3試合として行なわれるも、久保社長は「聞いてない」とアピールするのが和術慧舟會GODSの井上誠午と今田道場の松本晃市郎の一戦。試合は松本がパンチでTKO勝ちし、対抗戦は1勝1敗1分けとなったが……。

**9.27『CAGE FORCE 08』**
**ディファ有明大会のTVオンエア決定!!**

CAGE FORCE初代フェザー級王座決定トーナメント準決勝のウィッキー聡生vs孫煌進、星野勇二vs山崎剛、初代バンタム級王座決定トーナメント準決勝の大石真丈vs徹肌ィ郎戦をはじめ、注目カードが目白押しの9.27『CAGE FORCE 08』ディファ有明大会の地上波での放送が決定! 佐伯代表もしっかりチェック!? 詳細は以下のとおり。

■ 放送局／テレビ東京 アナログ12ch/デジタル7ch
■ 日時／平成20年10月19日(日) 深夜26:40～27:35(予定)

**詳しくはTV東京公式サイトにて**
**http://www.tv-tokyo.co.jp/**
**GCMオフィシャルサイト**
**http://www.g-c-m.net/**



DEEPと慧舟會の不仲はガチ!

## DEEPサイドの言い分

# 「久保さんは頭が固すぎて話にならん!」

## DEEP代表 佐伯繁

久保社長の言い分を聞いたら、「プーちゃん」呼ばわりされた佐伯代表の言い分も聞かなければなるまい。
慧舟會との確執の真相、さらには久保社長からの対抗戦再戦要求に、この男はどう答えるのか? 久保社長の取材翌日、佐伯代表がよく訪れるという都内・六本木のスポーツバー『ブレーンバスター』で直撃!

――佐伯さんの天敵の慧舟會の久保社長から「佐伯の悪口を言わせろ!」と言われまして、たっぷりと悪口を聞いてきました。

**佐伯** あ、そう(笑)。悪口って何を言ってんの?

――ひと言で言うと、「佐伯にだまされた!」ってことみたいで。何か思い当たるフシはあります?

**佐伯** 思い当たるフシっていうよりも、何やっても、あの人とはうまくいかないから。

――それは人間的に合わないってことですか?

**佐伯** 合わないよね。根本的に考え方が違う部分も多いし。やっぱり、すべてを固く考えるんじゃなく、僕みたいに柔らかくて、ゆるい頭も必要なんじゃないかな、と。あの人はちょっと頭が固すぎるんじゃない? 見るからに石頭って感じでしょ。

――固そうな感じはしますね(笑)。

**佐伯** もっと順応していかないと、この世の中で生き残っていくのは厳しいんじゃない? まあ、考え方だけじゃなくて、大会自体のコンセプトとか内容も慧舟會とは違うと思うし。向こうは絶対にウチのメガトントーナメントみたいなのはやれないでしょ。ウシシシシ。

――やれないというか、やらないと思います(笑)。DEEPでよくお笑い芸人やタレントを使っていることも理解できないと言ってましたし。

**佐伯** あ、そう(笑)。で、結局、久保さんは対抗戦のことで文句言ってんでしょ? 3対3が勝手に4対4になってた、と。

――そういうことみたいです。

**佐伯** 「なんで、井上誠午の試合が対抗戦に入ってるんだ」って言ってるんでしょ。確かに井上はウチのアマチュア大会から本戦に上がってきた選手だから、俺からしたらウチの選手みたいな感覚もあるんで、久保さんが3対3で1勝1敗1分けだって言うんなら、そんならそれでいいわ。

――え、いいんですか(笑)。

**佐伯** いいよ、べつに。それも順応じゃん? だって普通に考えて、もう1試合、慧舟會の選手の試合が組まれたら、そこは4対4にしなきゃおかしいでしょ。

――久保社長的には、4対4になったのを知ったのが大会当日だったってことも、ご立腹の原因の一つみたいですけど。

**佐伯** だから、そういうところも順応する頭がないって言ってるの。大会後にもLUIZと三浦の試合で「1ポイント、ルイスに入ってたのはどういうことなんだ⁉」とか言ったり、ほかにもいろいろ言ってたけど、そんな面倒くさいこと言うんなら、「ホントに潰すぞ!」って話だよな。

――それは穏やかじゃないですね(笑)。あと、細かい部分で言うと、「DEEP代表ってなんなのよ?」って

## 対抗戦のことで文句言ってるんでしょ。じゃあ、引き分けでいいよ！

いうツッコミもありました。実際、対抗戦にDEEP代表として出た福田（力）選手はグラバカ所属ですし、LUIZ選手や九十九（優作）選手は禅道会の選手だったりするわけじゃないですか。

**佐伯** そこも考え方の違い。僕は自分のところで闘ってる選手は基本的にウチの選手だと思ってるんでね。向こうは自分のところの道場の選手っていう感覚でしょ？

――ですね。その感覚が久保社長は理解できないみたいですけど。

**佐伯** ウチは基本的にはニュートラルな団体だけど、LUIZにしても福田君にしても、ウチの大会にレギュラーで出てる選手じゃん。じゃあ、ウチの子でいいじゃん。

――佐伯さん的にはそうなのかもしれないですけど、久保さん的には、「ウチの大会によく上がっていた所君や中村君はウチの選手なの？」ってことなんですよ。

**佐伯** それは1回や2回出ただけの話じゃん。

――いや、所選手も中村選手も5～6回は出てるみたいです（笑）。

**佐伯** あ、そう（笑）。でも、回数じゃなくても、その後のイベントへの関わり方とか、レギュラー的に出てるかどうかで違ってくると思うし。じゃあ、パウロ・フィリオはDEEPに2回出てるけど、ウチの子なのかって話だし。

――フィリオはDEEPの子というイメージはないですね（笑）。

**佐伯** ないでしょ。俺だって何回か出たから「ウチの選手」って言ってるわけじゃないよ。結局はその団体で、ちゃんと腰を据えてやって、またある程度、その中で地位を取った選手のことを俺は「ウチの子」って言ってるだけでね。

――「ウチの子」もハードルは高いわけですね。まあ、何度も出てくれたら当然思い入れも出てくるでしょうし。

**佐伯** もちろん、それもあるよ。でも、1回や2回出ただけじゃ、そんなことは思わない。まあ、そのへんの考え方もいくら話しても平行線なんだわ。

――久保社長の話を聞く限り、道場論も佐伯さんとは話は噛み合わないと思うんですよ。

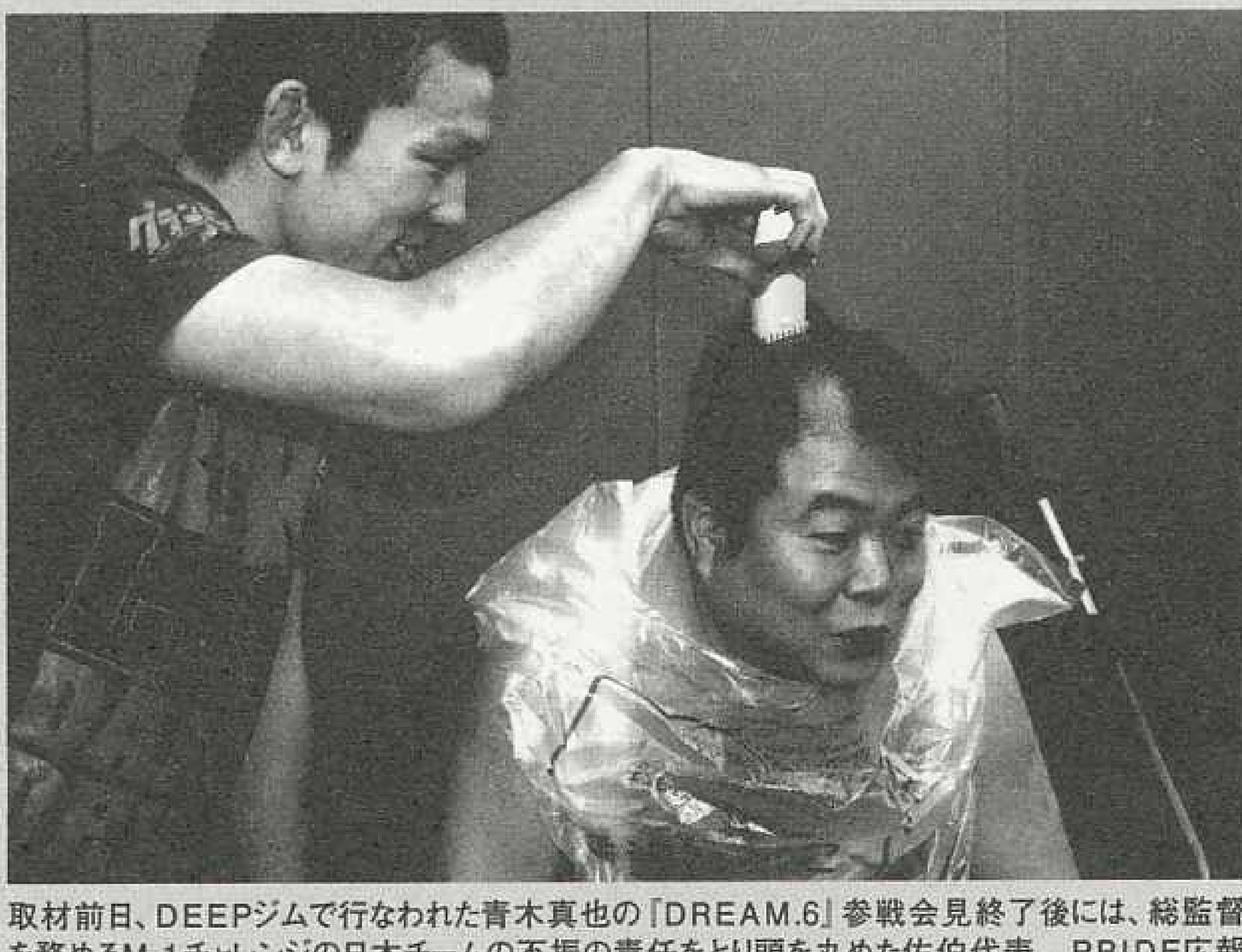
**佐伯** 間違いなく噛み合わないと思う。

――久保社長的には「DEEP道場は他人んちから取ってきてるだけだろ」と言ってました。

**佐伯** それも考え方が違う！ 道場に関して言うなら、ウチはみんなが集まって、いい練習ができればいいと思ってやってるだけ。だから、悪いけど、ここでは言えない選手もいっぱい練習に来てるよ。

――それこそ、慧舟會の選手が来てるかもしれないですし。

**佐伯** 来てるからね、実際に（笑）。でも俺は「来ちゃダメ」なんて一度も言ったことないし、俺はみんなで自由に練習して、切磋琢磨してレベルが上がっていけばそれでいいと思うもん。だから、強制することも一切ないし。



取材前日、DEEPジムで行なわれた青木真也の『DREAM.6』参戦会見終了後には、総監督を務めるM-1チャレンジの日本チームの不振の責任をとり頭を丸めた佐伯代表。PRIDE広報時代「ウェルター級GPで日本人が優勝したら頭を丸める」と言って以来2度目の断髪となった。

――久保社長と違って、佐伯さんは指導するわけではないですからね。

**佐伯** そうだね。ただ、逆に言ったら、ウチは事務所と道場がつながってるんで、久保さんよりも選手を見たり話したりはしてると思うよ。それがいいか悪いかは別として。

――そんな佐伯さんが、久保社長との関係が悪くなったのは、『武士道』が立ち上がる直前に、当時、久保社長が入院している病院に行って……。

**佐伯** （さえぎって）ウ、ウッソー！ そんな話もしてたんだ（笑）。

――してました（笑）。その頃、DEEPが苦しくなってきて、「PRIDEの傘下に入ることになりました」と報告しに行ったとのことですが？

**佐伯** いやいや、それは違う。ホントの話をするとね、その頃『武士道』が立ち上がるか立ち上がらないかって時期で、俺が久保さんのところに行った時点では「傘下に入るのか？」って聞かれて「まだわかりません。向こうの人間にも会ってないし、条件もわからないんで」って言ったの。

――あれ？ 久保社長の話とは食い違いがありますね。

**佐伯** バラさん（榊原信行）とかみんなと話し合って「じゃあ、頑張ってやります」ってなったのは久保さんに会ったあとだから。その時点では決まってなかったのは事実。これは間違いない。

――そうなんですか。久保社長によると佐伯さんからPRIDEの傘下に入ると報告を受けて「考え直したほうがいいよ」と言ったということで、一緒にいた○○さんは怒っていた、と（笑）。

**佐伯** 全然、怒ってないって！ 俺、○○さんとはケンカしたこともないし。……いや、一回あったかなぁ？

――あるんじゃないですか！（笑）。

**佐伯** （無視して）だいたい、なんで病院で○○さんとケンカするんだよ。

――そんな覚えはない、と？

**佐伯** ホントにない。いまの話だけじゃないけど、久保さんって言ってることが都合よく変わるの。どっちが真実かっていったら、間違いなく勝てるよ、俺！（キッパリ）。

――久保社長も同じようなことを言ってましたけど（笑）。一番仲が悪かったのは、それぞれがPRIDEと『HERO'S』に協力していた時期になるんですよね？

**佐伯** まあ、そうなるわな。その時期は、よっぽどのことがないかぎり、久保さんとは話もしてなかったしね。

――その、ほとんど話をしてなかったという時期に、某外国人選手をDEEPに取られたという話も久保社長はしてました（笑）。

**佐伯** えっ、それは久保さんが言ってたの？

――はい、言ってました。

**佐伯** その件を説明するとね、ウチでフェザー級のトーナメントをやったときにいろんなところの選手を出したいと思ってたの。そしたら、ブッカーのXさんから、あるチームの推薦枠として、その選手を「お願いします」と言われたんだよ。

――売り込みがあったわけですね。

**佐伯** そんな感じで。で、そのときに「その選手は過去にケージフォースに違うチームで来て、○○○○選手と闘ってます」と言われたわけ。それを聞いたときに正直言って、「面倒くさいなぁ」と思ったよ、実際。

――過去にケージフォースに上がったことがある選手ということは知っていた、と。

**佐伯** そう。ただXさんからしたら「そのときとはチームが変わってるんで使ってください」という話でね。だからへんな話、「ケージフォースで

先にオファーして使ってください」ってこっちから言ったの。

――そんなやりとりがありましたか。

**佐伯**　それなら問題はないじゃん。そしたら行き違いかわからんけど「使う予定はないです」って話になったから呼んだの。やっぱり、タイトルとかに絡むようなで出てたり、レギュラーで出てたり、タイトルとかに絡むような選手を呼ぶ場合には「使っていいですか？」って話になるけど、ある程度出てない選手とかだと、僕らの中で暗黙の了解があるんですよ。

――〝僕ら〟というのは？

**佐伯**　この業界の中のルールというか。それは守ってるつもりだし。それに修斗の選手とかもそうだけど、「俺から声をかけた」ってよく言われるけど、みんな向こうから来るんだから。「出してください」って。

――そうなんですか。

**佐伯**　（桜井）マッハにしても、須田（匡昇）にしてもみんなそうだよ。で、俺はその頃は東京に住んでなかったし、接点もないから、それぞれのマネージャーに「修斗の協会はオッケーなんですか？　オッケーをもらえるんだったら使います」って確認して、オッケーが出た選手を使ってるんだから。いまだって、修斗の選手を出すときは坂本（一弘・サスティン代表）さんにちゃんと言ってるし。坂本さんと知り合ってからは全部、坂本さんを通してる。それが筋じゃん、実際には。

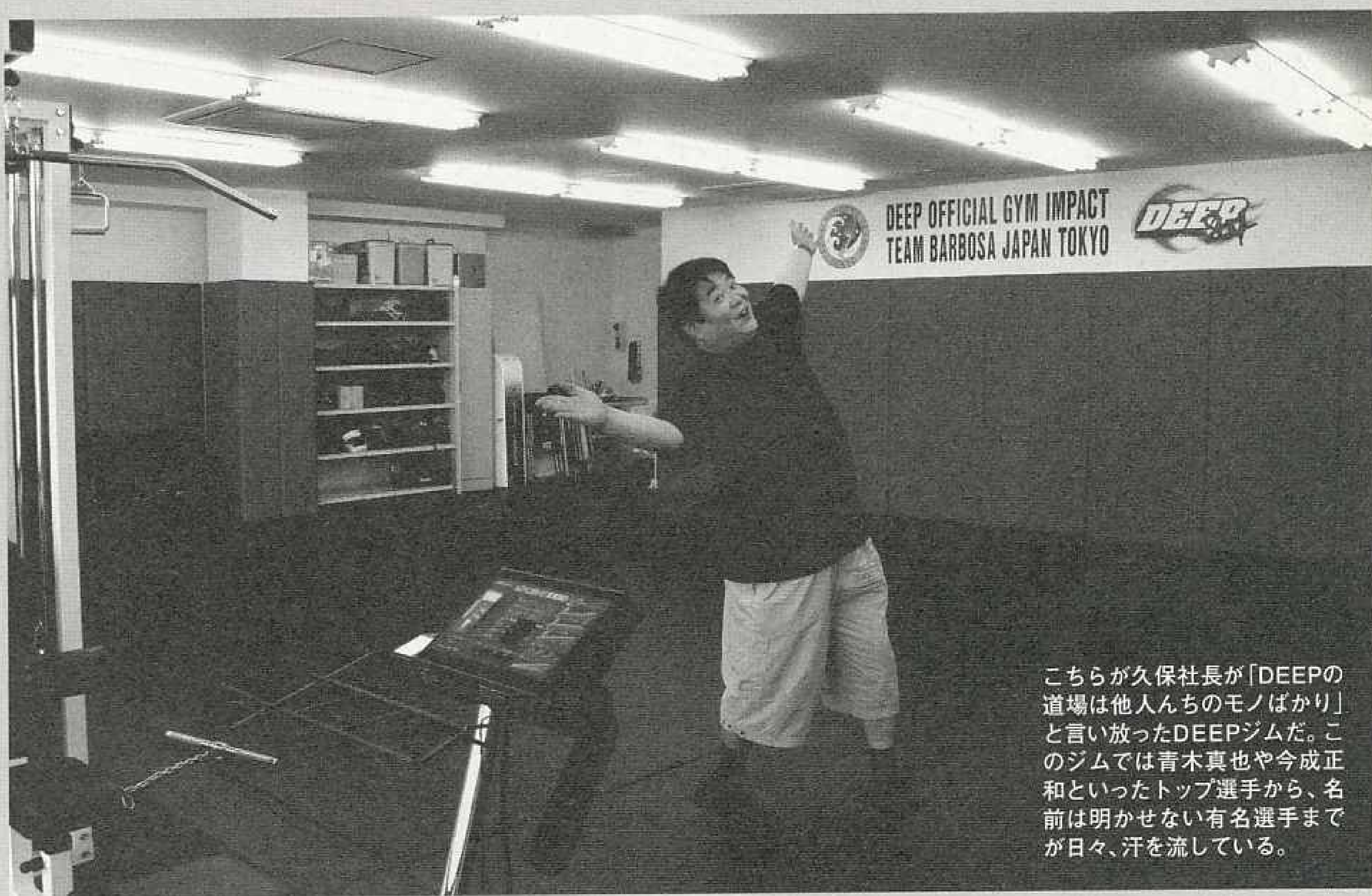
――これまで、業界的な筋はキッチリと通してきた、と？

**佐伯**　そうだね。でも逆にいまは、そんなに売り込みされても困るんだよな。使いたくても、大会や試合数は限られてるから（苦笑）。

――みんながみんな試合に出られるわけではないですからね。

**佐伯**　昔はウチも修斗の選手が多かったけど、いまは修斗を通過してない選手も増えてきたし。そういう部分も含めて、これから変わってくると思いますよ。それこそ、久保さんじゃないけど、ウチが慧舟會みたいに道場をビジネスとして展開して全国でやっていこうというのも、それはそれで一つの考え方だと思うし。

# リングとオクタゴンがある道場を地方に作りたいっていう考えはある



こちらが久保社長が「DEEPの道場は他人んちのモノばかり」と言い放ったDEEPジムだ。このジムでは青木真也や今成正和といったトップ選手から、名前は明かせない有名選手までが日々、汗を流している。

――そういう考えもあるんですか？

**佐伯**　いや、すぐにはないけど。たとえばだけど、ウチの道場の会員が試合に出ることになって、「慧舟會として出たいです」って言ったら、俺はそれはありだしね。

――それはどういうことですか？

**佐伯**　結局、アマチュアの子なんて、ウチだけじゃなく、いろんな道場で会員になってるかもしれないじゃん。

――そういう可能性もあるでしょうね。

**佐伯**　でしょ。実際に試合をやるときに「マネージメントはどこがやるの？」って話で。本人が「慧舟會として出たい」って言うんだったら、慧舟會さんにマネージメントをしてもらうだけの話で。ウチでも会員さんからお金をもらってやってるけど、だからって、ウチの選手だとは思わないし。そのへんの考え方も久保さんとは違うんだと思う。

――将来的にDEEPの道場を増やす考えもあるんですか？

**佐伯**　あるけど、たくさん増やすつもりはない。ただ、いまやってる選手の将来のことを考えたときに何か道としてあったほうがいいと思うし。どっちかというと、直営っていうよりも看板を貸すっていうかたちではありえるかもしれないね。

――のれん分けみたいなかたちで？

**佐伯**　そうそう。あと、願望としては大きい道場をやりたいって気持ちもあるよ。リングとオクタゴンがあるような道場を地方に作りたいっていうのは考えてるし。都内には難しいだろうけど（笑）。

――都内では難しいでしょうね。

**佐伯**　まあでも、現実的には選手を育てていくっていうより練習環境を整えてあげたいって気持ちのほうが強いね。そこも久保さんとは違うんだろうけど。

――久保社長と佐伯さんの考え方の違いといえば、両団体とも大会の開催を考えているという女子格闘技の件もありますよね。久保社長は「ブーちゃんは自分の好みの選手しか使わないだろ」と言ってました（笑）。

**佐伯**　違うって！　べつに好みで選んでないっつーの。

――ただ「使うならかわいい子」っていうのはよく言ってますよね。

**佐伯**　それは言ってるよ。だってね、女子の格闘技をもっと注目させようと思ったら、やっぱりかわいくて強い子が出てこないと無理なの、実際には。

――興行として考えたら、そうなるでしょうね。

**佐伯**　テレビもそうじゃん。じゃあ、なんでビーチバレーの浅尾美和を見るの？　キレイだからでしょ。

――ズバリ言ってそうですね。

**佐伯**　もちろん、強い女性も出てこなきゃいけないと思うよ。ただ、注目されたり話題を集めるのはキレイでかわいくて強い子じゃん。逆に言ったら、かわいくなくて強いだけで注目された子はいないでしょ。

――いまのところいないですよね。

**佐伯**　だったら、いまいるかわいくて強い選手を利用して、お客さんに注目されるようにしていかなきゃいけないわけ。……でも、久保さんが顔で選んでるっていうんだったら、大室（奈緒子）なんてけっこうかわいいと思うよ（ニヤリ）。

――大室選手は慧舟會ですからね（笑）。そういえば、大室選手はけっこうＤＥＥＰに上がってますけど、そういう理由でしたか！

**佐伯**　いやいやいや、べつに顔だけで選んでるわけじゃないよ。まあでも、いま女子の総合格闘技を盛り上げようと思ったら、多少ビジュアルのいい子を使わないと無理だと思うよ。わかるでしょ、俺の言ってること。

――佐伯さんの言い分もわかりますし、久保社長が言わんとすることも



見るからに暑苦しいメンバーが勢揃いしているこの写真は今年開催されたDEEPメガトンGPでの一枚。「ああいう大会は好きじゃない」という久保社長の方針か、16人参加のトーナメントには慧舟會系の選手は誰一人出場せず。



久保社長がDEEPで気に入らない点として指摘したのがタレントを頻繁にリングに上げること。9.20『DEEP GLOVE』では欠場となった篠原光の代わりに高校生の愛娘のAYAが参戦したが、これも気に入らないんでしょうね。

# 久保さんの前では、ほとんどの人は本音が言えないんじゃないの？

わかるんですけどね。

**佐伯**　へぇ～、わかるんだ。俺はあの人がどこまで本音でしゃべってるのかいまだにわかんない。

―久保社長も同じようなことを言ってましたけど（笑）。

**佐伯**　（無視して）久保さんって、よく関係者とかマスコミだったりを事務所に呼んで話をするでしょ。ハッキリ言って、みんな久保さんのご機嫌とりに行くわけよ。

―そうなんですか。

**佐伯**　マスコミはわからんけど、関係者はみんなそうだと思うよ。ハッキリ言って、お山の大将じゃん！

―久保社長はお山の大将（笑）。

**佐伯**　だって、あの見てくれで「どう思う？」とか言われても、本音は言えないでしょ。実際、ほとんどの人は本音は言えずに、NOがYESになっちゃうと思うよ。

―そうなんですかね（笑）。佐伯さんは本音が言えてるんですか？

**佐伯**　言えてるほうだと思うよ。まあでも、自分に対してYESと言った人間に対しては、久保さんは面倒見てくれる人だと思うけどね。

―親分肌なところはありますよね。

**佐伯**　それはある。ただ、自分のところに来た人間を抱き込んでかわいがってやろうという気持ちはわかるけど、それを通りすぎてありがた迷惑の可能性もあるからね（笑）。俺も昔、呼ばれて行ったときはそうだったもん。ホントはNOなのに「お願いします」って言っちゃったり。

―業界で揉まれていくうちに、しっかりとNOが言えるようになってきたんですかね。

**佐伯**　そうだね。前に言ったことがあるんだけど「久保さん、いまのような状況だったら、みんなNOでもYESって言いますよ。いままでNOって言った人はいますか？」って。

―またおもいきったことを言いましたね（笑）。

**佐伯**　みんな、久保さんと本音で付き合ってるのかなって思うんだけど。

―先ほどの話を聞くと、佐伯さんは本音をぶつけてるわけですよね。

**佐伯**　いや、本音なんてしゃべるわけないじゃん！

―どっちなんですか！（笑）

**佐伯**　まあ、二人とも一応大人だからね。顔を合わせたら「どうも」って言いますよ。でも、悪いけど、あの人と本音で語り合うのは無理！

―そんな久保社長から佐伯さんへの要求なんですが、「同じメンバーでもう一回、対抗戦を組め！」ってことみたいです。

**佐伯**　あ、そう。それは考えますよ。ただ、ウチも大会や試合数は限られてるからね。出れない選手もいっぱいいるし。

―ただでさえDEEPは毎回試合数は多くなりますからね。

**佐伯**　だから、悪いけど、対抗戦に選手を取られてる場合じゃないんだよ。ただ！

―「ただ！」どうしました？

**佐伯**　この業界にデブは二人もいらないでしょ。キャラ的に言っても。

―どうなんですかねぇ。佐伯さん的には、どっちが本物の……。

**佐伯**　（さえぎって）ハッキリさせてやりますよ！　それに、やるんだったら何回もやるつもりはない。

―やるんだったら一発勝負と？

**佐伯**　そういうこと。まあ、慧舟會に関しては、俺も考えてることがあるんで、それを含めて勝負してやりますよ！

―わかりました。今後の展開に期待してます！

【08年9月18日／都内・六本木スポーツバー『ブレーンバスター』にて収録】

## スポンサー、集客、ボードッグ撤退……それでもよみがえる老舗団体の底力！

# 新生パンクラスとは何か？

07年末あたりから常に“存亡危機説”が噂されていた老舗格闘技団体パンクラス。
しかし、ここにきてパンクラスがまた新たな道を歩み始めたという情報をキャッチ！ というわけで、
パンクラスが“危機”に至った経緯から、復活の狼煙を上げるまでの道のりを、情報通の会話から盗み聞きした。

写真／乾晋也、bodog.com

**青鬼**　去年の暮れぐらいから、業界ではずっとパンクラス危機説が流れてるが、いったいいまパンクラスってどんなことになってるんだ？

**赤鬼**　まあ、パンクラスもいろいろあった末に、いまは新生パンクラスとでもいうのかな。簡単に言うと体制が大幅に変わって、これまでのゴタゴタとは縁を切ったというわけだよ。

**青鬼**　シャキーン！　シャキーン！　もしや、あなたは高崎計三ですか？

**赤鬼**　いきなり何を言い出してるんだよ。違います。

**青鬼**　だって『ｋａｍｉｐｒｏ』携帯サイトの連載で高崎計三が似たような内容をやってんじゃん。誰でもそう勘ぐるぞ。

**赤鬼**　そんなバレバレでやるわけないだろ！　それにおまえこそ阿修羅チョロじゃないのか？　不自然に「シャキーン！」を連発しやがって。

**青鬼**　いやいやいや……（ごにょごにょ）。

**赤鬼**　否定するならしっかり否定しろよ！　ま、そんなことはいいとして、話を進めよう。新生パンクラスの話だよ。

**青鬼**　新生パンクラス!?　でも、表向きにはいままでと何も変わってないように見えるが……。いったいどこが〝新生〟なんだよ。

**赤鬼**　確かに公にはなってない。だが、じつをいうとパンクラスは会社組織そのものが変わってね。つまり、いままで「株式会社ワールドパンクラスクリエイト」って名前で尾崎允実が社長の座に就いていたけど、いまは「株式会社パンクラス」という名でいままで常務取締役だった坂本靖が社長の座に就いてるようだ。そして、その「株式会社パンクラス」が実際の興行を運営しているというわけだ。

### 座談会出席者

**赤鬼**
業界屈指の情報通。どこでネタを仕入れてくるのかは不明だが、どんなことを聞かれても常に情報を蓄えている。話の内容から推測すると、『kamipro Hand』で連載中の『kamipro事件簿』も欠かさずチェックしていると思われる。

**青鬼**
マット界のことはほとんどわかっていないが、ゴシップにはめっぽう弱いミーハー体質。〝危機説〟が噂されたパンクラスにもやたらと興味津々である。また、端々に『戦極』プッシュを感じさせる言動があるが、本当のところはよくわからない。

**青鬼**　尾崎社長は姿をくらましたまま何やってるかと思ったら、そんなことになってたのか！　「株式会社ワールドパンクラスクリエイト」はどうなってるの？

**赤鬼**　会社組織自体は残ってるらしい。そのへんは要するにＰＲＩＤＥがズッファ社に買収されたあとの「株式会社ドリームステージエンターテインメント」と一緒ということだな。

**青鬼**　はー、なるほどな。でも、そうならそうで、さっさと新組織を発表するわけにはいかないのか？　会社組織を変えたのはそれなりのメリットがあるからだろ。

**赤鬼**　それがそう簡単でもないらしい。たとえばスポンサー関係だよな。そういう部分でまだ整理がついてないところがあるのかもしれないと俺は読んでいる。

**青鬼**　要するに、正式に発表するには都合がよくないってことか。

**赤鬼**　あとは、やっぱり尾崎はパンクラスの創業社長ってこともあるんじゃないか。つまり、そういう人間が退くってことでネガティブに受け止めるヤツが出てくるってことだよ。

**青鬼**　たとえば……、この企画みたいに。

**赤鬼**　そういうこと（笑）。それをどう発表するか、どのタイミングで出すかという

# パンクラスの象徴だった船木が引退してから興行的求心力を失なっていった

ことをうかがってるってのも考えられるぜ。そのタイミングってのは、一つのタイミングだけじゃないってことかもな。内部的にも外部的にもすり合わせが必要ってわけだよ。それにパンクラス「P'sLAB東京」の移転の話も出てたしな。

**青鬼**　それならつい最近発表があったよな。10月あたまからゴールドジム原宿店に入るってヤツだろ？

**赤鬼**　そうそう。だから、そういう部分でのタイミングもあるんだろう。まあ、ジムが移るっていうんだから、現ジムの2階にある事務所も引っ越すんじゃないの？　体制が変わる会社には、他人にはうかがい知れない事情ってのはいくらでもあるんだよ。

**青鬼**　でも、そもそもパンクラスに〝危機説〟が噂されるようになったのって、発端はどこだったんだろうな。やっぱりそれもスポンサー関係の事情なのか？

**赤鬼**　簡単に思いつくのは、おそらくSammy（現SEGA Sammy）のスポンサー撤退がイタかったのもあるだろうね。まあ、Sammyはパンクラスから撤退したのと同時に『HERO'S』のスポンサーも降りてるから、パンクラスというより、Sammy自体の経営的なことが影響してるんだろうが。それにしても、Sammyがスポンサードしていた当時は相当調子がよかったと聞くからな。それこそ極端なことを言うと客が入ろうが入らなかろうが体制には影響ないって感じだったみたいだぜ。

**青鬼**　へぇ～。それはずいぶんと頼もしい存在だったんだな。

**赤鬼**　そういう意味でいうと、ずっとパンクラスをスポンサードし続けてるドン・キホーテも同じことが言えるかもしれないな。

**青鬼**　ドン・キホーテに関していえば、レスリングのスポンサーもやってるってのは有名な話だからね。でも、ドン・キホーテといったらパンクラスというより『戦極』のスポンサーってイメージがある。

**赤鬼**　いまもなおドン・キホーテがスポンサーでいてくれるってことはパンクラスにとってめちゃくちゃありがたいことだろうな。でも、いずれにせよ結局Sammy1社に頼りきるのもマズかったんだろうね。代わりを探そうというにも時間がかかったんだろうし。

**青鬼**　でも、そもそも興行なんて、ゲート収入も見込むもんだろ？　そこを柱にするのは難しかったのかな。



パンクラス旗揚げ当初から社長をを務めてきた尾崎允実。ここ最近、記者会見にも姿を現わさず、不思議がられていたが、パンクラスの運営が坂本靖が代表を務める新会社に移っていたとは……。

**赤鬼**　んなムチャな。だいたいあのPRIDEでさえも、テレビの放映権料やPPV収益をアテにしたくらいだぞ。ただ、おおよその原因としてマスコミの連中が言ってるのは、パンクラスの象徴だった船木（誠勝）が引退してから、興行的求心力を失なっていったってことだけどね。

**青鬼**　船木ぃ!?　そんなに根が深い話なのか……。だって、船木の引退って2000年のヒクソン・グレイシー戦後の話だから、もう8年も前のことだろ？

**赤鬼**　まあそんなんだけど、そのあともパンクラス勢はPRIDEに打って出ただろ？

**青鬼**　2003年の『PRIDE男祭り』に近藤有己が初参戦したんだよな。

**赤鬼**　その後も高橋義生（現・和生）、前田吉朗らが参戦したけど、どれもさんざんな結果に終わってる。そこはパンクラスとしても「こんなはずじゃなかった……」状態なんじゃないのか。そこで勝てないということは、じゃあパンクラスってどこに価値がある団体なんだってことになるからな。

**青鬼**　つまり、PRIDEに選手を送り込んで、バンバン勝って、パンクラスの興行の集客につなげようとしたってわけか。

**赤鬼**　PRIDEはまさしくそのための利用の場だったと思うね。ただ、そこに大きな誤算があったというわけさ。近藤が負け、高橋が負け、吉朗が負けってなったら、じゃあパンクラスって何？　っていうことになるだろうからね。

**青鬼**　で、負けた選手にはほかの団体からだってお声はかからないだろうし、そうするとPRIDEとの駆け引きも難しくなってくる。

**赤鬼**　負けた選手を軸にマッチメイクするのだって難しいしな。そこで集客の意味でも八方ふさがりに近い状態になるわけだけど、そのあとに出てくるのが……。

**青鬼**　ボードッグか！

**赤鬼**　そういうわけ。ボードッグは最初はMARSと提携していたが、ボードッグの日本進出に携わってた人物がパンクラスと橋渡しをしたというわけだ。

**青鬼**　でも、そこでパンクラスの名前が挙がったのは何か理由があるのか？　ボードッグが日本のイベントにこだわったってのも謎だしね。

**赤鬼**　聞いた話だと、尾崎社長とその仲介人が知り合いだったっていう話だけど、本当のところはよくわからないな。ただ、お互いに求めてることは一致したんじゃないの？　パンクラスがスポンサーがほしかったことは確実だろうしね。

**青鬼**　でも、その当時はまさかボードッグが休止するなんて、思いもしなかった感じ



2000年、ヒクソン・グレイシーと伝説の一戦を闘い、無念にもチョークで散った船木誠勝。この日は団体の絶対的エースの敗北とともに、引退という"とどめ"の事実を目の当たりにすることとなった。この一幕がパンクラス"危機"の根源となったという話は業界でもしばしば口にされることである。

## ボードッグ側の目的といえば、本業である
## カジノビジネスにつなげようということだった

なのかな。

**赤鬼** もちろんボードッグとの提携については、止める人間もいたらしい。ちょうどボードッグがヒョードルを獲得したとかそういう話が出てた時期だから、ボードッグと敵対しているPRIDEとの関係は切れることになる。パンクラスはそれでも提携を強行したわけだ。

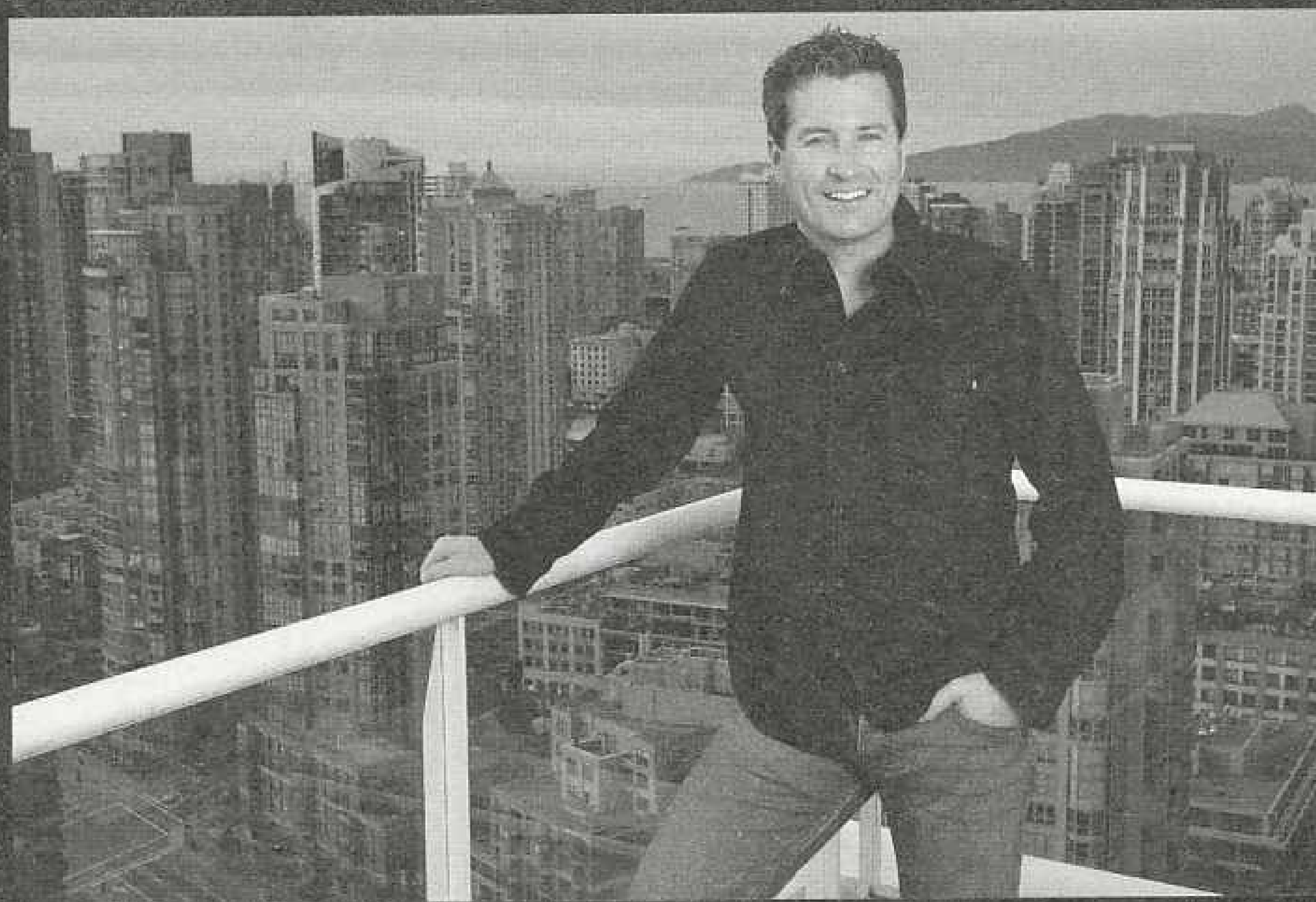
**青鬼** よっぽどボードッグから提示された条件が魅力的だったのかなぁ〜。でも、そのボードッグとの関係も長くは続かなかった。それはどうしてなんだ?

**赤鬼** 言ってしまえば、ボードッグ側が何をやりたいのかがわからなかったってことだろうね。当初、ボードッグとパンクラスは日本法人として「ボードッグジャパン」を設立させようと本気で動いていたという話もあったけど、そのプランもなし崩しになったし。

**青鬼** そういえばオレ、東京ドーム大会を「ボードッグジャパン」として開催するって噂を聞いた気がするぜ。

**赤鬼** 吉田秀彦vsホジャー・グレイシーをメインに据えてだろ? どこまでホントの話かは知らないけれど、それも単なるプロジェクトであって、実現には至らなかった。要するに、ボードッグの話は打ち上げ花火だけはデカイけど、なし崩しの連続でパンクラスもついていけなくなったんじゃないか。

**青鬼** つくづくツイてないなあ。まあ、そもそもボードッグ自体もヒョードルを獲得したまでは景気がよかったけど、そのあとといったら……ねえ。



一時期はヒョードルをも獲得し、マット界の行方をおおいに混乱させたカルビン・エアー率いるボードッグ。各方面の反対を押しきり、パンクラスもボードッグとの提携を強行したが……。いまとなっては風のような出来事だった。

**赤鬼** ボードッグ側の目的といえば、やっぱり本業であるカジノビジネスにつなげようということだったんだろうね。でも、そもそも日本はアメリカみたいに格闘技=カジノビジネスって発想がない国だから、日本参入の時点で失敗って感じなのかもしれないな。

**青鬼** 単なるリサーチ不足だし、お台場カジノ構想を練っている石原都知事と手を組んだほうが現実的だよ(笑)。じゃあ、パンクラスはその波にかき回されたってことか。

**赤鬼** いまやボードッググッズはパンクラスの会場で投げ売りされてるって話だし(苦笑)。パンクラスもボードッグマネーがちゃんと見込みどおりに入っていれば大丈夫だったのかもしれないね。で、提携があやふやになってる時期に出てきたのが、『戦極』だよな。

**青鬼** 一、十、百、戦極! 戦極!! ってことで、再び救世主登場ってわけか。

**赤鬼** やっぱりオマエ、阿修羅チョロだろ! ……まあいいや。で、救世主ってことでいうと、パンクラスにとって救世主的存在なのは『戦極』ってよりも、まあドン・キホーテだろうね。『戦極』自体もドンキと絡んでたパンクラスだったら協力関係を築けるって頭だっただろうし。聞いた話だと、『戦極』はパンクラスというか、ジョシュ・バーネットに価値を見出してたって話だな。



ボードッグとの提携がうやむやになった後、今度は『戦極』と協力関係を結ぶこととなったパンクラス。最初の切り札として、尾崎元社長が切ったのが、このジョシュ・バーネットだったという。『戦極』のリングでもパンクラスのベルトを巻くジョシュは、パンクラスにとっては"かわいい"存在なのだろう。

**青鬼** ジョシュに! へぇー。

**赤鬼** ジョシュはPRIDE無差別級GPで準優勝したばかりだったし、パンクラス側もジョシュを抱えてるってことはかなりアドバンテージだと考えてたみたいだしな。パンクラスとしても切り札的存在としてうまく扱ってたんだろうね。まあジョシュだけでなく、何もかもがこのビジネスが初めてである『戦極』にとって、老舗団体のシステムを利用できるってのもメリットではあっただろうね。

**青鬼** メリットって?

**赤鬼** たとえば、ルールディレクターを梅木良則が務めてるってこともそうだし、ルールに関してもそのまま取り入れてるという点から考えると、『戦極』はパンクラスのシステム自体は評価してるってことだろうな。

**青鬼** そういう細かいところまでは新参者はわからないだろうからなぁ。

**赤鬼** ボードッグじゃないけど、ここでも『戦極』とパンクラスの条件が一致したってことはあるだろうね。なぜかっていうと、『戦極』は『戦極』でパンクラスのいい選手をリングに上げることができる。もし、調子が悪かったとしてもパンクラスで調整して、また復活させるということもできるだろうからね。またパンクラスのほうも大舞台に選手を上げることができるし、一方で、『戦極』に上がりたいという選手がパンクラスに集まってくるって現象も見込めるからな。要は、一時期のPRIDEとDEEPの関係って言ったら話は早いかな。

**青鬼** いまのパンクラスにおいて『戦極』とは同盟関係にあるってところもあるんだな。

**安田会長は完全に親分体質。自分のかわいがってる選手を大舞台で見てほしいという**

赤鬼　まあね。俺が思うに、結局はドンキっていう後ろ盾がパンクラスを救ってくれるんじゃないか。パンクラスは来年のツアータイトルの募集も始めたし、新階級のベルトもいままでのベルトと同様に作ってるらしいからな。

青鬼　新階級ってどういうこと？

赤鬼　要するに、階級を整備する段階で、パンクラスでは新しくフライ級とバンタム級ってのも新設されたんだけど、そのベルトをいま作ってるって話だよ。で、パンクラスのベルトってけっこうお金かけて作ってるからさ。

青鬼　へえ～。そういう活動をしてるってことは、イコール「安定」を意味してるってことか。まさしく安田会長さまさまだな！　でも、なんで安田会長はそこまでパンクラスをサポートするんだ？　自ら「最も尊敬する団体は修斗」なんて公言するほどコアな格闘技ファンの安田会長だけど、俺はそこが一番の疑問だな。

赤鬼　そこは単純に格闘技が好きってのがあるんじゃないのか？　パンクラスの世界観に理解があるのかどうかは俺も正直わからないけど、自分の好きな格闘技を一生懸命やってる選手たちの面倒を見てあげたいという、完全に親分体質なんじゃないのかね。自分のかわいがってる選手たちを大舞台で見てほしいって感じかな。

青鬼　へえ～。まったくありがたい存在だなあ。そういう人がたくさんいれば、この業界も安泰なのにな！　ただ、そこまでパンクラスに関わってるんなら、団体に対して口出しすることも少なからず出てくるよな。

赤鬼　そこはこれからのことだからわからないね。でも、いままでのドンブリ勘定はもう通用しないし、カード自体も漫然と組まれるんじゃなくて、外に響くようなものを作り込んでいく作業は求められるだろうね。

青鬼　なるほどねえ。

赤鬼　まあ、いま言ったようなことがすべてうまくいけば、ホントに新生パンクラスとしての価値は出てくるだろうよ。方向性もはっきりしてるわけだしね。

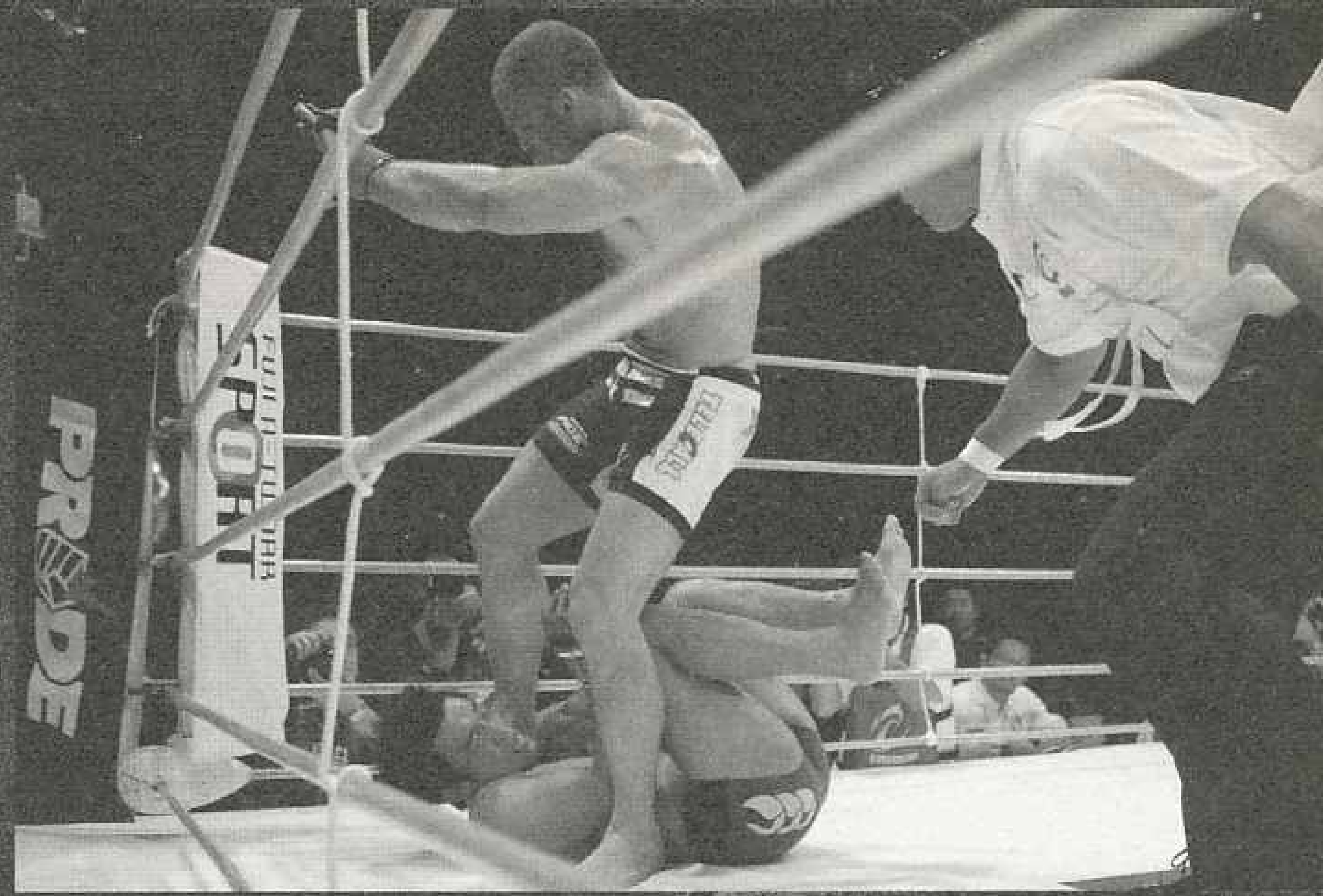
青鬼　じゃあ、結論としてはドンキ万歳！ってとこか。

赤鬼　そういうこと。

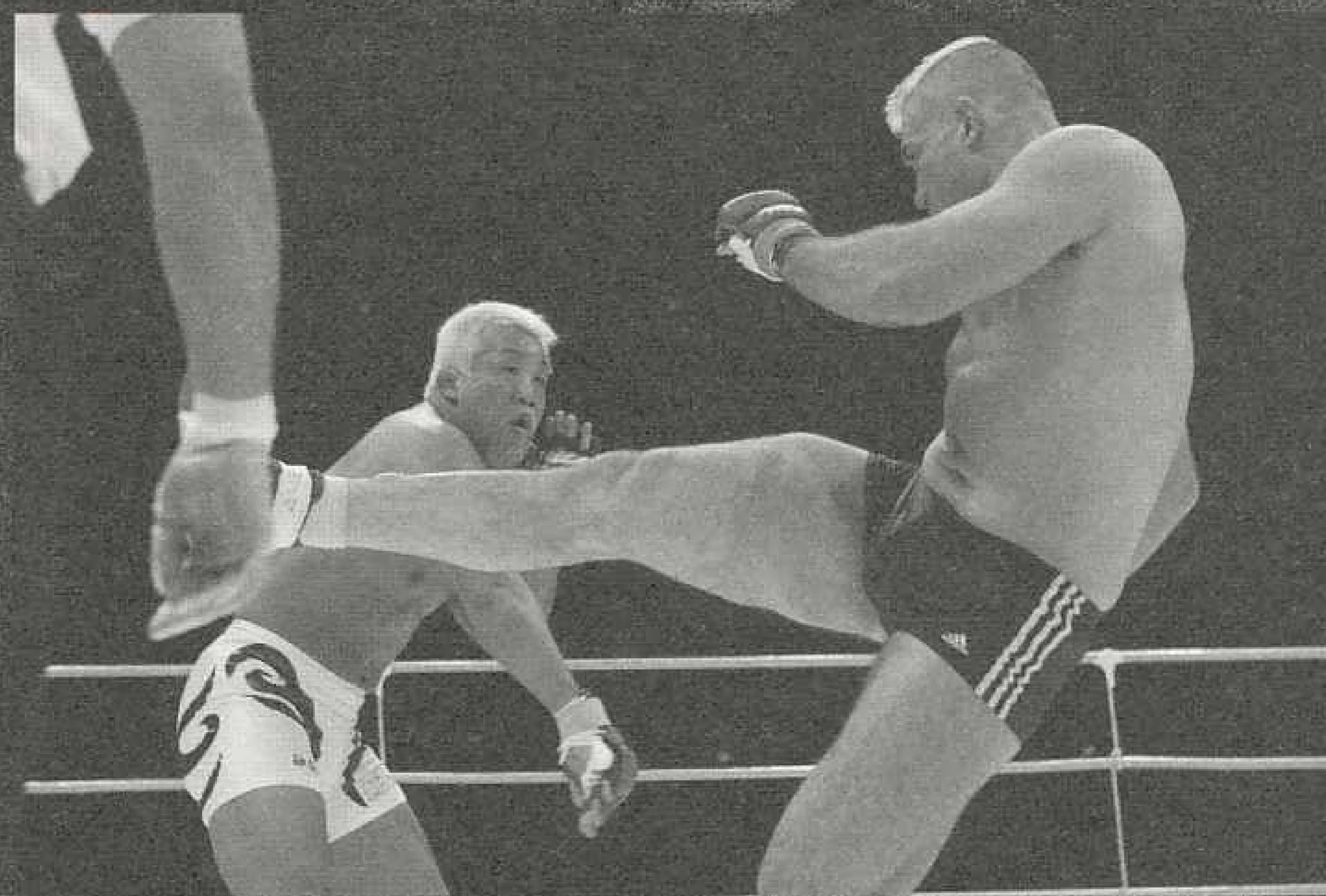
青鬼　将来的に、ドン・キホーテの店の一角でパンクラスグッズが売られたりする可能性もあるのかなあ。こりゃ、ドンペン君にも足を向けて寝られないね！

赤鬼　……って、まるでドン・キホーテの広告のページだな（笑）。

【08年9月17日／都内・某所にて収録】



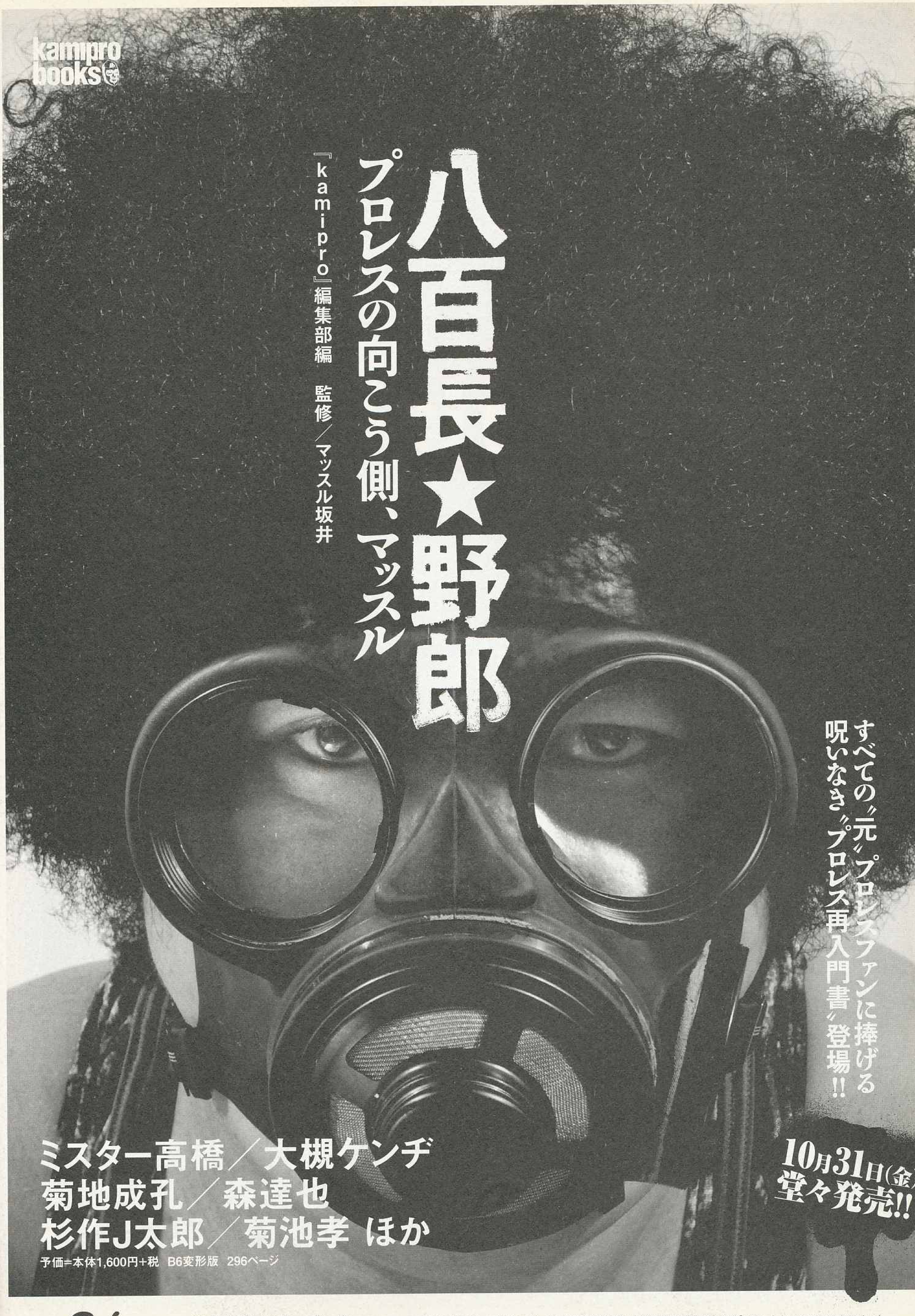
パンクラス代表として初めてPRIDEに乗り込んだのが、この近藤有己。『PRIDE男祭り2003』マリオ・スペーヒー戦こそ白星を飾ったものの、その後はヴァンダレイをはじめとする強豪に敗戦を喫することに。



近藤に続き、『PRIDE GP 2004開幕戦』からPRIDEに参戦した高橋義生（現・和生）だが、3戦3KO負けという戦績に。これにより、ますますパンクラスは団体として窮地に追い込まれることとなる。



パンクラスのフェザー級チャンピオンとして『PRIDE武士道-其の七-』に参戦した前田吉朗だったが、チャールズ・"クレイジーホース"・ベネットとの対戦ではあえなくKO負け。パンクラスのリングでは絶大な強さを誇る前田だけに、パンクラスファンはここでも打ちのめされてしまった。


kamipro books
八百長★野郎
プロレスの向こう側、マッスル
『kamipro』編集部編　監修／マッスル坂井
すべての〝元〟プロレスファンに捧げる
呪いなき〝プロレス再入門書〟登場!!
ミスター高橋／大槻ケンヂ
菊地成孔／森達也
杉作J太郎／菊池孝 ほか
予価=本体1,600円+税　B6変形版　296ページ
10月31日(金)
堂々発売!!

## 9.20 ストライクフォース プレイボーイマンション大会

# 三崎和雄、石田光洋、揃って快勝!!



# 日本人は強いんです!



### 9.20ストライクフォース
### 米国カリフォルニア州ロサンゼルス
### プレイボーイマンション

米国メジャーMMAイベントの一つ、ストライクフォースが、昨年に引き続きビバリーヒルズのプレイボーイマンションで、VIPを多数招いてイベントを開催。このユニークな大会に日本から三崎和雄、石田光洋が参戦。揃って勝利を挙げた。ここでは現地の模様を石田のセコンドとして渡米した川尻達也の日記と合わせてお届けしよう。






# 和　雄

©Daisy Rosas

アメリカ"再デビュー戦"で激勝!　秋山成勲、そして"年末年始"の可能性を語った!!

# 『戦極』という思いを胸に持っていれば闘う舞台はどこでもいい

愛国の志士、三崎和雄がアメリカで激勝!　9.20ストライクフォース、プレイボーイマンション大会のメインで、三崎はUFCでも実績がある強豪ジョー・リッグスにダウンを奪われながらも、最後はダウンを奪い返し逆転のTKO勝ち。アメリカの観客に日本人の強さを見せつけた。そんな三崎を帰国後直撃。試合の感想はもちろん、宿敵・秋山成勲、さらには年末年始の格闘技戦争についても語ってもらった。

聞き手／堀江ガンツ　撮影／石井史彦、Dave Mandel、Daisy Rosas

# 三崎

―ストライクフォースのプレイボーイマンション大会から凱旋ということで、まずは間近で見たプレイメイトの感想から聞かせてください!

三崎　いきなり、そこですか（笑）。でもこれがね、見れなかったんですよ。僕としたことが。

―僕としたことが（笑）。どうしたんですか?

三崎　今回のプレイボーイマンション大会っていうのは、大会全体がパーティみたいな感じで、その中にケージを入れて試合をしてたんですよ。それで僕はメインだったんで、試合が終わった時点でもうパーティの残り時間が30分だったんですよね。で、試合が終わって控室でインタビューを受けたりなんかしてて、残りあと10分だっていうときに、とりあえずどんな会場だったのか、プレイメイトを含めて見たかったんで、急いで行ったんですけど、すでに会場は片づけを始めてましたね（残念そうに）。

―それで、プレイメイトとは話せずじまい、と（笑）。

三崎　そうなんですよ。会場はプレイメイトがいて、バーや食事があって、寿司職人なんかがその場で寿司を握ってたり、いい雰囲気だったみたいなんですけどね。自分は話で聞いただけですけど（笑）。

―酒池肉林な会場に背を向けて、控室で試合に向けて集中していた、と。今回はアメリカ再デビュー、しかもストライクフォースのメインということで、とくに緊張感やプレッシャーはあったんじゃないですか?

三崎　ありましたね。いつも試合は平常心で冷静に闘うことを心がけてますけども、"アメリカ再デビュー"という意味では前回のPRIDEラスベガス大会の結果のことも頭に残ってましたし、ストライクフォースのメインという大事な試合で、インパクトを残さなきゃいけない、とか。あとは日本を背負って、代表して闘うという気持ちも僕の中ではあったんで、とにかく緊張はありましたね。

―初のケージ（金網）での試合はいかがでしたか?

三崎　試合をするまではそんなに意識してなくて、逆にケージは僕にとってやりやすい場所かなと思ってたんですよ。まずリングより広いというのが、足を使う僕にとっては有利な部分だと思いましたし、普段GRABAKAのジムでは、壁に押し込んだりとか、壁を使って相手をひっくり返したりする練習をしてるんで、どっちかというとリングより金網の闘いに近いかなっていう意識があったんですよ。

―確かに壁に囲まれたジムは、ロープに囲まれたリングより、ケージのほうが近いですよね。

三崎　そういう意味ではちょっとやりやすいかなと思ってたんですけど、そのやりやすさ以前にですね、ケージに入ったとき、やけに興奮した自分がいたんですよ（笑）。

―檻に入れられて興奮しちゃいましたか（笑）。

三崎　そうなんですよ。僕の中で闘いというのは、相手を仕留めるよりも、まず自分を守ることが先決だと思うんですけど。ケージの中というのは完全に1対1の檻の中ですから。外に飛び出して逃げることもできない、相手を倒さなければ生き残れない場所なんだなって、そんなことを考えたら野生の本能なのか、もの凄く興奮してきたんですよね。

―野生の危機センサーが働いたんですかね。



三崎　そうかもしれないですね。——気を引き締めていこう、と。

三崎　だから、いいモチベーションにはなりましたね。あとケージもそうですけど、今回は屋外での試合だったんですね。このプレイボーイマンションというのが、森の中に建つ豪邸なんですよ。その森の中にケージが作られて、星が見えて月があって、凄く幻想的で、僕にとっては最高のシチュエーションだったわけですね。

——ネイチャー三崎としては、これ以上ないシチュエーション（笑）。

三崎　言ってみれば宇宙の真下で試合をしてるわけですから。それが僕を後押ししてくれて、力となりましたね。だから自分の中では、ケージの中という以上に、宇宙の下で、自然の中で闘っているという意識のほうが強かったですね。

——ある意味、アメリカという〝適地〟でありながら、〝三崎選手にとっては〝ホーム〟でもあったわけですね。

三崎　まさに、そうですね。でも、かわいそうなことに石田くんは会場入りするまで外でやるって知らなかったみたいですけどね（笑）。プレイボーイマンションだけに、マンションの中でやるのかと思ってたらしくて。

——そしたらマンションの庭だった（笑）。

三崎　周りは知ってたみたいなんですけど、本人だけ勘違いしてて（笑）。でも、そんな中でもあの試合ができるんだから、いい経験をしたんじゃないですかね。

——三崎選手が闘った相手がジョー・リッグスですけど、かなり強い選手でしたね。

三崎　そうですね。これは僕がいつも言うことなんですけど、人間の強さって、肉体や技術ではなくて、やっぱり動物的本能の強さだと思うんですよ。そして彼はそういう動物的な強さを持ってましたね。それは試合前日の計量をお互いパスして向かい合ったときに、「あ、こいつ、なるほどな」って、僕の中の感覚でわかりました。



今大会は世界的に有名な男性誌『PLAYBOY』の発行者であるヒュー・ヘフナーの豪邸、プレイボーイマンションの敷地内で開催。試合会場にお酒、食事、女性（プレイメイト）が揃った"男の夢"ともいえる大会だ。写真右から二番目の美女に囲まれた男性がヒュー・ヘフナー。うらやましい!

# プレイボーイマンションは野外の大会
# 言ってみれば宇宙の真下で闘っているわけで
# 僕にとっては最高のシチュエーションでした

——目を見ただけで、動物的な強さがわかりましたか!

三崎　ええ。目を見たら、「あ、こいつは……なるほど、そういうことか」っていう。それでまた緊張感がまたグッと増しましたね。

——確かに、試合自体も距離の取り合いだけで緊張感が凄かったですね。

三崎　やっぱり1ラウンド目はもうお互いに牽制し合って。あれを観て「もっと早く殴り合え、つまんねえよ」って思う人もいるかもしれないですけど、僕はああいう展開になるのは当然だと思うんですよね。あの試合はトップクラスの闘いだと思いますから、何も知らない相手にいきなり飛び込んでいくんじゃなくて、まず探り合って仕掛けて、相手がどういう反応をするのか見極める。そういった牽制、探り合いという動物同士の闘いでは当然の展開が、1ラウンドのお互い緊迫した中で行なわれていたんです。動きはほとんどなくても、あれでお互い相当スタミナ消耗しましたしね。

——見えない闘い、駆け引きが行なわれていたんですね。

三崎　あれがあったからこそ、2ラウンド目に、今度はお互い仕掛ける動きが出てきたと思うんです。そういう意味ではあの1ラウンドっていうのは、お互いに息を飲む展開でしたね。

——2ラウンドは最初、左ストレートをもらってしまいましたね。

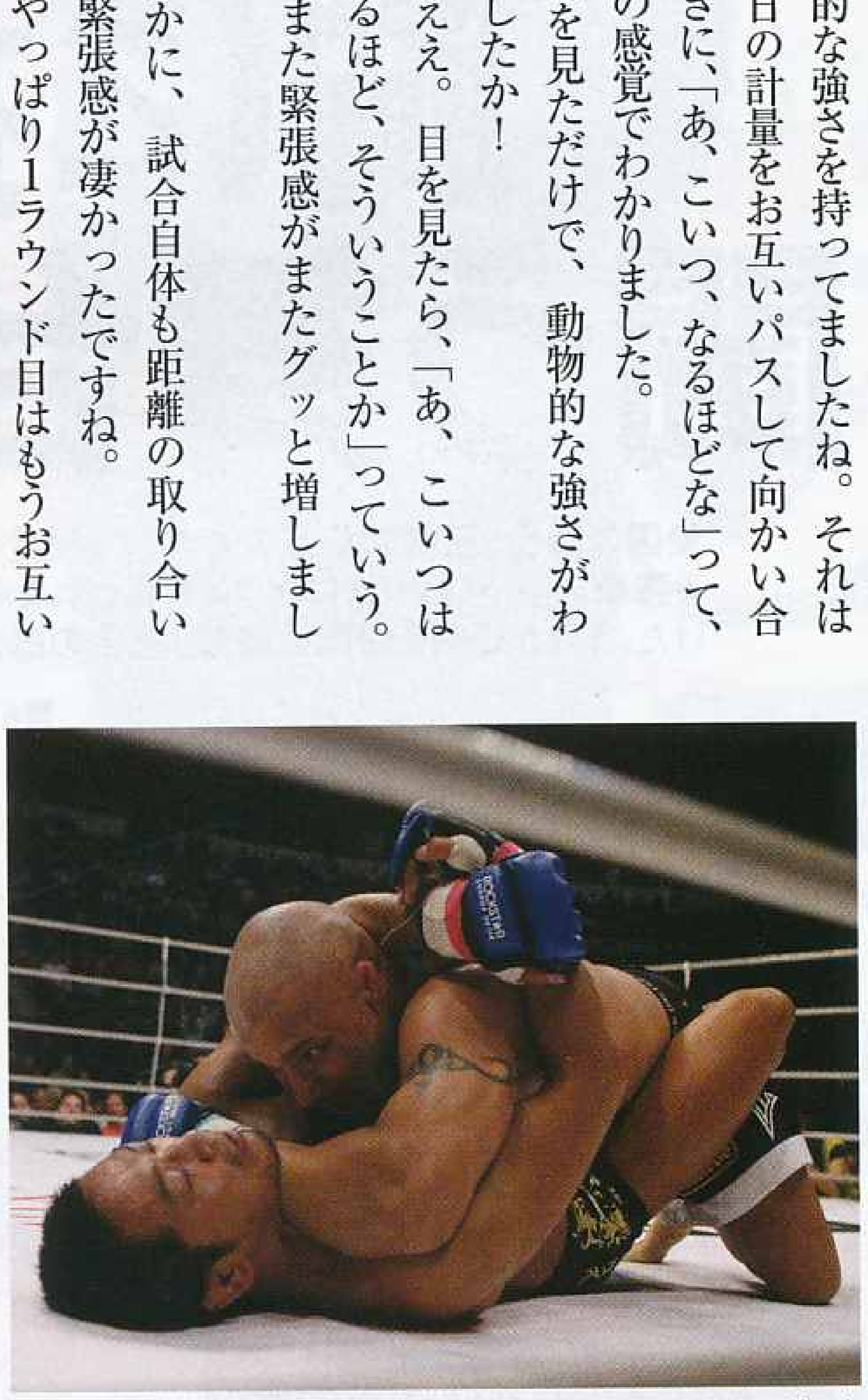
三崎　そうですね、食らいましたね。うまかったですよ、ホントに。彼はレスリングの猛者ですけど、小学校の頃からボクシングも習ってたらしくて、ホントに軽く力を抜いてパンチを打つんですよね。力を入れたパンチっていうのは意外と効かないですから。肩の力を抜いて、軽く振り抜くような、ホントにシャープで効くパンチを持ってるんですよ。僕があの左をもらったときっていうのも、僕が逆に左フックを打ちにいって、それを空振りした瞬間にカウンターをうまく取られてるんですよ。僕のフック自体が力が入りすぎて身体が突っ込みすぎちゃったっていうのもあるんですけど、そこを見逃さずにホントにきれいに打ってきましたからね。「やられた！」って感じですよね。

——あれは効きましたか?

三崎　効いちゃいましたねえ。僕が振り抜いた瞬間のカウンターだったんで、モロに衝撃を受けてしまって、気づいたら目の前にマットがありましたから。

——それだけきれいにパンチを打ち抜かれて、よく立ち上がれましたね。

三崎　一瞬、意識が飛んで、目の前がマットだって思った瞬間に、マットを突き放して立ったって感じだったと思うんですけ



三崎のアメリカデビュー戦だった昨年2月24日のPRIDEラスベガス大会では、フランク・トリッグに寝技で押さえ込まれ、まさかの判定負け。今回のストライクフォースは、このときの屈辱を晴らす場でもあった。

## KAZUO MISAKI

ど。まあ、運がよかったんでしょうね。それは神様に感謝するしかないけど。あのまま一発で伸びててもおかしくなかったと思います。

――逆にすぐに右ストレートをヒットさせてダウンを奪って、最後はパウンドでTKO勝ちだったわけですけど、そのへんはちゃんと記憶にありますか？

**三崎**　あのへんの記憶はありますね。起き上がって、一瞬詰められそうになったんですけど、ここで下がったら相手は絶対どんどん出てくると思ったんで、とりあえず前に出ようと思いましたね。

――最終的には、またしても逆転勝利ということで。

**三崎**　なんか最近、逆転が多いですよね。いつも冷静に試合を進めようと思う反面、これは性格なんでしょうけど、一発もらったら二発返してやろうって思ってしまうことが、よかったり、悪かったりするんでしょうけど。

――一発もらうと、何かが解放されちゃうんですかね。

**三崎**　かもしれないですね。

――最後のパウンドは、「レフェリーが止めるのが早い」って、対戦相手のリッグスはアピールしてましたけど、どう思いますか？

**三崎**　早かったか遅かったか、それは僕にはわからないです。僕も夢中になって闘ってるし、レフェリーがしっかり判断したんでしょうから。僕の中では、あの右ストレートが当たった瞬間はもちろん覚えてるし、確実にダメージを与えたと思うんですね。そのあとも、相手が動かないからパウンドを落としましたけど、動いてきたらすぐに次の関節技、絞め技に移行しようという余裕があったんで、自分の中では納得してますけどね。

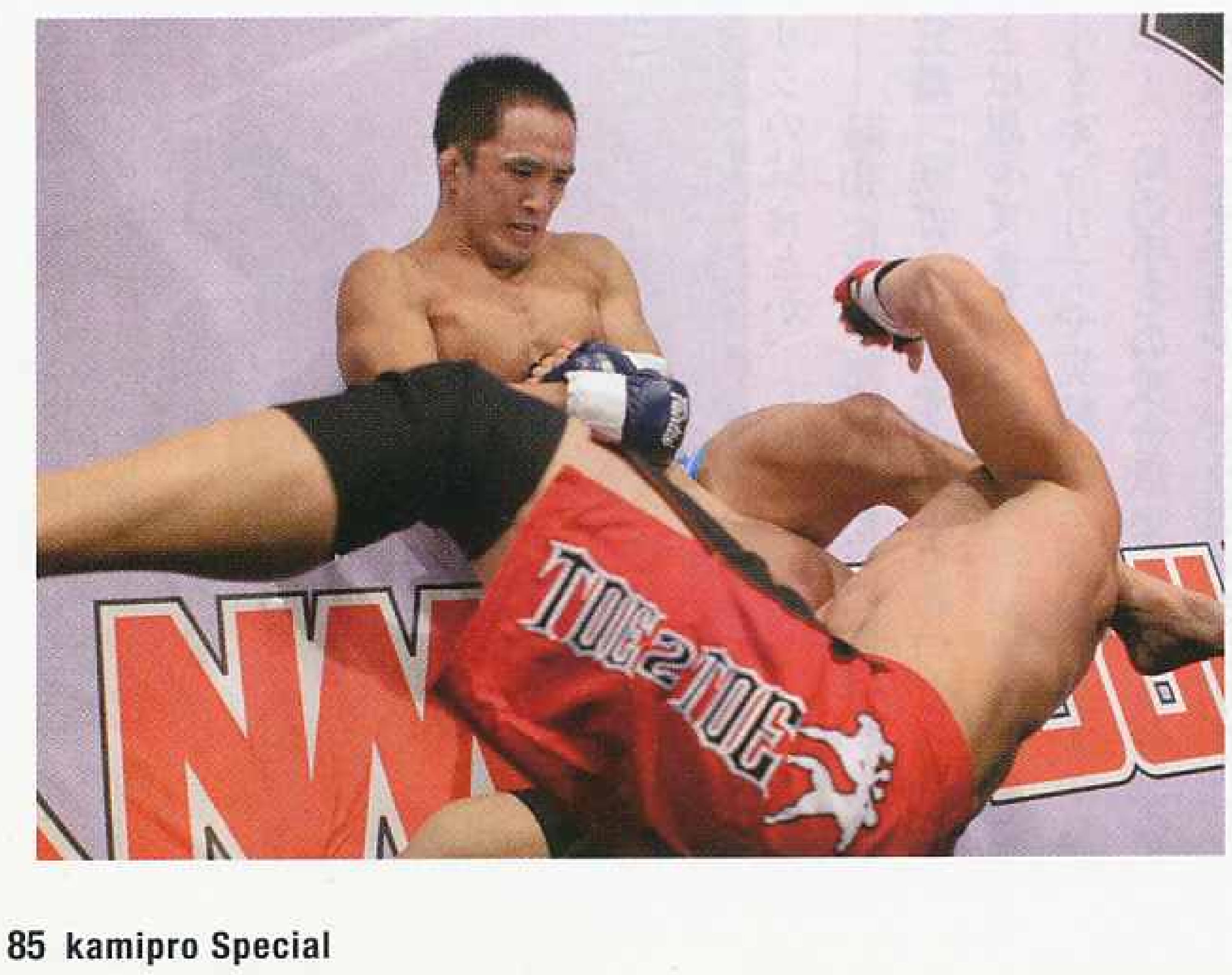
――では、メインの重責をはたして、やはりホッとしました？




©Daisy Rosas

[9.20 STRIKEFORCE at the Playboy Mansion]
米国カリフォルニア州ロサンゼルス　プレイボーイマンション
**○三崎和雄 vs ジョー・リッグス×**
（2R 2分29秒　TKO）

三崎がストライクフォースのメインで、元UFCファイター、リッグスと対戦。序盤、お互いに距離をとって牽制し合う、三崎らしい慎重な試合展開。2ラウンドになると試合が動きだし、パンチが交差する中、リッグスの左ストレートが三崎のアゴを捉えダウン。しかし、三崎はすぐに立ち上がると、逆に右ストレートでダウンを奪い、そのままパウンドでTKO。またしても逆転勝ちを収めた。




[9.20 STRIKEFORCE at the Playboy Mansion]
米国カリフォルニア州ロサンゼルス　プレイボーイマンション
**○石田光洋 vs ジャスティン・ウィルコックス×**
（1R 1分21秒　腕ひしぎ十字固め）

石田の相手は、リアリティショー『TUF』のシーズン5ファイターであるAKAのウィルコックス。距離をとって打撃を放つ石田に対し、レスリング出身のウィルコックスは、素早い片足タックルでテイクダウンにいくが、石田はこれをアームロックで切り返し、さらに腕十字へいくコンビネーションで一本勝ち。見事、アメリカデビュー戦を白星で飾った。




三崎　そうですね、ホッとしましたね。自分はいま日本では『戦極』という舞台で試合をさせてもらっていて、自分の希望でストライクフォースに出させてもらったわけですから、負けるわけにはいかないっていう思いが非常にあったんで。とにかくホッとしましたね。

――勝敗が自分だけに降りかかるものではない立場になってきてまもんね。それがトップ選手っていうものなんでしょうけどね。

三崎　自分としては、挑戦する立場のほうが気持ち的には楽というか、おもいきりできるんですけど、いまは昔とは、ちょっと違う中で闘ってる気がしますね。でも、それは幸せなことなんだと思って感謝してますけどね。

――今回のストライクフォースには、石田選手も出場しましたけど、いま日本では違うイベントに出場していますが、向こうではどうでしたか？

三崎　まあ、いつも一緒に行動してたわけではないですけど。気持ちはいつもお互いに励まし合いながらやってましたね。そして二人とも揃って勝てたんで、これはホントに嬉しいですよね。

――しかも、二人ともいい勝ち方で。

三崎　そうですね。石田くんが先に一本で勝ったんでね、僕はさらに不安が増したんですけどね（笑）。でもホントにお互いいいかたちで勝って、ホントよかったです。石田くんとは僕がアマチュア時代からの付き合いなんで。僕が東京に出てくる前に千葉の香取道場で練習やってるときに、そこにウチのチームの連中なんかも向こうに練習に行ったりしてて、いろいろお世話になってるんで。ホントに長い、10年近い付き合いになっちゃいましたね。

――そんな縁がありましたか。

三崎　不思議な縁ですよね。チーム・チバラギの（笑）。

――闘う場所は『戦極』とDREAMに分かれても、チーム・チバラギの絆はあるわけですね（笑）。DREAMといえば、三崎選手が帰国した9月23日に大会がありましたけど、ご覧になりましたか？

三崎　テレビでやってたのをチラッと観ましたね。ミルコの試合と、ゲガール・ムサシの試合とか。

――秋山（成勲）選手の試合とかは？

三崎　観てないです。でも勝つだろうなとは思ってましたけどね。

――キャリアや実績が全然違いますからね。三崎選手との試合以来、そういう試合が続いてますけど、どう思いますか？

三崎　僕はなんとも思わないです。これ、凄い不思議なんですけど、秋山さんに対して、まったく感情がないんですよね。なくなったというか。

――感情がない、ですか？

三崎　いまはむしろ興味というか、何すんのかなって思うんですよ。歌を歌ったりとか、いろんなとこに出てきて、あの人はおもしろい才能を持った人だなっていうね。人を惹きつけるというか、そういう才能はあるんでしょうね。そういう惹きつけられてる一人に僕もいるのかもしれませんけど。でも、格闘技に関して、彼が誰と試合をするとか、何をするってことに関しては、いまはまったく興味がないですね。

――秋山成勲の歌には興味があっても、試合には興味がありませんか（笑）。

三崎　僕は格闘技の道一本で、向こうは歌とかで忙しい中の格闘技ですから。だから、いまはまったく違う道を歩いてるんじゃないかなって気がします。これは運命だ

から先のことはわからないですけどね。去年のいま頃は、自分とはまったく違う人種だと思っていた矢先に年末試合してますから。いまはまったく別の道を歩いてるとはいえども、この先また神様がどういうアクションを起こすかわからないですね。

――また急に闘うときが来るかもしれないし（笑）。

**三崎**　そうなったら、それはそれで僕も楽しみにしてますけどね。何かひっくり返るような動きがあるなら、それは楽しみではあります。

――『戦極』に話を移すと、9・28『戦極～第五陣～』からミドル級のトーナメントが始まります。

**三崎**　ああ、そうですね。

――別名「ロード・トゥ・三崎」って言われてますけど。

**三崎**　ホントにそうなるんですかね（笑）。具体的な話は僕もまだしてないんでね。

――あ、そうなんですか？

**三崎**　間接的には僕のところまで届いてますけどね。まあ、トーナメントについては、チームメイトの佐々木（有生）が出てるんで、これはなんとしてもね、佐々木に優勝してもらいたいんですよ。やっぱりヤツの実力はGRABAKAのメンバーはみんなわかってるし、実力はホントにあるんです。でも、何か運をつかめずにきた部分もあるんで、ここでヤツが10年以上やってきたものを完成させてほしいと思うし、僕と同い年ということもあって、ホントに優勝してもらいたい。だけどあいつとは試合したくないっていうのが正直な気持ちでしょうかね（笑）。

――困りましたね（笑）。

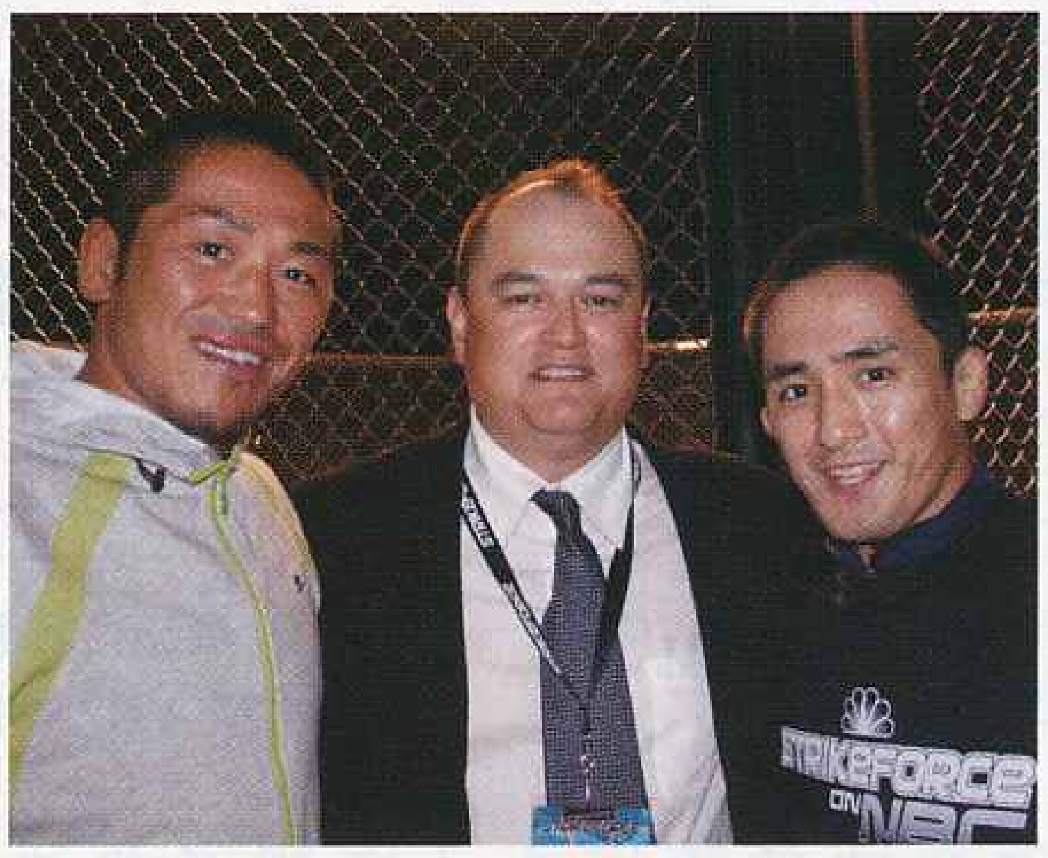
**三崎**　でも、それが素直な気持ちなんですよ。トーナメントに優勝してくれ。でも、佐々木とタイトルマッチはやりたくないっていうね。それは無理な話なのかもしれないけど。

――三崎選手自身は、今回アメリカで勝って、次の目標はなんですか？

**三崎**　やっぱり次は日本の皆さんの前に戻ってきたいなっていうのがありますね。僕がアメリカに向かうときの気持ちっていうのは……、これは誤解をされないように先に言っておきますけど、人種的な差別や国に対しての否定の思いっていうのはまったくないんですけども、やっぱり僕は日本人ですから、アメリカに向かうときっていうのは、もう特攻隊の気持ちで飛行機に乗り込みましたから。ただ、戦争に行った特攻隊っていうのは片道の燃料だけを積んで相手に突っ込んでいった。でも僕は往復の燃料を積んで敵地に行きましたから。で、ちゃんと生還した姿を日本の皆さんに見せたいというか。そういう思いがありますね。

――その凱旋マッチはいつ頃を考えてますか？

**三崎**　う～ん……年末、お正月ぐらいじゃないですかね。もしくはその先かもわからない（笑）。あとはオファーが来ないと試合に出られないですから。でも、『戦極』の主力メンバーがみんな出る大会があれば、そこに僕も出られたら幸せですね。



三崎、石田、そしてストライクフォース代表スコット・コーカーのスリーショット。コーカー代表は二人の今回の闘いを高く評価しており、三崎、石田の再登場、さらにほかの日本人選手のストライクフォース出場も希望しているという。

## 秋山さんに対してはいままったく感情がない。でも運命だから先のことはわからないですね

**KAZUO MISAKI**

――『戦極』は1月4日にニューイヤーイベントが予定されていて、DREAM系では大晦日興行があり、選手の貸し借りがあるような話もありますけど。

**三崎**　去年もそんな感じでしたもんね。それもおもしろいんじゃないですか。『戦極』という舞台には最初から携わってますから、もちろん大事に考えてますけど、闘うということに関しては、場所が違うというだけですから。どこでもいいっていうか、『戦極』という思いをちゃんと胸に持っていれば、どこでもいいかなって、僕は思います。

――三崎選手は去年の大晦日で大ブレイクしたわけですから、当然、今年の年末年始も注目されると思うんで、いい試合が組まれるといいですね。

**三崎**　いいタイミングで試合に出て、みんなに喜んでもらえたらいいなと思いますけどね。去年の大晦日に初めてたくさんの人に試合を観てもらったっていうのもね、僕にとっては大きな収穫だったし。あれからここ数試合、いろんなかたちで注目してもらって。技術的にはもちろんですけど、精神的に僕自身も成長させてもらったかなと思うんで。今年の年末あたりは楽しみというか、期待してもらいたいなと思いますけどね。

――いま格闘技界がなかなか大変な時期じゃないですか。そういう中で、なんとか格闘技界全体を盛り上げなきゃいけないっていう危機感ってありますか？

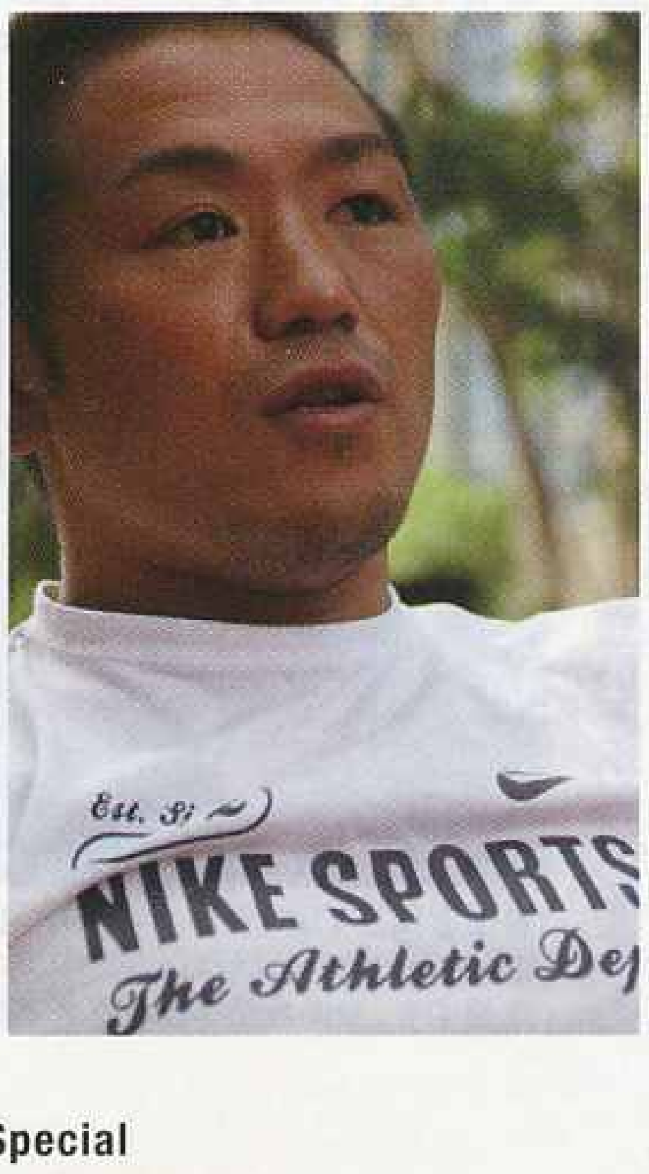
**三崎**　危機感っていうのは、そこまではないです。これはもう天気と一緒で、自然界の流れだと思ってますから。いいときはずっと続かない。これは格闘技界だけじゃなくて僕だってそうだし。やっぱり晴れの日もあれば雨の日もあるし。いくらなんとかしようと思っても、それはどうにもならないことだと僕は思うんで。危機感や焦りは正直ないですね。

――いまはただ、耐える時期なんだということですか。

**三崎**　これは自然の流れに身を任せるしかないと思うんですよね。ただ、その中で自分自身がいま何をすべきかっていう、自分が歩むべき道っていうのをちゃんと見極めてることのほうが大事なんじゃないかと思います。それによってまた大きな波ができたり、経験が広がったりっていうことだと思うんで。そういう意味で、まず自分にできることっていうか、自分がやりたいことはなんなのかっていうときに、アメリカっていう舞台もあったんですね。だから、これからも自分の本当にやりたいこと、やるべきことをやっていきたいと思います。

――わかりました。では、三崎選手の凱旋試合に期待してます！

**【08年9月25日／都内・東京ミッドタウンにて収録】**




みさき・かずお■1976年4月25日、千葉県出身。01年7月にパンクラスでプロデビュー。04年よりPRIDEに出場し、06年に『PRIDEウェルター級GP』で優勝。昨年大晦日には"魔王"秋山成勲をKOするも、その後ノーコンテストに。現在は『戦極』を主戦場としている。GRABAKA所属。179センチ、83キロ。






原稿用紙何枚ぶんも書きました!

# “クラッシャー”川尻達也の筋肉日記

〜米国遠征版〜

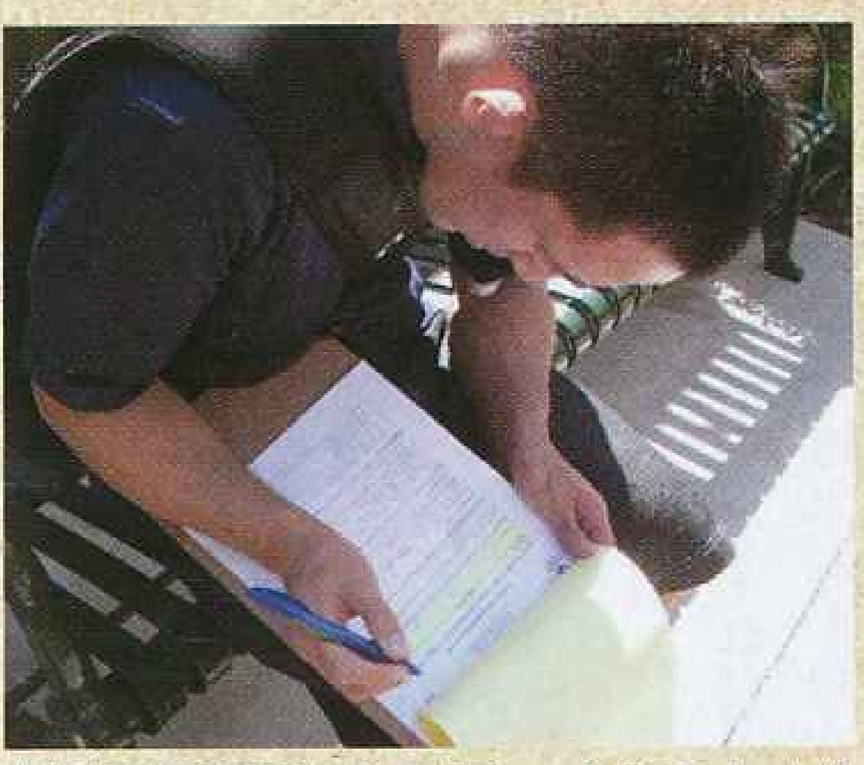
9.20 ストライクフォースに参戦したチームメイトの石田光洋のセコンドとして、『Kamipro.com』で日刊ブログ「“クラッシャー”川尻達也の筋肉日記」を連載中の川尻がともにアメリカ入り! その劇的勝利の裏側を、現地の雰囲気とともに徹底リポート!



構成/鈴木佑　写真/石井史彦、Dave Mandel、Daisy Rosas

## ★9月15日(月) 早くもアメリカの洗礼

現地時間10時過ぎに無事にアメリカ到着! 入国審査は何もなくパスしたけど、激混みでタイムロス。出口では『ストライクフォース』の関係者が迎えに来てくれました。が……。その関係者が車をレンタルするのに一悶着……。最初に行った店では借りられずに店を移動。そこでもなんだかんだで1時間以上。結局、車に乗り出発したのは12時半近く。話には聞いていたので覚悟はしていたが、恐るべしアメリカ……。



晴れ渡る空の下でメディカルチェックのアンケートを記入する石田。爽やかな“茨城のエスペランサ”にはさんさんと輝くロスの太陽がよく似合う!

その後はそのまま石田君のメディカルチェックへ。ここでは受付でかなりの枚数の用紙を受け取り、それに記入しつつ検査。またこの記入が細かいこと……。大変だね〜、なんて言ってたら検査の場所へ車で移動。終わったらまた受付に戻り、また違う場所へ検査しに移動。それを何回か繰り返す。デカい! デカすぎるぞアメリカ!! 各検査の待ち時間もものすごく長く、結局終わったのは17時半すぎ。

ホテルに着きチェックインしようとしても、そこでも無駄に時間がすぎる。しつこいが、恐るべしアメリカ……。

でも、石田君はこんなことも想定内だったらしく、終始リラックスしてました! その後はごはんを食べに行き、少し休んでからホテル内のジムで軽く汗をかき明日に備えて部屋へ。そんな感じのアメリカ遠征1日目でした。

## ★9月16日(火) 長南さんと合同練習

7時半に起きて朝食。その後、10時にMRIを撮りに関係者のブライアンの車で出発。行ってはUターン行ってはUターンを繰り返して、道を間違えながらやっと到着。終わってホテルに着いたのは13時半すぎ……。

その後は昼食をとり(石田君は減量のためパス)、ホテルにマットスペースがないので、調整のために同行してもらっているスタッフがジェイソン・ミラーと連絡をとり、ハリウッドに住む長南さんにお願いしてハリウッドのレジェンドジムで練習をさせてもらいました。

しかも! 石田君は長南さんに金網のアドバイスやミットまで持っていただきバッチリ調整!! 助かりました! ちなみに僕たちがジムに入ったとき、ちょうど練習を終えてジムを出ていくジョルジュ・サンピエールとニアミス!! でも、言われるまで気づきませんでした……。



PRIDE武士道で活躍した3人が揃い踏み! ちなみに長南は川尻の前に『Kamipro Hand』で日刊ブログを連載しておりました。

練習を終えるとみんなで日本料理屋で食事をして、長南さんにホテルまで送ってもらいました。日本の温かみを感じました! 長南さんに感謝!! ありがとうございました。そんな一日でした。なんかまじめに日記を書いた感じ。



強さを追い求めて海を渡った日本人同士が熱のこもったトレーニング! ちなみに長南は現在『Kamipro.com』で週刊コラムを執筆中!

## ★9月17日(水) キンボ・スライスに遭遇

前日と同じ7時半起床。朝食を食べたあとは部屋でまったりとすごす。

昼食は少し歩いたとこにあるデニーズへ。日本のデニーズの感覚で行ったんだけど、メニューはステーキとハンバーガーとか脂っこいものばかり。サラダにまでフライドチキンが乗ってやがる……。もう脂っこいものはたくさんだ〜〜〜。こんなもんばっか食ってたら早死にするよ。

14時からは昨日アメリカ入りした三崎さんたちと一緒に調整をしにレジェンドジムへ。運転手のブライアンはあたりまえのように道を間違える……。



見てみぃ、このボリューム! 食べるものすべてがUSサイズ、米と味噌汁の国から来た人間にとっては驚くばかりなのである。

ジムに行くと人だかりが。なんとエリートXCに出るキンボ・スライスとジーナ・カラーナが記者会見をしてるとこに遭遇。でも人だかりでキンボを見ることはできませんでした。残念。

ちなみに本日もサンピエールがレジェンドジムに練習に来るかもしれないとのことだったので、来たらスパーリングをお願いしようと思ったが結局来ず。非常に残念。

石田君は打ち込み、技の確認、そして今日の朝にアメリカ入りした山田トレーナーとミット打ち。いい感じで仕上がってる!!!

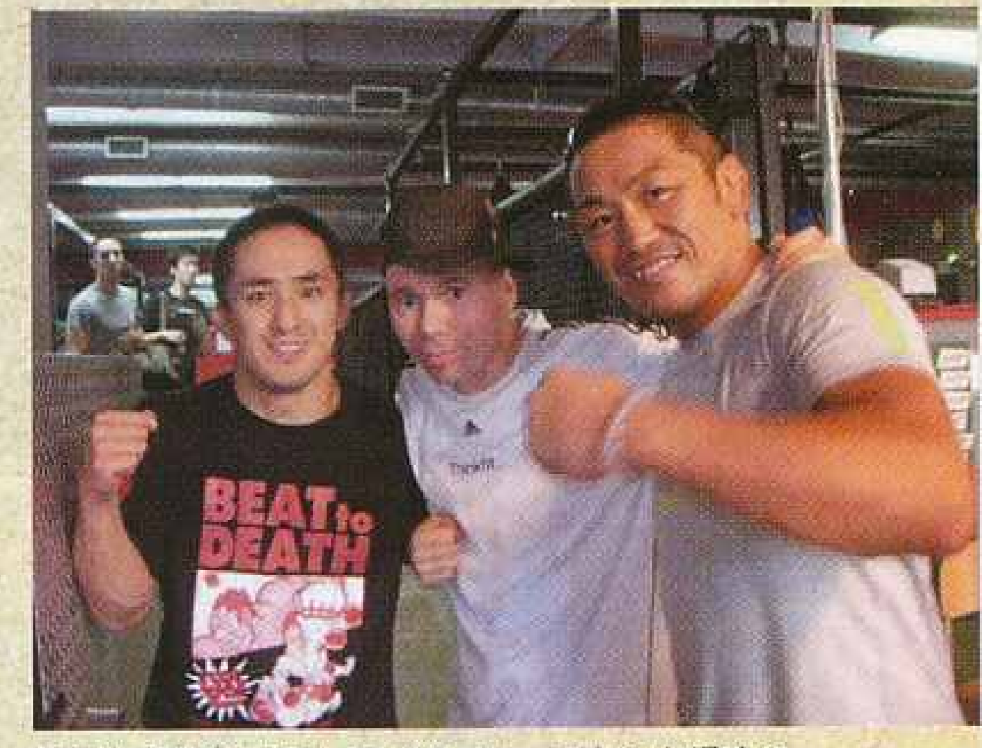
そうそう、記者会見で写真を撮ってたら、俺らのほうにもやたらと絡んで話しかけてくるおっさんがいました。俺に「一番最近闘ったのは誰だ!?」って言うので「エディ・アルバレスだ」って言ったら、「そうか! そいつはブラジル人か!?」って……。アルバレス知らんのかい!! エリートXCの選手だぞ……。

三崎さんには「俺はレスリングを20年やっている。」って言ってたらしいが、耳を見たらフツーのかわいらしい耳してました。恐るべしアメリカ……。

練習後は山田さんのお友だちに昨日も行った日本料理屋に連れてってていただき夕食。日本食最高!! 帰りはブライアンが店に迎えに行くからと自分から言って



格闘すること数十分、なんとかここまでたいらげました! もちろん計量前の石田が一人で食べたわけではございません、あしからず。




石田と同じく『ストライクフォース』に出場する三崎と合流。真ん中のおじさんが17日の日記に登場する、やたら話しかけてくるおっさんです。

きたくせに、いざ電話をするといま忙しいから自力で帰ってこい、と……。おまえが「おまえらだけで大丈夫か？ 心配だから俺が迎えに行く」って言ってきたんだろ!! やはりアメリカ恐るべし……。

結局、山田さんのお友だちにホテルまで送っていただきました。感謝！ その後は、石田君と二人でホテルのジャグジーに入り疲れをとる。そんな感じのアメリカ遠征3日目でした。

## ★9月18日(木) ボクシングのスーパースター登場

本日も7時半に起きて朝食。その後は部屋でゆっくりしつつ、お昼から石田君は撮影のためレジェンドジムへ。俺は時間をもらい山田さん、ロスに住んでるシュウイチさんとワイルドカードボクシングジムへ。

そこでは……なんと！ なんと!! ボクシングのスーパースター、マニー・パッキャオ選手の練習を見学!! すげ～生パッキャオだ～～！ オスカー・デラホーヤ戦に向け練習を開始したばかりみたいでまだまだ軽い練習でしたが、フレディ・ローチとのミット打ちもバッチリ見学。ミーハー根性丸出しでしたが、超一流のアスリートの練習を間近に見て闘魂を注入してもらいました。






現WBC世界ライト級王者パッキャオと遭遇なんかした日には、そりゃ記念撮影するしかないでしょう！ クラッシャー、感激！

ちなみにワイルドカードボクシングジムの壁にはたくさんの写真が飾ってあり、その中にはアントニオ猪木氏のサイン入りの写真もありました……。

もう一つちなみに、フレディ・ローチはMMAの選手のミットも受けたことがあるらしく……いままでミットを持ったMMA選手の中で一番パンチがよかったのはBJペンだったらしい。

その後は石田君たちと合流し買い物へ。格闘技ショップ『OTM』へ行き、日本ではなかなか手に入らない格闘技用品をゲット！ ほかにも大きなショッピングセンターに行って、靴やプロテインバーを購入。日本より全然安い！

夕食は日本居酒屋で消化のよいものを食べ、いろいろ海外での大会の注意事項を教えてもらいました。そして店を出るとロスに住み格闘技修行をしている宇良健吾選手と遭遇し、ご挨拶。移動の車の中でちょうど宇良選手のことを話していたところで超偶然!! アメリカに住み本気で格闘技に取り組んでる第一人者だと思います。顔はめっちゃ怖いけど腰が低くて凄くいい人でした。そんな感じでこっちに来て初めてアメリカを楽しんだ！ そんな一日でした。

## ★9月19日(金) いよいよ前日計量

今日はいよいよ計量。8時半に起き、石田君は体重を確認して朝食は控える。そのあとは15時半にホテルの計量会場に集まりセコンドチェック、ドクターチェックに予備計量をして17時から本計量の予定。

時間どおり15時半に着き、セコンドチェックとドクターチェックを済ませるがいつまで経っても予備計量が始まらない……。ダラダラと時間がすぎていく。結局予備計量は行なわれず……。17時半に計量開始。石田君はリミットいっぱいでパス!! ギリギリの減量をしてくる選手にとって30分時間が延びるのはかなり厳しい。恐るべしアメリカ……。計量後は水分やお粥を食べ部屋で少しリラックス。その後にインタビューや写真撮影を済まし、胃を充分休ませてから昨日も行った日本居酒屋で食事。あとは解散して明日の試合に備えます。

てわけで、いよいよ明日は試合当日。日本とはなかなか勝手が違い苦労もしたけど、この日のためにみんなで異国の地で頑張ってきました。きっといい夜になると思います。




石田は軽量を一発パス！ 対戦相手のジャスティン・ウィルコックスを前に、思わずはにかんでしまうかわいらしさが好感度の源!?



これがプレイボーイマンション！ 発刊者のヒュー・ヘフナーはこの豪邸で正妻を含む複数の女性と暮らしてるとか。うらやましすぎでしょ！

## ★9月20日(土) ストライクフォース当日

9時頃に朝食を済ませ、あとは部屋でゆっくり。16時にバンでホテルを出発し会場に向かう予定が、実際出発したのは17時半頃。恐るべしアメリカ……。ってか、もう慣れた!!

会場のプレイボーイマンションはすげ～すげ～。これ個人の家かよ！

庭は広いし本気で迷子になるわ!! 会場は庭に作った野外イベント。プールはあるわ温泉はあるわ、普通に檻があって中には猿や鳥がたくさん。

食事も食べ放題の飲み放題。セレブであろう人たちがあふれ返っていました。

その中には有名人や、あのエド・フィッシュマンの姿も……。

しかし、選手やセコンドはそんな会場とは無縁でテニスコートに作られた特設テントの控室へ。しかもあきらかに数が足らず先に入ってた外国人選手と共同。トイレは工事現場なんかにある仮設トイレが少しよくなったようなのが一つだけ。坂に置かれどう見ても右に傾いてる……。

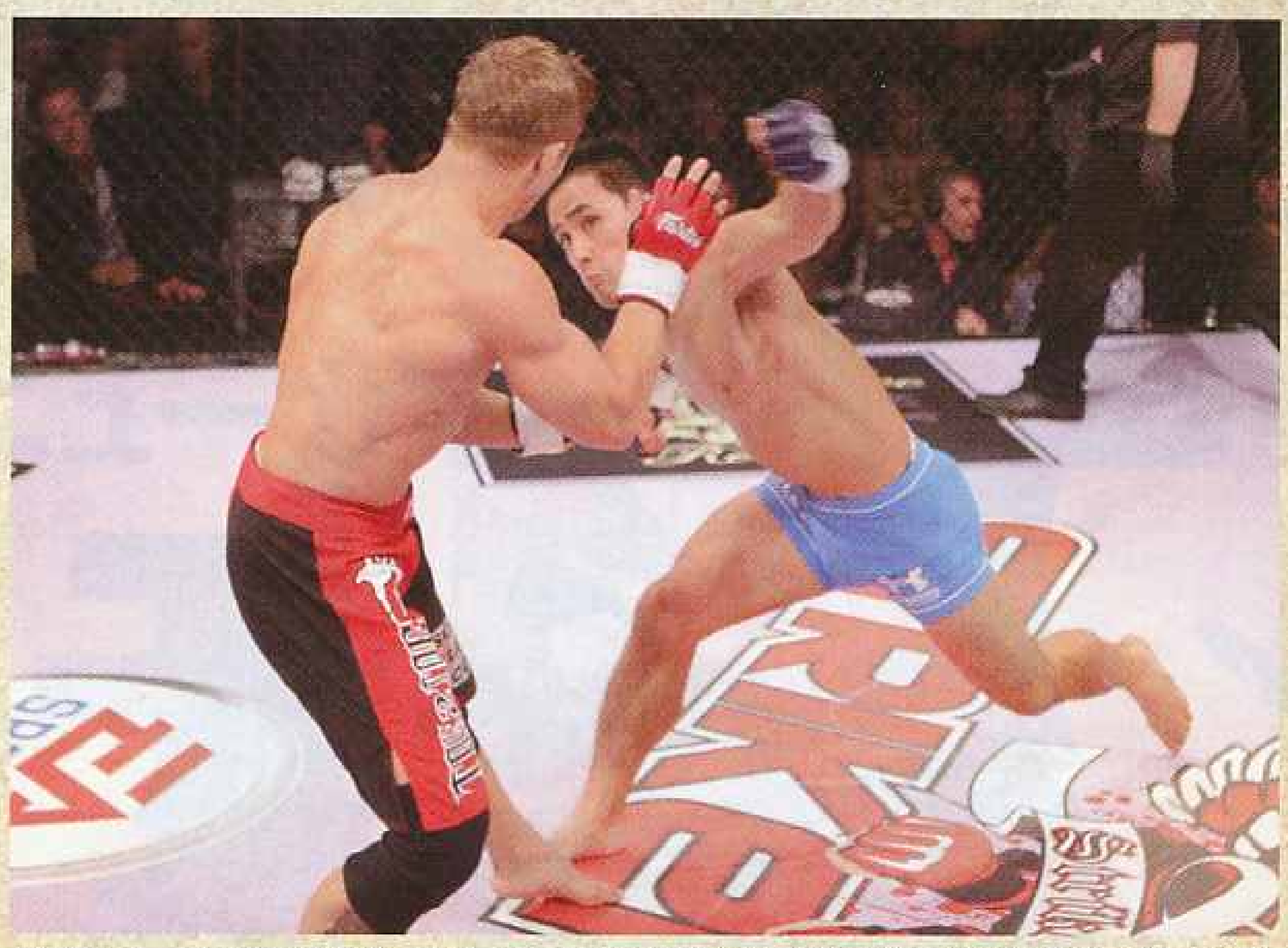
そんな中で選手は何をするのもアスレチックコミッションの許可が必要でがんじがらめ。控室に入ると選手、セコンドの荷物をすべてチェックされ、選手が口にしていいものは水と野菜とフルーツだけ。トイレに行くのもコミッションがついてくる……。ん～、アメリカ大変。

アップはテニスコートなのでもちろん寝技の確認はできない。そんな中いよいよ石田君の試合開始。お互い打撃でけん制し合う中、相手のタックルをアームロックで切り返しそのまま下から腕十字で一本勝ち！ 1分ちょいでの完勝!! そしてメインの三崎和雄さんもピンチの直後、怒涛のラッシュで逆転TKO!! 日本人二人揃っての快勝。日本人の強さを観客にこれでもかってほどアピールした結果となりました。

二人ともおめでとうございます！ いろいろあったけど……。結果よければすべてよしってことでいい思い出になるでしょう。

それにしてもこの遠征で一緒に来てくれたスタッフの方、たくさんのロスに住む日本人の方々にお世話になりました。どこに住んでようと心は一つ。感謝してもしきれないほどの思いを胸に日本に帰りたいと思います。

では、海外遠征記もこのへんで終わり



『TUF』シーズン5出場者だったウィルコックスと対戦した石田は、軽快なステップっでパンチに左右のロー！ 最後も華麗な一本勝ちで完勝劇を飾った！




試合後に金網の中でT-BLOOD揃って記念撮影！ 今回のアメリカ遠征は最高のフィナーレで幕を閉じたのでした、めでたしめでたし。

## MMAデビュー戦は圧巻のKOデビュー!

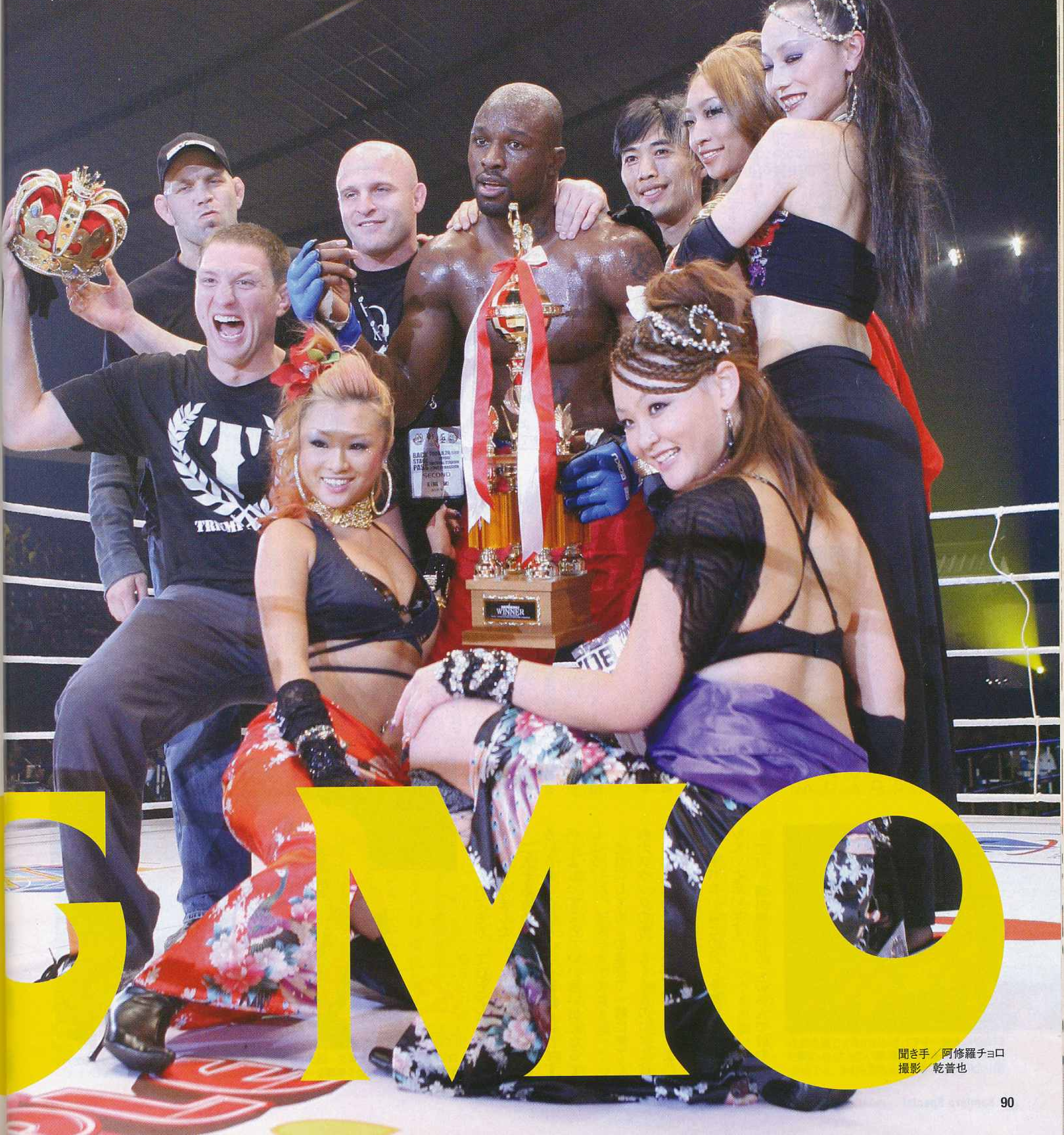


〝モンスターファクトリー〟チーム・クエストからまた一人、強烈なニューカマーが日本にやってきた!!

アントニオ・ホジェリオ・ノゲイラやヒカルド・アローナといった強豪を連続秒殺KOした〝アフリカン・アサシン〟ソクジュ、そして現在人気急上昇中の〝狂乱のサイコスター〟ことジェイソン・〝メイヘム〟・ミラー。チーム・クエストからの刺客は、いずれも強烈なインパクトを残してきたが、『戦極』のリングに登場したのは、なんと〝王様〟だった⁉

その男の名はキング・モー。全米レスリング選手権を3度制覇、不可解な判定により代表入りは逃したものの、北京オリンピックの選考会では決勝まで残った現役トップの実力を持つエリートアスリートだ。しかしMMAの戦績はゼロ。ホジャー・グレイシーの代役としてオファーされたのは、試合のわずか一週間前であった。

モーのMMAデビュー戦の相手は、MMA64戦の経験を持つ歴戦の猛者、トラビス・ビュー。『戦極～第三陣～』では藤田和




# G MO

聞き手／阿修羅チョロ
撮影／乾普也

之を失神KOさせ、ホジャー・グレイシーでさえ、万全の体調でなければ闘うことを回避させた男である。120キロ近くあるビューと、本来は84キロで闘うキング・モーとの体格差は見た目にも明らかなもの。準備期間がない中、MMA初戦の相手として闘うには、ビューはあまりにも危険な相手だった。

だが、そんな周囲の評価はどこ吹く風。自由奔放な自己表現をするソクジュやメイヘムらと同様に、キング・モーは王冠と赤マントを身にまとい、入場からキッチリ〝王様キャラ〟を演出。モー本人が「我が王国のクイーンたちさ」という4人の美女〝モークイーンズ〟を引き連れノリノリでダンスを披露するなど、試合前からあきれるほどのリラックスぶり。

肝心の試合でも、モーは戦前不利の予想をいとも簡単に覆してみせる。一発でも喰らえばKO必至のビューのメガトンパンチを、軽やかなフットワークでヒラリヒラリと交わしてみせ、自らが〝マトリックス・ボクシング〟と称す、ジャンプしてのスーパーマンパンチ一発で、ビューをロープ際までフッ飛ばし、得意のタックルからから一気にパウンドの波状攻撃でKO葬！ MMA初戦で見事な白星を飾ったのだった。

〝リアル〟が売りの『戦極』だが、これまでキング・モーのように強い上に底抜けに明るい演出を仕込んでくる選手はいなかった。きちんとキャラ設定した演出と、説得力充分の秒殺KO劇とが相乗効果を生み、終ってみれば、さすがは〝王様〟、初登場で観客のハートをがっちりキャッチ！

チーム・クエストが自信を持って送りこんだキング・モーとはいったい何者なのか？ 大会終了後、キング・モーを直撃した。

――モー選手、デビュー戦での見事な勝利、おめでとうございます！『kamipro』には126号にプチインタビューが掲載されて以来の登場となりますが、まずはMMAデビュー戦の感想を聞かせてください。

**モー** オレ様はMMAのデビューをずっと待っていたんだ。本気でMMAの練習に集中したのは数ヵ月前からだが、MMAの練習は00年からやっているし、準備は万全だったよ。レスリングでも実績を積んできたし、相手も経験豊富なファイターだったから、いい試合を見せる自信はあった。たとえ一週間前のオファーであろうと、最高のパフォーマンスを見せる。それがオレ様の仕事だ。

――試合後に『戦極』の國保尊弘広報は「今回のMVPはモー選手」と言ってましたよ。観客も入場から試合後まで、かなり盛り上がっていましたし。

**モー** それは嬉しいことだね（笑）。試合の内容を評価してくれたんだろうな。ただ、ほかの選手もいい試合をしていたが、入場はオレがベストだったろ？（ニヤリ）。





## こんな戦極ファイターを待っていた！

# “リアル”でクレイジーな 王様降臨!!

## チーム・クエストのニューカマー

# キング・モー



モーは王冠に赤マント、そして4人の美女“モークイーンズ”を従え、ダンスを披露しながらド派手な入場。観客から「なにコイツ?」的な視線を引き付けることに成功した。

——それはもちろんです！（笑）。ただ、前に本誌でインタビューしたとき、モーさんは「オレはメイヘムみたいにクレイジーじゃないし、チョーナンみたいにアグリーでもない。オレは格好いいんだ」と言っていましたが、今日はかなりクレイジーだったと思います！

**モー**　フッフッフ。そう見えたか？　だが、オレは物事を楽しもうとする人間であって、断じて狂ってるわけではない。ジェイソンはクレイジーだが、オレはリラックスして楽しんでるのさ。ジェイソンはクレイジーになることを楽しんでるみたいだけどな（笑）。考えても見ろよ。リングっていうのは素晴らしいステージなんだ。試合が終わったら、みんなが祝福してくれる。今日はそれを存分に楽しんだよ。

——試合後、練習仲間の長南亮選手に連絡しました？

**モー**　電話はまだだが、オレのマイスペースにチョーナンがメッセージを残してくれてたのは見たよ。「よくやった。もっと働け、ホームレスになるな」だと。ハッハッハ！　試合前には、アイツの下品な英語で「ア●ホール」と言われたよ。ガツンとカマして来いっていう彼なりの激励だな。チョーナンらしいぜ。

——そういえば、入場と試合後のコメントのときにもいた“モークイーンズ”はどこに行っちゃったんですか？

**モー**　フフフ。今日はよく働いてくれたから、アイツらには休みを取らせたよ。これからオレ様は勝利のお祝いに出掛けるところだからな。いまごろは王国の宮殿でお休みしてるハズさ。キング・モー様も試合が終わったらリラックスする時間が必要ってことだ。オレ様もずっと彼女たちの面倒ばかりを見ていられないだろ？（笑）。ただ、これだけは言っておきたい！

——なんでしょうか？

**モー**　入場パフォーマンスのベストは、ゲンキ・スドーだ！　ゲンキ・スドー・イズ・ベスト！　オレ様もこれからずっとパフォーマンスを向上させていくつもりだが、イチバンはゲンキ・スドーだ。彼はファイターとしてもエンターテイナーとしても偉大でアンタッチャブルな存在だから、彼のレベルに行くのが目標なんだ。

——目指すは須藤元気ですか。今日の試合はとてもデビュー戦とは思えないよう




モーはコメントブースや記者会見でもセクシーな“モークイーンズ”を帯同させ“キング”な演出を忘れません。デビュー戦からこんな徹底したプロ根性を持った人っています?



モーは藤田をKOしたトラビス・ビュー相手に足で撹乱し、隙をついてパンチ一閃！　ビューの意識を飛ばし、引き倒してパウンドでド派手にKO！　王様は入場だけじゃないッ！

# KING MO

## いつかは大ファンのゴミと対等に話せるようになりたいね

な内容でしたが、自分としての満足度は？

**モー**　試合内容には満足してないよ。ガードする腕は下がっていたし、アゴも上がっていたからな。反省点はいっぱいあった。ただ、ラッキーだったのは早い段階でいいパンチを入れられたこと。ただし！　自分にとって、今日の勝利はもうなんの意味もなさない。新しいリングに上がるとき、オレ様はいつも0勝0敗、初めての試合のような気持ちで臨むからな。それがオレ様の闘いの哲学だ。今日は自分の100パーセントの力をぶつけていったし、自分のすべての力を出し切ろうと考えていた。それでもしリング上で闘って死ねたら、それは本望さ。

——リ、リングで死にたい？

**モー**　ああ、できることならね（サラリと）。オレ様の夢は日本で闘うことだったんだ。だから、今日『戦極』のリングに上がったとき、夢が叶ったような気がしたね。自分の家に帰ってきたみたいに居心地がよくて、リングで居眠りできるほどだったぜ。

——『戦極』のリングは気持ちよかった、と（笑）。そういえば今日、コメントルームに入る前に五味隆典選手と話をしてましたけど、何を話したんですか？

**モー**　へへへへ。今日は、タカノリ・ゴミの前に行って「オレはあんたの大ファンなんだ……」って言ったんだよ（照れ笑いしながら）。昔からゴミの試合を観るのが大好きだったからね。そしたら、ゴミは「サンキュー」ってクールに言ってたね。たぶん、オレのことなんて知らないんだろうな。まだオレはこの世界でデビューしたばかりだが、ゴミはスーパースターで凄く高い位置にいる。だから、いつか彼と対等に話せるようになるために、一歩一歩道を駆け上がっていきたいと思っている。

——〝MMA界のキング〟五味選手の前には、さすがのモーさんも恐縮してしまうわけですね（笑）。

**モー**　まあ、そういうことだ。

——そういえば以前のインタビューで「オレはマトリックスのような打撃が出せる」と言ってましたが、今日は出せましたか？

**モー**　フフフ。まあ、似たようなモノは見せられたかな。最後のパンチとかね。あれがオレ様のスタイル〝マトリックス・ボクシング〟だ。

——あの、スーパーマンパンチですね。次の試合はいつぐらいを考えていますか？

**モー**　それは『戦極』側の決めることだが、オレ様は闘うことが大好きだし、この仕事を愛している。アートとしてね。ずっと準備はしているし、声をかけてくれるならいつでも戻ってくるよ。

——これからはMMAファイターとして専念するつもりですか？

**モー**　いや、レスリングをやめたわけじゃない。オレ様はショーアップされたイベントが好きでたまらないんだ。アマチュアもいいが、いまはもっともっといろんな大会に出てMMAの試合がしたいと思っている。ただ、オリンピックにはまた挑戦するかもしれない。まあ、両方やるってのもアリだな。キングは何でもできるのさ。

——まあ、そうでしょうね。今回は、ホジャー・グレイシーの欠場で急きょ試合が決まったわけですが、ホジャー選手についてどう思います？

**モー**　ホジャーは、若くて柔術大会で素晴らしい成績を収めてきたアスリートだ。とくに前回の試合は、オレの好きな〝レジエンド〟ユウキ・コンドーとの試合だったが、彼は何もさせずに勝っている。今回は彼がケガをしてオレ様に闘うチャンスが回ってきた。だから彼には感謝しているし、早く回復して、また高いレベルで試合ができることを願っているよ。

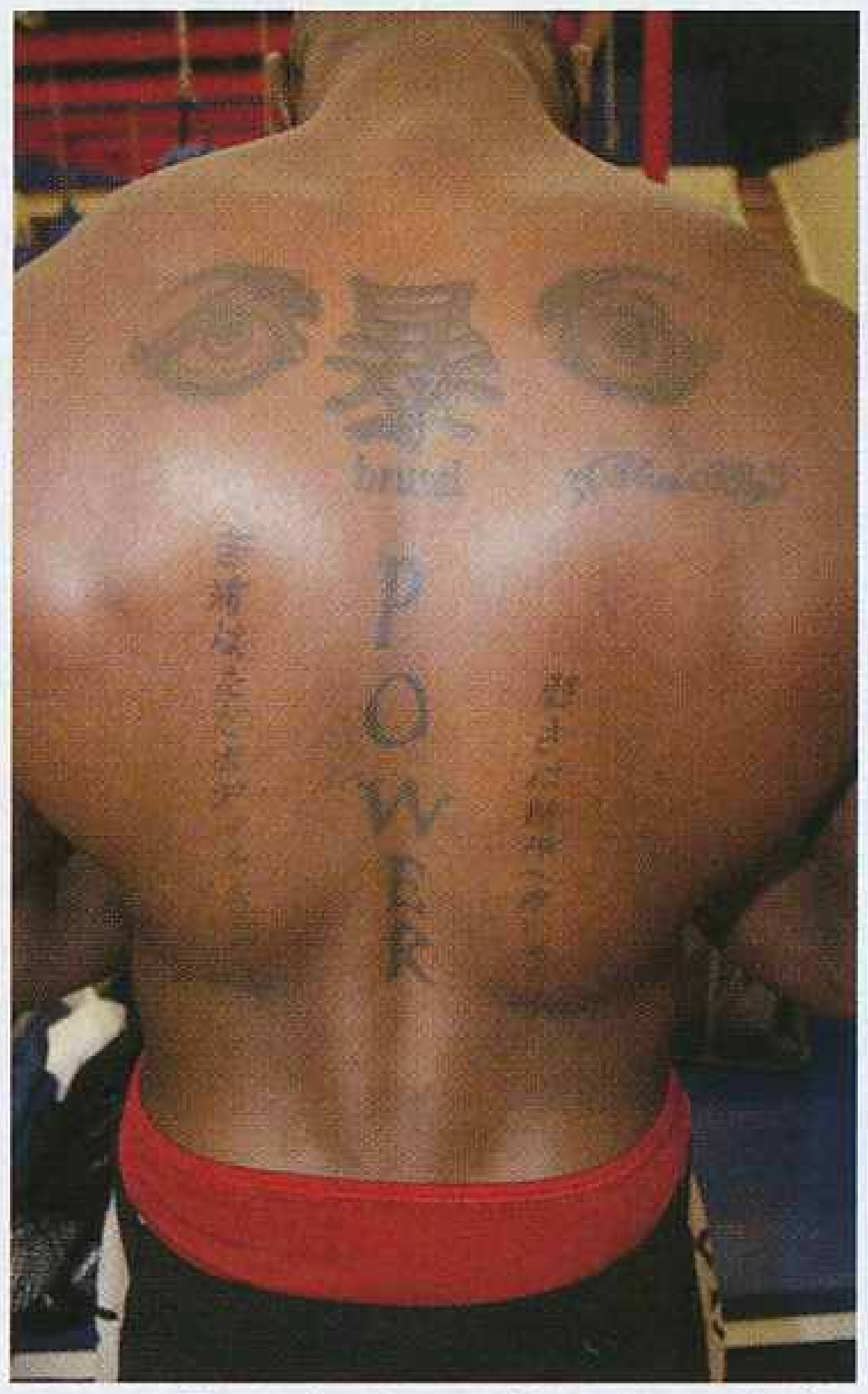
——今回の入場パフォーマンスと試合はかなりインパクトがあったので、次の試合はちょっとプレッシャーになるかもしれませんけど、いまから次の試合を楽しみに待ってます！

**モー**　OK。いまは、まずファンのみんなにありがとうと言いたいね。そして、こうやって闘う機会を与えてくれた『戦極』にも感謝したい。もし、オレ様を応援してくれるファンがいるなら、マイスペース（www.myspace.com/molawal）にアクセスしてメッセージを送ってくれ。応援して支えてくれるファンの存在はかけがえのないものだからな。

——ズバリ言って「王国の臣民となれ」ということでしょうか？

**モー**　ハッハッハ！　そういうことだな。電話番号ぐらいは教えてやるよ（笑）。では、また会おう！

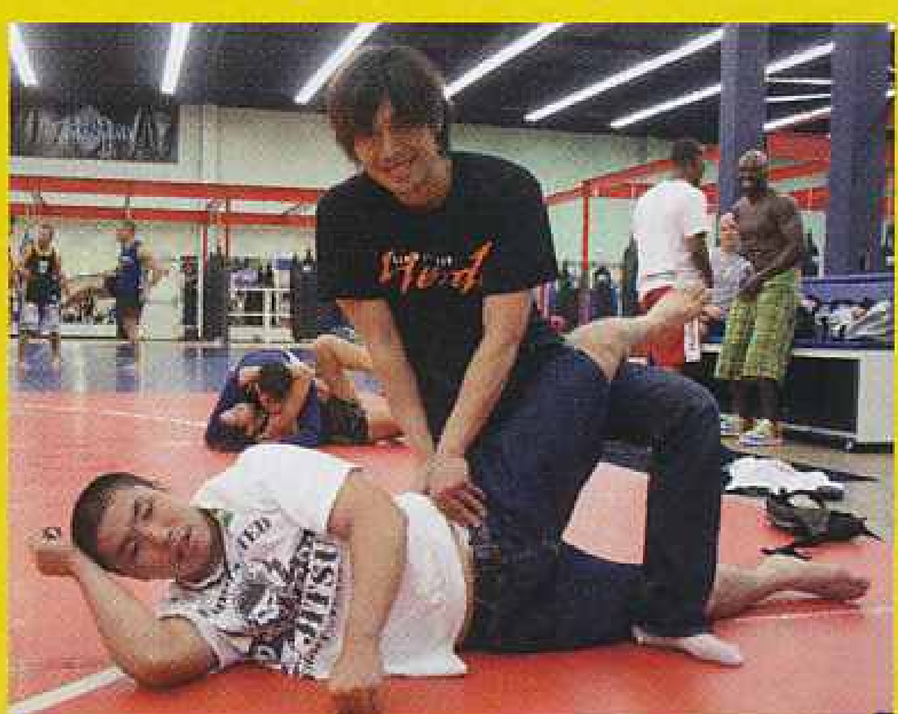
**【08年9月28日／『戦極 ～第五陣～』終了後、都内・ホテルにて収録】**



KING MO■1981年1月11日、米国テネシー州出身。日本の格闘技が大好きで日本語の刺青をあちこちに入れているが、よく見ると間違いだらけのデタラメガイジン。だが、その正体は08年全米レスリング選手権優勝など、輝かしい実績を持つチーム・クエストの脅威のニューカマー。180cm、96kg。

### 仲間が語る“キング”の素顔

### “王様”の身体ももみほぐす
### 山本 建先生
［はなまる接骨院］



「モーは試合前でも緊張しませんでしたね。普段から本当にリラックスしてますし、リングに上がったほうが力を出せる強いタイプですね。今回はモーは打撃でKOしましたけど、MMAファイターとしてのキング・モーを育てたのは、長南亮なんですよ。打撃の練習でも長南が蹴りを入れると、モーは『本気でやるなよ!　50パーセントの力でやれよ!』って泣きを入れるんですよ。そしたら長南が激を飛ばして『うるせぇ!　これがオレの50パーセントなんだよ!』って言いながらガンガン練習して育てたんです。でも、逆にレスリングは一級品ですから、長南も『アイツがテイクダウン取れないヤツはいない』って誉めてましたね。とにかく今回は勝ててよかったです」



**今大会のMVPがキング・モーなら、ベストバウトは『戦極』マイク劇場だ！　あまりに衝撃的だったので全発言再録!!　麻薬的なおもしろさにシャキーン！　と浸ってほしい。**

**会場アナウンス**　11月1日、『戦極』ライト級グランプリ2008に出場する選手を紹介いたします。『戦極』ライト級サムライ4人衆、**S4（エス・フォー）！**

［『戦極』のテーマ曲が場内にこだまする］

**会場アナウンス**　まず最初に登場するのは、2005年修斗ウェルター級新人王、第2代ケージ・フォース・ライト級王者、破拳（バグ）王子・廣田瑞人！

［廣田、入場］

**会場アナウンス**　さあ、第四陣で見せた一撃必殺のハードパンチを持つ廣田に対するは、寝技最強軍団GRABAKAの秘密兵器、第3代DEEPライト級王者、GRABAKAの超特急、横田一則！

［横田、入場］

**会場アナウンス**　続いてのカードはレスリングで培った強靭な身体と絞め技の激突です。金網バーリ・トゥードで育った実力者、宇野薫らを輩出した名門、和術慧舟會が送り込む、立ってよし、寝てよしのオールラウンダー、金網の申し子、光岡映二。

［光岡、入場］

**会場アナウンス**　対するは、からみついたら離さない、寝技テクニックと破天荒なパフォーマンスで格闘技界を震撼させる格闘技団体パンクラスの寝技王、北岡悟！

［北岡入場後、4選手と矢野アナウンサーがリング上にたたずむ］

**矢野アナ**　1回戦、見事突破いたしました、11月1日の準決勝進出を決めました4人、ぜひ覚えてください。**『戦極』4人衆、S4です！**　拍手でお願いします。

【会場拍手】

**矢野アナ**　では、あらためて1回戦の闘いからぜひ振り返っていただきましょう。廣田選手、ライアン・シュルツを下しました、周りの反応、こんな反応があった、驚いたことがあったらぜひ教えてください。

**廣田**　えー、まあ、そうですね。あの、アメリカのチャンピオンだってことで、周りも驚いてたんですけど、ちょっと今日、（シュルツが負けて）ガッカリしました。はい。

**矢野アナ**　（戸惑いながら）**はい？**　今日ですか？

**廣田**　今日。シュルツが……。

**矢野アナ**　………そして！　11月準決勝戦、お隣にいる横田選手との準決勝が決まりました。ぜひ準決勝に向けて一言お願いします。

**廣田**　えー、じゃあ、11月1日は横田さんと俺が、まあ、凄い打ち合いして盛り上げるんで、ぜひ観に来てください。お願いします。

**矢野アナ**　廣田選手でした！　ではさっそくそのコメントを受けていかがしょうか、横田選手。

**横田**　**あ、こんちは。**　GRABAKAの横田です。えー、まあ、いまのコメントに関しては考えてなかったんで、やるしかない、と。もう、一応コメントはいろいろ考えてあったんで、**あとでしゃべらせてください、そこは。**

**矢野アナ**　コメントというところにかなり**意識**されてるということでしょうか？

**横田**　そうすね。**一応マイクを考えてきたんで、はい。急に振られると困るんで。**

【会場失笑】

**矢野アナ**　じゃあ、これは**控室に戻ってから**というか、**記者会見**でということですね？

**横田**　**いや。**

**矢野アナ**　……**ここで？**　わかりました。では、**最後に**横田選手に……。

【横田は「いましゃべりたい」というようなことをアピール】

**矢野アナ**　あ、じゃ、ここ、お渡ししても……？

【マイクを受け取る横田】

**矢野アナ**　じゃあ、しゃべろうと思ったことをぜひお願いします！

**横田**　ちょっと、**グダグダになっちゃったんですけど**、前回の、けっこうまじめな話なんです、ここは。えー、前回の試合はですね、自分のほかの3人はKO、一本でかなりいい勝ち方をしたと思うんですけど、自分だけしょっぱい試合をしてしまって、**さらにもっと終わったあとに叱られたというか、反省をしたのが、このマイクの部分**なので、ちょっと**言い訳王**みたいな感じになっちゃったんですけど。**（なぜか目をこすりながら）**　次の試合は、いい試合をして、マイクも最高だと言われるように、トーナメントも頑張って優勝して**マイクも優勝します。**

【会場拍手】

**矢野アナ**　えー、横田選手に拍手をお願いします！　さあ、続きまして、マイクといえばこの方も結婚宣言が1回戦の勝利のあとに出ましたが、その後、進展はいかがでしょうか？

**光岡**　ま、まず、**皆さん、コニチハ！（カタコトで）。**

【静まりかえる会場……】

**光岡**　……ヤバいっすね、エヘヘへへ。………えーっとですね、前回あいうマイクしてですね、最近メール来るのが**「結婚おめでとう」**っていうメールばっかりで、実際は全然進展してなくて、この前も記者会見で言ったんですけど、彼女がちょっと優しくなっただけですね。はい（照れながら）。

**観客**　頑張れー！

**光岡**　とりあえずまあ、今度の試合の件もですね、**その件も、応援よろしくお願いします**ということで、はい。

**矢野アナ**　**結婚にはきっかけ**



## 9.28『戦極』in代々木大会

## サムライたちのマイクをめぐる熱き

# 衝撃のS4




**も必要ですからね！** そのきっかけになる闘いになるのかどうなのか、準決勝に向けて隣にいる北岡選手との対戦が決まりましたので、準決勝に向けてお願いします。

**光岡** えーっと、あと1ヵ月間ぐらいありますが、北岡選手だけの闘いに向けて頑張って練習します、はい。それがおもしろければ、僕はいいと思ってます。次はとくに考えてないんで、勝ったあとに考えます、はい。

**矢野アナ** ありがとうございます！ 光岡選手でした！

【会場拍手】

**矢野アナ** えー、続きまして、いま北岡選手のことだけを考えてというコメントがありました。ご本人いかがでしょう？

**北岡** えー、光岡さん、結婚おめでとうございます！

【会場笑い】

**光岡** （すかさず北岡からマイクを奪って）まだしてません！

【二人のやりとりに会場はなんとも言えない雰囲気に】

**北岡** （奪い返して）光岡映二という素晴らしい選手と闘います。この試合はUFCにもDREAMのGPにも負けない試合になると思うんで、注目してください！ 観てください！

【この劇場中、一番の拍手】

**北岡** えーっと、自分いま二つ不愉快なことがあります。一つは、せっかく頑張って作った『戦極』の記録が、（シアー・）バハドゥルザダ選手にあっさり破られちゃいました **（ニッコリ）**。これが一つです。

【会場無反応】

**北岡** （険しい顔になって）もう一つは、ええっと、**「S4」**とかいって、4人でまとめられてるのが凄いイヤです。えっと、11月1日、自分一人は別の世界に行くんで、それを観に来てください！ よろしくお願いします！（甲高い声で）。

**矢野アナ** ありがとうございました！ 11月1日、土曜日です。場所はさいたまスーパーアリーナ、ライト級GP準決勝、決勝、さらに同じ日にはミドル級の準決勝、決勝も行なわれます。あらめてライト級の4人の選手に大きな拍手をお願いします！ ありがとうございました！

［突然、ジョシュ・バーネットの入場テーマ曲『愛をとりもどせ!!』が流れる］

**会場アナウンス** さあ、この男が『戦極』のリングに再び登場です！ 今年3月『戦極』旗揚げ戦にて日本のエース吉田秀彦との一戦を闘い、5月、第二陣ではジェフ・モンソンを下し、7月にアメリカで開催されたリングファイト、アフリクションにてペドロ・ヒーゾにKO勝利を収め、新たに『戦極』に返ってきた、キング・オブ・ザ・戦極、ジョシュ・バーネット！

【ジョシュが『愛をとりもどせ!!』を歌いながら入場し、リングイン】

**ジョシュ** コンニチハ、ジョシュデス。タダイマ。

**観客** おかえりー！

**ジョシュ** **（以下、すべて日本語で）** アフリクションの試合で勝ちました！ でも、11月、試合をしたいです。

【会場拍手】

**ジョシュ** ところで……。

**“いい試合だ男”らしき観客** 戦極ポーズしろー！

**ジョシュ** **お正月、『戦極』観たいか？** お正月、『戦極』観たいか？

【会場拍手】

**ジョシュ** ヨシ！

［1月4日『戦極』開催がビジョンに映し出されるが、あまりの文字の小ささに多くの観客は何が起きたのかが気がつかない……］

**ジョシュ** 1月4日、さいたま集合です。いくぞ！ **でも、みんな、ここは戦極ポーズでしょ？**

【観客、意味がわからずざわめく】

**ジョシュ** （観客の戸惑いを無視して）**一、十、百、戦極！ 戦極!!**

【ポーズに関する説明がなかったため、一緒にポーズをとることもなく静まりかえる会場、ちょっとだけ拍手】

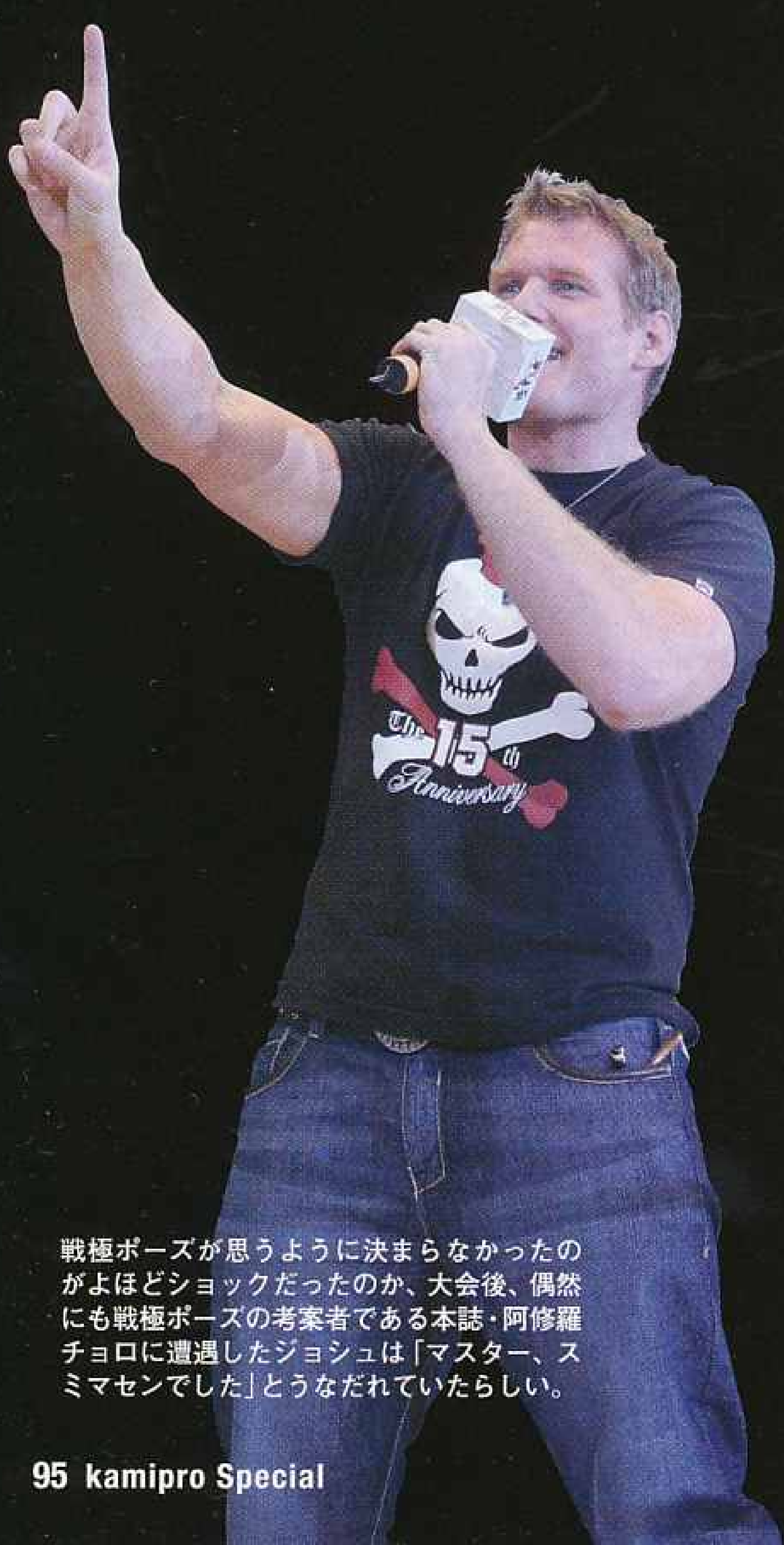
**ジョシュ** **アリガトウゴザイマシタ（恥ずかしそうに）。**

**会場アナウンス** ジョシュ・バーネット選手に**大きな拍手**をお願いします！ **ありがとう、ジョシュ！**

［再び、『戦極』のテーマ曲が流れる］

**会場アナウンス** 1月4日、ニューイヤーイベントが決定いたしました。ますますヒートアップするサムライたちの闘い、『戦極』、勝ち名乗りを挙げるのは誰か？ 命を懸けた男たちの武士道を見届けよ！

**以上が『戦極～第五陣～』の休憩明けに行なわれたS4、そしてジョシュのマイクの全貌だ！ このマイクアピールについて、マイクといえばこの男、郷野聡寛に評論してもらった。次ページから展開される、その評価やいかに!?**



戦極ポーズが思うように決まらなかったのがよほどショックだったのか、大会後、偶然にも戦極ポーズの考案者である本誌・阿修羅チョロに遭遇したジョシュは「マスター、スミマセンでした」とうなだれていたらしい。

## S4のマイク劇場に緊急提言!!



# 郷野聡寛の マイクの達人とは!?



**光岡映二の「コニチハ!（カタコトの外国人口調で）」をはじめ、『戦極 〜第五陣〜』を微妙な空気に叩き込んだS4のマイク。この事態に、誰よりもマイクのプロを自認するあの男が緊急提言!! 『戦極』のテレビ解説終了直後の郷野聡寛が語ったマイクの真髄、いざ!!**

聞き手／真下義之　大会撮影／乾晋也

郷野　いや〜。今日の『戦極』はなかなかおもしろい大会でしたね。さて、なんの試合の話からいきましょう？（とヤル気マンマンで）。

――すみません、郷野さん……。今回は唐突ですが、数々の迷マイクが飛び出した『戦極〜第五陣〜』に関して、マイクのプロフェッショナルから率直なご意見をいただきたいな、と。

郷野　あれ、今日は試合じゃなく、マイクの話？

――突然ですが、よろしくお願いします！　というのもライト級の準決勝に勝ち上がった通称〝S4〟の皆さんが次々とマイクされたんですが、会場を微妙な空気にしてしまうという事件が起きてしまって。

郷野　あ〜、あの件ね。う〜ん……。こればっかりはホント、感性ですよね（しみじみと）。

――感性の問題につきますか。

郷野　つまり、「プロとしての意志がどのくらいあるか？」ってことでしょ？　そこは選手としての色気やマイクアピール、立ち振る舞いに逐一出てくると思うんで。だけど、そういう部分は彼らからはまったく見えなかったね！（キッパリ）。

――おお〜、一刀両断ですね。

郷野　キツい言い方だけど、そのへんの兄ちゃんがリングに上がってしゃべってる域を抜けてないんですよ。その中でもさすがに北岡（悟）だけは、違う色を出してはいましたけど（笑）。

――なぜか北岡さんだけは「俺だけは違うぜ」的なムードをビンビン醸し出してましたね（笑）。

郷野　それでも俺の中ではギリギリアウトですけどね。あれは生理的に受け付けない部分があるんで（笑）。まぁ、プロはやったことの責任は自分でとらなきゃいけない。しゃべるときもそうなんですよ。でも、彼らは「あれ、ダメかな？」「寒かったかな？」ってその場ですぐ自己弁護したり、お客さんの「否」の反応を恐れすぎてるように見えますね。

――逆に、郷野さんが言うときは誤解されてもいいくらいの勢いでドーン！と打ち出すというか。

郷野　そうねぇ。これは俺のマイク人生のスタートになった（KEI）山宮さんに勝ったあと（2001年10月30日、後楽園ホール）のマイクを思い出してくださいよ！

――ダハハハ！「おいおいお〜い、前のパンクラスチャンピオンはこんなもんか？」とか「もう日本じゃ俺た

ごうの・あきひろ■1974年10月7日、東京都東久留米市出身。ご存知、GRABAKA所属の実力派ファイター。その饒舌なマイクやDJ GOZMAとしての入場で知られる。現在はUFCに絶賛参戦中。176cm、77kg。

# パンクラス時代、思いきったアピールしすぎて後輩に陰口言われたこともありましたから

ちの相手になれるヤツはいねぇよ！」と毒づいて、場内を騒然とさせた強烈なアピールでした。

**郷野**　あそこまで言いきったことに、俺なりの覚悟が出ていたわけですよ。でも、じつはあのあとGRABAKAの後輩に「郷野さん、言いすぎでちょっと引いちゃったよね」とか言われてたんですよ。……自分がトイレの個室でウンコしていたときに（笑）。

—ダハハハ！　後輩が陰でダメ出ししてましたか。

**郷野**　氷のうの氷を捨てにきた後輩がしゃべってたのを聞いちゃって「これは出ていけねぇな」って（笑）。マイクってのは、それぐらいの状況も覚悟しないとダメなんですよ！

—身内の陰口も上等だ、と（笑）。

**郷野**　誤解を怖れて、言ったそばからフォローしまくってたりすると男らしくないし、聞いているほうもスッキリしないでしょ。

—光岡（映二）さんの「コニチハ！（カタコトの外国人口調で）」みたいなギャグも、言ったあと照れくさそうにされると、こっちが恥ずかしくなりますし。

**郷野**　本人たちは「おもしろいこと言おう」と意思があって、それはとてもいいんだけど、やるなら割り切って言わないと。そもそもマイクアピールってちゃんと言えたところで、100人中100人には支持されない、お客さんの半分がわかってくれれば上出来でしょう。内閣の支持率だって50パーセント超えるなんて、なかなかないじゃないですか。

—誠に残念ですけど、今日のS4のマイクでは支持率も厳しいというか。そういう意味で、最近、郷野さんのマイクのライバルと言ってもいい三崎（和雄）さんなんかは……。

**郷野**　（さえぎって）堂に入ってきましたねぇ！　ああいうふうに堂々と言いきるから、どんどんかたちになってきているわけじゃないですか。

—三崎さんも、ここに来るまで「俺はおまえを許さない！」とか「日本人は強いんです！」とか「クソ高いチケット」とか、誤解されがちな発言を連発してたわけですし。

**郷野**　本人は言わないけど、和雄は和雄なりに、いろいろ考えてきたと思うし、あそこまで言いきった責任は考えてたと思いますよ。「人に何かを伝えたい」って意識が高いヤツだけに、自分のマイク評価も気になるだろうし。それでもマイクはバーン！と言いきって、その反応を見てダメだったら、また傾向と対策を練ればいいわけですから。

—トライ&エラーを繰り返すことで、磨かれていくわけですもんね。

**郷野**　でも、最初っからその失敗を怖れている感じが、前提として「ダメだな！」と。

—三崎さんつながりで聞くと、この前の『DREAM・6』の秋山成勲のマイクはどうご覧なりました？

**郷野**　あれはあれでいいんじゃないですか？　言ってる内容うんぬんより、言いたいことはシッカリ言って、意思も届いてるし、お客さんに否定されてもかまわない堂々とした態度じゃないですか。

—会場で大ヒールにも関わらず、あえてマイクを握ったわけですし。

**郷野**　しかも、キチンと話題になってるじゃないですか。北岡以外の今日のおっかなビックリ3人衆に比べたら、身体のサイズ以上に秋山のほうが大きく見えますよ。そのあとの青木（真也）くんにしても、自分の信念が見えるアピールで、揺るぎない自信が生み出した態度でしょうね。



「僕のことを気に入ってくれたら、今夜はパンツをサゲサゲでお願いします（笑）」などトンチの効いた数々のマイクでおなじみの郷野聡寛。10.19『UFC89』では英語のアピール、やれんのか!?

—やっぱりマイクってそういう生き様が見えたり、「お客を楽しませよう」っていう意識はほしいですよね。

**郷野**　絶対必要でしょう！　でも、俺自身もそうやってキッチリお客さんに向き合おうと思ったのは、ここ何年かだし。そこに至るまでは「勝ちゃあいいんだろ」的なところもありましたから。

—マイクへの意識って、どのへんで一番変わってきましたか？

**郷野**　やっぱり、きっかけは新庄剛志ですね。

—あ、きっかけはプロ野球の新庄選手!?

**郷野**　あの頃は球団再編の波で、球団が減るとかなんとかってゴタゴタしてるときに、選手が危機意識を持って、ファンのほうへ目が向くようになってて。

—その急先鋒が新庄さんでしたよね。ヒーローインタビューでも「明日も勝つ！」とか「これからはパ・リーグです！」といった名言を残したり、ホームランの打法に名前をつけたり、試合前にゴレンジャーのマスクで練習したり（笑）。

**郷野**　格闘技より全然大きなマーケットのプロ野球の選手でさえ、ここまでやるのに、こんな小さな世界の俺らがもっと頑張らなくてどうするんだ！　って。

—ちなみに、そんな郷野さんのマイクは、あらかじめ考えて言うことが多いんですか？

**郷野**　いや～、じつは俺自身はアドリブはまったく利かない男なんで、準備は入念にやるほうですね（笑）。それと、俺も自分がやってることに信念や自信はあるけど、お客さんすべてが俺の試合をおもしろいと思うかはわからないでしょ。

—ほう、そこまで考えてましたか。

**郷野**　だからこそ試合以外で「スキ間を埋めなきゃな」って。試合以外で、自分の闘い方を啓蒙できればいいし。入場、試合、マイクのトータルパッケージで浸透させたいなって。そのへんは俺なりにそこそこやってこれたんじゃないかな。

—そういう届ける努力は抜かりないですよね。一方で、『戦極』では以前、負けた選手にマイクを渡したり、ボクシングの内藤大助さんをぞんざいに扱ってしまったこともありましたけども。

**郷野**　そんな失態もありましたねぇ。ただ、だんだん段取りもよくなってるし、今日なんかイベントも、試合も一番よかったですから。あとは、主催者と選手みんながファンのほうをキチンと向けるかどうか。……まぁ、ここまで言うと「何、偉そうなこと言ってるんだ!!」って人もいるかもしれないけど、「俺が言わなきゃ誰が言う？」ですからね。これで若い選手が少しでも変わってくれたら嬉しいし。

—ただ郷野さん的には、今後はアメリカでそれをやらなきゃいけないわけですけど。

**郷野**　そうなんですよ～！　また偉そうなこと言えるように、自分の試合をしっかりやらないと。そもそも次のUFCも、テレビマッチの予定に入ってないですし、これで負けて帰ってきたら、肩身が狭くなってしまうんで。何があっても大丈夫なようにいつも以上に入念に準備しておきます（笑）。

—そして、英語のマイクでも生き様を見せる、と。

**郷野**　イグザァ～クトリィ！（と大声で堂々と）。これは「もちろんです」って意味なんですけどね。ククク！

—……おもいきりのいい発言、今回もありがとうございました。

【08年9月28日／電話取材にて収録】


本誌が勝手に認定!
『戦極』の大黒柱!!
シャキーン!
シャキーン!!
SENGOKU

## この男、強い・キモい・おもしろい！

# 北岡悟

### もう誰にも止められない北岡ワールド、いざ！

# 「僕は特別な人間になる権利があるんです」

『戦極』において"強くてキモい"存在感でひときわ異彩を放っている北岡悟。そこに目をつけた本誌は127号で「語ろう！ 北岡悟座談会」を敢行！　読者からも「こりゃ気持ちいいくらい、気持ち悪い！」と大反響が寄せられた。その声にお応えして今回は北岡本人が登場！ 名言連発のツヨキモファイターの世界に酔いしれろ！　キタオカ、キタ――――(゜∀゜)――――!!!!!

聞き手／坂井ノブ　試合写真／乾普也

――以前に『kamipro.com』でやった北岡選手のインタビューが好評だったので、今回は本誌増刊号のほうでもその魅力に迫りたいと思います。

**北岡**　わかりました。よろしくお願いします！

――いやー、いまやすっかり"『戦極』の大黒柱"という感じで。

**北岡**　そんなことないです、青木（真也）じゃないんですから！　なんですか、そういう調子に乗らせるようなインタビューですか？

――ええ、もちろん！（笑）。今日の『DREAM・6』で北岡選手はその青木選手のセコンドについてましたけど、試合はいかがでした？

**北岡**　素晴らしい内容でした。ただ短時間で勝っただけじゃなく、技術的にも大変優れてる部分を見せてくれたと思います。

――試合後に青木選手は「秋山さん、ネバーランドでワオワオしませんか？」なんてマイクも……。

**北岡**　（さえぎるように）ていうか、それは青木本人に聞いてください！（笑）。これ、僕のインタビューですよね？

――でも、セコンドとしてああいうシーンを見てるとハラハラしません？

**北岡**　あれが青木の世界なんだから、本人の自由でかまわないと思います。いい勝ち方した人間はどんなアピールをしても許されると思うんです。それに対してファンの方たちがどう思うかはもちろん自由ですし。

――自由ということで言うと、『戦極』の中では北岡選手の自由人っぷりがかなり際立ってるかな、と。

**北岡**　なるほど、そういう流れで僕につなげるわけですか（笑）。

――ちなみに『kamipro』127号で『語ろう！ 北岡悟』という座談会を行なったんですが見ていただけましたか？

**北岡**　はい！　立ち読みで見させていただきました（ニヤリ）。

――いい笑顔ですねぇ（笑）。

**北岡**　いろいろ言って話題にしていただいて、ありがたいと思ってます。

――本当ですか？　ひょっとしてあれを読んで、気分を害してるんじゃないかと思ったんですが？

**北岡**　う〜ん……。どういうかたちにせよ、ああやって話題にしていただけるのはありがたいことなので感謝しています。

――大人なご対応、ありがとうございます。北岡選手はパンクラス所属ですが、今日の『DREAM・6』で行なわれた船木誠勝vsミノワマンはどう思いました？

**北岡**　……その試合に関してはノーコメントでお願いします。

――複雑な気持ちがありそうですね。でも、パンクラシストとしては船木選手は外せないというか、憧れがあったのでは？

**北岡**　もちろん。僕の中で船木さんと鈴木（みのる）さんは特別な人たちです。あの人たちがいなければ、僕はいまこうしてこんなふうにいないわけで。前号の『kamipro』で花くまゆうさくさんがコラムで僕のことを書いてましたよね？

――「北岡は鈴木と船木の入場芸を受け継ぎ、異常なかたちで進化させてしまっている」という箇所ですね。

**北岡**　まさに僕はそういうものを学んだんです。でもそれって誰でも学んだからといってできるものではないと思うんです。小馬鹿にする人もいるかもしれないですけど。

――どう受け取るかは観る側の自由だと

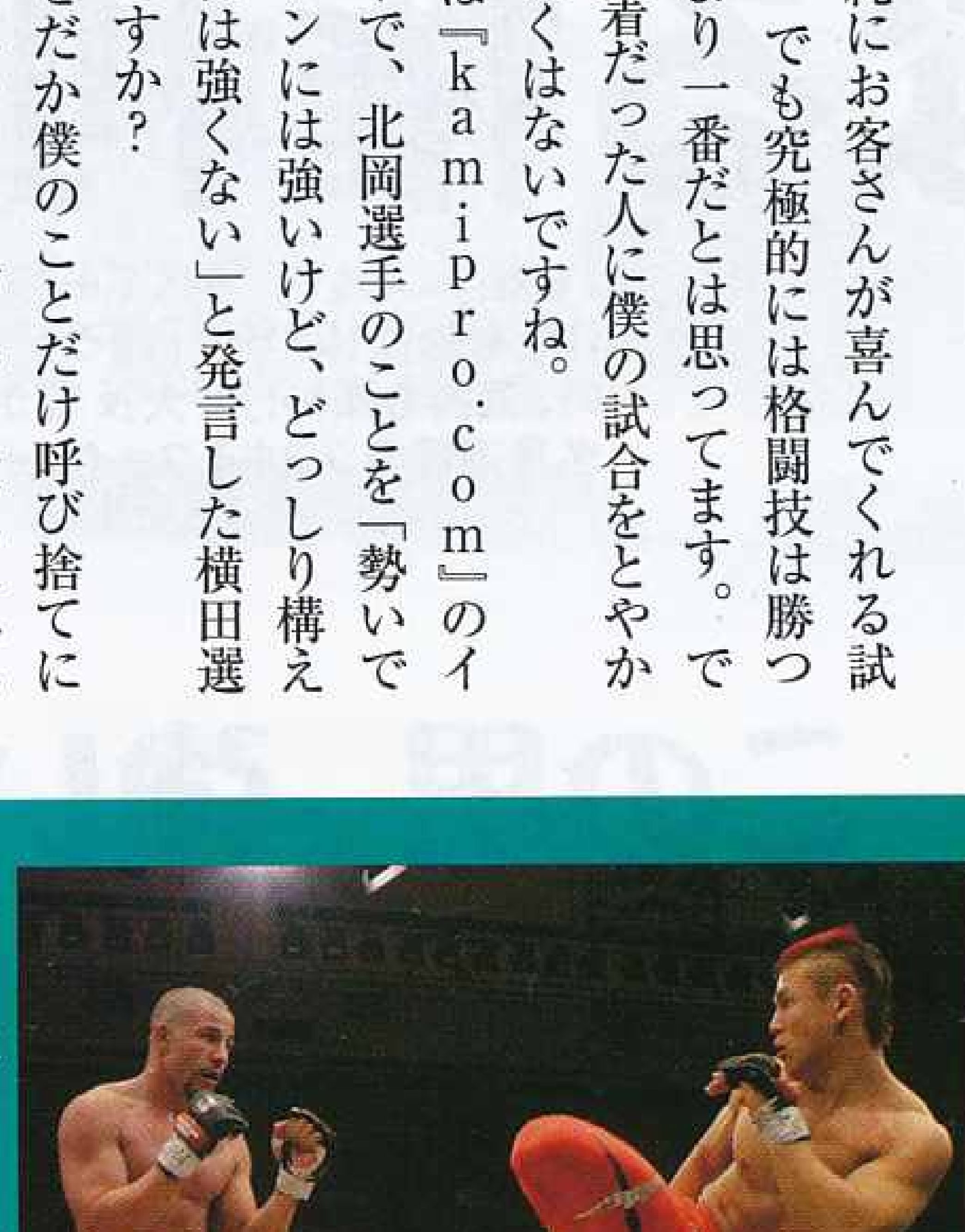


は思いますが、なんにしろ注目されるのはいいことじゃないですか？
**北岡**　僕の先輩で子どもにレスリングを教えてる人がいるんですけど、最近は一生懸命にやっている子って、周りにからかわれちゃうらしいんです。なんだか、僕に対しても少しそれと同じノリは感じます。
――「俺は遮二無二に一生懸命やってるだけだ！」と。
**北岡**　最近の世の中や若い人たちはロックじゃないんですよね！　一生懸命やるのをダサいと捉えることが多いのかなって。やっぱり僕は熱い人間なんだろうなって思います。
――その熱さこそ俺の生き様だ、と？
**北岡**　『戦極』ふうにいうと〝北岡悟のリアル〟っていうやつです（笑）。
――発動してますね！　北岡選手といえば〝強くてキモい〟という打ち出しもありますよね。まぁ、勝手にボクらが発信してるんですけど（笑）。
**北岡**　プロとして、どのようなものであろうとキャッチフレーズをつけていただけるのはありがたいことなんじゃないかとは思います。
――北岡選手は自分以外に〝強くてキモい〟選手って思い浮かびます？
**北岡**　今日の大会の煽り映像で〝強くてキモい〟でプッシュされてた選手がいましたね（笑）。
――中村K太郎選手ですね。
**北岡**　あー、コッチにかぶせてきてるじゃんと思って。
――ダハハハハ！　「俺が元祖だ」と（笑）。
**北岡**　彼は凄くいいグラップラーなんですけどね。
――今日は大舞台デビューで固くなったのか、試合は間延びした感じでしたね。
**北岡**　彼とは会場で会えば普通に雑談したりする関係なんです。次に僕が闘う光岡（映二）さんと同門なんですけど。
――和術慧舟會つながりですね。中村選手は〝強くてキモい〟って感じではないですか？
**北岡**　……〝キモい〟ってなかなか難しいところですよね。……一応僕が第一人者ということで完結しましょう（苦笑）。
――〝強くてキモい〟はオンリーワンだ、と。さて、『戦極』ライト級GPの準決勝ですが、先ほど言われたように、北岡選手の相手は光岡選手に決まりましたね。
**北岡**　僕は横田（一則）選手になるのかなと思ったんですけどね。
――横田選手が相手だと図式的には懐かしのパンクラスvsGRABAKAになりますよね。
**北岡**　でも、個人的にはほかのGPに残った3選手の中では、光岡さんの評価が一番高かったんですよ。やっぱりヨアキム・ハンセンに勝ってる選手ですから。
――DREAMのライト級GP王者を下した実力者ですよね。
**北岡**　そんな強敵を相手に自分がどうトランスできるか楽しみです！
――また自分の世界に入りこむ北岡選手が観られそうですね。
**北岡**　光岡さんってド天然じゃないですか？　それプラス実力があるので、トランス状態の自分とぶつかって何が生まれるのか興味があります。
――ちなみに北岡選手はGP1回戦で31秒で勝利したクレイ・フレンチ戦は何回くらい観直しました？
**北岡**　覚えてないくらいです（笑）。光岡さんの試合を観るのが目的なのに、気づけば自分の試合もそのまま観てるっていう。

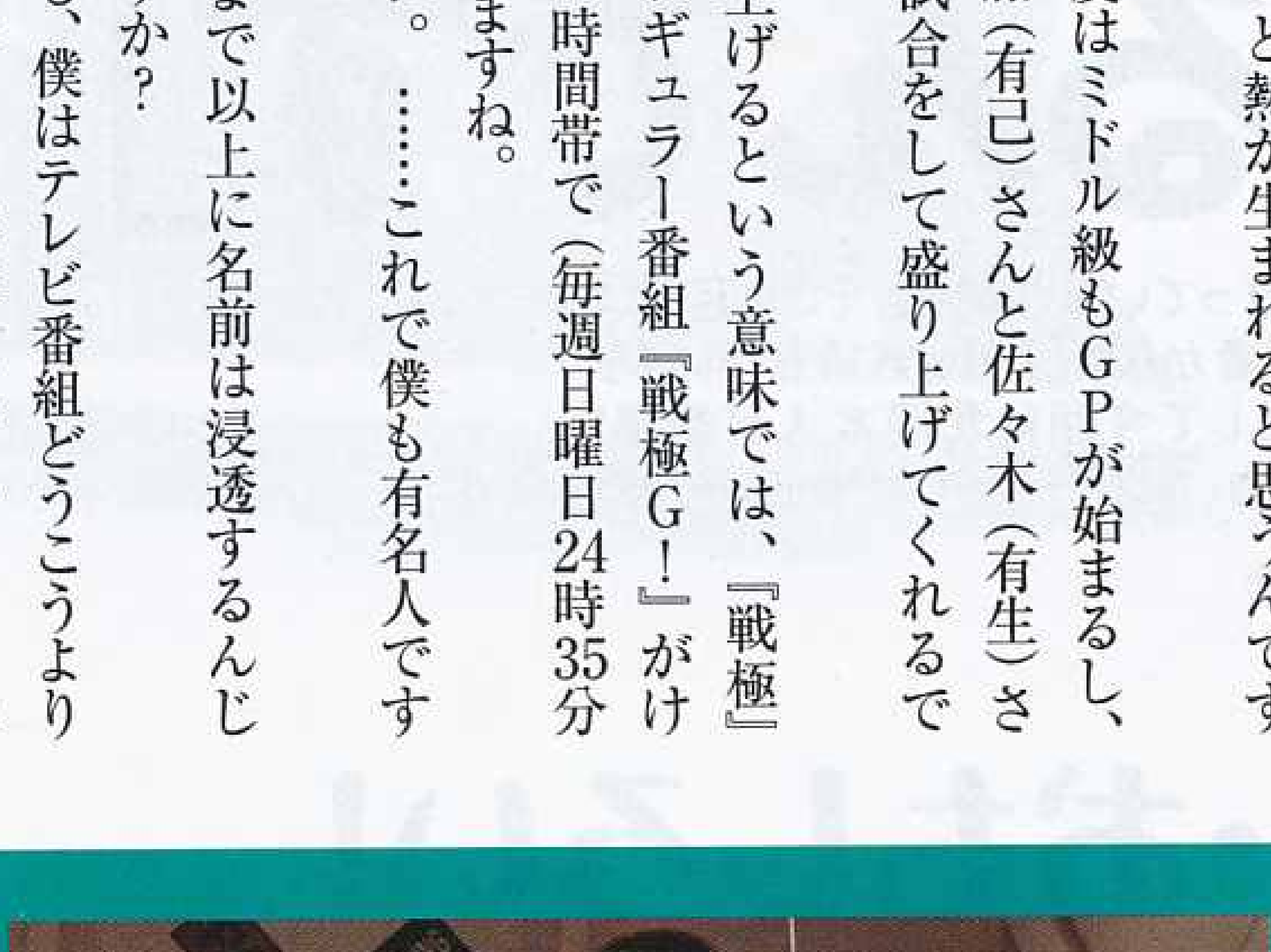
## わなくても自然にスターになっちゃうんだろうなって思います

やっぱりもっといい試合をするために自分自身の試合も研究しますし。
――北岡選手にとっての理想の試合というと？
**北岡**　単純にお客さんが喜んでくれる試合ですね。でも究極的には格闘技は勝つことが何より一番だとは思ってます。でも、判定決着だった人に僕の試合をとやかく言われたくはないですね。
――それは『kamipro.com』のインタビューで、北岡選手のことを「勢いでくるガイジンには強いけど、どっしり構えた日本人には強くない」と発言した横田選手のことですか？
**北岡**　なぜだか僕のことだけ呼び捨てにして、横田選手のほうが歳は上ですけど、こっちはこの業界で何年やってると思ってんだって言いたいです。
――何年選手だと思ってんだコラッ！と（笑）。でも、こうやって因縁を作ることもプロには必要ですよね、観る側もノリやすいですし。『戦極』もライト級が盛り上がればもっと熱が生まれると思うんですけど。
**北岡**　今度はミドル級もGPが始まるし、きっと近藤（有己）さんと佐々木（有生）さんがいい試合をして盛り上げてくれるでしょう！
――盛り上げるという意味では、『戦極』の地上波レギュラー番組『戦極G！』がけっこういい時間帯で（毎週日曜日24時35分〜）始まりますね。
**北岡**　はい。……これで僕も有名人ですか？（笑）。
――いままで以上に名前は浸透するんじゃないですか？
**北岡**　でも、僕はテレビ番組どうこうよりも、ライト級GPに優勝したら、スターに

### ド凡人とは歴史が違う！ 北岡悟の〝特別〟な経験



**ライト級GP出場査定試合をクリアするもPRIDEが消滅！**
06年4月13日の『DEEP 29 IMPACT』で北岡は、同年開催予定のPRIDEライト級GPの査定試合としてファブリシオ・〝ピットブル〟・モンテイロと対戦！　かねてからPRIDE出場をアピールしていた北岡は勝利を収め、リング上で「PRIDEで会いましょう！　青木、待ってろよ！」と世界最高峰のリングへのチケットをつかんだ喜びを爆発させた。しかし、GP開催は延期に延期を重ね、北岡は生殺し状態。あげくのはてにPRIDEは消滅、長いお預けを食らったはてのあまりにあんまりな仕打ち。きっと〝特別〟な人間にしか与えられない、神様からの試練なのであろう。




**憧れの船木に対戦表明するもアッサリとむげに断られる！**
北岡はPRIDEに代わる新たな目標として、07年大晦日の現役復帰を発表した船木誠勝との対戦を表明！　北岡は挑戦状をしたためて「いまの現実（北岡）と闘え！」と、猛烈アピール！　しかし船木は「記事を見ると嫌味を感じるので興味がない」とバッサリ拒否！　これに北岡は「言いたいことを言えて、気持ちの再確認ができた」と健気にコメント。しかし後日、「船木さんの発言を夜中に携帯で見て、涙が出てきた」と悔しい気持ちを吐露。まさにMMA界のHBK（ハート・ブレイク・キタオカ）、今後も試練にめげずに我が道を進んでいただきたいものである。

## 僕がライト級GPに優勝したら、五味（隆典）選手と闘わなくて

北岡

なっちゃうんだろうなって思ってます。

——な、なるほどぉ。

**北岡**　ほかの3選手は五味（隆典）選手に勝たないとスターになれないでしょうけど、自分は優勝した時点で自然とそうなっちゃうと思うんです。

——いやあ、素晴らしいほどに自信満々ですねぇ（笑）。

**北岡**　そう思いませんか？　僕はスターの仲間入りというか、その領域に踏み込めれるのではないかと思います（キッパリ）。……すいません、勘違いしてます？（笑）。

——いえいえ。その自信の根拠を聞いてもいいですか？

**北岡**　いままでやってきたことの差です。

——はー、ほかのGP出場者とは経験値が違うと。

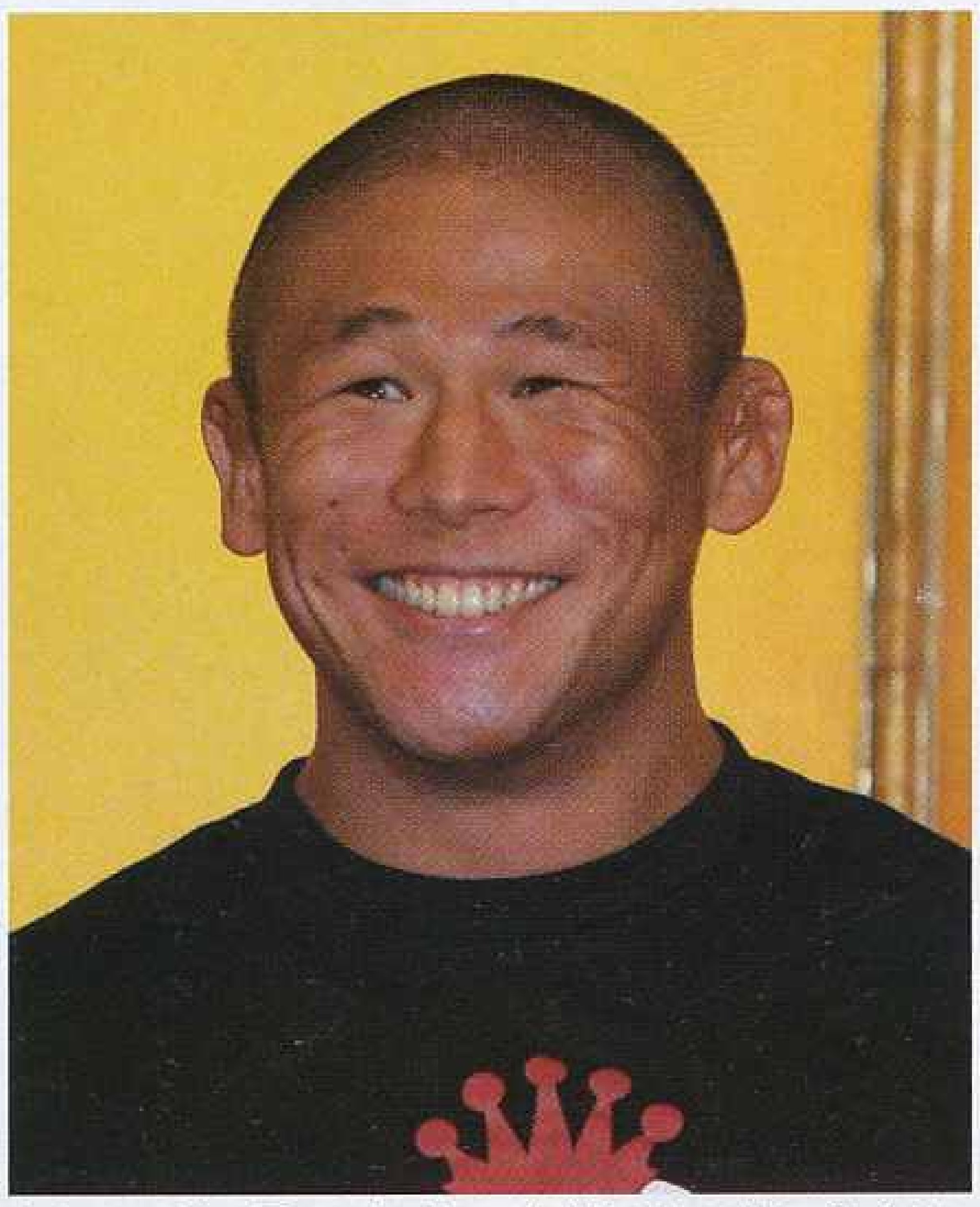
**北岡**　冗談でもなんでもなく、僕は本当にそう思ってるんです。だって歴史がちげえじゃん！　って話です。

——俺の歴史はおまえらとは違う、と。

**北岡**　たとえばPRIDEライト級GPの出場者決定戦で勝ち上がったのにGP自体がなくなったとか、そんなありえない不遇を味わってないでしょ？　ってことですよ。

——あー、そんなこともありましたね。

**北岡**　それに、凄い有名なファイターの復帰戦、それも自分にとっては恩のある人に挑戦状とか出してないでしょ？　って話で。……まぁ、誰もやろうとは思わないのかもしれないですけど（笑）。



きたおか・さとる■1980年2月4日、奈良県出身。00年にパンクラスismに入門。『戦極』ではイアン・シャファーに50秒、クレイ・フレンチには31秒で勝利を収めて最短試合記録を自己更新していたが、9.28『戦極～第五陣～』でシアー・バハドゥルザダがエヴァンゲリスタ・サイボーグを22秒で下したため、記録をあえなく破られてしまった、どこまでもついてない"選ばれし男"。168cm、75kg。

——ダハハハ！　でもそういった発言によって、逆に周りから突っ込まれたりもさんざんされてきたわけですよね。

**北岡**　さっきも言いましたけど、頑張る子が小馬鹿にされてしまう時代ですから。

——ときには傷ついたり（笑）。

**北岡**　だからこそ、くぐり抜けてきた修羅場の数が違うんです。みんなそういうつらさ味わったことないでしょ？　って。……まぁ、味わおうとは思わないのかもしれないですけど（笑）。

——でもそのぶんだけ精神的にタフになったっていうのはあるんじゃないですか？

**北岡**　自分の歩みが他人と比べて特別だという意識はあります。

——ほー、〝選ばれし者〟みたいな感覚ですかね。

**北岡**　並大抵じゃない努力や挑戦をして結果を出した人間だけが特別になれる可能性があるんだと思うんです。

——闘ってきた人間ということですよね。

**北岡**　そこで北岡悟がどこまでどう登り詰めていくかっていうのを、GPの見どころだと思ってもらえれば。僕には特別な人間になれる権利があると思ってますし。

——ほー。そこまで言いきってもらえると気持ちいいですね。

**北岡**　なかなか理解はされないと思います。たとえば僕が秋山成勲選手や山本〝KID〟徳郁選手の感覚がわからない部分に似てるかも知れないです。青木はその領域に踏み込みつつあるので、間近で見てても凄いなと思いますね。僕もGPを制してその領域に行きます！（キッパリ）。

——はー、やっぱり北岡選手はおもしろいですね！　そういう人が出てこないとマット界は盛り上がらないですから。

**北岡**　だって、どう考えても僕と五味（隆典）選手が闘うのが一番おもしろいですよ。それが間違いなく『戦極』のためにもなりますし。

——なるほど。いやー、今日はすっかり北岡ワールドを堪能させていただきました。では最後に聞きたいんですが……なんでまた頭を丸めたんですか？

**北岡**　ようやく聞いてくれましたね！（急にハイテンションで）。誰も聞いてくれないんですよ！

——関心を持ってくれない、と（笑）。でも、そこまで言うからには相当な理由があるんですよね、ズバリなんでしょう？

**北岡**　……練習のためです！

——もったいぶったわりには普通の理由ですね（笑）。

**北岡**　（無視して）練習してても髪が気にならないし、乾きやすいので風邪もひきにくいですし。そういえば最近、佐伯（繁）さんも頭を丸めたんですよ。だから今日も会ったときに「僕とカブってますね！」って言ったら、「何言ってんだよ！」（佐伯さんのモノマネで）って（笑）。

——「一緒にするな」みたいな。

**北岡**　で、佐伯さんと話してたときに女の子から「北岡さ～ん！」て声援をもらったんです。そうしたら佐伯さんが「おまえもついに女の子から名前を呼ばれるときがきたな」って（笑）。

——「ウシシシッ！」とばかりに（笑）。

**北岡**　佐伯さんのおかげです！　って言っときましたけど。

——僕は北岡さんの坊主姿は、青木さんが送ってくれた写真を見て知ったんですけど、ビックリしましたね。

**北岡**　ファッション坊主とかじゃなく、見た目は罰ゲームですからね（笑）。だから、決勝大会までにどこまで伸びるか不安なんですよね～。

——あれ、伸ばすんですか？（笑）。

**北岡**　そりゃそうですよ（シレっと）。まぁ、それもGPの見どころの一つってことで（笑）。とにかく僕を中心に観てもらえればGPも楽しくなると思います！

——わかりました。GPでの〝強くてキモい〟姿を期待してます！

【08年9月23日／埼玉県・某所にて収録】




# シャキーン！ 祝！『戦極』地上波送決定!!

10月5日(日) 24時35分スタート

## 目指すは“ゴールド”でゴールデン!?

# 戦極 SENGOKU G ってなんだ!?

### 番組関係者が明かす『戦極』的野望

**この号の発売日には、すでに特番とレギュラー番組が一度ずつ放送されているはずの『戦極』地上波番組。吉田秀彦や五味隆典といった知名度の高いトップファイターから、北岡悟や横田一則といった個性的なファイターまでが集う『戦極』のリングを地上波で、どう料理するのか？　その可能性を含め、番組関係者を直撃してみた。**

構成／阿修羅チョロ　撮影／乾晋也

ついに『戦極』が地上波レギュラー番組をゲット。放送局はテレビ東京、番組タイトルは『戦極G（ゴールド）！』。『戦極～第五陣～』前日の9月25日の13時から13時55分には『最強格闘技・戦極スペシャル』なる特番もすでに放送されている。

プロレス&格闘技の地上波レギュラー番組といえば、テレビ朝日の『ワールドプロレスリング』、日本テレビのノア中継、TBSの『格闘王』などがあるが、いずれも深夜枠で、ほかの番組の影響で放送時間がずれ込むことも多い。10年以上続いたフジテレビ系列の老舗格闘技番組『SRS』も10月3日放送分で最終回を迎えるなど、地上波でのプロレス&格闘技番組を取り巻く状況は決して良好とはいえないのが現実だ。そんな中、深夜枠とはいえ、毎週日曜日にレギュラー番組の放送が決定したというのは、業界的には、ひさびさに明るいニュースと言えるだろう。

この号の発売日前日となる10月5日にスタートする『戦極G！』。気になる内容はというと、「基本的には過去の試合映像をまじえつつ、選手をクローズアップしていくヒューマン・ドキュメンタリー的な内容になると思います」と、番組関係者。

『戦極G！』と同様の制作チームによる特番では、ライト級GP準決勝に勝ち上がった光岡映二、横田一則、廣田瑞人、北岡悟という〝戦極4人衆〟、略して〝S4〟のドキュメンタリーチックな企画が放送されたのだが、これがかなりおもしろかったので、観ていない（または観られない）という『kamipro』読者のために感想をまじえつつ、その内容を紹介しよう。

# 正式名称は『戦極G!』ですが、略して〝戦G（せん・じー）〟と呼びましょう！

まずは街頭で〝S4〟の顔写真入りパネルを道ゆく女性に見せ、それぞれ好みのタイプを選んでもらうという、〝S4〟のメンバーはもちろん、観ているこちらまでがハラハラさせられる企画を実施。バラエティ番組ではよく見られる街頭企画だが、はたして、最近のギャルたちは〝S4〟を見てどういったリアクションをするのか、ちょっぴり心配だったのだが……。

北岡を見て「童顔でかわいい」、光岡には「強くてやさしそう」、廣田には「ワイルドな感じがいい」、横田を指差し「ボウズでヒゲが好き」といった無難な発言から、「そんなにゴツくないから」とか、廣田の右肩のタトゥーを見て「ブルドッグいるんで（正解はパグ）」といったギャルたちのツッコミどころ満載なリアクションに思わず視線は画面に釘づけ状態。

もちろん、こういったバラエティ的な企画のあとには、番組関係者が言うところのドキュメンタリー的手法で4人のプライベートに密着。こちらも、アニヲタだという北岡をフィギュアバーなるところに連れていくも「そんなに詳しくないんで」とあっさりと否定されたり、『戦極～第四陣～』のリング上から同棲相手の彼女に中途半端なプロポーズを敢行した光岡映二のお宅訪問をしたり（残念ながら彼女は不在）、試合に勝ったら1ヵ月分の食事代をただにしてくれたという廣田の恩人の定食屋のおっちゃんを紹介したり、横田が大学の柔道部時代の恩師を訪ねたりと、なかなか興味深い内容に。

それ以外にも、吉田秀彦vsジョシュ・バーネットや五味隆典vsドゥエイン・ラドウィッグ、三崎和雄vsシアー・バハドゥルザダといった知名度の高い選手の試合映像も当然『戦極』番組のウリの一つ。番組の合間には『戦極』のビッグスポンサーであるドン・キホーテのCMがガンガン流され、アニマル浜口&京子ちゃんから気合いを注入してもらえるのも見どころの一つと言えるかもしれない。

ちなみに、毎週日曜深夜24時35分スタートとなる『戦極G!』。以前、同じ枠で放送されていたのはテリー伊藤司会の人気番組『給与明細』で、『戦極』以外にも、この枠を狙っていた関係者はかなり多かったという人気枠なのだ。もちろんそこはドンキパワーで……というわけではなく、「たまたまタイミングがバッチリ合って」（番組関係者）この枠をゲットすることができたんだという。

たまたまとは言うものの、旗揚げ直後から地上波放送に向けて、さまざまな局と交渉していたという『戦極』関係者によると、日曜の24時台という枠には強いこだわりもあったんだとか。

「この枠じゃなかったら、やる気はなかったです。25時台では遅いというのもありましたし、日曜のその時間帯はザッピングしながら観る人も多いですから。ただ、いま格闘技界を取り巻く状況というのは数年前と比べて、それほどいい状況ではないですから、イベントだけの放送では熱を取り戻せないと思うんです。まず、大会に出る前に選手たちはどういうことを行なっているのか、どんな選手なのかをわかってもらったうえで会場に足を運んでもらいたいという気持ちが強い。そのためには放送時間が変動して、いつ放送しているかわからないという状態だと視聴率にもつながってこないでしょうし、昼ドラなんかと同じように決まった時間に放送されていると続きが観たくなるじゃないですか。その時間に家にいられない人も決まった時間にやっていればビデオの毎週録画で録ることもできる。そういう意味では、時間帯にはこだわりました」

そういえば、番組タイトルの〝G（ゴールド）〟の意味は公にはなっていないが、『戦極』だけに何か〝リアル〟な理由があるはずだ。再び番組関係者を直撃。

「タイトルに関しては、みんなで考えたんですが、いろんな意味があります。当然、金メダル的な要素だったり、光り輝くという意味の〝ゴールド〟であったり、〝ゴール〟や〝ジャイアンツ〟、〝グッド〟、〝グローバル〟とか、いろんな〝G〟をダブらせてつけました。『戦極G!』っていうのが正式名称ですけど、略語的に〝戦G（せん・じー）〟と呼んでもらえればと思ってます」

期待される1・4ニューイヤーイベントの地上波特番に関しては「いま現在、まったくの未定です」とのことだったが、年末年始に向け、リング上はもちろん、『戦極』のテレビ関連の動きにも注目だ！



地上波放送決定会見では「こんなに早くファンの目に留まるかたちを作ってもらえると思ってなかったので嬉しい」と笑顔で語った五味。しかし、「キャスターは川村ゆきえちゃんがいいなぁ」とのリクエストはあっさり却下。残念!




9.27『戦極』特番で大きく取り上げられたのがライト級GP準決勝進出を決めている日本人ファイター4人。番組内で"S4"と紹介された4選手の『第五陣』での活躍は94ページをチェック! すでに、"S4"からの脱退を宣言している北岡の"S1"宣言はいつ飛び出すのか!? そして、今後の"S4"の動向は『戦極G!』がしっかり追っかけてくれるはず!?

【番組情報】
レギュラー番組
『戦極G!』
●毎週日曜日　24時35分～25時00分
●テレビ東京
（アナログ12ch／デジタル7ch）



食らえ！波動拳!!

『You Tube』から飛び出した

# 呪いなき路上ファイター

# KENNY OMEGA

## ケニー・オメガ

聞き手／阿修羅チョロ　撮影／山口比佐夫　通訳／中澤マイケル

# WWEにいればお金には困らないけど自分の好きなことがやりたかったんだ

〝プロレス版キンボ・スライス〟ケニー・オメガが衝撃の日本初登場！

今年の夏、DDTマットを中心に、リング上はもちろん、得意の路上でも大暴れし、プロレスファンのハートをガッチリと鷲づかみにしたのが『YouTube』など動画サイトでのファイトが話題を呼び、念願の初来日をはたしたオメガだ。

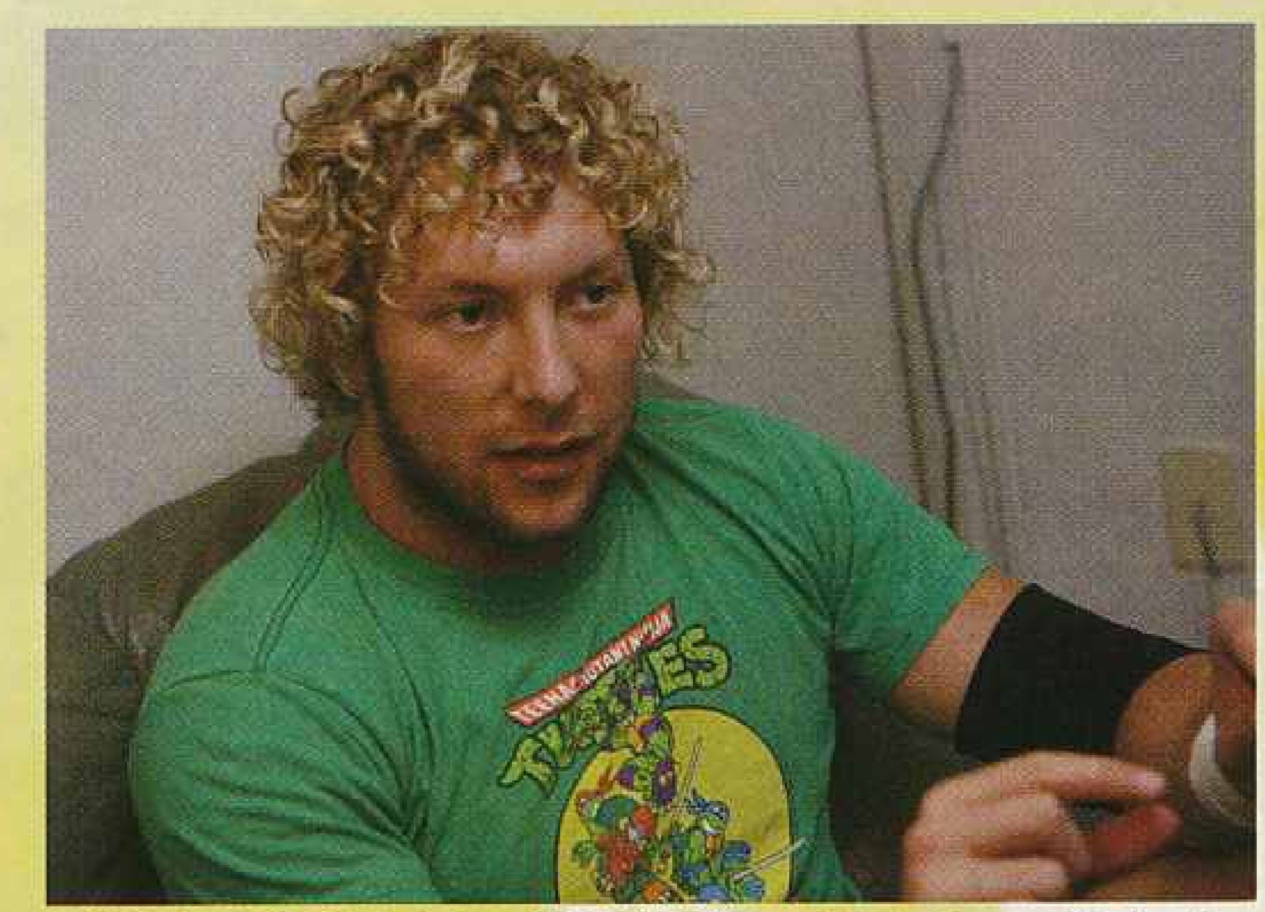
インターネットの普及もあり、プロレスや格闘技界では、すっかり死語となった〝未知の強豪〟。しかし、それを逆手にとって、キンボばりに自身のファイトを『YouTube』を使い全世界に発信したところ、一気に火がついたのが、このオメガ。

『東スポ』では、このオメガの〝崖の上のポニョ〟ならぬ〝崖の上からのみちのくドライバー〟という仰天写真を大々的に報じたため、それまで一部のマニアのあいだで話題を呼んでいた、オメガの存在が瞬く間に日本でも広がり、来日前から待望論が巻き起こっていたのだ。

その映像に映し出された試合内容をここで簡単に説明しよう。自宅でゲームを楽しむ一人の男のもとへ、なぜかレフェリーを引き連れたオメガが現われ、突然、家の中で戦闘開始。冷蔵庫など家電製品等を駆使したハチャメチャな攻防を繰り広げたのち戦場は野外へ。路上での殴り合いから、湖畔ではオメガが得意の波動拳で相手を湖に吹っ飛ばし、最後は10メートル近い崖の上から、相手レスラーとともにみちのくドライバーで急降下という衝撃のフィニッシュ！

BGMとしてスーパーマリオブラザーズのテーマがのんきに流れる8分ちょっとのクレイジーバトルは、プロレスにさして興味のない人でも思わず見入ってしまうほどの完成度。それだけなら、変わり者のガイジンレスラーで終わってしまうところだが、このオメガはWWEとも選手契約をしていたこともあるほどレスラーとしてもスキルが高く、おまけにプロレスや格闘技はもちろん、マンガやゲームといった日本文化にも造詣が深いというジョシュ・バーネットもびっくりのオタク系ファイターでもあるのだ。

そんな、謎多き24歳のカナダ人プロレスラー、オメガの知られざる素顔に迫ってみた。


取材場所に姿を現わしたオメガは日本でもヒットした『ミュータント・タートルズ』のTシャツ姿。ほかにも『頭文字D』や『キン肉マン』も好きだという日本通のオメガだが、一番好きなマンガは『はじめの一歩』なんだとか。

**オメガ**　今回、憧れだった日本に来ることができて凄く嬉しい。なんでそんなに日本が好きかって？　きっかけはプロレスなんだ。WWEでTAKAみちのくとザ・グレート・サスケの試合を観て「ボクもプロレスラーになりたい」って思ってね。そのときチャンピオンだったTAKAみちのくという選手は『どこでプロレスを学んだんだろう？』と思って、いろいろ調べて最初に手に入れたのが、みちのくプロレスのビデオ。それまでも、WWEとかアメリカンスタイルのプロレスは観てたんだけど、そのスタイルとはまったく違うプロレスを観て衝撃を受けたんだ。それで『ボクもこんなプロレスをしたい』と思って日本のプロレスにはまっていったら、一緒に日本のカルチャーも好きになった。もう6年ぐらい前から、ずっと日本に来たくてしようがなかったんだよ。

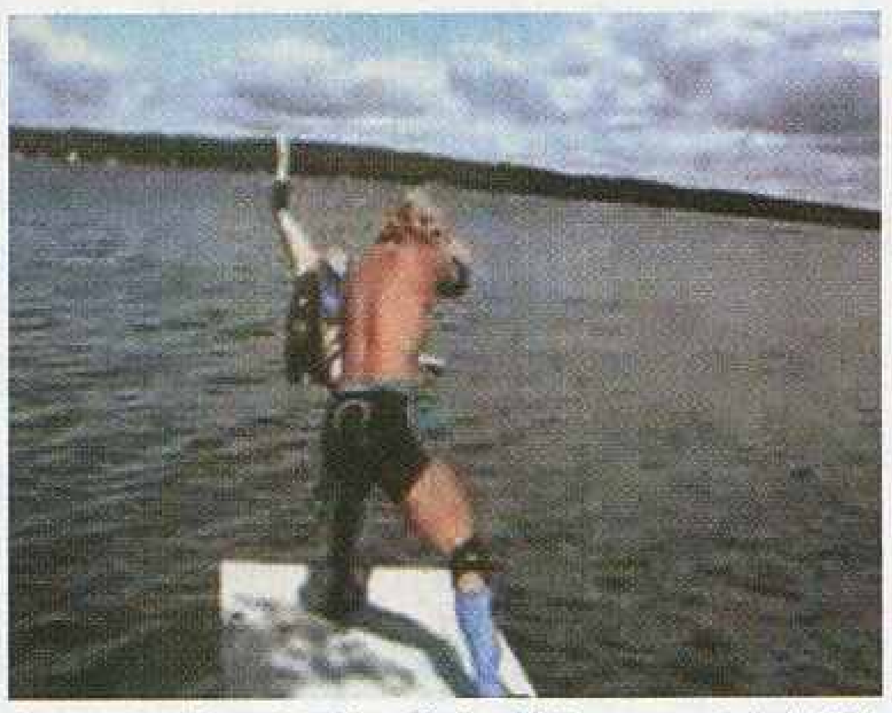
親日家のオメガはTAKAみちのくに憧れ、18歳でプロレスデビュー。その後、業界最大手のWWEと3年契約を交わすも、わずか1年足らずで自ら契約解除を申し入れたオメガ。はたして、その真意とは？

**オメガ**　ジャパニーズスタイルに憧れていたボクにとって、WWEみたいなスタイルは、なんか自分では『違うな』と思うようになってきたんだ。確かにWWEにいれば、お金には困らないかもしれないけど、それと引き換えに自分のやりたいことや、自分の人生や家族のことを犠牲にしなきゃいけないからね。せっかくプロレスラーになったんだから、自分がやりたいようにやってるスタイルをファンには好きになってほしかったし、それでファンを感動させたりエキサイトさせたりすることがボクにとっては一番大事なことだったから。

日本で注目されるきっかけとなったのは『YouTube』での試合映像となるが、やはり、ああいったハチャメチャな試

## 全世界が震撼!?
## これがオメガのクレイジーバトルだ!!


CW・アンダーソンによく似た男が自宅でゲームを楽しんでいると、コスチューム姿のオメガがレフェリーを引き連れ登場。CW似の男も、すぐさま服を脱ぎ捨てコスチューム姿になり、部屋の中で試合がスタート！


家から飛び出した両者は路上で激しいファイトを繰り広げる。もつれながら二人がたどり着いた先は大きな湖。得意の波動拳でCW似を湖へと吹っ飛ばしたオメガは助走をつけ湖の中に沈むCW似に向かってダイブ！


水中でも激しくやり合った両者だったが、気がつけば二人は崖の上に。最後はオメガの10メーター級のみちドラでCW似は轟沈。こちらの映像は動画系サイトで簡単に見つかると思うので、まだ観てない人は探すべし！

# 自分より凄くて強いレスラーはいくらでもいる。だけど……

合こそがオメガの理想とするファイトスタイルとなるのだろうか？

**オメガ**　そうだね（笑）。いまはボクのように『ＹｏｕＴｕｂｅ』を使って、自分のやりたいことを世界に発信することが容易にできる時代だけど、逆に言えば、新しくて斬新なことを提供するのは凄く難しくなっていると思う。だからこそ、ボクは常にクリエイティブなことを考え続け、そこにコメディやサスペンスの要素を落とし込んで、多くの人を満足させるようなインパクトがあるモノを作っていきたいんだ。そうやって作った映像を『ＹｏｕＴｕｂｅ』で流せば、世界に広がる可能性やプロレスラーとして将来につながるんじゃないかと思ってたんだけど、その結果、たくさんの人から『おもしろかった』って反響があったし、憧れだったＤＤＴにも来ることができて満足してるよ。

野外でのファイトというと、アメリカのプロレス好きのあいだで盛んなバックヤードレスリングのイメージが強いが、自身のスタイルとバックヤードレスリングとはまったくの別物だとオメガは言う。

**オメガ**　ボクもキッズの頃にはよくバックヤードレスリングをやってたんだ。変わった場所でいうと、近所の有名なおばけ屋敷で闘ったこともあるしね（笑）。でも、ここ最近のバックヤードはスタイルも様式もエクストリームでクレイジーなことをするということばっかりになっている気がするんだ。たとえば、有刺鉄線を使ったり、高いところから飛び降りたり、ファイヤーを使ったりね。自分がやりたいことっていうのはそういうことじゃないんだ。頭をひねって考えたドラマのようなストーリーを見せた上で、しっかりとトレーニングを積んだプロレスのテクニックを見せること。そのへんはライバルのイブシ（幸太）も考え方は一緒だと思う。

〝日本の路上の王〟と言われる飯伏幸太とは今回の来日でも、リング上はもちろん、得意の路上でも互いのプロレス頭を最大限に発揮した攻防を繰り広げ、ファンから大きな喝采を浴びたオメガ。

**オメガ**　単純に自分より凄くて強いレスラーはいくらでもいるからね。そのレスラーたちはボクより優れた技術を持ってるかもしれないけど、テクニックだけではなく、ほかの部分でもファンタジーを見せるということをボクは追求してるんだ。日本のファンなんかとくにそうだけど、プロレスはエンターテインメントなショーだと理解している人が多い。でも、そういったファンばかりじゃないからね。そういった人たちにも理解してもらうためには、感情を出したり、表情を作ったり、見せられる身体を作ったりということも凄く重要なことだと思う。

プロレス頭を駆使し、対戦相手だけではなく、常に観客の存在も意識しながら闘っているというオメガ。〝ファンタジー〟という意味では、フィニッシュホールドとして波動拳を用いているオメガだが、ファンタジーあふれるこの技を得意技として使用している意図とは？

**オメガ**　波動拳を使うのも、やっぱり、ほかのレスラーとは違うような表現の仕方ができればと思っているからなんだ。多くのレスラーたちは試合は試合ということで、ゴングが鳴ればリング上での闘いに集中しがちだけど、ボクはどんなかたちでもいいから観客の感情とかを引き出して試合に参加してもらいたいと思っている。た



「何かおもしろい絵を撮らせてほしい」とオメガにリクエストすると、しばらく考え込んだのち、通訳として同行していた中澤マイケル相手にオメガが披露したのが、こちらの変型パイルドライバーだ。これは痛そう!?

とえば、ボクが波動拳を出そうとしたら、『この技、知ってる』とか『オレもできるよ』って思うでしょ。でも、イブシのフェニックススプラッシュを見ても『オレもできる』とは思わないよね（笑）。波動拳なら、そこにファンとのつながりができると思うし、だからこそ、多くの観客も『ハドウケン！』って叫んでくれると思うんだ。

もちろん、ボクの波動拳は誰でもできるモノではないし、ハードなトレーニングを積んで習得した技なんだけどね（ニッコリ）。

ハードな練習の成果で身につけたという波動拳だが、以前、アメリカで試合を行なった際には「そんなのリアルじゃない」というツッコミもあったんだとか。

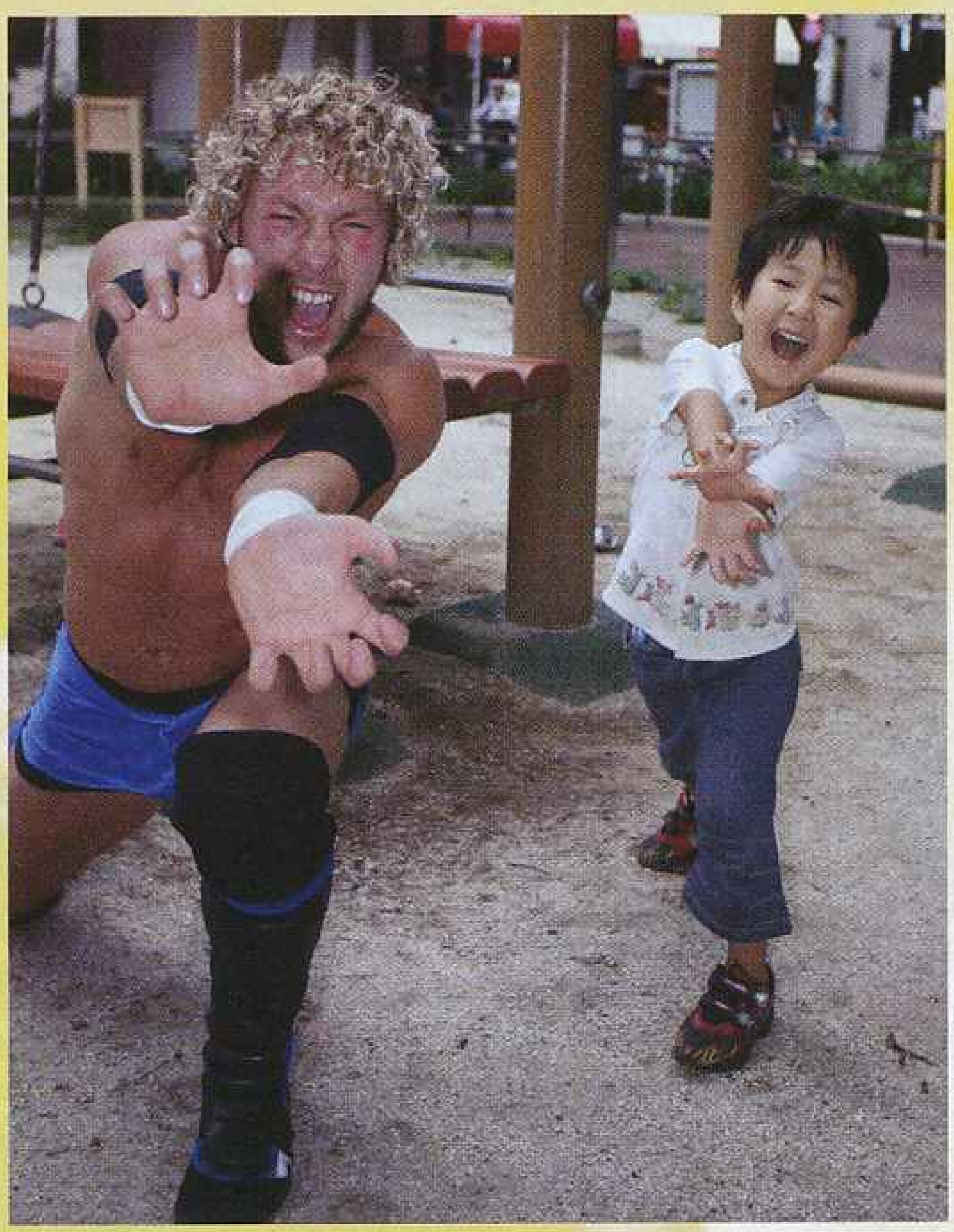
**オメガ** 日本に来る前にはROHのリングに上がったんだけど、ボクが波動拳をやるってことを知ってるファンもたくさんいた。最初はそれをバカにしてる感じだったけど、試合が進むに連れてボクのことを認めてくれたみたいで凄く盛り上がってきて、フィニッシュ前にボクが波動拳の構えをとったら、『オ〜ッ、来るぞ！』って感じでみんな立ち上がってくれたんだ。それで、最後は『ハドウケン！』って、みんなが合唱さ（ニッコリ）。それが観客とのつながりだと思うし、ファンにとっては、その瞬間に波動拳がリアルに変わるんじゃないかな。

そんなオメガだが、一時期プロレス界を離れ、柔術のトレーニングに明け暮れ、その先にはMMAデビューも考えていた時期もあったという。オメガの身にいったい何が起こったのか？

**オメガ** WWEを辞めたあとに、たまたま観たのがUWFのタカダ（延彦）さんの試合だったんだけど、『これは凄い』って思ってね。それを観た瞬間、プロレスはショーだけど、やはりリアルなものも必要だと思って柔術を習おうと思ったんだ。それからは、しばらく格闘技に集中しようと思って、プロレスは完全にやめはしなかったんだけど、プロレスのスケジュールは軽めにして、柔術ばっかりやってたんだ（笑）。MMAももちろん興味があったけど、まずはしっかり柔術を学んでからと思ってね。実際に柔術の大会では優勝もしたんだけど、やっぱりエンターテインメントが好きだったんだろうね。また本格的にプロレスがやりたくなっていまに至るってわけさ。

# UWF時代のタカダさんの試合を観て「凄い」と思って柔術を始めたんだ

## KENNY OMEGA



KENNY OMEGA■1983年10月16日、カナダ・マニトバ州ウィニペグ出身。ミノワマンとSASUKEオールスターズの長野誠がマイヒーローというカナダの路上ファイター。波動拳以外にも得意技の雪崩式エレクトリックチェア式ジャーマンは必見（どんな技かは各自調査）。公園で出会った隣のチビッコは波動拳を伝授され超パワーアップ！ お母さんもビックリしてました。180cm、93kg。

UWF時代の髙田延彦の試合を観て柔術を始めたという、なかなかレアな経緯を持つオメガ。カナダ出身のMMAファイターといえばUFCで活躍する世界ウェルター級王者のジョルジュ・サンピエールが有名だが、格闘技からプロレスの世界に戻ってきた原因の一つとして、カナダの国民性もあったんだという。

**オメガ** サンピエールは好きなファイターだし、凄くリスペクトしてるんだけど、残念なことにカナダのMMAファンっていうのは『とにかく血が見たい』っていうヤツばっかり。そういうお国柄だから、プロレスとかエンターテインメントの世界はなかなか理解してくれないんだ。だから、サクラバ（和志）さんやゲンキ・スドーみたいなファイターはカナダにはいない。みんながみんな、ヴァンダレイ・シウバみたいなスタイルを目指してるからね（笑）。

現在は、再びプロレスに専念しているオメガだが、将来的にMMAにチャレンジする可能性はあるのだろうか？

**オメガ** いまはプロレスラーをしているんで、現実的な可能性は少ないだろうね。それに、もし条件がいいからっていう理由で出ていっても、しっかり準備をしないとオガワ（直也）さんやナガタ（裕志）さんみたいになっちゃうから（笑）。

な、なんと、かつてヒョードルと闘い敗戦を喫したオーちゃんや永田さんのことまでリサーチ済みのオメガ。好きだったプロレス団体を聞くと「DDTとドラゴンゲートとK-DOJO」と、いずれも日本の団体名を挙げたオメガ。マイヒーローも、あの"リアル・プロレスラー"というほど日本通のオメガはMMAもUFCよりも断然PRIDE派だったという。

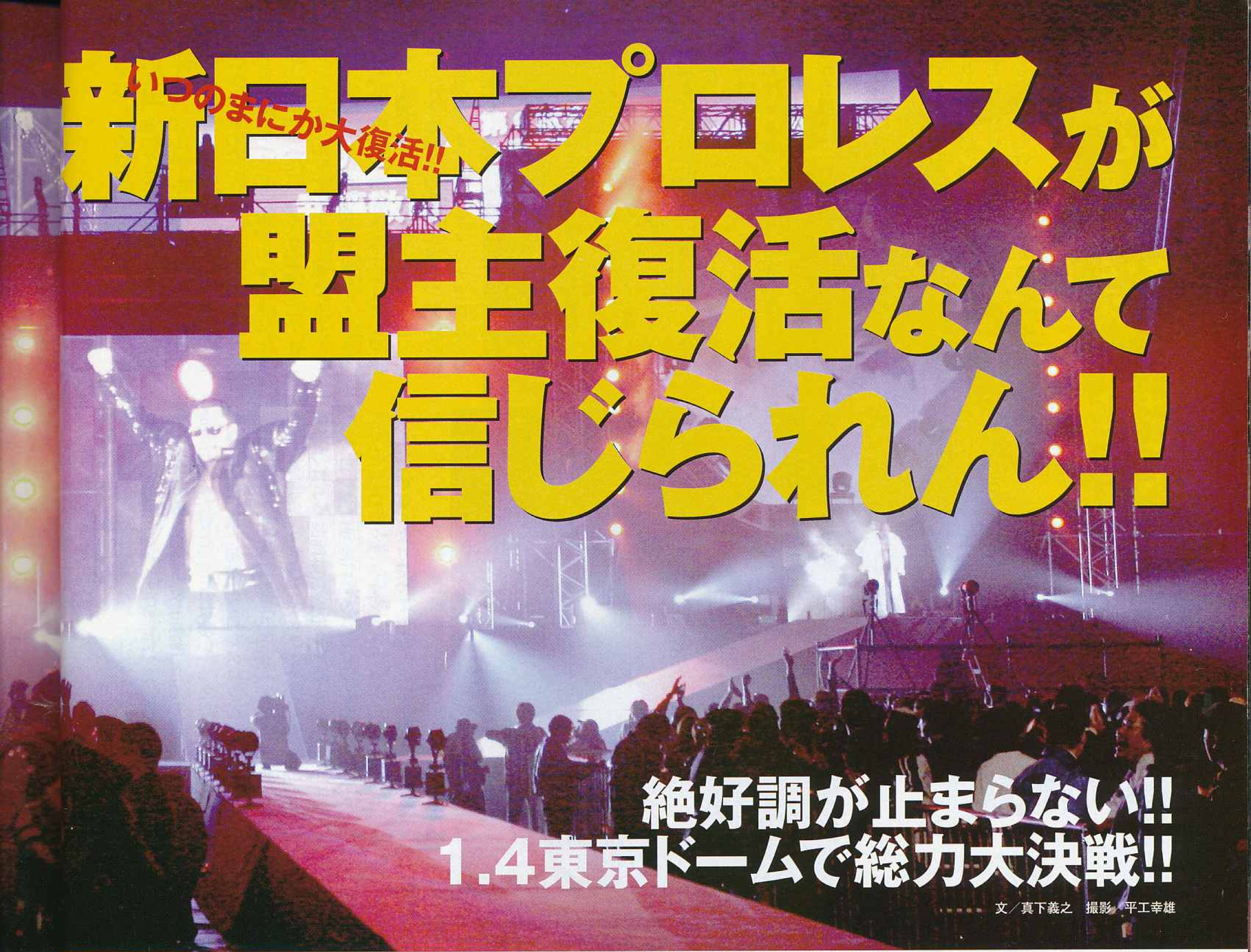
**オメガ** なくなってしまって残念だけど、MMAで一番好きなイベントはPRIDEだったんだ。いまはUFCが凄いことになってるみたいだけど、PRIDEのほうが全然おもしろかった。将来的に、MMAをやる機会があったとしたら、ボクは観客を楽しませるファイトができたら、たとえ負けてしまっても惜しくはないと思っている。そういうファイターになりたいんだ。イメージでいうとミノワマンかな。ミノワマンは美濃輪育久時代からボクのヒーローなんだよ。

たまたま今回、オメガの撮影を行なったのはPRIDEのオフィシャルカメラマンだった山口氏。そのことを伝えると「ホントかい!? 一番いいところで観れてうらやましいよ！」と目を輝かせていたオメガ。最後に、『YouTube』から一躍スターダムにのし上がったキンボの話題を振ってみると、なぜかオメガは爆笑。"プロレス界のキンボ・スライス"というキャッチフレーズは正直、不満？

**オメガ** キンボのことは知ってるし、映像もいくつか観たことがある。ボクと同じくストリートで闘ってたんだよね（笑）。でも、ボクのことを"プロレス界のキンボ・スライス"というのはちょっと違うね。正しくは、フレンドリー・バージョンのキンボ・スライスかな。日本語で言うと"ハニカミ"バージョンのキンボ。いや、やっぱり自分の名前で呼んでもらえるように……ガンバリマース！（日本語で）。

呪いなき路上ファイターの再来日に期待して、最後はみんなでやるぞーッ！……ハドーッケンッ!!

【08年8月22日／都内・DDT事務所にて収録】



いつのまにか大復活!!

# 新日本プロレスが盟主復活なんて信じられん!!

## 絶好調が止まらない!! 1.4東京ドームで総力大決戦!!

文／真下義之　撮影／平工幸雄

### 武藤をめぐるIWGP王座劇場が業界すべての命運を握る!?

いつのまにやらビッグカムバック！

ここ数年、同じく東京ドームをホームとする読売ジャイアンツ同様（？）に迷走を続けていた、かつての〝業界の盟主〟新日本プロレスに、失なわれた盟主感が戻ってきた。

このところ、「絶好調！」と本誌もことあるごとに取り上げている新日本なんだが、最近の動向を振り返ると、まずは恒例行事である〝真夏の祭典〟G1クライマックスを「各会場とも、一昨年、昨年の観客動員を上回った」（菅林直樹社長）という好成績でクリア！

勢いに乗る新日本は、年間最大行事ながら、ここ数年は観客動員で苦戦続きの1・4東京ドーム大会の正式開催を例年より早い段階でアナウンス！　あの『格闘衛星☆闘強導夢』（1989年）でプロレスこけら落としを飾った、新日本の〝東京ドーム進出20周年記念大会〟でもあるから、成功は絶対条件だ。

ところが、この直後に一部スポーツ紙によって、『戦極』のニューイヤーイベント（さいたまスーパーアリーナ）が1・4と同日開催！」が発覚（9月28日に正式発表）。ジャンル違いとはいえ、マット界のビッグマッチが真正面からバッティングした格好。

だが、このニュースにも慌てず騒がず、余裕すら感じさせる新日本は、サイモン猪木元社長時代から長らく国交断裂していたものの、ジュニア勢の部分交流が復活していたノアにドーム参戦を要請。

現在も交流が続く全日本プロレス、ZERO1・MAX、ドラディション、海外のTNAも巻き込んだ〝プロレスオールスター戦〟構想をサラリとブチ上げてみせたのだった。

……と、概要を整理すると、何度も新日本に痛い目に遭ったファンは、「前もこんなことあったなぁ」と懐疑的な人もいるかもしれない。

ところが、かつてはドームというハコありきな場当たり的外交戦略で、ド直前までカードが決まらず、土下座外交をバタバタ展開していた頃とは違い、現在の流れは、新日本主導で完全にコントロールされている印象がある。

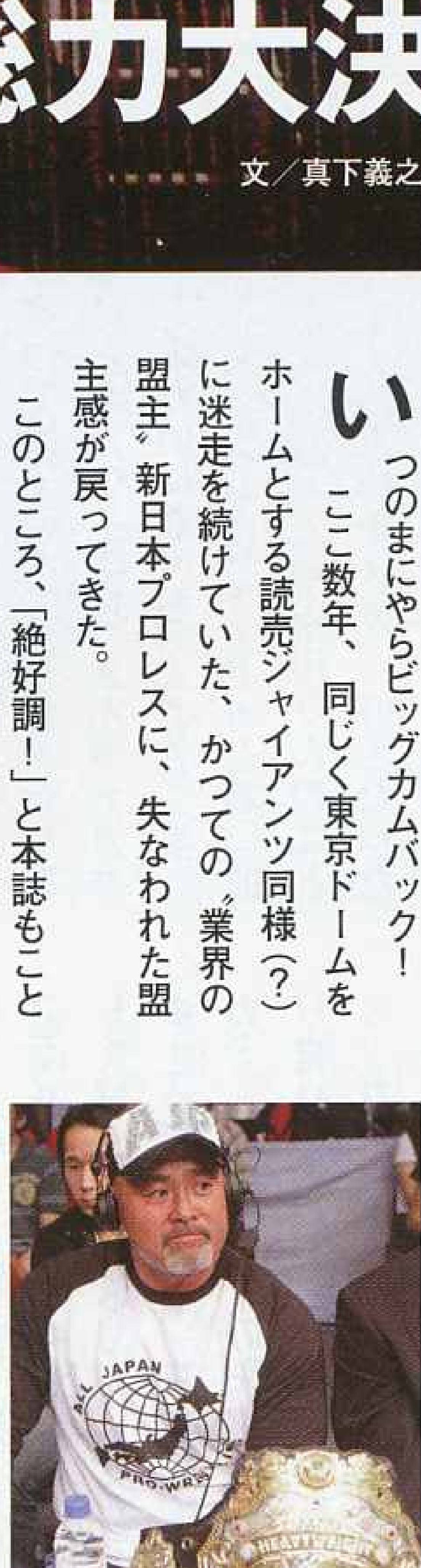
さらに、08年からは友情タッグ分裂から端を発した、天山広吉vs飯塚高史の血で血を洗うズンドコ抗争劇や、〝外様王者〟武藤敬司の持つIWGP王座をめぐるメインストーリーが確立。

すでにドームにつなげる豆まきを繰返し、「おもしろい新日本プロレス」が浸透してきているだけに、こうして多団体を巻き込み、陣容を〝肉づけ〟するやり方は、ゆとりさえ感じられる。

それでいて、90年代の上から目線的な押しつけ外交でもないスマートなムードさえあるから、さすがなのだ。

こうした背景を考えるに、すでに1・4東京ドームに挑む戦力は出揃った格好。問題はさまざまなピースをどう料理し、提示するのか。

とくに、東京ドーム大会のメインに据



ロード・トゥ・ドームの最注目は武藤のIWGP王座劇場の行方。意外性が爆発している新日本だけに、その期待値は天井知らずだ。

新日本プロレス
NOW通信
出張版

# 『戦極』と興行戦争勃発!!
# 1.4東京ドームを大展望

**好評の『新日本プロレスNOW通信』が『kamipro』本誌から、『kamipro.com』に移籍してパワーアップ！　1.4東京ドームについての阿部タケシ氏直撃インタビューの抜粋版をお届け!!**

聞き手／真下義之

――さて、阿部さん。来年の1.4東京ドームが正式発表されましたけど、どうやら同日に他団体のビッグマッチが行なわれるらしいですね。

阿部　あ～。「センゴク！　センゴク！」（と『戦極』ポーズで）ね。それって正式発表なんですか？

――いや、『東スポ』発のニュースで、現時点（9月28日）では正式発表じゃないんですけど。KIOSKの『東スポ』の見出しに、「新日本vs戦極」ってバーンって出てたから、「全面対抗戦か!?」って驚きました。

阿部　僕も駅のスタンドでビックリしてね。どなたかのように「『東スポ』で会社のことを知るようになったか」と（笑）。でも、『ハッスル』の旗揚げ戦、観てないのかなぁ。

――伝説の不入りだった1.4ドームと同日興行の旗揚げ戦（2004年）を。

阿部　ただ、今回はあくまで別ジャンルですから。へんな意味じゃなく、「頑張ってください」としか言いようがないですし。正直、あまり影響ないんじゃないですかね。

――現実的には危機感は感じない、と。

阿部　まぁ、一番最悪なのは両倒れじゃないですか。綺麗事じゃなく、「お互い、お客さんが入ればいいな」ってのが本音ですね。

――わかりました。でも今回のドームも含め、いまの新日本って、かつての土下座外交から変わって、外交が凄く強いですね。多団体の巻き込み方を見ても余裕があるし、昔ならドーム直前に「夢の対決が唐突に実現!」みたいな。

阿部　ハコを押さえて何かを考えるんじゃなく、長いスパンで物事を組み立てられるようになりましたから。直前に、ちゃぶ台をひっくり返す人もいないし（笑）。

――ダハハハハ！　あとドームまでどうなるからわからないけどIWGP王座の行方は凄く気になるんですよ。いったい武藤敬司はどういうかたちになるのか。この決着のつけ方次第で、プロレス業界の命運はかなり変わる気すらしますから。責任重大ですよ!

阿部　へんなプレッシャーかけてくるなぁ（笑）。でも、期待してもらっていいんじゃないですかね。

――プロレスで一番最悪なのは結末が簡単に予想できることですから、そこは驚かせてほしいんですよ。

阿部　……ただ、僕らはお客さんを裏切る商売じゃないですか（しみじみと）。

――おおっ！　そういう言葉を待ってました。ある関係者と「勝負論が失なわれたプロレスはどう楽しめばいいんだ」と話したとき、「過程で驚かせるしかない」って。そういう意味で、武藤さんって過程も結末もメチャクチャ気になりますよ。

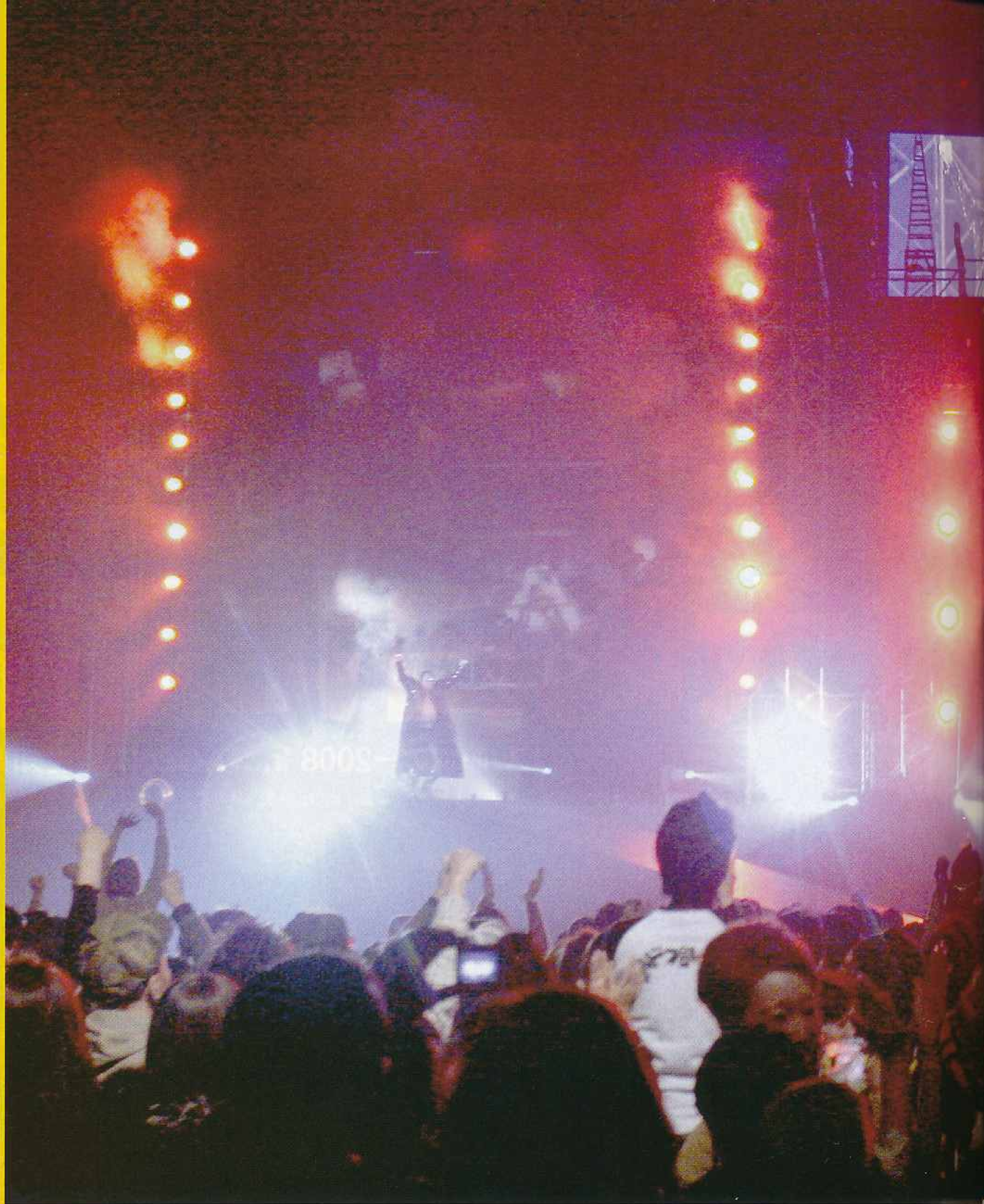
阿部　武藤さん自身、そのへんはもの凄くプライオリティを置いてるんで、きっと一筋縄じゃいかないと思いますね。

――しかし、ホントに“業界の盟主”感が戻ってきましたね。

阿部　やってる側としては実感ないんですけど、「新日本おもしろいね」とは言われるんで、いい感じでまとまってはいますよね。まぁ、まだ潤ってはいないけど。

――あ、そこまで絶好調ではない、と。

阿部　今後はそのへんも重点的に頑張っていきたいですね（笑）。



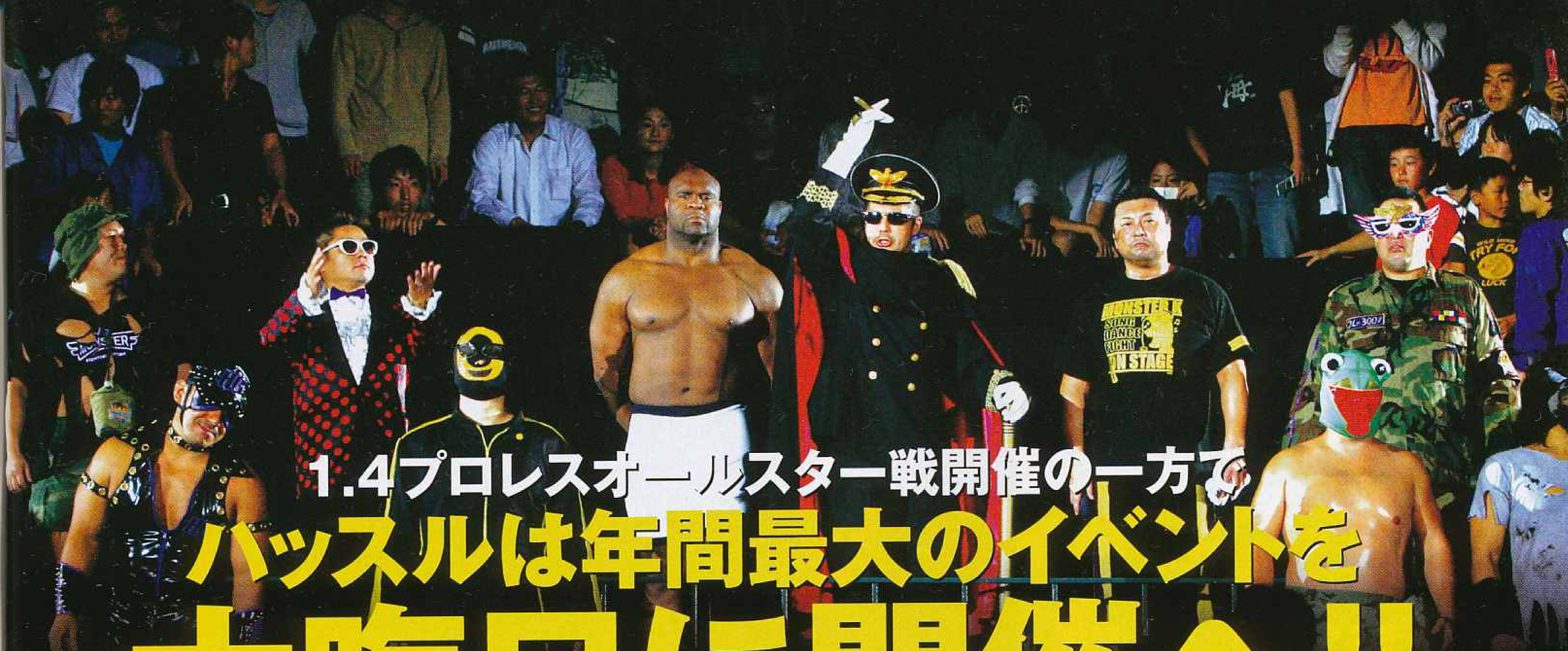

えられるだろう―IWGPヘビー級劇場は重要だ。今年、武藤敬司が8年4カ月ぶりに奪取という意外性のあるダイナミックなドラマを構築してきただけに、このおとしまえをいったいどうつけるのか？

10月13日の両国大会で、中邑真輔が奪還に挑むもの、このところドンデン返しを連発！　新日本自らハードルをグングン上げているだけに、ファンもありていの結末では満足しないだろうし、このドラマの展開が新日本、ひいてはプロレス界の命運を握っている、というのは大げさでもなんでもない話。

勝負論なき時代の〝呪いなきプロレス〟にとっての勝負は、どれだけ自由な発想ができるか、ということ。

ストーリーの大団円を迎えるであろう東京ドーム大会、その序曲の両国大会で、観客をどう揺り動かしてみせるのか？

圧倒的な勝負論から、圧倒的な観客論の時代へ……。いまこそ復権した〝業界の盟主〟のお手並み拝見だ。



## 1.4プロレスオールスター戦開催の一方で

# ハッスルは年間最大のイベントを 大晦日に開催へ!!

### ハッスル・ツアー2008 in NAGOYA@愛知県体育館

文／坂井ノブ　撮影／山口比佐夫　写真提供／ハッスルエンターテインメント

昨年末、大晦日に殴り込みをかけてテレビ東京で地上波放送を実現させた『ハッスル』が、今年も年末にビッグイベントを開催する！『ハッスル』情報にかけては他の追随を許さずスクープを連発している『デイリースポーツ』が書いているので、今年もやると見て間違いないだろう。大会は12月30日開催で、テレビ放送が12月31日に行なわれるという話もあるが、まだ詳細は固まっていない模様。

昨年は11月に『ハッスル・マニア』ですべてを出しつくしたあとに大晦日の『ハッスル祭り』の開催が決定したことで、ドタバタ感が出てしまったという反省もある。どこかよそ行きの装いとなった昨年末の『ハッスル祭り』は本来の『ハッスル』らしさが薄まってしまった。今年はビッグマッチを大晦日一本に絞ったことで、ハッスルらしさ全開で勝負をかけることができるはずだ。

『ハッスル』を取り巻く環境はそんな状況なのだが、肝心の『ハッスル』の本体はどうなのか？　5月に開催された『ハッスル・エイド２００８』以後、その規模縮小や経費圧縮ぶりが取り沙汰されることが多くなっているのも事実だ。今年は恒例行事となっていた『ハッスル・マニア』も11月には開催されないかわりに、ハッスル未開の地である北関東進出が10～11月の大きなテーマとなっている。

『ハッスル』って、なんか失速してない？　実際、そんな声があちこちから聞こえてくる。確かに、目に見えて即効性のあるタレントは起用されていない。現在の『ハッスル』は、むしろ地に足をつけた戦略で新たなスターを模索しているのだ。すでに「第2のインリン様を探せ」ということで、テレビ東京系のオーディション番組『イツザイ』とタッグを組んで人材発掘に取り組んでいる。

北関東進出も普通に考えれば必要のないことかもしれない。あまり集客が良くない人口の少ない土地でイベントを行なっても収益は上がらない、と考えていたのがいままでのハッスルだった。しかし、『ハッスル』の持つお祭り作りのノウハウは、じつは地方でこそ有効に使えるのだ。

## ハッスルは本当に失速しているのか!?　それとも大晦日に逆襲が始まるのか!?

実際、〝モンスターK〟川田利明が栃木県知事と面会してバックアップの約束を取りつけ、それを地元の『下野新聞』などが大きく報じている。ほかのプロレス団体が経費削減で地方巡業を断り捨てている中で、こうした地元に根ざした動きは新たな潮流を生み出すかもしれない。最寄り駅から徒歩１２０分のど田舎の会場であるにもかかわらず、ここ最近の大会では問い合わせが最も多いそうだ。ファンの期待を喚起するような試みは、ドンドンやるべきであろう。地方進出には大きなヒントが隠されているのだ。

いままでは首都圏でド派手な花火ばかり打ち上げていた『ハッスル』は、アイデアと労力を使っていろんな種をまき始めている。９・28名古屋大会でもいつもの舞台ではなく髙田総統が二階席に登場するという新たな演出も取り入れていた。ダンプ松本という名前も実績もあるレスラーを起用したことも、いままでとは違った一般層へのアプローチになるだろう。「第2のインリン様を探せ」も同様。それが大晦日に花開けば新たなハッスルらしさとなるはずだ。

試合内容にも変化があった。９・28名古屋大会、準決勝では坂田とボノちゃんの激闘が目を引いた。本誌１２７号のインタビューで、ボノちゃんが「試合はエンターテインメントじゃないほうがいい」とボヤいていたとおりの展開になった。２３０キロの巨体を活かした攻撃は確かに凄まじい破壊力で、どんな仕掛けや演出よりもド迫力！　試合でストレスを発散させるボノちゃんの姿は何よりも爽快だった。

この単純明快さこそがプロレスの原点であり、『ハッスル』が追求していた部分でもある。圧倒的な攻撃を受けてボロボロの姿をさらす坂田は、ようやく現在の『ハッスル』を重ね合わせることができる存在になりつつあるように感じた。

今年下半期でまいた種や仕掛けが大晦日で一気に放出できるかどうかが、勝負の分かれ目となるだろう。メジャー・プロレス団体が新日本プロレスの１・４東京ドーム大会に総力を結集してオールスター戦をブチ上げている一方で、ハッスルは旗揚げ以来貫いてきた独自の路線の中で何を見せるのか!?　今年下半期、新たに取り組んできたことの総力を結集して、ハッスルらしいイベントで大晦日、世間に勝負をかけることができれば、そこには新たな突破口が開けるはずだ。

### ハッスル・ツアー2008
今後の大会スケジュール

10月16日（木）東京・後楽園ホール（19:00）
10月26日（日）栃木・宇都宮市清原体育館（17:00）
11月20日（木）東京・後楽園ホール（19:00）
11月22日（土）茨城・水戸市民体育館（17:00）
12月24日（水）東京・後楽園ホール ～クリスマスSP part.1～（19:00）
12月25日（木）東京・後楽園ホール ～クリスマスSP part.2～（19:00）

お問い合わせ
ハッスルエンターテインメント
TEL.03-3221-2431　www.hustlehustle.com/

# ゴメン! これが本当なんだよね kamipro PRESENTS

**応募要項**

ハガキに応募券を貼り、①～⑧の質問の答えをご明記の上、下記の宛先まで郵送してください。応募多数の場合はそれぞれ抽選で決定いたします。ただし、雑誌公正競争規約の定めにより、懸賞に当選された方は、この号の他の懸賞に当選できない場合がありますのでご了承ください。なお、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます(商品は2008年11月4日以降発送予定です)。

【質問事項】①郵便番号・住所・電話番号②氏名③年齢・職業④希望商品⑤おもしろかった記事&その理由⑥つまらなかった記事&その理由⑦あなたはパソコンを持っていますか?⑧よく見るプロレス&格闘技サイトは?

**【宛先】〒151-0051**
**東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6パレ・ジュノ2F**
**(株)ダブルクロス『kamipro』編集部**
**「ワオワオしませんか?」係まで**

※応募締切は2008年10月29日(水)当日消印有効

## PRESENT*01




1名様 サイン入り

### "皇帝"ヒョードルサイン入り DREAM アカウントTシャツ

[DREAM/ブラック/¥4,200]

ゴキゲンで来日して信仰を告白した"皇帝"ヒョードルのサイン入りTシャツをプレゼント! どかんと胸にロゴが入ったTシャツです。サイズはL。

## PRESENT*02






1名様 サイン入り

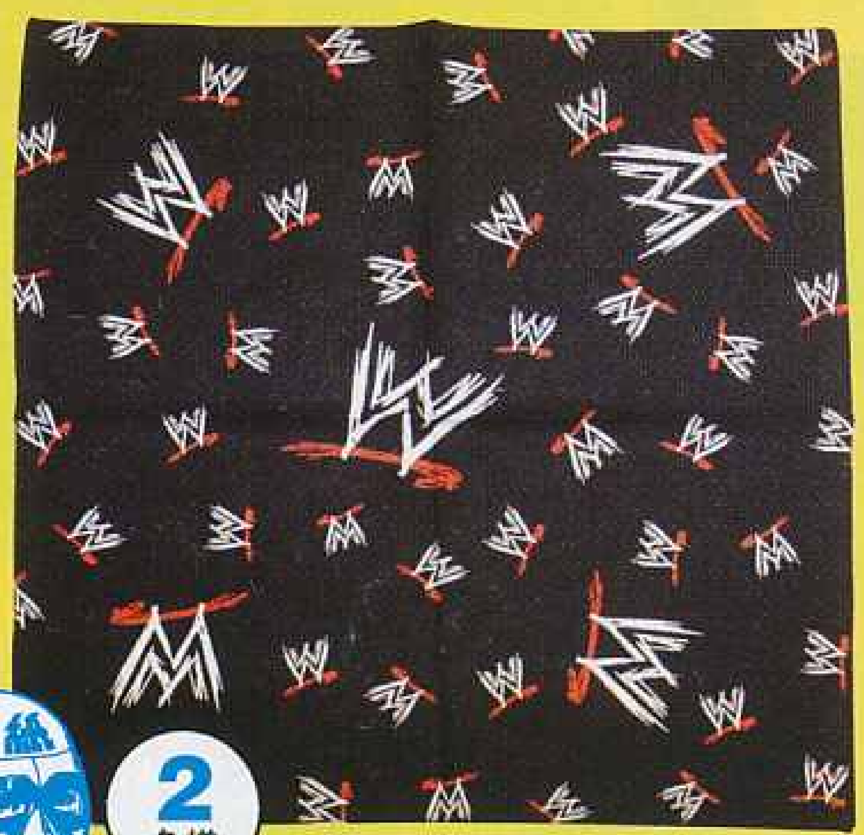
### "皇帝"ヒョードルサイン入り DREAM フットボールTシャツ

[DREAM/ブラック/¥5,800]

『DREAM.6』での握手会も大行列で、ヒョードルはあいかわらずの超人気。大人気のフットボールシャツにサインを入れました。サイズはL。

DREAM ■ http://www.dreamofficial.com/

## PRESENT*03



2名様

### WWEバンダナ

[WWE JAPAN/ブラック/非売品]

9.7『WWE SUMMERSLAMパブリックビューイング』を成功させて波に乗るWWE JAPANから非売品のレアなロゴ入りバンダナをプレゼント!

WWE JAPAN ■ http://wwe.co.jp/

## PRESENT*04



1名様

### ザ・モンスター℃マスク

[ハッスル/ブラック/¥5,250]

ハッスルで会場人気(おそらく)ナンバー1のザ・モンスター℃のレプリカマスクが誕生! これを被って手を「C」マークにして会場へダッシュ!

HUSTLE ■ http://www.hustlehustle.com/

## PRESENT*05




BACK

1名様

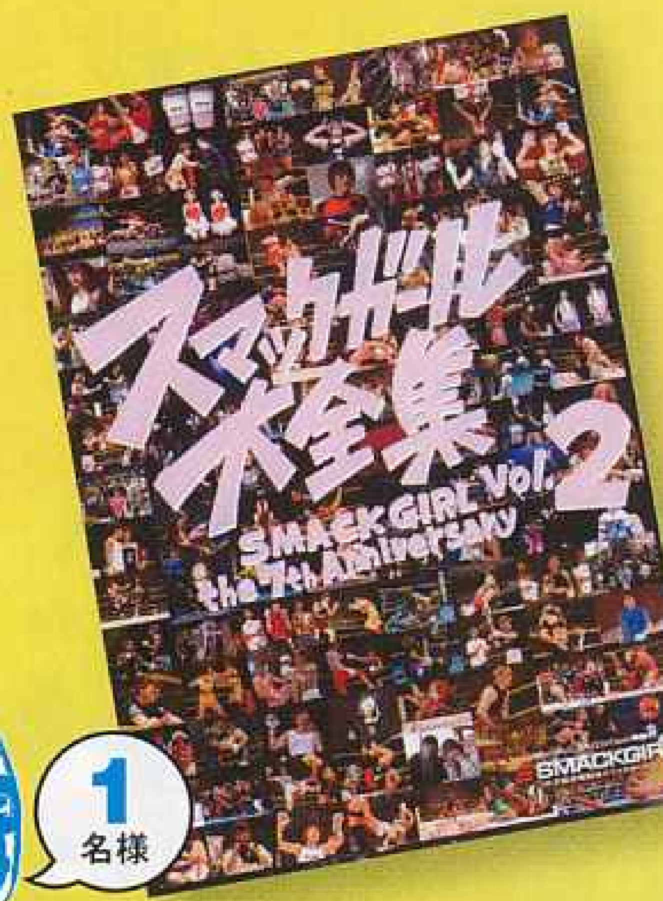
### rvddw 弘中邦佳Tシャツ

[リバーサル/ホワイト/¥5,040]

大人気ブランド「リバーサル」から『DREAM.6』で桜井"マッハ"速人と対戦した弘中邦佳のTシャツをプレゼント! サイズはM。

REVERSAL ■ http://www.rvddw.com/

## PRESENT*06



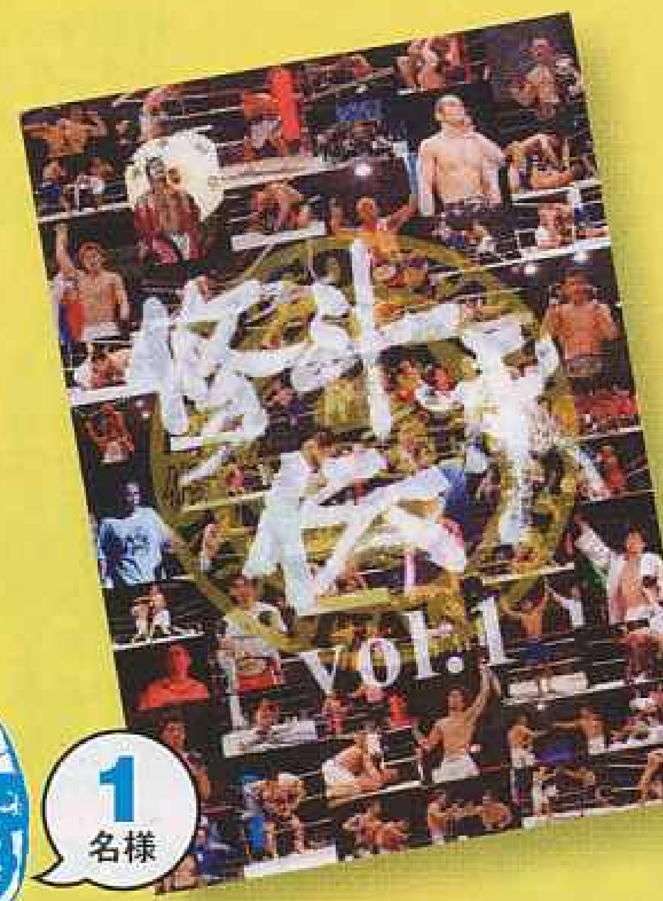

1名様

### スマックガール大全集 vol.2

[クエスト/243分/¥5,880(税込)]

スマックガール7周年記念作品。第2弾はライト級&無差別級のベストバウトをセレクト! 絶対女王・辻結花など歴史を彩った選手が総登場!

## PRESENT*07



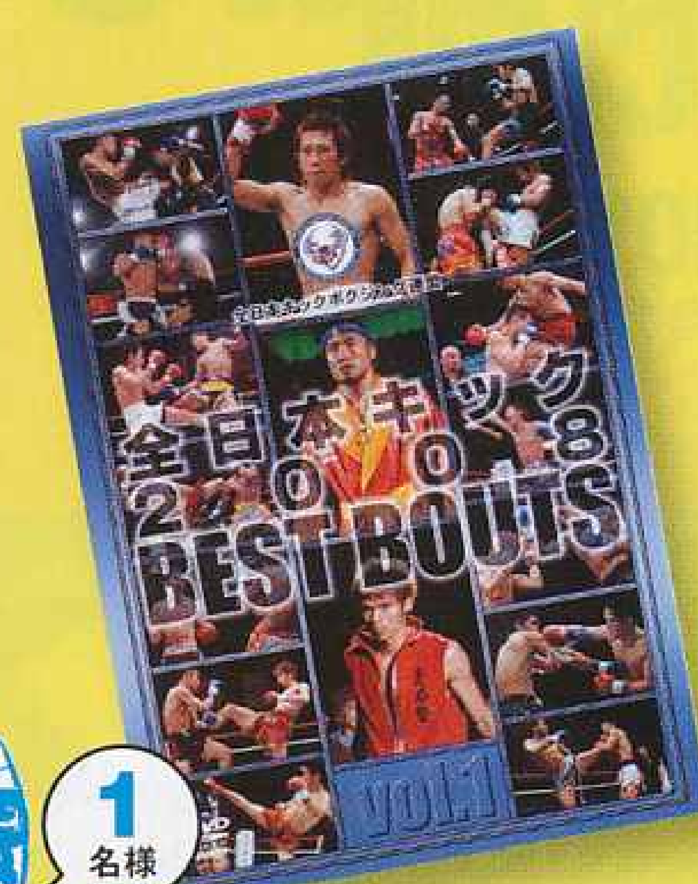

1名様

### 修斗伝承 vol.1

[クエスト/237分/¥5,880(税込)]

2008年の上半期ベストバウトをドカンと237分も収録した。桜井"マッハ"速人や佐藤ルミナが出場した5月のビッグマッチも収録!

## PRESENT*08




1名様

### 全日本キック2008 BESTBOUTS vol.1

[クエスト/247分/¥5,880(税込)]

"野良犬"小林聡引退後の全日本キックでエースの座を狙う石川直生の試練の7番勝負や藤原あらしの打倒ムエタイロードなどを収録!

QUEST ■ http://www.queststation.com

kamipro SP 応募券 栃木の英雄

ちぎって持ってっちゃダメだぞ!!

こちらでも毎週プレゼント実施中!! http://kamipro.com/




MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE
kamipro Special
2008 NOVEMBER
2008年10月20日 発行




発行人
浜村弘一

編集人
斉藤慎一

編集統括本部長
ジャン斉藤

編集スタッフ
坂井ノブ
堀江ガンツ
阿修羅チョロ
松下ミワ
真下義之
大川義之
スズキィ
八木賢太郎(屋内全面禁煙のため非番)

終身名誉バイザー
吉田 豪

助っ人
ジャイ子

編集次長(終身名誉サムライ)
松林 貴

デザイン大将
出田さん(TwoThree)

デザイン司令長官
金井ヒサくん(TwoThree)

デザイン
松坂マツくん
谷タニやん
廣田ブン先生
野口ノグッチー
白木みのるちゃん(以上、TwoThree)

カメラマン
乾 晋也
菊池茂夫
平工幸雄
山口比佐夫
吉場正和
平 専英
戸成嘉則
丸山剛史
大甲邦喜

お勘定&衣料部
ニュー林様

格闘技転向!?
入江元白露山(TwoThree)

雑誌営業
堂前秀隆
中村宣忠

助っ人営業
上野宏樹

業務部
樽本"せんだいカラー"義之

編集庶務
原 正典
山内ユリコ

終身名誉編集庶務
高木由美子

編集チアガール
金川奈津子
宮沢美奈

編集チアマダム
廣橋久美子

発行所
株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
☎0570-060-555(代表)

印刷
大日本印刷株式会社

協力
BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS
FightSport

■広告掲載のお問い合わせは下記まで
株式会社エンターブレイン スポーツ企画編集部
☎03-3265-7166

# EBUAUBE

Produced By LOVE LOVE LOVE



HP : www.ebuaube.jp

## 夢と希望と愛をテーマに生まれた、新オーダーメイドショップ

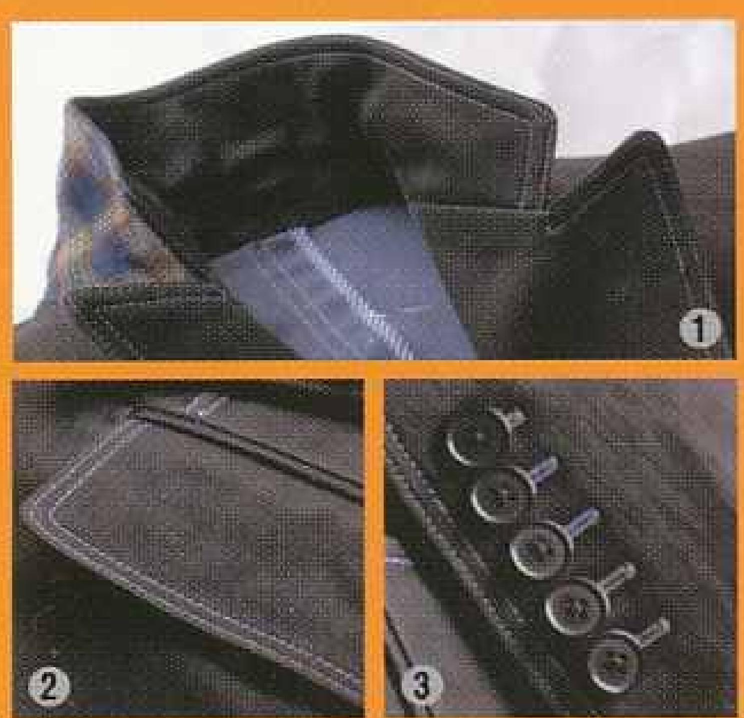
オーダーメイドスーツの着心地、シルエットの良さに、さらにこだわり抜いたデザイン性を追加したのが
EBUAUBEの提案する新しいスタイル。オーダースーツをフレッシュに仕立てあげる。


! Address　東京都渋谷区神宮前3-34-7 1F
山梨県甲斐市龍地3579-60 1F

! TEL　03-3497-0333
0551-28-7879


### 1番人気!デニムオーダー ～着心地満点～

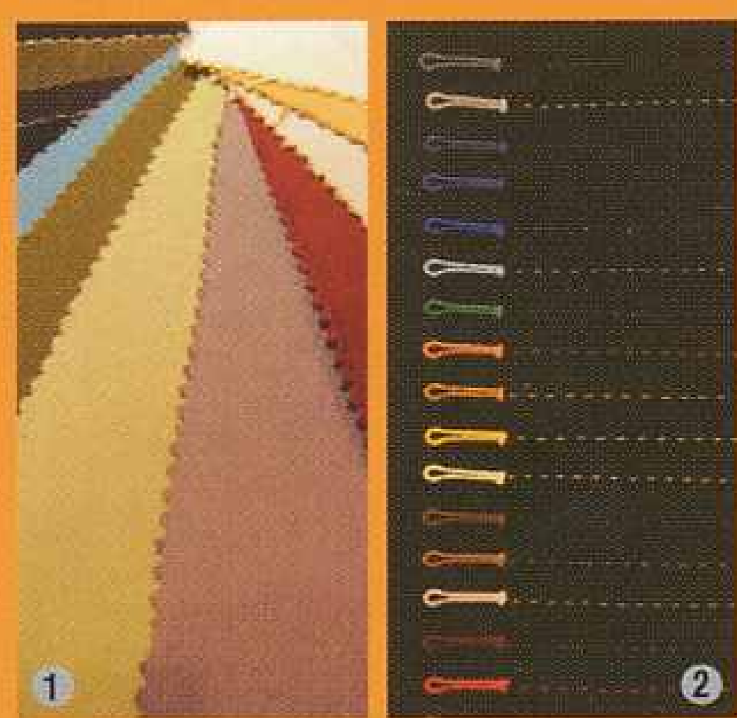




①生地は12種類×襟裏カラークロスは24色から選べる。デニム素材は色落ちするので、同じものは2つとない。
②③ポケットはダブルステッチ。ボタンホールは色をつけて素材を強調。
Price; ¥128,000

### ついに出た!コットンオーダー ～カジュアルだからこそ遊ぼう～





①フルシーズン永続的にコットン麻など天然素材を12種類ずつ用意している。バンザイ
②EBUAUBE自慢のカラーステッチ。
Price; ¥88,000 or ¥128,000

### 月産15着限定パッチワーク ～もったいないは、かっこいい～





①袖のボタンホールは、裏地に合わせてみどり。ひとつひとつ変えられるからトップは黄色。
②裏地も随時200種類以上の中から選べる。写真はみどりの水玉。
③製作日数40日　月産限定15着　プレミアスーツ
Price; ¥158,000 or ¥188,000

# AUBE

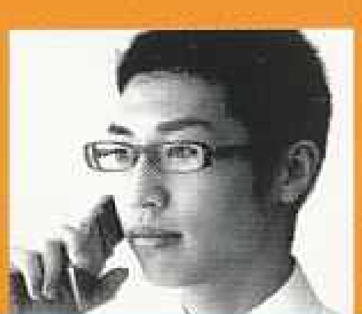
Produced By LOVE LOVE LOVE

HP : www.aub.jp

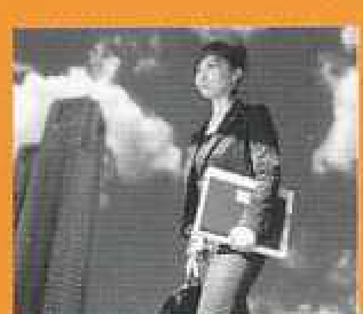
## 外商サービスを貫き通す、日本初アクティブオーダースーツブランド

行く時代から来てもらう時代へ!!
電話一本で、専属コーディネーターが、自宅でも会社でも、友達の家でも駆けつけてくれる(現在東京近郊、山梨近郊のみ)。


資料請求、お問い合わせは　10:00～19:00
! TEL　0120-532-132
! FAX　03-5738-5739
(24時間対応)

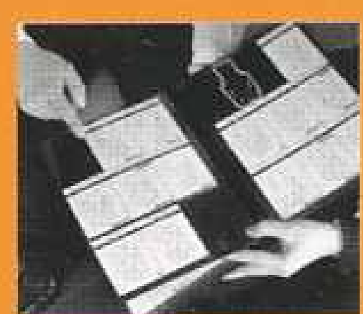
まずはお電話下さい



ご希望の時間場所へお伺いいたします



お好きな生地をお選びください



「どのようなデザインがお好みですか?」



ご希望に沿って採寸いたします



3週間から1ヶ月でお届けします

## Q&A　「AUBE & EBUAUBE　仕掛け人に聞く!」

Q:外商ブランドのAUBEとショップブランドのEBUAUBEは違うんですか?

A:【AUBE】と【EBUAUBE】の商品は分けています。
【AUBE】は創業時から何よりもお客様の声に耳を傾ける、アンド、アクティブに動くをテーマにどんどん進化してきたサービス重視のブランドです。別名マーケティングブランド!?と自分達では呼んでいます(笑)。とにかくなんでも聞いて下さい
その中から培われた選りすぐりのものを厳選して、よりデザインに力を入れたのが、【EBUAUBE】です。オーダーメイドの特性を活かして純血ジャパニーズブランドを創造します。目指せ!世界です。日本人の感性大爆発!!!。

Q:なぜ東京のほかに、山梨を選んだのですか?

A:ほかでは創っていない、新しいものを創っていこうというのが、そもそもの
きっかけだったので、自分たちがやろうとしているものが、どのくらい世の中に受け入れられるのかということを本気で知りたくて。
それならいっそ、東京という市場のほかにもうひとつ出そう!という話になって、どうせやるなら、一番きびしそうな場所で、とことんやってみようと思い山梨に決めました。
チャレンジです。なにせ山梨は武田信玄の街ですからね。

# kamipro Special 2008 NOVEMBER

"お家潰し"の魔王に告ぐ! 何がやりたいんだ、コラッ!!

2008年10月20日 発行人／浜村弘一 編集人／斉藤慎一 発行・発売所／株式会社エンターブレイン 〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 ☎0570-060-555(代表) 印刷・製本／大日本印刷株式会社




9784757745162

定価: 本体819円 +税
雑誌 61956-65 Ⓗ2009.11
Printed in Japan 大日本印刷

ISBN978-4-7577-4516-2
C9476 ¥819E

1929476008190



enterbrain